

**REPORTS OF SUMMER EXCHANGE PROGRAM
AT 3 VETERINARY SCHOOLS IN THE USA, 2013**
米国三大学獣医学部夏季研修レポート 2013



**PURDUE UNIVERSITY,
SCHOOL OF VETERINARY MEDICINE**



**THE UNIVERSITY OF TENNESSEE,
COLLEGE OF VETERINARY MEDICINE**



**THE UNIVERSITY OF GEORGIA,
COLLEGE OF VETERINARY MEDICINE**



Kitasato University, School of Veterinary Medicine

はじめに

本年度も獣医学科の 5 年生 24 名が米国三大学の獣医学部附属動物病院で獣医臨床実習を行い、全員無事帰国した。

Purdue 大学には 9 名の学生とともに岡田講師（平成 25 年 8 月 24 日～9 月 8 日）、Tennessee 大学には 7 名の学生とともに久留主准教授（平成 24 年 8 月 24 日～9 月 8 日）、Georgia 大学へは 8 名の学生とともに折野准教授（平成 24 年 8 月 18 日～9 月 2 日）がそれぞれ同行した。各大学とも無事研修を終え、全員が元気に帰国した。

この後、Purdue 大学からは、11 月 23 日から 11 月 29 日の日程で、ネコの獣医学と疫学の専門家である、Dr. Annette Litster を本学に迎え、学部 4 年および 5 年生向けの講義、教員対象のセミナーでの講演をしていただくことを予定している。

各大学の動物病院での研修は、非常に有意義かつ印象深い経験として、実習参加者の財産となると確信している。

2013 年 10 月 30 日

国際交流委員会（米国）委員長 坂口 実

これまでの米国3大学からの招聘教員および交換留学生

Purdue University

招聘年・月	氏名 Name	職位 Status	専門 Specialty
1996.6	Dr. Ralph Richardson	Professor	Veterinary Internal Medicine
1997.6	Dr. John Van Vleet	Associate Dean and Professor	Veterinary Pathology
1998.6	Dr. James P. Toombs	Professor	Small Animal Orthopedics and Neurosurgery
1999.9	Dr. Alan H. Rebar	Dean	Veterinary Clinical Pathology
2000.6	Dr. Paul Robinson	Professor	Immunopharmacology and Biomedical Engineering
2001.10	Dr. David J. Waters	Professor	Oncology
	(Cancelled due to 9.11 terror)		
2002.11	Dr. David J. Waters	Professor	Oncology
2003.11	Dr. Allan Beck	Professor	Animal Ecology
2004.6	Dr. Harm Hogen Esch	Professor	Head of Department of Veterinary Pathobiology
2005.11	Dr. Sophie A. Lelèvre	Associate Professor	Basic Medical Sciences
2007.10	Dr. Henry W. Green	Associate Professor	Cardiology
2008.11	Dr. Adbelfattah Nour	Professor	Basic Medical Sciences
			Director of International Program
2009.5	Dr. Willie Reed	Dean and Professor	Veterinary Pathology
2009.10	Dr. Steve Thompson	Associate Professor	Pet Primary Care
2010.7	Dr. Brenda Austin	Assistant Professor	Small Animal Surgery
2011.9	Dr. Sophie A. Lelèvre	Associate Professor	Basic Medical Sciences
2012.10	Dr. Daniel F. Hogan	Associate Professor	Cardiology
	Dr. Nolie K. Parnell	Clinical Associate Professor	Small Animal Internal Medicine

The University of Tennessee

招聘年・月	氏名 Name	職位 Status	専門 Specialty
1995.9	Dr. Michael Shires	Dean and Professor	Veterinary Surgery
1996.11	Dr. Robert Toal	Associate Professor	Veterinary Radiology
1997.11	Dr. Robert C. DeNovo	Associate Professor	Veterinary Internal Medicine
1998.6	Dr. Dan Ward	Associate Professor	Veterinary Ophthalmology
1999.6	Dr. Michael Shires	Dean and Professor	Veterinary Surgery
2000.6	Dr. James Brace	Associate Dean and Professor	Veterinary Internal Medicine
2001.6	Dr. Karen Tobias	Associate Professor	Veterinary Surgery
2003.1	Dr. Frank Andrews	Professor	Large Animal Medicine
2003.4	Dr. Michael J. Blackwell	Dean	Public Health and Epidemiology
	(Cancelled due to Iraq war)		
2003.4	Dr. Michael J. Blackwell	Dean	Public Health and Epidemiology
2009.7	Dr. Michael M. Fry	Associate Professor	Clinical Pathology
2011.10	Dr. Edward C. Ramsay	Professor	Avian and Zoological Medicine

The University of Georgia

招聘年・月	氏名 Name	職位 Status	専門 Specialty
1996.6	Dr. Charles Martin	Professor	Veterinary Ophthalmology
1997.5	Dr. Jean Sander	Associate Professor	Poultry Disease

1999.1	Dr. Corrie Brown	Professor	Head of Department of Pathology
2000.11	Dr. Margarethe Hoeing	Professor	Physiology and Pharmacology
2001.12	Dr. Raghubir Shama	Professor	Physiology and Pharmacology
2003.1	Dr. Duncan Ferguson	Professor	Physiology/Pharmacology and Small Animal Medicine
2004.1	Dr. Thomas F. Murray	Distinguished Professor	Head of Physiology and Pharmacology
2005.1	Dr. Mary Ann Radlinsky	Assistant Professor	General Surgery
2006.6	Dr. Patrick Hensel	Assistant Professor	Dermatology
2006.6	Dr. Ursula Dietrich	Associate Professor	Small Animal Medicine and Surgery
2007.9	Dr. Suzan White	Professor	Large Animal Medicine
2008.9	Dr. Amie Koenig	Associate Professor	General Internal Medicine +CE
2008.11	Dr. Patrick Hensel	Assistant Professor	Dermatology
2009.10	Dr. Simon Platt	Associate Professor	Neurology +CE
2010.2	Mrs. Malorie D. Franks	Student	Class of 2011
			+CE: Continuing Education (卒後教育セミナー含む)

Purdue University School of Veterinary Medicine 24 Aug. - 08 Sep. 2013



(後列左から) Dr. Willie M. REED, Dr. Muneyoshi OKADA, Suiri MORIOKA, Atsushi MORITA,
Jumpei YASUDA, Takayuki MIZOROGI

(前列左から) Shoko YANOOGAWA, Kie MATSUOKA, Ayaka ARAI, Mari OKAMOTO,
Keiko NAMBAYASHI, Dr. J. Catharine SCOTT-MONCRIEFF

参加者一覧

同行教員：岡田 宗善 Dr. Muneyoshi OKADA

氏名	Name	所属研究室
新井 彩佳	Ayaka ARAI	小動物第一外科学
岡本 茉里	Mari OKAMOTO	小動物第二内科学
南林 慶子	Keiko NAMBAYASHI	小動物第二内科学
松岡 希枝	Kie MATSUOKA	獣医伝染病学
溝呂木 喬之	Takayuki MIZOROGI	獣医微生物学
森岡 翠里	Suiri MORIOKA	獣医薬理学
森田 篤	Atsushi MORITA	実験動物学
安田 純平	Jumpei YASUDA	獣医薬理学
矢野川 祥子	Shoko YANOOGAWA	獣医病理学

新井 彩佳

8月24日(土)

8時に集合し、日本時刻10時45分に成田空港を離陸。途中シカゴ空港で乗り換えをし、現地時刻13:17にインディアナポリス空港に無事到着することができました。空港までDr. TomoとDr. Scott-Moncrieffが迎えに来てくれており大学へと向かいました。大学の敷地内にある寮に到着後、軽食を兼ねたオリエンテーションを行いました。

8月25日(日)

午前中はfree timeであったため、皆で大学の敷地内を散策しました。午後はWalmartという大きなショッピングセンターへ行き、食料品や日用品などの買い物をしました。その後LogansというステーキハウスでDr. TomoやDr. Scott-Moncrieffや沢山の方と夕飯を食べながら楽しい時間を過ごしました。

8月26日(月)

今日からPurdue大学でのClinical rotationが開始しました。大学に到着後、書類の手続きや学科長への挨拶を済ませ、病院内を見学しました。病院内はとても広く複雑に入り組んでおり、獣医師や学生が待機する場であるブルペン、安楽死を行う場合に使用される部屋、壁一面にペットフードが配置されている部屋など日本の動物病院ではあまりみかけないものもありました。その後、Small Animal Surgeryを見学しました。初日から一人でrotationを回るためとても緊張しました。今日はSoft Tissueの手術日で犬の避妊手術を見学しました。手術前の麻酔は麻酔科が全て管理しており、それぞれの動物や手術に適切な麻酔のプロトコールを学生自らが考え準備していることや細かい麻酔管理など

普段見ている麻酔管理との違いに驚きました。4年生の学生が避妊手術を執刀していたが、子宮と卵巣を上手く見つけ出すことができず苦戦していました。レジデントの先生がアドバイスをしたり、一つ一つ丁寧に教えている姿がとても印象的でした。この日は他の手術を見ることが出来ず、避妊手術をした犬の覚醒をみて終了しました。Clinical rotation後、大学の敷地内をBoilermaker Tourで回りました。

8月27日(火)

Small Animal Surgery 2日目。今日はOrthopedicの手術を見学しました。まず大型犬の左側膝蓋骨内方脱臼の滑車楔状造溝術を見ました。北里大学では小型犬の症例が多く、滑車ブロック状造溝術がよく用いられており、滑車楔状造溝術をみたのは初めてだったのでとても新鮮でした。レジデントの先生が執刀していましたが、左近允先生の技術や丁寧さを改めて実感し、先生の手術を見ることができる恵まれた環境にいることを改めて実感しました。その後、骨折部位が感染し壊死してしまった子猫の断脚と、異物を飲み込んでしまった大型犬の緊急手術をみました。手術前の麻酔ではDr. Tomoがブピバカインとモルヒネを用いた硬膜外麻酔を行っていましたが、子猫が小さいため大変そうでした。断脚術をみたのは初めてで、全身麻酔後患肢に局所麻酔をし、大腿骨と寛骨臼の間を電気メスとメスを用いて丁寧に切断していました。4年生の学生が執刀しており、ここでもレジデントの先生が丁寧に教えていました。

8月28日(水)

Small Animal Surgery 3日目。今日はOrthopedicの診察を見学しました。今日だけで、painful hip、Rotator hip、MPL、

TPLO、Patella、Tibial fracture など 11 件の appointment がありました。学生は皆それぞれの appointment まで自分が担当している症例についての勉強をしていたり、カルテの作成をしていました。今日は午後からプレゼンテーションがあったため全ての症例を見ることはできず、親しくなった 4 年生の学生である Pinky と Anna の診察を見学させてもらいました。まず、オーストラリアンシェパードの膝蓋骨内方脱臼を見ました。学生がオーナーから問診をした後、コンプレッション試験を行いました。実際に私もやらせてもらうことができ、グレード 2 であると考え尋ねたところ、学生も同じ考えであったため、5 年生前期の講義や実習を通して学んだことが活かせており嬉しくなりました。次に右側橈尺骨骨折のチワワを見ました。麻酔下で X 線撮影後、血液検査、バンテージ交換後、明日の手術のために入院となりました。このチワワの X 線撮影を見学した際、昨日断脚をした子猫が 3 本足で歩いているのを見てほっとしたとともに、改めて動物のもつ生命力の強さを感じました。

その他には TPLO のグレートピレーニーズ、両側橈尺骨骨折の犬のバンテージ交換などをみました。Orthopedic の診察後、Soft Tissue でマスティフの腹腔鏡を用いた胃腹壁固定と去勢を見学しました。実際に腹腔鏡手術を見るのは初めてだったのでとてもいい経験になりました。

8 月 29 日 (木)

Behavior 1 日目。Behavior には日本人の Dr. Ogata と VT の Mindey がおり、昨年研修にいった先輩方から Behavior はとても良かったと聞いていたこと、日本ではあまり行動学に馴染みがないことからとても楽しみにしていた科でした。あいにく 29、30 日

は appointment を取っていないため実際の診察を見学することはできませんでしたが、行動学の基礎や実際の診察や診断の進め方について学びました。午前中は Dr. Ogata よりネコの飼育環境、生育環境、性格といった問題行動の要因、性格形成に重要である社会化期についての質問に対して自分達で考え答えるという講義を受けました。その後、症例における問診、類症鑑別、診断、治療方針の決定について実際に一緒に rotation を回っている松岡さんが飼っている猫の問題行動で検討していきました。午後は Mindey と犬の Body language について学び、実際に犬のクリッカートレーニングをやらせてもらいました。

8 月 30 日 (金)

Behavior 2 日目。午前中は A & I Session があったため、Dr. Ogata による問題行動についての講義、昨日検討した松岡さんが飼っている猫の問題行動の原因や対策についてさらに深く掘り下げていきました。また VT の学生さんを対象とした犬の Body language の講義にも参加させてもらいました。2 日間 Behavior を通して学んだことは、犬や猫の問題行動についての知識以前に犬や猫が持っている本来の性格や行動や品種特有の特徴などについて知らないことが沢山あり勉強する必要があると思いました。また行動学の診断を行うためには、行動を原因としない疾患との類症鑑別をするための獣医療を始めとした幅広い分野の知識と洞察力が重要であると思いました。最後に今日もクリッカートレーニングをやらせてもらいました。昨日は犬も私達も緊張してしまいあまり上手くできませんでしたが、Dr. Ogata にアドバイスを頂いた上で再度挑戦したところ、犬を椅子の上に上がらせ座らせることができました！ Clinical

rotation 後は Wolf Park へ行き、初めて狼を見るという貴重な体験をすることができました。

8月31日(土)

今日はアミューズメントパークである Indiana beach に行き、ジェットコースターに乗ったり、お化け屋敷に入って岡田先生や皆と大騒ぎしました！アメリカに来て以来、慣れない英語と環境による緊張感がずっと続いていたのでとてもいい息抜きとなりました。

9月1日(日)

今日は早朝から Indianapolis Zoo に行き、動物園の裏方見学をさせていただきました。動物園についてまず、動物病院を案内してもらった後イルカショーを見学しました。次にセイウチの給餌や投薬を見学し、セイウチの体やひげに触らせてもらったり、手にキスをしてもらいました。その他にはイルカショー、ゾウの裏方を見学させていただきました。ゾウの皮膚は想像していたよりもざらざらと固くとても驚きました。園内のほとんどが行動展示となっており、動物の自然な姿をみることができとても貴重な経験となりました。

9月2日(月)

今日は Labor Day という祝日のため、ショッピングモールでお土産などの買い物をしました。夜は Dr. Scott-Moncrieff の家にディナーに招待してもらい、おいしい食事と楽しい時間を過ごしました。

9月3日(火)

Cardiology 1 日目。ペースメーカーの不具合でコッカースパニエルが来院し、右側胸部を触診するとペースメーカーの拍動をはつき

りと感じることができました。機械を使ってペースメーカーを調節する治療を行いました。Dr. Green から調節についての説明を受けましたが難しくあまり理解することができませんでした。その他には定期健診のキャバリア、房室弁ブロックのボクサーの ECG、心雑音で来院し、僧帽弁閉鎖不全であったブルーチック・クーンハウンドのエコー検査を見学しました。房室弁ブロックについて正確に検査するためにボクサーの体にクリップ状の電極をつけて心電計を設置しておりとても興味深かったです。Cardiology では僧帽弁閉鎖不全のエコー所見など 5 年生前期に学んだことが活かされており嬉しく思いました。また、心電図所見については理解が不十分であったためしっかりと復習したいと思いました。Cardiology を見学後、夜間の Emergency を見学させていただきました。どんな症例が来るのかと緊張しながら待ちましたが、中々患畜がきませんでした。前日の夜はとても忙しかったそうで、銃弾が足を貫通した大型犬などアメリカならではの症例に驚かされました。そろそろ帰宅しようとしたところ、釣り針が左側口内に刺さり抜けなくなってしまった猫が来院しました。学生の手によって無事釣り針を摘出することができほっとしました。

9月4日(水)

Oncology 1 日目。Oncology では VT の学生が待合室で問診を行った後、科に動物を連れてきて血液検査、エコー検査やバイオプシーを行っていました。私が回ってきた科の中でも特に人や動物の出入りが多く、慌ただしい印象を感じるとともに、腫瘍疾患の多さを実感しました。スコティッシュテリアの膀胱のエコー検査を見た後、尿道カテーテルが入ったゴールデンレトリバーの問診につい

ていきました。この日はセミナーや **Clinical rotation** の合間に **A & I Session** があり、戻ってきた時には **appointment** が終了しており、症例をしっかりと見るができなかったためとても残念でした。**Clinical rotation** 後、**Dr. Thompson** の家に招待してもらいました。**Dr. Thompson** の家族とバレーボール、卓球、ダーツ、サッカーゲーム、**Wii** で遊んだり、マシュマロを使ったおいしいお菓子を食べたりととても楽しい時間を過ごしました。

9月5日(木)

Oncology 2日目。まずゴールデンレトリバーのエコーでは脾臓、肝臓、腎臓、胃、膀胱、結腸を検査しました。その他には抗生物質の投薬の継続を聞くために来院した雑種犬、嘔吐を主訴として来院した雑種犬をみました。午後からは牛のディズニーランドと言われている **Fair Oaks Farm** に行きました。**Farm** では農場内のバスツアーで牛の飼育されている様子や搾乳風景を見学しました。その中でも、牛が順番を待ち自ら巨大な搾乳機の中に入って行き、搾乳が終わったら牛舎へと戻っていく姿に大変驚きました。また幸運なことに牛の出産を初めて見る事ができ、とても貴重な経験をする事ができました。

9月6日(金)

Oncology 3日目。食欲不振を主訴としたマルチーズが来院し、血液検査を行いました。この日も **A & I Session**、**A & I Wrap up Session**、**Farewell ceremony** など沢山の予定が入っていたため、その他の症例を見る事ができませんでした。3日間 **Oncology** を見学しましたが、3日間とも **Clinical rotation** 以外の予定が入っていたため、問診から検査、診断、治療の全過程では

なく部分的にしか見る事ができなかったためとても残念でした。**Clinical rotation** 後の **Farewell ceremony** ではお世話になった先生や学生の前で一人一人が英語でお礼を述べた後、修了証と記念品をもらいました。

9月7日(土)、9月8日(日)

インディアナポリス空港へ出発。早朝4時ということでとても眠かったが、無事空港に到着し、**Dr. Tomo** と **Dr. Scott-Moncrieff** とお別れをしました。途中何も問題もなく無事に日本に帰国する事ができました。

【感想】

Purdue 大学の研修を通して特に感じたのは日本とアメリカの違いです。アメリカでは投薬や採血を始めとする医療行為を学生が行うことが許されているだけではなく、実際に診察し仮の診断や治療方針の決定を行うことが出来ます。また日本の大学病院以上に各科や診療が細かく分業されていました。日本とアメリカの違いの中でも特に、学生の獣医療に対する意識の高さに大変驚かされました。私達が参加させてもらった **A & I Session** では実際の症例の症状や検査所見が提示され、その場で症状の原因や考えられる疾患について皆でディスカッションをする。そして考えられる原因や疾患、わからなかった項目についてそれぞれが調べ上げて次の授業で発表するという授業でした。私は予め症例についてのプリントをもらって予習をした上で授業に臨みましたが、慣れない英語で理解することが難しい上、学生達の真剣なディスカッションに圧倒されてしまいました。アメリカの学生は私達日本の学生とは違い、獣医学の知識を学ぶだけでなく、その知識を総動員して実際の症例に向き合い自信をもって自分の考えを発言しており、ただただ感心するばかりで

した。そしてこの授業をまだ2年生の学生がやっていることに大変驚かされました。私は臨床系の研究室に所属していますが、今までは自分が担当している患畜の管理や病院業務をこなすことで精一杯でした。Purdue 大学での研修を通して、実際の症例を間近で見て、自分が持っている知識を総動員して考えることができる環境にいることを改めて実感し、自分なりの目標を定めた上で意識を高く持って頑張っていきたいと思いました。

研修中に悩んだことの一つとして自分の英語力の無さと準備不足があげられます。英語力があれば先生方や学生とより良いコミュニケーションを取ることができ、さらに充実した研修になったのではないかと思います。また私が回った科のほとんどの症例が5年生前期に学んだ疾患や検査所見であったため、例え英会話がわからなくてもそれらを十分に理解していれば、症例や検査所見を見て自分なりに考えることで理解したり疑問を持つことができたのではないかと思います。

最後に、Dr. Tomo、Dr. Scott-Moncrieff、Dr. Ogata、Dr. Thompson を始めとする Purdue 大学で出会い親切にして頂いた方々のおかげでとても有意義な2週間を過ごすことが出来ました。Purdue 大学で学んだ沢山のことを活かして、またこれから気持ちを新たに頑張っていきたいと思います。本当にありがとうございました！！

【謝辞】

Thanks to Dr. Tomo, Dr. Scott-Moncrieff, Dr. Ogata, Dr. Thompson and everyone who I met in Purdue University, I had a great time and experience in Purdue University. I appreciate your many kindnesses. Through this training, I learned about difference between Japan

and United States and I was surprised by high consciousness of the student. To become good veterinarian in the future, I want to make an effort everyday and have consciousness like the student of Purdue University. I learned and experienced a lot of things in Purdue University, these things will be my precious memory. I will never forget all things and people who I met in Purdue University.

I hope to see you again. Thank you so much !

Ayaka Arai

岡本 茉里

< Ophthalmology >

アメリカに行く前からとても気になっていた眼科。緊張もあったが、学生も先生もとても friendly でとても楽しかった。また、英語がうまく伝わらない私にでも、わかりやすい単語や図をかいたりして熱心に説明をしてもらった。

私がとてもビックリしたことは、小動物だけでなく大動物も眼科なら診察するということ。大動物の診察にはもちろん大動物の先生もいるが、眼の手術は眼科が対応するという。大動物はウマが多く、ウシ、ヒツジ、ヤギ... 私たちがいる間には、エミューもいた。

アメリカでも日本と同様に、白内障が多いように感じた。威嚇まばたき反応、眼圧検査や眼底検査やスリットランプ検査など、一連の検査をレジデントが診察をし、カルテを作成する。インターンに治療方針などを相談して、インターンがもう一度診察をする。自ら病状を確かめ、治療方針を決定する。さらに、必要があれば専門医が診察をする。この少し

まわりくどく感じる事が、学生にとってはとても実践的であり、とてもためになるものだなあと考えた。

< CRITICAL CARE / EMERGENCY >

昼と夜の2部制で24時間対応していた。私はお昼に見学に行ったのだが、入院は少なかつたし、想像していた緊迫したcaseには遭遇しなかつた。だから、夜に行けばよかつたかなあと少し考えた。

< SMALL ANIMAL MEDICINE >

1日は、ラウンドから始まる。その日に予約が入っている患者の状況報告や入院している患者の報告を行い、治療方針を教授・先生・レジデントなどに話し、予定を組んでいた。

私の研究室が内科であることも大きいけれど、とても興味深かつた。他の科に比べて、学生や先生の数も多かつたことも印象的だつた。

やはり、糖尿病の症例は多く、全身性エリテマトーデスや腫瘍などの診察、処置を見学させてもらえた。

massのあるゴールデンに、麻酔をかけ、CTをとり、内視鏡でバイオブシーをするというので見せてもらった。内視鏡専用の部屋があり、内科の先生が行っていた。massが鼻の奥にある症例だつたので、鼻からEndoscopeをいれて処置をしていた。とても衝撃的だつたが、いい経験になった。

< EVENT >

ウルフパーク、動物園、遊園地、ホームパーティー、ショッピングモールなどなど。私たちが退屈しないように、いろいろな所に連れてってもらえた。

私が一番印象に残っているのは、動物園。園内もとても楽しかつたが、セイウチ・イル

カ・ゾウのバックグラウンドをみせてもらえたコトがとても感動した。ゾウをあそこまで近くで見たことがなかつたので、とてもテンションがあがつてしまった。ゾウの皮膚はとても固くカピカピではあつたが、耳の内側はとても柔らかかつたのを覚えている。

セイウチにはエサをあげたり、得意技を見せてもらつたり、キスをしてもらつたりした。セイウチのキスはとてもおすすめだ。みんな機会があるなら、一度経験してみるべきだと思った。

< 感想 >

今回PURDUE大学に研修に行ってみて、とてもいい経験になった。アメリカにおける獣医師の地位や教育カリキュラムが、日本とは全く異なり、学生にとってはとても実践的でいいなあと考えた。

アメリカでは、やはり大型犬が多かつた。たとえ、ミックス犬でもアメリカンな顔をしていた。また、日本ではあまり見ないような珍しい犬種も多くて、とても新鮮だつた。

2週間アメリカに行ってみて、やはり痛感したのが自分の英語力の無さだつた。行く前から英会話や専門英語の勉強はしていたけれど、とても足りなかつたなあと考えた。大学の人たちはとても優しくて、こんな私にも話しかけてくれたし、理解しようとしてくれた。だから、本当に楽しかつたし、とてもためになった。

学生生活もあと少ししかないけれど、たくさんたくさん勉強していきたい。病院でも、ただ先生の言われたことをこなすだけでなく、積極的に、どんどん頭を使っていろいろなことを吸収できるようになろうと思った。

海外研修の経験をいかして、少しでもたくさんの方の命を救える視野の広い獣医師になりたいと思う。

Thank you for your help. I enjoyed for 2 weeks at Purdue University. I spent precious time. I had a lot of experience I had never seen.

I am not good at speaking English. So I was worried about my English before I visit Purdue. But everyone talked to me with kindness.

I appreciate for everyone I met. Especially, I'm very grateful to Dr. Tomo and Dr. Scott-Moncrieff.

I'll never forgot all things and people I met in this summer. I hope to go there and see you again. Thank you again !!!

Mari Okamoto

南林 慶子

この海外研修は日本以外の獣医療を知る良い機会になった。私の身近でもアメリカの獣医に興味を持つ人が増えていると感じることが多いが、何がそうさせるのか、また、日本の獣医療は遅れていると言われる理由等に興味があった。そのため、海外研修でアメリカの獣医療を実際に見学・体験したいと思い参加した。

CLINICAL ROTATION

『Anesthesia』

麻酔は、動物種・処置内容等に問わず、様々な場合において使用されるため、麻酔科のローテーションでは貴重な体験をすることができた。避妊・去勢のオペはもちろん CT、MRI、放射線治療、エコー、スケーリング、小動物から大動物、エルクのような日本では珍しいペットまでにまで及ぶ。一日の予定のほとんどは前日に決定されており、それぞれ

の患畜の病態にあわせて薬剤を選択していた。薬剤の選択から導入、挿管、維持、覚醒まですべて学生が行う。麻酔科があることで、外科医や検査技師は自分の仕事、受け持っている患畜に集中できる。日本では麻酔科を併設している大学病院はほとんどないが、麻酔や薬剤での死亡事故が多いことを考えると、麻酔の専門科の必要性を感じた。

『Critical Care』

主に、ICU での業務を行う科である。ローテーションでは平日のみ見学に行ったため、救急医療は残念ながら見ることはできなかったが、夜間や休日に搬送された急患の日常の処置を見学することはできた。この科の役割は、搬送されてきた急患の救急処置であり、その後、それ以上の処置が必要であれば専門の科へ送り、必要なければ患畜の回復後、帰宅させるという一時的に預かる場所である。今回は残念だったが、タイミングが良ければ救急医療を間近で見られる良い機会だっただろう。

『Small Animal Community Practice』

犬や猫、エキゾチックアニマル等、様々な動物の一次診療であり、健康な患畜へのワクチン接種や疾患を持っている患畜に対する経過観察・健康診断等を行っていた。学生が問診や採血をすることはもちろん、興奮をしている動物に簡単に鎮静剤を投与してしまうことには驚いた。ほとんどのことをオーナーの前で行うので、オーナーも安心して見ているが、日本では見ることもないような動物の診療や診療の方法を行っているということが新鮮だった。

A&I SESSION

アメリカの学生が受ける授業のひとつで、

実際の症例をもとに検査方法を検討し、その結果について議論し、診断までを行う。日本でこのような授業に参加したことがなかったため、学生の発言回数の多さと知識の使い方には驚かされた。また、私の参加したグループをまとめていた先生は生理学の教授であり、基礎系の先生方でもこのような症例検討の授業を受け持つことにも驚いた。同じ知識を持っているとしても、私たちが A&I を受けて同等の議論はできないだろう。もともと国民性や教育方法の違いがあるためそれは仕方ないことだが、このような授業をもっと受けてみたいと思った。とても活気のある良い授業だった。

今回の海外研修は 2 週間という短い期間だったが、アメリカの獣医がどのような勉強をして、どのような過程を経て獣医になるのか、診療方法、学生の在り方、様々な面で日本の獣医療とは異なっていることが少しは理解できた。

アメリカは私たちのような他国からの交換留学生をたくさん受け入れており、様々なことを経験するチャンスを学生に与えている。今回参加してみて、学生の間にもっと診療に参加したい、A&I Session のような授業をたくさん受けたい等、アメリカの教育を羨ましいと思うことも多かった。

確かに日本の教育は実践向きではないが、良い面もあると感じた。これからはアメリカを追いかけるだけでなく、日本の良さを伸ばし、世界でも負けない日本の獣医療を目指していきたい。

謝辞

I appreciate your kindness and hospitality during our stay in Purdue University, especially Dr. Scott-Moncrieff and Dr.

Inoue.

I learned a lot of things that is the way of medical treatment and thinking, difference of culture, etc. I never forget many experiences in Purdue University.

Thank you again.

Keiko Nambayashi

松岡 希枝

8 月 24 日(土) (日本とアメリカ)

前日から成田空港の近くのホテルに泊まった。成田に朝 8 時集合だったが、30 分くらい余裕をもって空港に着くことができて一安心。インディアナポリス空港では、Dr. Inoue と Dr. Scott-Moncrieff が出迎えてくださった。Purdue Village に到着した後すぐに Dr. Inoue とオリエンテーションをおこなった。

8 月 25 日(日)

日曜日だったので、Walmart まで生活に必要な食料品などを買いに行った。食料品が何もかもアメリカサイズで驚きの連続だった。レジ袋の使い方も豪快。

そのあと Logan's Roadhouse に行き、“Welcome Dinner”。そこで食べたサーモンのステーキが食べ応え抜群だった。

8 月 26 日(月)

ローテーション初日。朝 8 時 30 分からミーティングをおこないそれからローテーションへ。茉里ちゃんと Ophthalmology に行ったが、初日という事もあり、緊張できっと顔がこわばったと思う。とりあえず Dr. の後について診察を見ていた。ローテーションが終わってから、Boilermaker Special Tour で

大学内を回った。とにかく大学内がめちゃめちゃ広かった。

8月27日(火)

Ophthalmology 2日目。インターンの **Dr. Yan** から明日手術があるとのことでその手術に関する資料をいただいた。診察では **ERG** (網膜電図) っていうものと眼のエコーを見せてもらった。**ERG** は初めて見たので、こんなものもあるんだって思った。眼のエコーも勉強になった。夜は次の日のプレゼンテーションで話す文章を考えた。

8月28日(水)

Ophthalmology 最終日。9時30分から白内障の手術を見せてもらった。プレゼンテーションが11時30分からあったため、途中までしか見れなかったが、普段なかなか見れない **Ophthalmology** の手術を見ることができて良かった。その後のプレゼンテーションは緊張しすぎてワタワタしてしまったが、意外とウケてもらえてよかった。午後は馬の診察を見ることができた。最終日だったのでお土産を渡したら、茉里ちゃんの持ってきたお箸と扇子が好評で、お箸の持ち方をその場で見せたら上手ねってほめてくれてうれしくなった。

8月29日(木)

今日から、一番楽しみにしてた **Behavior** にあやちゃんに行った。残念ながら、症例はとってなかったなので、その代わり午前には **Dr. Ogata** が講義をしてくださることに。自分が知らなかったことや、授業で習ったけど忘れてたことを勉強できてよかった。午後は **VT** の **Mindy** からクリッカートレーニングを教えてもらい、実際にやらせてもらった。やってみると結構難しくて根気がいるこ

とがわかった。クリッカーをもらったので実践してみたいと思う。あとは、犬の **Body language** に関するビデオを観た。

8月30日(金)

Behavior 最終日。 **Dr. Ogata** からクリッカートレーニングを教わることに。初日よりはうまくできたのかなって思った。クリッカーを鳴らすタイミング、おやつをあげるタイミングを少しつかんだ気がした。

その後、**A and I session** という授業に参加させてもらった。前日に予習をしたにもかかわらず、全くついていけず残念だった。でも少し学生さんと話することができて良かった。

夜は **Wolf Park** に行ってオオカミを見た。初めてオオカミを見ることができて感動した。

8月31日(土)

休日だったので、**Indiana Beach** に行った。曇ってたので心配だったけど晴れてよかった。すごい楽しみにしてたので、テンションが思わずあがってしまった！充実した休日を送れた。

9月1日(日)

この日は車で1時間かかる **Indianapolis Zoo** に連れて行ってもらった。セイウチ、ゾウに触れたり、イルカを間近で見ることができたりと楽しむことができた。中でも、ゾウの皮膚の感触は思っていたよりもごつごつしてて驚いた。

9月2日(月)

この日は **Labor Day Holiday** で、**Tippecanoe Mall** まで買い物に行った。そこには、**Purdue** グッズなどが売っていたが、お昼を食べるのに時間がかかってしまい、買

い物をする時間があまりなかったのが残念だった。それでもなんとかお土産は買えたので良かった。その後は Dr. Scott-Moncrieff の家にお邪魔してごちそうになった。

9月3日(火)

ローテーション2週目。1人で Small Animal Community Practice (SACP) に行く日だった。SACP とは一次診療のことで、初めに学生さんが診断をし、そのあと先生が診察していた。学生さんが保定だけでなく採血、ワクチンもおこなっていたので、日本とは違って学生さんが何でもやるんだな、このシステムは良いなと思った。

9月4日(水)

この日から3日間 菜里ちゃんと Small Animal Internal Medicine へ。1日目は菜里ちゃんと別行動で、学生さんにつくことになった。糖尿病のシュナウザーにインスリンを投与し、採血して血糖値を2時間ごとに測定するという事で、保定を手伝った。その後は2回目の A and I session へ。今回もなかなかついていけず、残念。ローテーションの後は、SACP の Dr. Thompson の家にお邪魔した。ダンスゲームで盛りあがってとても楽しかった。焼きマシュマロもおいしかった。

9月5日(木)

Small Animal Internal Medicine2日目。ローテーションは午前のみで、その後は Fair Oaks Farm に連れて行ってもらった。バスツアーに参加して、乳牛の搾乳を見た。授業で見たことがある映像だったので実際に見ることができてよかった。また、ちょうど牛の出産がおこなわれていたので、その瞬間を見て感動した。

9月6日(金)

ローテーションもついに最終日になった。午前中はローテーションと A and I session だった。A and I session では最後に学生さんと記念撮影できて良かったけど、もうちょっと話せばよかったなと思った。ローテーションが終わってから Farewell ceremony で修了書と記念品を頂いた。お世話になった方たちと記念撮影ができて良かった。

9月7日(土)

朝4時出発だったので、前日はずっと起きていた。帰りもシカゴ経由で成田に帰り、そのまま、新幹線に乗り十和田に戻った。

アメリカでの2週間を振り返ってみると、いろいろな発見や驚き、勉強になったことがありました。この研修を経験できたことに感謝し、これからの自分の勉強に活かしていきたいと思います。この2週間でお世話になった方々に心から感謝したいです。本当にありがとうございました！

I had a very good time and could meet many people at Purdue University.

I could learn many things which I didn't know and difference between Japanese and American veterinary medicine.

It was very important for me to visit and study there. And I think I have to learn much harder.

I never forget spending time at Purdue University for two weeks.

Thank you very much, and I hope I can see you again.

Kie Matsuoka

溝呂木 喬之

◎ 8 月 24 日

成田空港に 8 時に集合し、出発の時間まで向こうに行って渡すお土産などを買った。成田～シカゴまで約 11 時間のフライト。シカゴでの入国審査には少々時間がかかった。シカゴ空港からは 12:45 出発だったのに遅れて 13:15 分に出発。シカゴ～インディアナポリスまで約 1 時間のフライト。難なくインディアナポリス空港に到着後、Dr. Tomo、Dr. Scott-Moncrieff が迎えに来てくれていて、そのまま Purdue 大学のドミトリーまで移動。これからここで 2 週間過ごすことになる。18 時～ご飯食べながら Dr. Tomo によるこれからの打ち合わせ。まず驚いたのがこっちは日がとても長いこと。日が落ちるのは 21 時頃。これからローテーションが始まるが終わった後も外で遊べそうだ。

◎ 8 月 25 日

10 時に岡田先生と一緒に朝食を買いに近くの Subway まで。あまりの安さに驚いた。朝食食べながら先生と今後について再確認を行い、その後みんなで散策。大学内はとても広く一日で周りきれぬわけもなかった。日中はとても暑く、サングラスや帽子があった方が正解。途中でカフェに入ったのだが、向こうではアイス/ホット両方ある場合アイスならアイスと言わないとホットが出てくるという事を知った。友達も真夏の中ホットを飲んでいて。昼食のインド料理屋ではメニューが全然分からなくてみんな適当に注文。とにかく全部カレー系の食べ物で基本辛かった。その後 Dr. Tomo、Dr. Scott-Moncrieff が Walmart に連れて行ってきてそこで食料や飲み物を調達。量がとても多いがとても安かった。今日は日曜日という事でお酒は買

えなかった。そして自分はポロシャツがキッズの XXL でちょうど良かったことに驚いた。大学内の敷地で遊ぶためにサッカーボールも購入。夜はステーキハウスの Logan's へ。Dr. Tomo、Dr. Scott-Moncrieff の家族他に小動物の先生も一緒に食事。アメリカではどのお店も残ったら持ち帰りができるらしいが、全員完食した。夜は明日からの Clinical Rotation に向けてみんなでお酒を飲んだ。

◎ 8 月 26 日 Cardiology

6 時半に起床。7 時 20 分には集合して、みんなで出発。8 時に銅像前で Dr. Tomo と合流。そのまま Purdue Veterinary Medical Teaching Hospital に入り、Conference Room にて各書類の記入、学長の Dean Willie Reed による挨拶、MRI のビデオ鑑賞を行った。その後、Dr. Tomo に大学内を案内してもらい 10 時から Clinical Rotation スタート。最初の 2 日間は Cardiology。まず飼い主との診察を見せてもらった。最後の方の雑談はなんとなく聞き取れたが、最初の方の肝心な内容がほとんど聞き取れなかった。その後は基本的に心臓の音を聴取後エコーによる診断を行っていた。Dr. Green は気さくに話しかけてくれて、心雑音も聞くことができた。しかし忙しいので基本的に自分から質問なり話しかけないとあまり相手にしてくれないという事が分かったので明日は頑張りたいと思った。午後も同じく診察～エコーの流れ。今日は 6 症例きていたがほとんどが房室弁閉鎖不全。カラードップラーにより逆流なども確認できた。ローテーション後、大学のマスコットの Boilermaker Special に乗って大学周辺を一周した。

◎ 8 月 27 日 Cardiology

今日も Cardiology。8 時に行ったが 10 時か

らと言われたのでお昼ご飯を買いに大学周辺を散策。朝という事もあり結局マクドナルドに行きみんなの分を買ったがセットを10個するのがなかなか理解してもらえず注文も色々手こずった。午前中はPDAの症例が来た。エコー見ながら先生が説明してくれて色々勉強になった。午後はまず腹水を処理後の猫のエコーを見て、次に馬のエコーを見るために大動物の人に混ざって見学させてもらった。異常な心音も聞くことができ、そのあとDr. Greenから説明されたがおそらく大動脈弁狭窄だったそうだ。最後に今日2症例目のPDA。その患者さんは明日PDAの手術をするらしい。ローテーション後はサイトで評価の高かったIrishというお店に。フィッシュ&チップス、ステーキなどかなりボリュームがありとても美味しかったのでオススメのお店。また店員さんのサービスも良かった。

◎ 8月28日 SACP (Small animal community practice)

今日からはSACP (Small animal community practice) に。Dr. Thompsonはとても親切に接してくれて面倒も見てくれた。今日は9症例。そのうち高血圧や高血糖、脂肪腫、腎臓の肥大など様々な症例が見られた。そしてついにプレゼン発表。先生や生徒が集まる中とても緊張したけどみんなで何とか発表出来た。やはり向こうの人相手につかない英語を話すのはとても緊張したが、発表後何人か話しかけてくれたのは嬉しかった。少しひと段落ついた。午後は標準60~90なのに508もある高血糖のネコやウサギのパスツレラ症の症例などが見られ、採血にも立ち合わせてもらい貴重な体験が出来た。また、腫瘍らしきもののバイオプシーもやらせてもらったり、腫大した部分を触らせてもらっ

たりもした。それから病理学の先生にスミア標本を見せてもらい、細胞過程について色々学んだ。夜はMaru sushiというお店にお寿司を食べに。日本のお寿司と違って、カルフォルニアロールという味がついた具を巻いてさらにタレがかかったお寿司でとても味が濃かったが美味しかった。帰って報告会の後、先生と男子メンバーで1時間程度サッカーで汗を流した。

◎ 8月29日 Small animal surgery (SAS)

今日はsmall animal surgery (SAS) を見学してきた。ここは整形外科と軟部外科に分かれていて、今日のオペは4つ予定されていて全て整形外科の手術だった。午前中、橈骨尺骨の両方骨折したチワワの手術を見た。日本でも変わらないような方法でプレートなりラグスクリューなりを使って手術していた。午後はまずCT検査を見に行ってきた。実際にCTを撮る現場は初めてでいい経験になった。さらに、前十字靭帯断裂の犬のTPLOの手術を見た。自分たちが実習でやったような方法ではなかったので新鮮で色々勉強になった。途中プレートを落としてしまうなどのハプニングもあったが何とか無事終了した。今日は15時には全てオペが終わってしまったので、その後はSACPに来ていたイグアナの患者を見ることができた。夜はDr. Tomoの家族、Dr. Scott-Moncrieffと息子さんと一緒にTEPPANYAKIという食べ放題のお店に行った。和洋中全て揃っていて、デザートもありとても満足した。やはりアメリカのデザートの甘さにはついていけない。帰宅後、報告会をして、夜は明日のA & Iセッションの予習をみんなでやって就寝。

◎ 8月30日 Small~animal~surgery(SAS)

今日は8時からセミナーがあった。講義はレプトスピラの内容についてでとても難しかった。講義中の冗談が理解できないのが悔しかった。その後は今日も SAS へ。10時~右膝蓋骨の内方脱臼のオペがあったので9時過ぎから麻酔などの前処置を見た。膝蓋骨を出したところまでで今日は A & I session があったので途中で抜けた。A & I session とは1グループ数人に分かれ様々な資料を元にディスカッションを行う授業である。先生が各班1人つき自分のグループは先生含め9人のグループだった。最初いろいろと話しかけてくれて少し会話する事が出来、和やかなムードだった。先生も優しい方なるべく英語をゆっくり話すようにとみんなに言ってくれた。しかし、ディスカッションが始まると一気にみんな集中し、議論し始めた。前日にあらかじめ資料をもらい予習していたので何となく話の内容にはついていけたが、結局会話のスピードは早いのと複数が同時に話したりするので聞き取るのが難しかった。次回はもっと聞き取れるように努力したい。午後は SAS の仕事がほぼなく、整形の股関節の授業をやっていたので聞きに行った。その後は何人かで Purdue 大学の他のキャンパスを見にぶらりと散策。夜ご飯は PANDA & EXPARESS という中華のお店でテイクアウトし、ドミトリーで食べた。夜は Dr. Tomo、Dr. Scott-Moncrieff に連れられて WOLFPARK へ。実際オオカミを見ることができ、貴重な体験が出来た。報告会の後、金曜日ということでかなり遅くまで飲んでいた。

◎ 8月31日 Indiana Beach

10時に集合なのに10時に起床。今日は Indiana Beach へ。アトラクションとプール

が両方あるテーマパークである。絶叫系やお化け屋敷などみんなでそれなりに楽しめたと思うが途中雷雨などで1時間近くアトラクションもプールも閉まってしまって結局プールに入れなかったのが残念だった。夕食はこっちに来て初のみんなの手料理。自分たちはハンバーグを作った。他にはシチュー、トマト煮、肉じゃが、サラダ、チキン南蛮、フライドポテトなどが並びどれもとても美味しかった。今日で約半分過ぎたので部屋のメンバーチェンジを行い、早めに就寝。

◎ 9月1日 Indianapolis Zoo

7時半に朝食をとり、8時~Indianapolis Zoo に向けて出発。到着後まず係員の人に治療室などの内部を紹介してもらった。そのあとセイウチを見に行った。背中やひげを触らせてもらい、キスまでしてなんだかんだ良い思い出?になった。皮膚は毛糸の毛布のようで柔らかかった。次にイルカを見に行き、最後にゾウを案内してもらった。ゾウの皮膚はとても硬く皮膚から出ている毛も硬くて痛かった。芸も見せてもらい楽しませてもらった。その後は自由行動。キリン、トラやチーター、ライオン、サル、サイ、シマウマ、シロクマなどがいて久しぶりに動物園に行ったので楽しかった。帰りの車は爆睡。帰宅後、昨日の余った具材を使ったりして、ハンバーグのトマト煮、チャーハン、親子丼などが並びみんなで夜ご飯。

◎ 9月2日 Tippecanoe Mall

月曜日だが Labor Day ということで休日。朝からコミュニティセンターに卓球をしに行った。1時間くらい遊んだ後、今日は緒方夫妻に連れられて Tippecanoe Mall に。ここで家族や友達へのお土産を買った。夜は Dr. Scott-Moncrieff の家にお邪魔し、チェコ

からの留学生も一緒に夜ご飯をご馳走になった。Dr. Scott-Moncrieff のピアノや息子さんのチェロの演奏を聞けて大満足。料理もとても美味しかった。休日を遊び倒し、明日からまた Clinical Rotation が始まるので早めに寝た。

◎ 9 月 3 日 Small animal surgery (SAS)
SAS にお邪魔した。整形も軟部も今日はオペが入っていなかったもので、午前中は歯科の方にお世話になり、下顎の歯周炎を起した犬を見ることができた。第 1,3,4 前臼歯の抜歯を行っていて、朝から痛々しいものを見た。VT さんはみんな優しく、見やすい位置で見させてもらえた。午後は一件だけ膀胱の症例が来ていて、内視鏡検査とエコーにより結石が見られた。夜ご飯はハンバーガーが美味しいと聞いていた FIVEGUYS へ。好きなだけトッピングも出来てボリュームもかなりあった。テイクアウトの際に手提げ袋 (Bag) が欲しいと言ったら通じなかった。あとあと聞いたらおそらく Bag→Back に聞こえていたのかもしれない。1 つまた勉強になった。その後、周辺のお店でお土産を購入。帰り途中にドミトリーの近くでみんなでバレーをやって帰宅。夜は A & I の予習をやった。

◎ 9 月 4 日 Oncology

今日から Oncology に行ってきた。8 時からセミナーに行って、9 時からローテーション。1 人の VT さんがすぐ声を掛けてくれて、STEFANY という Student についた。その人もとても優しく英語も割とゆっくり話してくれた。午前は手術で下顎の半分を切除した犬の症例だった。飼い主との会話も聞くことができ、3 割くらいは聞き取れたがもっとリスニング力があればと感じた。10 時半から A & I session だった。前回の宿題の部分は

全く入っていけず、聞き流していたが今日の部分は予習のおかげで多少は理解できた。でも、中々話すのは難しかった。午後はほぼ症例がなく、断脚されていたネコや腫瘍の箇所がまだ不明な患者の診断を軽く見て終了した。18 時～1 年生の 2 年生による歓迎会を見に行った。様々な科のプレゼンテーションに終始笑いが途絶えなかった。日本に帰ったらあんなプレゼンテーションが出来たらいいなと思った。夜は Dr. Thompson の家にお邪魔した。地下で卓球やダーツなどで遊んだり、Wii でスマッシュブラザーズをやったり、ダンスのゲームで踊ったのは良い思い出である。美味しいデザートもいただき楽しい時間が過ごせた。

◎ 9 月 5 日 Oncology

今日も Oncology に行った。毎朝 8 時からやっているミーティングに今日は参加した。プレゼンテーションもあって朝から急激な眠気に襲われた。午前は肝臓と脾臓の再検査で来たゴールデンや貧血、メレナ、高酸素血症などをもったシーザー、ラブラドルなどを見ることができて充実していた。午後は牧場の Fair Oaks に行った。牛や豚の飼育現場を見に行ったりして、それが授業で習った内容だったので少し理解が深まった。その後、今まで撮った写真を現像しに Dr. Tomo に連れて行ってもらった。夜は、手羽先が食べられるスポーツバーみたいな場所に行って 4 年生の Student とご飯を食べた。その後隣の Neon ~ Cactus に移動し、お酒を飲みながらビリヤードやダーツ、ダンスを楽しんだ。

◎ 9 月 6 日 Oncology

Clinical Rotation 最終日。今日も Oncology に行ったが今日は 3 症例しかなかった。すぐに A & I session の時間になり、最後の

A & I session に。授業の最後にグループで集合写真も撮れて、少しは馴染めたかなと思う。昼食後、A & I session の解説を Dr. Childress にしてもらい、午後のローテーションへ。しかし、すでにほぼ今日の症例が終わってしまっていた。夕方、Farewell ceremony で修了証と記念品などをもらい、今までお世話になった先生方などと食事や会話を楽しんだ。夜は最後の夜ということもあってみんなで飲んで盛り上がった。

◎ 9 月 7 日

朝 4 時にドミトリーを出発。空港に時間通りに着き Dr. Tomo、Dr. Scott-Moncrieff に見送られ、無事に飛行機に乗ることもできて日本に帰国した。

◎感想

今回の研修は約 2 週間という短い期間ではあったが、とても充実した内容の濃い 2 週間であつという間に過ぎていった。アメリカでは獣医師になるまで 8 年という長い道のりがある。4 年間かけて学士を取得して、また 4 年間獣医学を勉強しに来ている Purdue 大学の生徒たちの意識の高さ、知識の高さには本当に驚かされたし、とても良い刺激となった。診察から治療まで生徒が行うカリキュラムは日本にはないものである。とても臨床教育に特化していると感じた。また良いと思ったのはアメリカでは朝が早く夕方には終わること。実際、大学病院も朝 8 時くらいから始まり夕方 17 時には受付が終わる。そのような日本との違いを感じた・見れたことだけでも今回の研修に参加した意味があったと思う。そして同行して下さった岡田先生、本当にありがとうございました。お世話になりました。また、Purdue 大学では Dr. Tomo、Dr. Scott-Moncrieff には本当にお世話にな

りました。ありがとうございました。

◎謝辞

Dear everyone in Purdue University

My stay at Purdue University in this summer was a great experience. Thank you so much for your kindness. In this program, I felt the difference between the curriculum of Japan, and received many stimuli.

I appreciate for Dr. Tomo, Dr. Scott-Moncrieff and a lot of professors and students in Purdue University.

I hope to visit and meet again!! Thank you!!

Takayuki Mizorogi

森岡 翠里

8 月 24 日

10:45 に成田を出発。機内食は二回。約 11 時間のフライトでシカゴ着。乗り継ぎの飛行機まで 3 時間暇つぶし。ピザとフレーバーティーを購入。フレーバーティーはすごくまずい。シカゴ～インディアナポリスは約 1 時間。全部寝て過ごす。空港で Dr. Inoue と Dr. Scott-Moncrieff に出迎えてもらい、車で Purdue village に向かう。約 1 時間で到着。部屋についたら最初のミーティング。これからの大体の流れを聞く。部屋はキッチンが付いたリビング+寝室で快適。タオル、シャンプー、ボディソープは用意してある。荷物をある程度整理して寝る。

8 月 25 日

9:30 起床。15:30 まで予定がないため数人で Purdue West の Subway に朝食を買いに行

く。10人分と言うとなかなか伝わらずに難しい。朝食後、大学までの道順を確認しながら歩く。その後男女に分かれて街の中心地を散策。あまりに暑いのでとりあえず入ったカフェでモカを注文。HOTが出てきた。昼食は Indian Fast Food に入る。メニューを見ても分からないので適当に注文。出てきたものを見ても分からなかった。食べても分からなかった。でも美味しい。その後、予定どおりに Walmart へ行く。食料品に加えて服なども売っている。ここでしばらくの分の食料品と用意し忘れた物を購入。サッカーボールも買っておく。夕食は Logan's でステーキ。付け合わせのポテトが大きいけど美味しい。

8月26日

6:30 起床。7:50 に大学に着く。最初に会議室で書類にサインをして学長に挨拶。その後、Dr. Inoue に病院内を案内してもらいそれぞれのローテーション先に分かれる。初日は Cardiology。Dr. Eason に挨拶し早速診察室でオーナーと Dr の会話を見学。やっぱり会話が速い。単語を拾って追いかけるのが精いっぱいだった。その後は、ひたすら症例をエコー検査。基本的に MR、TR。Dr. Eason はあまり話しかけてこないけど、めっちゃいい人。Dr. Green は明るくてめっちゃいい人。16:00 頃に切り上げて 17:30 から Boiler Maker Tour。機関車の形をしたバスに乗って Purdue の市街を走る。目立つので街中の人から見られる。

夕食は Purdue West のファストフード。食後は先生の部屋で飲み会。ビールは数種類のフレーバーがある。

8月27日

今日は Cardiology 二日目。イベントがないため一日中 Cardiology に滞在できる。今日

は PDA の症例が来た。心雑音を聴診し、スリルを触診する。PDA の手術を明日すると言われたが、明日からローテーションが変わるため見られない。惜しいが仕方がない。夕食はネットで評価が一番高いという Nine Irish Brothers に行く。ご飯もおいしく、なにより店員さんがかなり親切。高評価も納得の店だった。

8月28日

今日は SACP。診察室の様子をマジックミラー越しに observation 室から見学。音声もきちんと入る。ブリティッシュショートヘアポインター。全身に 9 コの Lipoma バイオプシーをさせてもらう。基本的にイヌかネコだがたまに珍しい患者もくる。昼にプレゼン発表。昼食はピザ。カフェでスムージーを買って、午後の見学に行く。高血糖ネコ (508) の診察。肥大した腎臓を触診させてもらう。次はウサギの診察。かなりウサギに詳しい患者さん。採血を手伝う。その後、Dr. Augustine についていって膣スメアの鏡検をする。オフィスに招かれいろいろ授業をしてくれた。めっちゃいい人。夕食は Maru Sushi という日本食の店。出てきたお寿司は見た目も味も普通のお寿司で驚いた。ただ、ロールはアメリカならではのカラフルな巻き寿司で斬新な作り方。こういうのもありだと思った。

8月29日

今日から一人で Oncology。8:00 から会議室でミーティング。その後は送られてきた動物の処置。TPR、血液検査をして Dr. の診断へ送る。抗がん剤の投与も同じ場所で行われる。約 10 症例を午前中から一気に行うためかなり人が行き来して忙しいが、午後の 15 時ころには落ち着いてくる。夕食は Teppanyaki

Grill。食べ放題で種類はかなり多い。カエルも食べた。寝る前に A & I の予習をして寝る。

8 月 30 日

8時からセミナーを見学。レプトスピラの話だったが時々の冗談が分からなくて悔しい。Oncology が 10 時からなので昼食の買い出し。Taco bell でタコス 12 個セット 12 \$。安い。

10:30 から A&I なので Oncology に少しだけ顔を出して A & I に向かう。A&I では 4 班に入れてもらう。皆優しくて明るいメンツだったので想像していたよりも楽しく参加できた。また、担当の先生もとてもいい人で先生の配慮でいくつか発言をする事が出来た。それでもネイティブのセッションは非常に速くて、先に配布されているプリントで予習していないとなにも分からないと思った。午後は Oncology に行くが全く人がいない。基本的に金曜日は外来がないためか病院全体が静かな雰囲気。結局見る事がないため学生の授業にこっそりと参加。皆にパソコンが支給されていて、そこに映る授業スライドにひたすらメモをしていた。授業中の質問も積極的に驚いた。夕食は PANDA EXPRESS でテイクアウト。

19:00 から Wolf Park に行く。スタッフになっている様子はほぼイヌだった。かわいい。帰りに grocery に寄って食料品とお酒を購入。3:30 まで飲む。

8 月 31 日

8:30 に起きて 10:00 に Indiana Beach へ出発。プールと遊園地の両方に行けるチケットが二人で 35 \$。ジェットコースターが古く、スタッフも適当な感じでおもしろいスリルを感じた。皆で入ったお化け屋敷は古くて

あまり怖くない。身内同士での脅かし合いが一番怖かった。ちなみにプールは天候がイマイチのため入れず。雷も鳴っていたし仕方ない。帰りに grocery によって夕食の食材を購入。各自なにか作れという事でハンバーグを作る。調子に乗ってお肉を買いすぎて 30 個分のタネが出来る。みんなの料理が出揃ってかなり豪華な夕食だった。

9 月 1 日

7:00 に起きて 8:00 に Indianapolis zoo に向かう。まずは裏口から入れさせてもらい、病院施設を見学。普段は見ない特殊な器具を見る。次にイルカショー。意外と淡々とした内容だった。セイウチの裏方見学では餌をあげて口にキスをしてもらう。かわいいけど魚臭い。イルカの裏方では訓練や診察の方法を教わる。最後にゾウの見学。肌に触れるくらい近づける。残りの時間で園内を回ってお土産を購入。夕食は昨日の食材を使って料理。食後は皆でサッカー。

9 月 2 日

Labor Day で 祝 日。9:30 に 起 き て Community Center で卓球をする。12:00 に Tippecanoe Mall へ出発。Purdue 専門店もあるのでここで土産を購入。隣にある本屋は広くて面白い。夜は Dr. Scott Moncrieff の家に招かれる。とうもろこし畑の間をかなり奥へと入った森の中に一軒家があり、近所の家というのはなかった。振舞ってもらった夕食はかなりおいしかった。

9 月 3 日

今日も Oncology は 10:00 からなので昼食の買い出し。Oncology では TCC がメインの日らしく、膀胱のエコーをかける症例が多い。オーナーへの説明にも同行させてもらい、初

日に比べたら少し聞けるようになっている気がする。午後は上顎の腫瘍の CT、パンチ生検を見学。夕食は **Five Guys**。本格的なハンバーガーで有名らしく聞いていたとおり美味しい。その後、お土産を買うためにいろんなお店に寄ってから帰り、日が暮れるまで皆でバレーをする。

9 月 4 日

8:00 から **Histopathology Rounds**。各科の先生が集まっており、小動物、大動物それぞれの組織病理のセミナー。その後、今日からの **Large Animal Surgery** を見学しに行き、**A&I** までウマの喉頭片マヒの手術を見学。**VT** のパットがすごくいい人。10:30 から **A&I** の 2 回目。各自が前回の **Learning List** の担当項目をレポートとしてプリントしてきて皆に配る。時間の半分はこの発表で後半が前回の続き。発言するのは勇気がいるが、その分メンバーと仲良くなれる。午後はウマの手根関節の内視鏡手術を見学。一緒にいた 4 年生がとてもいい人で細かく説明してくれた。その後は新 1 年の歓迎セレモニーを見に行く。ここでピザなどの夕食が出た。夜は **Dr. Thompson** の家に招かれる。地下室がとても広く卓球、ダーツ、サッカーゲームなどがあり **Dr. Thompson** の息子の **Nick** と卓球をする。上手い。リビングには **Wii** があり、スマブラでの勝負はかなり白熱した。最後のダンスゲームはかなり恥ずかしい事になった。

9 月 5 日

LAS は午前中に去勢手術だけということでこれを見学。詳しく聞くと寄付されたウマを用いて実習授業とのこと。ウマー頭に学生 2 人というのはすごい。午後は **Fair Oaks Farm** へ行く。ウシの自動搾乳や豚舎を見学。

運よく牛の出産も見ることが出来た。チーズと牛乳が美味しい。アメリカでは美味しい牛乳がないことが大変だったが、ここの牛乳は美味しい。夜は **buffalo wing** で手羽先を食べる。いろんな種類のソースがあり、辛いソースで涙が出た。そのまま隣の **Neon Cactus** に入り、お酒を飲みながらビリヤード、ダーツをして踊った。

9 月 6 日

今日は **A&I** の 3 日目。ずっと考えてきた症例も結論を出して終了。最後まで意見の絶えないセッションだった。終わった後に 4 班の皆で集合写真を撮らせてもらう。その後は昼食を食べながら **Oncology** の **Dr. Childress** による **A&I** の症例の解説を聞く。ゆっくりと分かりやすく話してくれた。午後の **LAS** は症例がないため、お世話になった先生達を探してお礼を言い、写真を撮って回った。16:00 から **Farewell ceremony**。学長に証書を授与してもらい、皆で夕食を食べながら最後にいろんな先生とたくさん話す。大学を出た後は日が暮れるまでバレーをしてから荷造り。次の日の出発が 4:00 なので徹夜。

9 月 7 日

徹夜のまま飛行機に乗って爆睡。あつというまだったけど楽しかった。

Thank you for everything!!

It's first time for me to visit to America. So I was worried about everything at first.

But, thanks to your kindness, I was relieved and had a great time.

I will never forget this significant experiment!!

Best Regards.

Suiri Morioka

森田 篤

8月24日

日本時間で24日午前11時前の便で日本を出発し、約11時間飛行機に乗って現地時間で24日午前8時過ぎにシカゴ空港に到着。そこから3時間のトランジットを経てインディアナポリスまでさらに飛行機で1時間。インディアナポリスからはDr. TomoとDr. Scott-Moncrieffにアパートまで車で送っていただいた。アパートに到着後は大学での諸注意などを受け、大学敷地内を散策して過ごした。インディアナ州では日が暮れるのが夜9時過ぎと遅いことにも驚かされた。

8月25日

午前中は前日より散策範囲を広げて大学敷地内を散策した。とにかく広いことに驚かされた。午後からはアパートで自炊して過ごすために近くのモールに連れて行ってもらって食料などを調達した。夕飯はDr. Scott-Moncrieff、Dr. Tomoをはじめとする先生方に誘われてステーキを食べに行った。アメリカのスイーツは日本とは違った美味しさがあって食べ過ぎてしまった。

8月26日

本格的にPurdue大学での研修を開始した。まず始めに学科長の挨拶や病院内での諸注意などを受けた後、朝食をとりながらビデオ講習を受けた。講習終了後、ローテーションの一日目は循環器科に見学に行かせていただいた。循環器科ではDr. GreenとDr. Easonが診断・治療をされており、エコーでの画像診断が主に行われていた。私たちがこの日見学させていただいたのは全5症例で、ほぼ僧帽弁閉鎖不全の症例であった。初日ということもあり、なかなか自分たちから

話しかけることができず勿体ないことをした。ローテーション終了後はボイラーメーカーツアーと呼ばれるキャンパス内案内ツアーに参加した。

夕飯はアパートにほど近い所にあったギリシャ風サンドイッチのお店ですました。

8月27日

ローテーション2日目。前日と同じ循環器科を見学した。循環器科は10時から診察を開始すると知り、時間まで病院内にあるカフェに行ってみた。

2日目も前日と同様に全5症例をエコー検査で検査するが中心であったが、前日とは違って動脈管開存症の症例なども見学することができた。また、Dr. Green先生が心音を聞かせてくれたり肺音を聞かせてくれたりと、基礎系の研究室に所属する自分としては、知識を入れる授業で学んだことよりも“生”の症例を自分で実体験できることがすごく新鮮ですごく勉強になった。

その後、先生に付いて大動物棟へ行き、馬のエコー検査を学生と一緒に見学した。循環器科と言っても大動物と小動物の区別がなく、すべての動物に検査・治療をすることには驚かされた。

また、学内ではWi-Fiが完備されていたので携帯を使って専門用語などを調べることができたのですごく助かった。

ローテーション後はみんなでアイリッシュ料理のお店に行って夕飯をとった。

8月28日

ローテーション3日目。この日はSACP (Small Animal Communication Practice) という一次診療の科に行った。Dr. Thompsonは北里大学にもいらっしゃったことがあるらしく、すごく親切でわからないことがあった

ら黒板を使って丁寧に教えてくれたり、実際の脂肪腫の動物を使って検査方法を教えてくれたりバイオプシーをさせてくれた。その後は自分たちが実際にバイオプシーで採取したスライドを染色したり、病理学の先生を紹介してもらって顕微鏡を覗きながら細胞の講義を受けたりと、実践と講義を入り交じらせたスタイルで大変勉強になった。

診察室の隣には observation room と呼ばれるマジックミラーになっていて診察室内の様子を見ることができる部屋があり、気性の荒い動物が来院しても学生が見学できるようになっていた。

一次診療ということもあり、オーナーとのコミュニケーションの機会多く、肌で感じることができたのでとても有意義な体験ができた。

8月29日

ローテーション4日目。この日は小動物外科を見学させてもらった。小動物外科では大きく整形外科と軟部外科に別れていて、朝ホワイトボードにその日にある手術の一覧が出て、自分の見学したい手術に行く感じだった。

私が見学させてもらったのは犬の骨折治療であった。私たちが留学生ということもあり、見えやすい場所を教えてくれたり大変親切にしてもらった。最近のアメリカでは獣医師の半分以上が女性ということもあり、小柄な女性がプレーティングなど力仕事を一人でこなしてるのを見てとても驚いた。

8月30日

ローテーション5日目。この日は金曜日ということもあり、ホワイトボードを見ても何も手術の予定がなく、唯一あった歯科のスクレーピングや抜歯を見学させてもらった。処

置を始める前に歯科の先生の治療方針や処置法などを Purdue の学生と一緒に聞き、治療を見学した。歯科では一度に2頭の犬の処置を見ることができた。また午前中には A&I セッションがあり、言語の壁の厚さを知り、日本人であることを心底後悔した。ローテーションが終わった後は Dr. Inoue ご家族と学生のマギー達と Wolf Park に行った。

8月31日

ローテーションが始まって初めての休日はみんなで Indiana Beach というプールの付いた遊園地に行って夕方過ぎまで遊んだ。

9月1日

この日は午前中から私たち、日本からの留学生の他にチェコからの2人の留学生と一緒に Indianapolis Zoo に行き、動物園を堪能しつつ、動物園の裏側を見学させてもらった。象やセイウチに直接触れることができて感動した。特にセイウチと口づけをして顔中が魚のにおいと鱗でいっぱいになったことは印象的だった。

9月2日

Labor Day Holiday で病院は休みだったので Tippecanoe Mall に買い物に行き、お土産などを買った。夕方からは Dr. Ogata 夫妻と学生のリズと一緒に Dr. Scott-Moncrieff 先生のお宅で夕飯をいただいた。

9月3日

ローテーション6日目。この日も小動物外科を見学させてもらった。残念なことにこの日は手術が一件と放射線治療くらいしか見れるものがなく、午後からは何もなかったので少しキャンパス内を散策して芸術学部など、他学部の棟にも足を伸ばしたりした。

9月4日

ローテーション7日目。この日からは大動物外科を見学させていただいた。大動物外科ではVTのパットがとても親切で、その日にある手術の種類・方法などを丁寧に教えてくれ、理解できているかのチェックまでしてくれた。それが終わると例の2度目のA&Iセッションがあり、一回目にも増して疎外感を感じずにはいれず、1時間半の間、胃がねじ切れる思いで過ごした。午後からも大動物外科を見学させてもらい、さすがに治療などには参加させてもらえないものの、馬の保定や麻酔のかかった馬を運ぶ手伝いなどは参加させてもらった。

ローテーションの後はSACPでもお世話になったDr. Thompsonのお宅に招待され、ゲームやマッシュマロを焼いたりして楽しんだ。

9月5日

ローテーション8日目。午前中は大動物外科を見学させてもらい、馬の関節の手術を見せてもらった。はじめどんな手術かがわからなかったが、Purdueの4年生の学生が親切にその症状に至るまでの経緯や術式などを事細かに教えてくれたので、自分たちが日本で受けた授業を思い出して更に理解を深めることができた。午後からはFair Oaks Farmに行き、アメリカの大規模農場を見学した。すべての行程が効率化されていて感心したが、土地の限られた日本ではなかなかできるものではないと思った。

Fair Oaks Farmから帰ってきた後はPurdueの学生3人と夕飯を食べ、その後Neon Cactusというクラブに行って歌って踊った。

9月6日

ローテーション9日目、最終日。少しの時間しかなかったがこの日も大動物外科を見学。それから3度目となるA&Iセッション...心が音をたてながら折れた。1時間半の地獄を味わったあと、昼食をとりながらDr. ChildressのA&Iセッションの解説を受けた。正直、これだけなら良かったのになと思った。

その後はfarewell ceremonyがあり学科長から修了証明書をいただいた。

この2週間の体験は日本の中にいるだけでは体験できないことがとても多く、自分自身、獣医のあり方に対する視野が広がった様に思える。特に大学教育などでは羨ましく思うところが多くあった。加えて親切な先生方や学生の方々のおかげでとても貴重な経験ができました。

Thank you very much for your kindness. I had very worthy experiences for two weeks. I really appreciate the kindness of doctors and students. By the time I visit Purdue University again, I want to be able to speak English well. I deeply regret that I could not eat Dr. Scott-Moncrieff's home cooking and American sickly sweets until I was completely satisfied.

I will never forget everything and anyone!!
I hope to see you again someday!!

Atsushi Morita

安田 純平

【事前準備】

前年度12月に海外研修に参加できること

が決まり、1月から週1回の英会話レッスンに参加した。終わってから考えるとその頻度のレッスンで足りるはずもなく、もっと自習しておくべきだと思う。出発1週間前に服や旅行用品、お土産を準備した。事前にドレスコードを渡されていたため無地のポロシャツとスラックスを用意したが、実際には襟付きシャツで十分でボトムも穴あきジーンズはどかカジュアルでなければ多少かカジュアルでも良いということだった。

【出発から到着まで】

出発当日、成田空港で集合した。自分が用意したスーツケースは、無料で預けられる最大のものよりも1回り小さかった。前日に苦勞して詰め込んだが、よく調べておけばそんな苦勞する必要がなかったようだ。成田からシカゴ経由でインディアナポリスに向かった。シカゴは乗り継ぎの便が少し遅れたが、それ以外にはトラブルはなかった。インディアナポリスでDr. InoueとDr. Scott-Moncrieffが出迎えてくれた。空港から1時間ほどでPurdue大学に到着した。宿泊は前年度と同じくPurdue Villageというアパート群でベッドルーム、ダイニングキッチン、バスルーム付きの部屋に2人ずつ泊まった。食器と調理器具も用意されており、自炊も可能だった。洗面用具はDr. Inoueがシャンプーとボディーソープを用意してくれていた。ので来年度は自分で用意する必要はないかもしれない。

【クリニカルローテーション】

アメリカの獣医学教育では最終学年の4年次にクリニカルローテーション(病院研修)を行う。これは2～3週ごとに希望する科に行き、先生に確認しながら学生自身が診察・治療を行うカリキュラムとなっている。今回

の研修は、このクリニカルローテーションの見学が主な内容となる。自分が回ったのは麻酔科・循環器科・小動物内科・夜間救急・小動物コミュニティプラクティス・行動科である。

① 麻酔科

麻酔科は3日間見学した。麻酔科では、外科手術や画像診断のための麻酔を学生が行っていた。決まった麻酔プロトコルがあるわけではなく、担当する患者ごとに使用する薬物・投与量などを考えて先生の確認・指導の後、学生が投与と維持管理を行っていた。気管挿管にスタイレットを用いていなかった点とバイトブロックを使用しなかった点について、日本で習ったことと違うと思った。麻酔科は外科手術中も維持管理を行うので、外科の見学も同時にできた。大動物では講師の際ヘルニア整復術やエルクの術後の消毒、小動物では腹腔鏡を用いた胃壁固定術を見学できた。また、救急で来院した犬の術前管理の間、呼吸の管理を担当させて頂いた。ローテーション中は基本的に見ているだけなので、少しでも作業をさせてもらえるのはうれしかった。

② 循環器科

循環器科は2日間見学した。循環器科では大きく分けて2つのことを見せてもらった。心電図検査とエコー検査だ。心電図検査ではペースメーカーを設置しているイヌの心電図を診て、ペースメーカーの調整を行っていた。エコー検査では大動脈弁狭窄・肺動脈弁狭窄・僧房弁閉鎖不全症・動脈管化依存症の症例を見ることができた。また、Dr. Greenが聴診器を当てて自分を含めた学生に心雑音を聞かせてくれた。循環器科では先生が

診察をしていて、獣医の学生はいなかった。ただ VT の学生が保定などを学んでいた。

③ 小動物内科

コミュニティプラクティスに行く予定がキャンセルになったので、別の日に振り替えてもらい急遽小動物内科を1日見学させてもらった。まず、血液ドナー犬からの採決を見学した。輸血用の血液を提供する血液ドナー犬を飼っており、採血後に遠心分離して赤血球と血漿に分けて保存するそうだ。その後、イヌの内視鏡検査を見学した。内視鏡検査の途中で A&I セッションに参加するために抜けたので最後まで見られなかった。次に、ネコの腹部エコー下での肝臓・胆のうの針生検と咽頭食道ろうチューブの設置を見た。針生検は画像診断科の先生が行っていたが、栄養チューブの設置は学生が行っていた。

④ 夜間救急

2 週目の火曜日に夜間救急を見学させてもらった。この日は Dr. Inoue の奥様で同じく獣医師の Dr. Stephanie Inoue が対応してくれた。夜間救急は朝の 8 時まで開いており、Dr. Inoue は夕方 5 時から夜中の 2 時まで働くそうだ。北里の学生は日が暮れる前に帰ってもらいたいということで 7 時まで見学させてもらうつもりだったが、この日は暇で先生と雑談していた。7 時ごろに口に釣り針が刺さったネコが来たので、この症例だけ見学させてもらった。ほかの科と同様に、まずは学生が診察してから先生に代わり、学生の診断と治療方針について指導した後、学生が治療していた。この例では、ブトルファノール・デキサメドミジン・アチパメゾールを投与して、ペ

ンチで針を抜いていた。救急なので確実に症例を診れるわけではなく、忙しい日もあれば暇な日もあるということで、症例が見れるかは運次第だ。

⑤ 小動物コミュニティプラクティス

こちらには 1 日だけお世話になった。ここでは定期検診とワクチン接種に来る患者が多かった。その他に、糖尿病で入院しているネコの血糖値を 2 時間ごとに測っていた。インスリンなどの血糖値を下がる薬物の投与量が多いと急激に血糖値が下がり、逆に血糖値が急上昇する現象を引き起こしてしまうので、2 時間ごとに血糖値を測定して投与量が正しいか調べるらしい。この症例では、1 度低血糖の域まで下がり、急激に高血糖になっていたもので、翌日から投与量を減らすのだろう。ほかには、口腔内に腫物ができたウサギが来院した。この症例では麻酔下で FNA を行った。サンプルの一部を DifQuick 染色したが、何も見られなかった。病理検査の結果を待つということだった。

⑥ 行動科

行動科には 2 日間参加させてもらったが、Fair Oak Farm に行ったり最終日のセレモニーで実質 1 日しか参加できなかった。1 日目は診察がキャンセルになってしまい、行動学のビデオを見ただけだった。2 日目は VT のクリッカートレーニングのクラスを見学したり、Dr. Ogata が 1 対 1 で疑問点について解説してくれた。行動科の診察を見学できなかったのは残念だが、行動学の診察について先生に教わって、入交先生に教わったのは本当に導入程度なんだと思った。

【A&I セッション】

クリニカルローテーションのほかに、2年生のA&Iセッションというクラスに参加した。これは6人ほどの班に分かれて、ある症例について診断から治療までを学生がディスカッションしながらシミュレートする講義で、学生は発言することが評価につながるので積極的に発現していた。今回の研修では3回参加して、1回目は稟告から必要と思われる検査について、2回目は検査結果から考えられる病気について、3回目は治療法についてディスカッションした。このように実際の診察と同様の順番に行われて、疑問点は次のクラスまでに分担して調べていた。ディスカッションの内容は一部の単語を聞き取るのが精いっぱい、発現する余裕はなかった。しかし、自分の班はとても気を配ってくれて内容を理解することはできた。この症例は脾臓疾患で脾臓摘出術を行うというものだった。もう少し専門英語を勉強すれば片言でも発言できたかもしれない。

【プレゼンテーション】

北里大学や自分たちの紹介をするプレゼンテーションを行った。まあまあ的人数が集まり少し緊張もしたが、日本の学生生活について少しは興味を持ってもらえたかもしれない。

【観光や遊び】

① ウルフパーク

オオカミの保護公園みたいなところで、職員がオオカミの説明をした後、観客が遠吠えをするとオオカミが出てきた。とても広い敷地で保護しているらしいが完全に人に慣れていた。

② インディアナビーチ

アミューズメントパークで遊園地とプー

ルがあった。男子は全員水着を持っていたが女子は持ってきていなかったのも、最初に全員で遊園地で遊んでから別行動ということになった。ジェットコースターは面白かったが、お化け屋敷が全然怖くなかった。岡田先生は女子を怖がらせて楽しんでいた。プールに入ろうとしたら、雷雨の可能性があるのでプールが閉鎖されてジェットコースターも止まってしまった。やっと動いたと思ったら帰る時間になってしまい、半分しか楽しめなかった。

③ インディアナポリス動物園

動物園を楽しむだけでなく裏側を見せてもらい、動物園の獣医師の仕事について話を聞くことができた。

④ 先生方のお宅

Dr. Scott-Moncrieff と Dr. Thompson がお宅に招いてくれた。Dr. Scott-Moncrieff は夕食を用意してくれて、息子さんのピーターはデザートを作ってくれていた。Dr. Thompson 宅には夕食後に伺った。焼きマッシュマロをしたり、ゲームで遊んだ。大学生の息子さんはスポーツ万能で卓球をしたりバスケの動画を見せてもらった。娘さんはダンスが好きで一緒にダンスゲームをした。

⑤ 新入生歓迎会

ちょうど新入生歓迎会を行う時期だったので、参加させてもらった。色々な料理が用意されていて、それを食べながら2年生が作った学科紹介ビデオやパフォーマンスを見た。先生イジリやブラックジョークが利いていて、日本人からすると笑えないようなネタもあった。

⑥ バー

現地の学生生活について知りたいと言ったら、何人かの学生がバーに連れて行っ

てくれた。ネオンカクタスという店で、盛り上がってくるとみんなダンスフロアに行き踊っていた。アメリカ人だなんて思った。

⑦ 外食

1週目にいろいろ食べ歩いた。Dr. Inoue 方に連れて行ってもらったお店も美味しかったが、一番美味しかったのは Irish-Nine-brothers というダウンタウンを下ったところにある店で味もサービスもよかった。

⑧ その他

自分たちで料理をしたり、夕飯の後でサッカーやバレーやバスケットをしたり、日曜日にコミュニティーセンターというところで卓球をするなど、イベント以外でも楽しいことはたくさんあった。

【帰国】

スーツケースが小さかったので、お土産を詰めるのに苦労した。もともと、少なめにしていたが、本当はもう少し買いたかった。道中はトラブルもなく、成田空港に到着した。そのあとは、東京駅に向かう人が多く、自分は一度実家に戻るために成田空港でみんなと別れた。

【総括】

自分は基礎系の研究室なので日本の臨床現場でどのようなことが行われているのかわからない。それはこの後のポリクリで習うだろう。その時に日本とアメリカの獣医療の違いが判ると思う。今回見てきて感じたことは、カリキュラムの実践性がアメリカの方が優れていると思う。今回見てきた症例は、ほとんどが習ったものだった。しかし、日本ではアウトプットするトレーニングが少ないと思った。A&I セッションでは自分たちで考

えるトレーニングを行っているし、クリニカルローテーションでは自分たちで考えた治療方針を自分たちの手で実行している。アウトプットするトレーニングである。インプットする内容が同じだとしたら、卒業した時点での能力はアメリカの方が高いと思う。ただ、それをカリキュラムのせいにせずに、意欲的に勉強することが日本の学生に求められていることだと思う。

この2週間の研修の間やそれ以前の準備において、同行教員の岡田先生・一緒に行ったメンバーには大変お世話になりました。ありがとうございました。

【謝辞】

Thank you for everyone who I met in Purdue University, especially Dr. Inoue and Dr. Scott-Moncrieff. I had great time for these two weeks. I learned many things that I can't learn in Japan.

I'm poor at speaking English, but people in Purdue talked to me kindly. I wanted to talk to them more in English.

I've never forget all of you. I hope to see you again.

Jumpei Yasuda

矢野川 祥子

【Clinical Rotation について】

Purdue では、麻酔科、大動物内科、病理、小動物一次診療、大動物往診のローテーションをした。夜間救急にも参加させていただいた。

< Anesthesia >

麻酔科では、麻酔の導入・管理はもちろん、その後の手術や検査も見学できるため、様々な症例を見ることができ、とても勉強になった。

大学病院では軟部と整形の手術日が1日交代で設けられており、診察日も1日交代であるとのことであった。1日の手術件数は約6件で、救急の症例がくると8件くらいになるようだ。猫よりも犬の方の来院数が多く、これはオーナーが犬の方にお金を多くかけるためらしい。

初日の午前中は軟部手術の麻酔を見学した。まず驚いたのはATの多さだった。獣医師やレジデント以上にATが麻酔管理を行っているように見えた。1匹に対し3-4人が役割分担し対応し、前室で導入までを素早く行い、一時、挿管をはずした状態で素早く手術室へ運び、それから麻酔維持を行っていた。対応するスタッフが多いからこそできるのだと思った。私が見学した避妊手術は、術者は獣医学部生1人で、インターン生1人が助手をしながら指導を行っていた。また麻酔においてはATの先生や先輩が、ATの学生の指導をしながら管理をしていた。アメリカではレジデントを含め学生がオーナーのペットの手術をすることができ、担当したペットが退院するまでエサや散歩などの世話はその学生が責任を持って行うということだった。手術室は器具やドレープ、ガウンなどは滅菌されているものの、扉は案外オープンであり、滅菌の考えに対し少し疑問に思ったところもあった。さらに手術中は音楽が流れており、日本とは違ったフランクな雰囲気に驚いた。

午後は大動物の治療のための麻酔を見学した。1週間前に跛行で来院したエルクというシカ科の動物で、事故か何かで蹄に穴が開き、細菌感染し切断せざるを得なくなったよ

うだった。今回は手術後の包帯交換のための麻酔であり、切断部には棒状の抗生物質が挿入されていた。雄は特に貴重で、ブリーディングのためにペットとして飼われているらしい。

手の空いた時間にDr. Inoueに分からない英単語や手術内容、麻酔薬に関することを質問することができたのでより理解が深まった。

2日目は整形外科の手術に関する麻酔を見た。1症例目、膝蓋骨脱臼の犬に関しては、心電図においてP波が見られない、または一定でないなどの症状があったため、それに応じた薬のアトロピンやアチパメゾールも用意されていた。2症例目、骨折治療を行ったが炎症がひどく肢が壊死してしまった子猫の断脚に関しては、ULTRASONIC DOPPLER FLOW DETECTORという、血流音がスピーカーを通して外に聞こえるようになっている器械を用いながら硬膜外麻酔を行っていた。3症例目は神経科から来たコーギーで、後躯麻痺のようであった。ヘルニアなどは認められず、腹部腫瘍を疑い超音波とMRIをするために麻酔を行った。麻酔後、超音波とMRIにもついていくことができた。超音波では膀胱に何かあるかもしれないが他に腫瘍などは認められないとのこと、感染症を疑いガイド下で膀胱穿刺を行い、採取した尿を検査にまわしていた。MRIの時には麻酔管理者が部屋の中に1人、部屋の外に記録係がもう1人いて、ホワイトボードを用いて部屋の窓ガラス越しに麻酔の投与量などを伝え、記入していた。MRIでは副腎に異常があったようだが、歩けなくなったこととは直接関係はないとのことであった。神経科の2人のレジデントが画像を見て話し合った結果、その時点での診断はCaudal lumber myelopathyということであった。

その後、麻酔科の処置室に戻り、脳脊髄液の採取を行った。その結果から **Degenerative myelopathy** と診断したそうだった。最後までそのコーギーに付き添うことはできなかったが、次は遺伝子検査を行う予定だと教えてもらった。4 症例目はアイリッシュ・コッカー・スパニエルの耳の CT をとるための麻酔だった。CT 撮影後、炎症もしくは腫瘍により三半規管が圧迫されているとのことだったので、一部サンプルを取って、微生物・病理検査に出していた。

3 日目は子牛の臍帯ヘルニアの手術の麻酔を見た。麻酔の導入時には、手術室の隅に牛や馬を立たせ、部屋の壁と大きな木の板で動物を挟むようにする。木の板は何人かで動物の方に押すようにして、麻酔が効いてきて倒れる動物を安全に横臥させられるようにしていた。横臥状態で肢 4 本にビニール手袋を履かせ、そこにバンドをかけて、天井から吊り下がったクレーンで吊り上げ、仰臥位にして素早く手術台まで運んでいた。その後心電図をつけ、耳介に動脈血圧を測定するためのカテーテルを設置していた。このような大掛かりな装置がある手術室が何部屋もあり、大動物の手術の多いアメリカならではの施設だった。

小動物では 75 kg のマスチフに麻酔を施した後、内視鏡を用いた胃壁固定と去勢を見ることができた。

< Large Animal Medicine >

内科では毎朝、レジデントや 4 年生が自分の担当の患畜の状態を、先生を含めみんなに伝えるためのラウンドが行われていた。

内科のレジデントの 1 人について患畜を見る予定であったが、急患が来てそちらの方を見せてもらうことになった。2 歳のサラブレッドがオーナーに連れられ来院し、朝から

咳をしているとのことで超音波検査を行ったが、胸水などは見られず、**Cecal impaction** や **Cecal tympany** が疑われていた。胃汁は悪臭がし、白い泡沫が見られ病的な状態であった。緊急手術が決定し、外科の手術室へと移動し麻酔がかけられ開腹手術を行ったが、嵌入や捻転などの異常はみられず、毒素の除去の目的と麻酔による術後の短時間の腸運動停止を考慮し、盲腸から排液のみを行った。通常は大腸から行うのが一般的らしい。このまま閉腹し終了かと思われたが、急に心拍が低下し術中に急死してしまった。血液検査においてリンパ球数が異常に高く、リンパ腫も考えられたが手術で腫瘍は確認できなかったため、馬コロナウイルス感染症やサルモネラ感染症などが原因として考えられていた。この馬は午後に病理解剖されることになったため、お願いして見学させてもらうことにした。病理解剖棟はかなり広く、大動物の他、小型の動物の解剖も同時にできるような解剖台が 3 台ほどあった。私が見学したときには、犬と鶏の解剖も行われていた。解剖の全てを見ることはできなかったが、肺には水腫が見られ、結節のようなものがあった。小腸には多量のフィブリンの析出と出血が見られ、エンテロトキセミアによるものではないかと解剖担当者が話していた。各臓器を分業して採材するのは北里大学と同じであったが、脳の採材方法に驚いた。北里では丁寧な頭蓋をあけ、傷つけないように取りだすが、**Purdue** では頭部は带状の電動のこぎりで縦に 2 等分し、半割された脳を採材していた。後で聞いた話では、脳をもっと詳細にみたい場合は、日本と同じような器械を用いて丁寧にとりだすこともあるようだ。数日後にお願いして完成した病理標本を見ながら解説していただき、腸管において細菌による重度出血などが確認できたが、直接の死因ははっきり

とは分からなかった。

4年生が担当していた馬の神経学的検査を見学することもできた。生徒自身が試験の内容を考え、実際に歩かせたり、反射をみたり、跛行診断を行って馬の状態について考え、先生がそれらをチェックするという形であった。

Purdue ではしつけがうまくいかないなどの理由で手に負えなくなった個人の馬が寄付されることがあり、4年生の授業の一環として、自分の希望した処置を行い、すべて終わった後に安楽死させるということが行われていた。私が見学した時には、鎮静や心電図の取り付け、静脈注射や尿カテーテル、尿検査などの実習後に安楽死処置をしていた。寄付される馬は3週間に1-2頭くらいだそうで、馬の寄付頭数がある程度あるからこそできる実習だと思った。

< Pathology >

Animal Disease Diagnostic Laboratory の中にある病理科でローテーションをさせていただいた。Purdue で鳥類の病理をさせている日本人レジデントのゆうこさんに会うことができた。また UC Davis からの交換実習生とも知り合うことが出来た。Georgia 大学にも2週間ほど行って勉強していたようだ。

午前はセミナーに参加させてもらった。レジデントが面白いと思った症例を発表し、みんなで検討していた。症例は猫の顔面の皮膚でウイルス性ヘルペス疑いのものや犬の乳腺でリンパ系の腫瘍疑いのものなどであった。

午後は病理解剖に参加させてもらった。解剖前に前室で検体の病歴や解剖までの経緯、考えられる感染症などについて、レジデントと生徒との間で話し合いが行われていた。検体は3種類だった。①アルパカ、条虫が寄生しその治療で来院していたが、食欲の低

下がひどくなっただけ。アルパカの解剖は初めてだったので、どの状態が正常なのか分からないこともあったが、かなりの栄養失調のようだった。②ホルスタインの流産胎児。③羊、Dorper 種の流産胎児3頭。②、③の流産胎児についてはその原因解明のため、病理検査目的以外にもウイルス・細菌検査を行うための材料を滅菌操作で採取していた。流産胎児の解剖は初めてだったので、とても興味深かった。解剖手技に関しては、北里とPurdue で手順などに多少の違いはあったものの、大きな違いはなかったように思う。

< Small Animal Community Practice >

一次診療の治療室は2つ並んでおり、その間にはマジックミラーにより診察室からは見えなくなっている部屋があり、学生やレジデントが診察に入らなくてもその部屋の様子を見ることができるようになっていた。

犬猫のワクチン接種や、避妊去勢の術後経過チェックをはじめ、糖尿病など様々な症例があった。一次診療の Dr. Thompson はとても親切で、空き時間があると症例の説明をして下さった。糖尿病の症例の血糖値の推移に関して、Somogyi effect という考えを教えてもらうことができた。ウサギの口腔が腫れ、歯科の問題として治療した症例が印象的であった。暗室で鎮静をかけた後、歯科の処置室に移動し、げっ歯類専用の開口器で口をあけ触診し、FNAを行い、塗抹標本をつくりすぐに Diff-Quick 染色をしていた。顕微鏡で見てみたが特に細胞や細菌がみられることはなく、その時点では原因はよくわからなかったようだった。NSAIDs と抗生物質を処方していた。

健康な猫の検診では、気性が荒く手に負えない状態であったため、すぐに鎮静をかけ落ち着いてから採血と採尿をしていた。すぐに

薬を使って鎮静をかけるのは日本とは違う点であると思った。またガイドなしの膀胱穿刺による採尿は初めて見たので、手際の良さに驚いた。

< Ambulatory >

繁殖学の Dr. Hilton について、アバディーンアンガスの精液採取と精液検査について教えていただいた。アメリカではアバディーンアンガスが種雄として最も多く、有名ならしい。正常精子、異常精子の鑑別について学生と一緒に習った。授業で勉強した内容だったので分かりやすかった。

別日には大動物の往診に連れて行ってもらった。薬学部のアメリカ人実習生（薬学部では人と動物、両方の実習を行うらしい）とテクニシャンと一緒にいった。1つめの農家では5頭くらいの牛の妊娠鑑定を行った。どのあたりに胎児が触れるかなどを教えていただきながら直腸検査をした。また10頭くらいの若い牛に駆虫薬の塗布をし、専用のガンタイプの注射器を使ったイベルメクチンと、BVD・IBR・PI3・BRSV・Leptospiraの混合ワクチンの投与を行い、耳へのインプラント（ホルモン剤）も行っていた。2つ目の農家でも妊娠鑑定を行った。どの農家も顔なじみのようで、先生が頼りにされている感じが伝わってきた。アメリカの実際の農家を見ることができた貴重な体験となった。

< Emergency >

夜に Emergency のローテーションにも参加させてもらった。釣針が頬に刺さってしまった猫が来た。診察の順序としては、まず4年生が1人で診察室入り、オーナーから症状を聞き治療内容を考え、いったん部屋を離れ裏に待機している先生に自分の考えを相談した後、診察室に戻り治療方針についてオー

ナーに説明するという流れだった。その後で猫を預かって、処置室で先生とともに治療をしていた。鎮静をかけ、針を抜きすぐに処置は終わった。前日には銃弾が肢を貫通した犬など患者が多く忙しかったようだが、今日は1症例だけであった。

【A&I Session】

2年生の授業の A&I Session に参加した。アメリカの大学では生徒 7・8 人のグループに先生 1 人がつき、与えられた症例の症状や検査結果を参考に、生徒同士がディスカッションをしながら病気を考察し、次にどの検査をし、どのような結果が得られたら病気が確定でき、どの治療をしていくかなどを話し合う授業がある。先生は基本的に病気について教えることはなく議論するうえでのヒントを出すくらいで、後は生徒の話の聞いている。話し合いで疑問が出た場合はそれぞれ分担して次回までに調べ、配布プリントも用意してくる。内容はとてもおもしろかったが、専門用語が飛び交うようになると付いていくのが難しく、発言するのも難しかった。学生には口頭試問のテストがあるとのことだった。今回は3回このような授業があり、回数を重ねるごとに内容が深まり、症例のレントゲン、心電図を実際に見るなどしてだんだん病気をしぼることができていた。

最後にまとめの授業をしていただいた。概要を復習し、今回の症例であった“血管肉腫”について詳しく教えていただいた。血管肉腫については所属する研究室で以前調べていたこともあり、気になった点を質問でき勉強になった。

【休日のイベント】

< Wolf Park >

オオカミをみることができた。オオカミの

研究や保存を目的とした施設のようにだったが、オオカミたちはとても飼いならされていて、犬のようにじゃれつく様子が印象的だった。

< Indiana beach >

車で1時間くらいのところにある湖に面した遊園地に連れていってもらった。

ジェットコースターや急流すべり、おぼけやしきなどなどみんなでわいわいできて楽しかった。

< Indiana zoo >

動物園の病院内を見学させてもらった。残念ながら停電してしまっていて暗かったが、手術室や大小様々な麻酔器具、レントゲン室（ペンギンのレントゲンを見ることができた）、病理検査室などを回って説明を聞くことが出来た。この動物園は水族館も一緒になっており、魚やサメのプールがあった他、イルカショーも見ることが出来た。また動物園の裏側をみせてもらうこともできた。はじめにセイウチの点眼の仕方などを聞きながら、エサやりをしたり、触らせてもらうことができた。親セイウチはとても大きくすごい迫力だったが、赤ちゃんはかわいかった。次にイルカショーのバックグラウンドに入らせてもらった。プールの間近ですぐ近くにイルカを見ながら説明をしてもらった。その後はゾウを間近で見て、触ることが出来た。ゾウの皮膚を近くで見ることができ、想像していたものと違い驚いた。

< Fair Oaks >

広大な土地にある大規模農場。バスツアーでは牛舎の中にも入ることができ、飼育の様子をみた後、たくさんのカーフハッチの間を通り抜け、最後には円形の大型機械による搾乳現場を見学した。72頭を8分ほどで搾乳できるそう。何千もの牛が搾乳機の前に待機しており、順番が来ると自ら柵に入り、搾

乳が終わると出ていく様子は圧巻だった。また相当な数のホルスタインを飼育しているため毎日何十頭も出産が行われるようで、その様子を訪れた人が見ることができるようになっていた。豚の飼育施設見学ツアーにも参加し、豚舎での妊娠豚の管理、子豚の哺乳の様子や、離乳後の子豚が集団で飼われている部屋などが上から覗けるようになっていった。飼育されている部屋は想像していたものとは異なりとても管理されたきれいなものであった。

【総括・感想】

アメリカでは馬やアルパカがペットとして飼育されていることもあり、Purdueの大動物診療では牛よりも馬が圧倒的に多かった。さらに小動物診療においてもグレイハウンドやゴールデンレトリバー、ボクサーなどの大型犬が多かった。日本では馬や大型犬を見る機会が少なかったため、毎日が驚きの連続で本当に楽しかった。

アメリカの獣医学教育では生徒が主体であり、授業内容を覚えるだけのインプットの勉強ではなく自分で考えそれに基づいた治療を実際に行ってみることができ、アウトプットの機会がたくさんある。そこが日本との大きな違いであるように思う。4年生は3週間ずつ各科のローテーションを順にまわっていくそうだが、ずっとその科にいる研究室生のように思えるほど知識と経験があり、自信にあふれ、担当する患者に対する責任があるように見えた。

この研修で感じたことを忘れず、これからは自分で考えるということを意識的にしながら勉強しようと思った。

【謝辞】

Thank you for everything that everyone in

Purdue has done for us.

This two weeks I spent in Purdue became really precious time to me.

I could meet a lot of people and animals in Purdue!! Everyone was so kind and very welcoming to us. That helped me so much. I could have many experiences that I can't do in Japan.

Not only I learned many technical things in clinical rotation but I really enjoyed events on weekends like shopping, Indiana beach, Indianapolis Zoo, Fair Oaks and so on.

I'd like to say thank you again especially to Dr. Scott-Moncrieff and Dr. Inoue for giving us such a wonderful opportunity to learn and enjoy in the US.

I hope to see everyone again.

Shoko Yanogawa

Purdue 大学夏期研修に同行して
獣医薬理学研究室 岡田宗善

8月24日から2週間、Purdue 大学夏期研修の同行教員として大変貴重な体験をすることができました。今回このような機会を与えてくださった国際交流委員会の皆様に心から感謝申し上げます。また昨年度同行教員の嶋本先生、事前に数多くのアドバイスをいただき本当にありがとうございました。山脇先生をはじめ薬理学研究室の皆様、卒業論文提出前の忙しい時期に研究室を空けご迷惑をお掛けしましたこととお詫び申し上げます。

「同行教員がやるべきこと」というものが明文化されていませんでしたので、その役割を全うできたかどうか私自身には分かりませ

ん。ですので、この報告をもって皆さんに評価していただければと思います。

【移動について】

成田～シカゴ空港までは快適な空の旅でした。シカゴ空港での入国審査は厳しいと聞いていたのですが、審査官に辿り着くまでに時間がかかった以外は審査自体に特に問題はありませんでした（日本語で対応してくれる審査官もいました）。ただ税関申告書を用意していなかった学生は審査官の怒りを買っていましたが。

シカゴでインディアナポリス行きの飛行機に乗り換えた後、Dr. Inoue と Dr. Scott-Moncrieff にインディアナポリス空港から学内の宿泊施設まで送っていただきました。帰りもインディアナポリス空港まで朝早くに Dr. Inoue と Dr. Scott-Moncrieff に送っていただいたのですが、別れを惜しんでいる間に出発ギリギリとなり、空港職員に怒られながらも何とか搭乗することができました。シカゴからはテネシー組と合流し、無事に成田空港に到着し、それぞれが帰路につきました。

以上、特にトラブルもなく無事に移動することができました。ただ一つ提言させていただくと、空港での待ち時間や飛行機の遅延などで乗れなかった時のリスクを考え、シカゴ空港から大学までは高速バスを利用したほうがよいと思います。来年以降はぜひこちらを利用していただきたいです。

【生活について】

滞在先の Purdue village は Teaching hospital まで歩いて 20 分程の大学のアパート街にあり、生活に必要なものはほとんどそろっていました。足りないものはスーパーで買う、もしくは Dr. Inoue にお願いしてそろえていただきました。学生たちもアパートの

設備には満足しているようでした。特に日本から持参しなくても事足りることが多く、来年以降研修に行かれる方は、あらかじめアパートには何があるのか確認しておいた方が良いでしょう。

慣れない共同生活でストレスがたまることによる人間関係の悪化を一番心配しましたが、同行した学生は皆仲が良くその心配は希有に終わりました。食事やレクリエーションなどは基本的に私を含め全員が参加していましたし、とてもまとまりのあるグループでした。これはひとえに学生の皆さんのキャラクターによるところで、私自身は何もする必要がなく、本当に助かりました。

【動物病院での研修について】

病院研修についてですが、毎朝 8 時までに病院に連れていき、診察終了後に一緒に帰ること以外に同行教員として学生の手助けをすることはほとんどありませんでした（休憩中の話し相手にはなりましたが）。研修内容については学生の皆さんが詳細に書いてありますので、そちらを読んでください。私自身は用意していただいた部屋でデスクワークをしていました。学生はあらかじめ希望していたクリニカルローテーションに従って各自研修を行いました。急遽予定が変わることもありましたが、ローテーションの調整を Dr. Inoue と Dr. Scott Moncrieff に尽力していただきました。また診察が無くてもしどこかに何かを求めていけば、必ずあちらのスタッフは丁寧に対応してくださり、何かしらの代替案（授業参加や他科の見学など）を用意してくれたようです。ただ一点だけ私が行ったことは、毎晩全員で報告会をすることでした。それぞれの情報交換になりますし、私自身学生たちが何をやっていたのかを把握する意味もありました。この報告会を通じ、出来る限

り多くのことを学ぼうとする学生の姿勢や熱意を感じることができました。

【プレゼンテーションについて】

学生と私は約 30 分間ずつのセミナーを開催させていただきました。学生はそれぞれの地元紹介や研究室紹介を織り交ぜながら趣向を凝らしたセミナーを行い、向こうの学生の受けも良かったと思います。私は自己紹介、担当する科目、研究などについて発表させてもらいました。学生も私もこのプレゼンテーションを通して英語で伝える力を磨くことができ、とても有意義なプログラムだったと思います。

【A & I について】

興味深いカリキュラムとして Applications and Integrations (A & I) があり、学生たちもその授業に参加させていただきました。この授業では授業開始時に渡される資料を基に実際にあった症例に対し学生がグループ毎に診断し、疾患さらには治療法を明らかにしていきます。Dr. Salisbury に伺ったところ他大学とは異なる Purdue 大学の特徴的な授業だそうで、より実践に即した臨床教育として非常に良いカリキュラムだと思いました。

この A & I ではグループに 1 人ずつ教員がチューターとして配属されているのですが、臨床系の教員以外に基礎系の教員もチューターとなっていたことには驚かされました。はたして私はこのような臨床教育を担当することはできるのだろうかと自分自身の勉強不足を感じずにはいられませんでした。

【Purdue 大学の教育と研究について】

滞在中、様々な先生とのミーティングを設けていただきました。学長の Dr. Reed をはじめ Dr. Arighi、Dr. Salisbury、Dr.

Constable や Dr. HogenEsch にはお忙しい中時間を割いていただき、Purdue 大学の教育や研究についてたくさんの興味深いお話を伺うことができました。

最も印象に残ったのは、Purdue 大学を卒業した学生は雇用主からの評価がとても高く、またこの大学から獣医師を雇いたいと思われている、という話でした。社会的に評価の高い卒業生を輩出することは大学にとって非常に重要なことです。Dr. Salisbury に Purdue 大学のカリキュラムを見せていただいたのですが、4 年生では Equine track, Small animal track や Large animal track など全部で 7 つの track から 1 つを選択し、それぞれの track にある科を 3 週間ずつ 17 箇所廻っていくようになっています。それぞれの科では実際に 4 年生が診察し、手術なども行うそうです。このようなプログラムを経ることで、Purdue 大学の学生は卒業した際には即戦力となることができているのではないのでしょうか。また研究職を見据えた 4 年生には Non-practice track という track もあり、研究者の育成にも力を入れているのだと思いました。

研究に関しては、Purdue 大学獣医学部では主に Infectious Disease, Cancer biology, Neuroscience, Orthopedics and Tissue Engineering そして Shelter Medicine に力を入れているそうです。個人的には同じ心臓の研究を行っている Dr. Constable に彼の研究（心毒性を持つ薬物の心機能への影響）について聞かせていただいたのが印象深いです。また Purdue 大学には Discovery Park と呼ばれる巨大な研究施設があります。私は Bindley Bioscience Center と Birck Nanotechnology Center を見学させていただきましたが、各地から集まった数多くの研究者が研究を行っていました。ここに

は様々な設備、機器がそろっており（特に Nanotechnology の巨大クリーンルームには驚かされました）、さぞや研究が捗るだろうなと思いました。Dr. Ogata に教えていただいたのですが、獣医学部でもこの施設を利用できるらしく（歩いて 15 分くらいのところにあります）、この大学は研究設備に関しても非常に恵まれているなと感じました。来年度以降で研究に興味がある学生は、このような施設を見学させてもらったり、研究について見せてもらっても面白いかもしれません。

【英会話について】

今回研修に参加した学生は、私を含めて英会話が不得手な人の方が多く、Purdue 大学の方々にはご迷惑をお掛けしたと思います。Purdue 大学には Dr. Inoue や Dr. Ogata など日本人のスタッフがいますので、日本語をしゃべる機会が多く、それに甘えていた様な気がします。ただしゃべれないのならしゃべれないなりにもっと英語を使うことが必要だったと思います。“Nothing ventured, nothing gained. (虎穴に入らずんば虎子を得ず)”、間違いを恐れずに積極的に話しかけていくことが英会話上達の近道だということが身にしみて分かりました。同行教員として私自身が学生にそのような姿を見せることができなかったのは今回の研修での一番の反省点です。

【最後に】

Purdue 大学のスタッフ、そして学生の皆様には新学期のお忙しい中親切に対応していただき、心より感謝申し上げます。特に Dr. Inoue 及び Dr. Scott-Moncrieff には平日、休日を問わず研修がスムーズに行くように調整していただき、また我々が楽しめるように様々な趣向でもてなしていただきました。言

葉にはできないくらいに感謝しております。
御自宅に招いていただいた Dr. Thompson、
様々なところで助けていただいた Dr. Ogata
にも感謝の念を禁じ得ません。

今回の研修に参加した皆さん、同行教員の
手をまったく焼かせることなく無事に研修を
終えてくれて本当にありがとうございました。
皆さんと過ごした 2 週間は私にとって非
常に楽しい時間でした。皆さんは日本では体
験できない様々な経験をし、それぞれに感じ
るところがあったでしょう。時間が経つにつ
れて記憶が薄れ、情熱も衰えるかもしれませ
ん。ただ、今回得た経験が多少なりとも皆さ
んの人生に影響を与えるものであったなら、
この研修は実りあるものであったと言えるで
しょう。皆さんの今後のご活躍を期待してい
ます。

Dear all the staff of Purdue University

I really appreciate thoughtful hospitality
you gave us. Everybody took time and
helped us in their busy schedule. I'm glad
that all of the people of this university
kindly listen to our talk and respond
politely, although our English was poor.
The students were allowed to study many
things in this hospital. Through this
experience, I hope that they become good
veterinarians. About myself, I met Dean
Reed, Dr. HogenEsch, Dr. Salisbury, Dr.
Constable and Dr. Arighi, and talk about
university or research. The meetings
were of great value for me. Dr. Thompson
invited us his house and I enjoyed dance.
It was so much fun. Dr. Ogata took me to
the Discovery Park. It was an interesting

experience. Especially I would like to thank
Dr. Scott-Moncrieff and Mr. Inoue. Because
they spent a lot of time to take care of us.
I cannot find words enough to express my
thanks. We are extremely proud of having
this wonderful exchange between Kitasato
University and Purdue University.
Thank you again for everything.

With Best Regards,
Muneyoshi Okada, DVM, Ph.D

Thanks to Dr. Tomo, Dr. Scott-Moncrieff, Dr. Ogata, Dr. Thompson and everyone who I met in Purdue University, I had a great time and experience in Purdue University. I appreciate your many kindnesses. Through this training, I learned about difference between Japan and United States and I was surprised by high consciousness of the student. To become good veterinarian in the future, I want to make an effort everyday and have consciousness like the student of Purdue University. I learned and experienced a lot of things in Purdue University, these things will be my precious memory. I will never forget all things and people who I met in Purdue University.

I hope to see you again. Thank you so much !

Ayaka Arai

Thank you for your help. I enjoyed for 2 weeks at Purdue University. I spent precious time. I had a lot of experience I had never seen. I am not good at speaking English. So I was worried about my English before I visit Purdue. But everyone talked to me with kindness.

I appreciate for everyone I met. Especially, I'm very grateful to Dr. Tomo and Dr. Scott-Moncrieff.

I'll never forgot all things and people I met in this summer. I hope to go there and see you again. Thank you again!!!

Mari Okamoto

I appreciate your kindness and hospitality during our stay in Purdue University, especially Dr. Scott-Moncrieff and Dr. Inoue.

I learned a lot of things that is the way of medical treatment and thinking, difference of culture, etc. I never forget many experiences in Purdue University.

Thank you again.

Keiko Nambayashi

I had a very good time and could meet many people at Purdue University.

I could learn many things which I didn't know and difference between Japanese and American veterinary medicine.

It was very important for me to visit and study there. And I think I have to learn much harder.

I never forget spending time at Purdue University for two weeks.

Thank you very much, and I hope I can see you again.

Kie Matsuoka

Dear everyone in Purdue University

My stay at Purdue University in this summer was a great experience. Thank you so much for your kindness. In this program, I felt the difference between the curriculum of Japan, and received many stimuli.

I appreciate for Dr. Tomo, Dr. Scott-Moncrieff and a lot of professors and

students in Purdue University.

I hope to visit and meet again!! Thank you!!

Takayuki Mizorogi

Thank you for everything!!

It's first time for me to visit to America. So

I was worried about everything at first.

But, thanks to your kindness, I was relieved and had a great time.

I will never forget this significant experiment!!

Best Regards.

Suiri Morioka

Thank you very much for your kindness. I had very worthy experiences for two weeks. I really appreciate the kindness of doctors and students. By the time I visit Purdue University again, I want to be able to speak English well. I deeply regret that I could not eat Dr. Scott-Moncrieff's home cooking and American sickly sweets until I was completely satisfied.

I will never forget everything and anyone!!

I hope to see you again someday!!

Atsushi Morita

Thank you for everyone who I met in Purdue University, especially Dr. Inoue and Dr. Scott-Moncrieff. I had great time for these two weeks. I learned many things

that I can't learn in Japan.

I'm poor at speaking English, but people in Purdue talked to me kindly. I wanted to talk to them more in English.

I've never forget all of you. I hope to see you again.

Jumpei Yasuda

Thank you for everything that everyone in Purdue has done for us.

This two weeks I spent in Purdue became really precious time to me.

I could meet a lot of people and animals in Purdue!! Everyone was so kind and very welcoming to us. That helped me so much. I could have many experiences that I can't do in Japan.

Not only I learned many technical things in clinical rotation but I really enjoyed events on weekends like shopping, Indiana beach, Indianapolis Zoo, Fair Oaks and so on.

I'd like to say thank you again especially to Dr. Scott-Moncrieff and Dr. Inoue for giving us such a wonderful opportunity to learn and enjoy in the US.

I hope to see everyone again.

Shoko Yanogawa

Dear all the staff of Purdue University

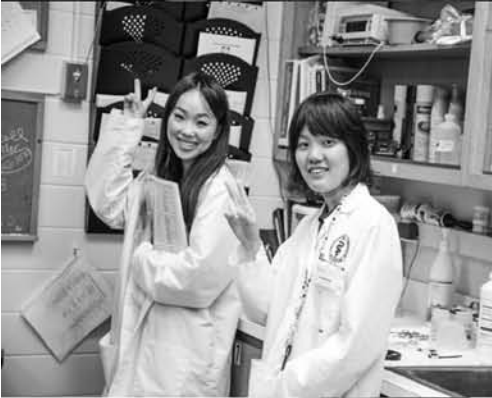
I really appreciate thoughtful hospitality you gave us. Everybody took time and helped us in their busy schedule. I'm glad

that all of the people of this university kindly listen to our talk and respond politely, although our English was poor. The students were allowed to study many things in this hospital. Through this experience, I hope that they become good veterinarians. About myself, I met Dean Reed, Dr. HogenEsch, Dr. Salisbury, Dr. Constable and Dr. Arighi, and talk about university or research. The meetings were of great value for me. Dr. Thompson invited us his house and I enjoyed dance. It was so much fun. Dr. Ogata took me to the Discovery Park. It was an interesting experience. Especially I would like to thank Dr. Scott-Moncrieff and Mr. Inoue. Because they spent a lot of time to take care of us. I cannot find words enough to express my thanks. We are extremely proud of having this wonderful exchange between Kitasato University and Purdue University. Thank you again for everything.

With Best Regards,
Muneyoshi Okada, DVM, Ph.D













The University of Tennessee School of Veterinary Medicine 24 Aug. - 08 Sep. 2013



(左から) Dr. James P. THOMPSON, Atsuko KANO, Makoto HAYASHIDA, Kiyoko KATO,
Yusuke TAKEDA, Keisuke OURA, Takashi OHASHI, Daichi TAMEZANE,
Dr. Shiro KURUSU

参加者一覧

同行教員：久留主 志朗 Dr. Shiro KURUSU

氏名	Name	所属研究室
大浦 慶祐	Keisuke OURA	獣医放射線学
大橋 嵩志	Takashi OHASHI	獣医放射線学
加藤 喜誉湖	Kiyoko KATO	獣医衛生学
狩野 敦子	Atsuko KANO	獣医放射線学
武田 祐典	Yusuke TAKEDA	大動物臨床学
爲實 大地	Daichi TAMEZANE	実験動物学
林田 真琴	Makoto HAYASHIDA	毒性学

大浦 慶祐

小動物内科

内科の中でもグループが①と②に分かれており、それぞれにドクターとレジデントと学生が3人ついて構成されていた。このグループは互いに毎日交代しながら一方は完全予約制の診療を受け付け、もう一方は急患や新規の患者を受け付ける。自分は medicine ①の一員として初日は急患受け入れのグループとして待機する日となり、午前午後共にチームにいる学生3人の担当患者に関する入院の経過、治療方針、処方、診断を添削するようにカンファレンスが合わせて4時間以上行われた。カンファレンス自体はもちろん会話のヒアリングが満足に出来ないのを見ることしか出来なかった。しかしこのような臨床実習の形は日本には存在しないのでとても新鮮だった。

次の日も入院患者の状況報告が朝のラウンドから行われレジデントとドクターへ各々報告が渡った。これに関しても情報共有がとても密で感心できる点である。前の日とは違い今日は予約診療のみで1件の診察に学生とレジデントかドクターが入りこなしていく形となる。会話の理解が難しいとは言え初診から入り一連の流れを見たかったが、担当の学生やレジデントにアポイントメントを頑張ってとったものの既に終わっていることもあり、忙しくされている中に入り込むことがどうにも出来なかった。語学の問題もあると思うが自分の積極的な態度も必要であると強く感じた。

腫瘍科

まずは以前の科と違い部屋の雰囲気に変化が驚き、さらにその専門性の深さやテクニカルアシスタントの多さにもまた同じだった。こ

こは主に腫瘍に対する化学療法や温熱療法、更には放射線治療も別でドクターが存在するのでオーナーのニーズに合わせた治療プランを組むことが可能であるようだ。1日目はすべてリンパ腫の症例の投薬や経過の観察だった。日本では大学病院で肥満細胞腫や扁平上皮癌や移行上皮癌がよく来院するので意外に感じた。日本で放射線科の業務を経験してきたのでテネシー大学での治療の適用やイメージ、薬剤プロトコルが頭に入りやすかった。様々な抗がん剤の説明も少しは理解出来た気がする。北里の放射線科や外科などは総じて治療にオペ適用したり放射線治療を多用するがこちらは綿密にスケジュール計画された化学療法が基本的に第1選択のように思えた。翌日の骨肉腫の症例も含めて担当する学生の治療に対する責任感や勉強量、知識量の豊富さに非常に驚いたり、やはりこの臨床実習のシステムは同じ立場の獣医学生としてとても羨ましかった。しかし採血、留置、縫合といった細かな手技に関してや丁寧さ、正確さ、素早さは日本の学生レベルで見ても引けをとらないものだとも感じた。また、それをカバーする技術と知識の高いテクニシャンの存在の大きさは正直日本はまだ追いついていないのではないかと自分の見てきた数少ない経験だとどうにも感じずにはいられなかった。この科では日頃馴染みのある放射線治療の実際や症例に関して一度も見る事が出来なかったのも唯一残念な部分でもあるが、総じて楽しんで学べた気がした。

神経科

一日のみの見学であり、しかも症例も椎間板ヘルニアのリチェックのみ3件という治療自体が一切無い日であったので研修として収穫があったかは実のところ分からない。しかしドクター、レジデント、学生、短期研修学

生の作る雰囲気がとても柔らかく、英語が不十分な自分でも数多くコミュニケーションを取ってくれたことに大変嬉しかった記憶が強い。診察も午前中に全てリチェックが終わり午後はミーティングルームに集まるように言われた。向かうとなんと日本で言う人生ゲームの様なボードゲームの“Neuropoly”というオリジナルのゲームをやった。これは止まった目の色5種類ごとに神経学に関する臨床的な問題が組まれておりクリアするごとにマス目を進めゴールに向かうというものである。単なる遊びのように思えるが内容自体は研修する学生の教育用に充分使えるものらしく、正誤問題やお題の絵を書いたり真似たりするものは、専門単語を調べながらやればこなすことが出来楽しくプレイする事が出来た。しかし形はゲームだが解説となるとドクターの講義をマンツーマンで受けることが出来、かなり内容の濃い授業のようだった。フランクで上下関係を感じさせない雰囲気の中にもメリハリのある教授の関係にアメリカ独特の雰囲気を感じ面白かった。

馬外科

大動物に関してはアメリカは疎か日本でもオペの見学経験が無かったので今回特に期待をしていた。今回は運動器、整形疾患の診断でもほとんどの見学時間を跛行の検査に費やし、lameness locator という頭部・腰部・患肢にセットしワイヤレスで軌道を把握したり、圧迫負荷をかけることで部位を特定し薬剤の選択を行った。特に驚いたのはトレッドミルやトリートメントルーム、ICU、レームネス検査の施設の充実さや馬自体のアメリカの人との密接な関係性についてだ。もちろん牧場関係者はそうだが個人で運搬トラックを乗り入れて設備の小動物病院並の綺麗さと充実さに愛する家族を預ける様に文化の違いを

感じた。それと同時に馬の獣医学の専門的かつ特異的が故の限られた領域であることも強く感じた。

オペ自体も受け入れから入院、検査にかけて一連の流れを把握でき、跛行による関節鏡を用いた試験的施術を見る事が出来て大動物にまつわる自身の貴重な経験となった。

大動物内科・外科

大動物診療センター内で馬の外科や内科に比べれば規模は多少小さいものの、圧倒的に日本のものより数倍以上ある整った治療入院施設を有する UTCVM は、病院から車で10分ほどの位置に学部附属の農場（チェロキーファーム）も抱えて研究にもその規模の広さが生かされていた。大動物診療科は馬外科、馬内科、大動物内科外科の3つが共同で毎週症例発表やプレゼンテーションを行い教員、研修医、学生が互いの領域への関心や交流を持つ機会がある。その様もまた日本には存在しない教育、研究システムであり、臨床実習の価値を存分に上げている気がした。

ここでは自分が入った時に尿石症のヤギ、寄生虫感染による下顎の浮腫と瀕死寸前の貧血を呈するヤギ2匹、モラキセラによるピンクアイのウシ、臍ヘルニアのウシ、歯根尖膿瘍のラマ、削蹄不良で歩行が難解なウシなどが来た。驚くべきことにこれらの半分以上は家畜ではなく小動物と同じ愛する家族であるということだ。大きな日本の大動物診療との差や違いを、このような文化から感じるのには、やはり今回の研修がなければ知ることが出来なかった。またこのセクションのメンバーは皆全員優しく明るいメンバーでとても良く対応していただけたので、また楽しく過ごすことが出来た。手技自体も削蹄、断角、去勢とメジャーなものから、初めて見たラマのオペで術野の消毒や簡単な器具出しをさせていた

だけたり、知識も伴っていたので今回最後のローテーションにして一番手応えややりがいを感じることが出来幸せな時間を過ごせた。

This study abroad program in University of Tennessee College of Veterinary Medicine is the most precious experience in my life. I found the big difference of student training system.

In Japan, in my university, If someone belong to the laboratory of clinical fields (Large animal and Small animal surgery , internal medicine , radiology), They can study everyday's cases .But someone does not in that laboratory ,They only study their specific fields by the end of student's life. So This summer time really influenced to me and my thoughts. I am really happy to gone UTCVM, met many Dr and nice VET students.

This experience will be useful for my future job and policy about veterinary medicine.

I would like to say My thanks to Dr James P. Thompson DVM, PhD and UTCVM's people. Thank you for everything. I would like to visit UT again if my English ability grown up.

Keisuke Oura

大橋 嵩志

① エキゾチックアニマル

初日はまず、入院管理やローテーションの説明を受け、往診をおこなった。

タカの解剖学では筋注、静注、羽の構造、経口チューブの挿入、羽のバンテージなどをお

こなった。

往診では主に野鳥、カメ、モルモット、モモンガなどがある。

一番多かったのはオウムで爪や嘴のトリミングである。モルモットなどの齧歯類などでは歯のトリミングが多かった。ほとんどの鎮静はイソフルランだけで麻酔をおこなっていた。簡単な去勢、野鳥のレントゲン撮影、ウサギなどの歯の矯正などがこれにあたる。

ほとんどの動物が日本で見られない希少なものが多く、治療風景はとても貴重な体験であった。

雛鳥の給餌を手伝う際に、保定を体験させてもらった。日本では扱わない、触れることがめったにない動物が見られるのでとても良い研修であった。

② 眼科、皮膚科

小動物は眼科、皮膚科合わせて3日研修をした。根本的に違うことは、生徒が実際に往診を行っているということで、基本的に採血、投薬、一部手術も生徒が行っているという、実戦的な訓練がなされていた。ドクターは最終チェックなど、サポートがメインに感じた。診療のメインはほぼ学生がおこなっていた。また学生の意識も高く、知識的な量、技術も高く感じた。

眼科では北里でも学んだ眼底検査、シルマー涙試験、フルオルセイン染色などの知識を使うことができた。私が見た症例は緑内障が多く、ある犬は両目が失明していて、緑内障の痛みにより、元気消失、食欲低下を示していたので、眼球摘出手術が行われた（生徒は横にドクターがいて、メインは生徒が行っていた）

夕方近くになると症例のカンファレンスが行われ、ドクター、レジデントと生徒で知識を高めあっていた。

また私は豚の目を使って、有茎結膜被弁術などの練習に参加させてもらった。

目の手術などは見ることも、実際に練習することもほとんどないので、とても勉強になった。

皮膚科では膿皮症やアトピーの子が診療に訪れていた。外耳鏡を使っての耳の診断も実際に自分で見る事ができた。またメインで右ひじの外傷の子を見たが、一般検査、レントゲン、パンチバイオプシー、バンテージ処理が行われた。皮膚科でも診療が終わったらその日のケースのカンファレンスが眼科と同様に行われていた。

内科診療の中でもあまり学ぶ機会が多くはない分野の科であったので、大変貴重な経験ができた。

③ 馬の内科、外科

私はまだ日本で馬の診療現場に触れてないが、アメリカでは馬が当然のように人に飼われていて、トラックで連れてきて診察が行われている。馬房の規模も大きく、馬のサイズも大きい。(clydesdale など) 馬の診療では疝痛、跛行検査、蹄鉄、日本では珍しいEPM(馬原虫性脳脊髄炎)が来院した。疝痛、下痢を起こしている子の検査では経鼻での内視鏡検査が見られ、胃に寄生していた Fly worm も見られた。またケーススタディでは様々な例の疝痛の例を出し、原因、治療方針、鑑別診断、類症鑑別の話し合いが行われた。また、実習ではエコー及び直腸検査を行った。(直腸検査はやらなかったが) エコーでは小動物とはまた違った大きさの臓器の配置が見られ、プローブを当て目当ての臓器に当てるのは難しかった。だが、とてもいい経験ができたように感じた。大動物の外科では残念ながら自分のローテーションの日程では手術を見ることができなかったが、外科のドクター

の興味深い講義が数回受けることができた。

④ 総括

今回総じて私が感じたことは生徒の臨床に対する意識が高いということだ。様々な生徒がいたが優秀な生徒は往診の効率もよく、手技も優れ、ドクターの質問にも答えていた。

また自分が二週間受けて考えたことはやはり一番は自分の語彙力の無さであった。ある程度の専門用語は覚えていったが実際の会議となるとやはり反応が遅れてしまうことが多々あった。なので、話している内容が、自分が勉強したことがあり、知っている内容でも他の生徒と同じように答えられなく、遅れてから「あーっ」って納得することがあり、悔しく感じるが多かった。

良かった点は、自分の英会話能力は高くなかったが、ジェスチャーや、専門用語を混ぜながら質問すると、コミュニケーションはとることはできたし、充実できた点が多々あった。どんな些細なことでも質問をすれば親身になって返してもらえるし、積極的に保定や自分にできる範囲の手伝いを心がけたら、アメリカの生徒やドクターとも親睦が深まったように感じた。短い期間であったが、初めての海外は私をととても人間的に成長させてくれたように感じた。異文化に触れ、日本とはまた異なる生活を送れたことはとても貴重であった。

⑤ 休日などなど

食事面はどれもボリュームが多く、毎回お腹いっぱいになっていました。大学内の食事は基本的に朝食の残りを持っていきました。アメリカの生徒とも一緒に食べることもできました。他にも往診が終わったときはアイスクリームを食べに連れて行ってくれたりしました。アメリカならではの味付け、ボリューム

はとても楽しめました。

遊び面では休日の三連休では、大学のチームのアメリカンフットボールの試合観戦、ブームスデイ（花火）ラフティングと充実できた。アメフトの試合は生で見るのは初めてで、ルールも完璧にはわからなかったが、とても興奮しました。

ホテル内にもプールやバスケットコートがあり、ホテルの周りにもウォールマートなど買い物する場所もたくさんあったので、生活面でも充実した二週間が送れました。

Acknowledgements

It had a very valuable experience that I was able to learn veterinary medicine this time in Tennessee University.

I had anxiety because this time is first abroad trip, but as a day passes, my uneasiness disappeared and was able to enjoy it very much.

I thank a doctor and a student of the Tennessee University very much.

Because doctors and students answered my question in plain English and explained it carefully, I was able to learn a lot.

And I want to understand English, I try to study English more.

Finally, thank you so much everybody.

Takashi Ohashi

加藤 貴誉湖

1日目 8月24日 土曜日

4:30の始発で実家から成田へ。8:30集合だったけど40分ぐらい前に着いてしまい、

空港でぼーっとして過ごした。チケット発券してからまた1時間ぐらいぼーっとして搭乗。機内は本当に寒くて必ず上着は必要だと思った。映画2本とドラマ1本観てあとは寝て、ワシントンに到着。空港で待っているとき、ババ抜きを皆でしていたら初対面のアメリカ人2人が「それやり方教えて！」って話しかけてきたので一緒にやった。見ず知らずの東洋人に話しかけてくる度胸にかなり驚いた。ワシントンの空港はあまり大きくなかったけどノックスビル空港はもっと小さかった。トンプソン先生が大きな車で迎えに来てくれて、ホテルへ。近くのエセ日本食屋さん「KABUKI」で夕飯。SUSHIが寿司じゃなくて残念だった。その後ウォールマートという十和ジャミたいなところで水や何やら食料を買い、お酒はそこでは買えなかったので、別の酒屋さんで買って、皆でプチ飲み会をして寝た。海外は初めてどうなるんだろうと思っていたけど、とても熟睡できた！

今日のご飯 昼：機内食（エビ釜飯）

夕：機内食（？の照り焼きとゆかりご飯）

昼：ワシントン空港内（ピザサンドウィッチ）

夕：KABUKI（寿司ロール、海鮮うどん）

2日目 日曜日

朝食はホテルで。先輩方からホテルの料理はなかなかだと聞いていたので、期待していた。実際かなり豪華で、美味しかった！その後はホテルがある Turkey Creek 内を皆で見回った。Turkey Creek 内にはホテルをはじめ、昨日行った Walmart や映画館、洋服屋、レストランなどたくさんのお店があるので、一店一店が大きい。お昼はその中のステーキ屋に行った。やっぱりお肉が大きい！美味

しかった。1日かけて Turkey Creek を回った。途中、為実くんトイレ事件があったりと楽しい買い物だった。ただ、かなり広い敷地を徒歩で移動なのが疲れた。なのでホテルで爆睡した。夕飯は歩いて 30 分ほどのマックに行った。店員さんの話すスピードが早くて理解するのが大変だった。飲み放題なのが嬉しかったが、炭酸などジュースばかりでお茶がなく、皆つらそうだった。ホテルに帰ったら、皆で明日からの予習をした。土曜にトンプソンから渡されたプリントの中で、眼科はかなり量があり、理解するのに時間がかかった。だから、1:00 まで予習してしまった。明日からローテーションについていけるか不安になりつつ爆睡した。

今日のご飯 朝：ホテル

昼：ステーキ、ベイクドポテト

夕：マック（フィレオフィッシュ、クリスピー）

3 日目 月曜日 眼科

いよいよ初めてのローテーション。7:00 にトンプソンが迎えに来てくれて大学へ。始めにトンプソンの学部長室で説明を受けてから、ひとりずつそれぞれの場所へ。オリエンテーションを眼科の学生と受けて、私は Gulmakai と一緒に動くことに。（この子がすごくいい子！）すぐに飼い主と患者が待つ診察室へ 2 人だけで行って、診察して、Dr. にチェックを貰い、今度は Dr. と一緒に診察するというのを 3 件ほど行った。患者は白内障のヨークシャー・テリアや、ぶどう膜炎のボーダーコリー、SARDS のミニチュアダックスなど、前期に習ったものばかりだった。ほとんど何を言っているか分からなくて、休憩が昼の 10 分間しかなかったので疲れてしまい、最後の会議ではついウトウト

してしまった。でも、昨日予習したおかげもあって、専門用語も少しだけ聞き取れたから、初日だったけど割りと楽しかった。また、学生が一人で診察をされていてすごいと思った。

今日のご飯 朝：ベーコン、ポテト、

ベーグル、食パン、
スクランブルエッグ、
ヨーグルト

昼：朝食と同じ＋りんご

夕：ピザ、サラダ

4 日目 火曜日 眼科

昨日ウトウトしてしまったので、今日は気をつけようと心に決めた。今日は診察日じゃなかったため暇だった。午前中に犬の白内障の手術があるというのでスクラブを借りて回った。（手術の見学にはスクラブが必要なので絶対に持って行って下さい）手術は 3 時間ほどかかったが、ずっと椅子に座っていたので疲れは感じなかった。手術中は音楽がかかっている、ミラーボールが光っている中やっていて、すごくやりやすい雰囲気だった。皆ほぼ雑談をしながらオペが進んだ。手術内容は眼科で学んだ通りだったので、とてもわかりやすかった（眼内レンズ）。午後は、昨日に引き続き眼底検査、細隙灯検査、眼圧測定の練習、その後、昨日の診察の復習をやったが、またウトウトしてしまった。またやってしまった。反省しつつ、2 日間ありがたいの気持ちを含めて日本からもってきたお菓子を皆にあげたらとても喜んでいたので良かった。ホテルに帰ると、皆プールに入って楽しそうにしている横で携帯をいじっていました。水着はもっていったほうが良いと思いました。

今日のご飯 朝：パティみたいなお肉、

パン、スクランブルエッグ、ヨーグルト

昼：朝食と同じ

夕:辛いチキン、辛い唐揚げ、
サラダ、ポテトスープ

5日目 水曜日 リハビリテーション

今日からリハビリ。事前に楽しいと聞いていたので楽しみにしながら行った。だが眼科と違い、構ってくれない感じだった。でもやっているのを見るのは楽しかった。トレッドミルやプール、バランスボール、マット、カラーコーンとバーを使った障害物走みたいのもやっていて、本当に人間のリハビリ施設のような空間だった。ただヒトと違って、弱っている方の肢を使って運動を簡単にはしてくれないので、エサを使って立ったり座らせたりしていた。10件以上患者が来ていたが、全て犬で、肢に対してのリハビリだった。途中からやっていることは同じなので少し飽きてしまった。ホテルに帰って爆睡した。

今日のご飯 朝:ソーセージ、ハム、
ホットケーキ、スクランブルエッグ、ヨーグルト
昼:朝食と同じ
夕:ミートボール、パン、
ミートソース、ピクルス、
サラダ

6日目 木曜日 リハビリテーション

今日もリハビリ。朝のトンプソンとの会議で、「症例を覚えよ」との指令が出たので、全症例をできる限りメモすることにした。数えたら今日は12症例あった。後肢の麻痺が多く、たまに前肢のケガのある犬もいた。今日は初めて猫の症例も見た。車イスに乗っている姿がとっても可愛かった。今日でリハビリも最後なので、昨日より皆と積極的に話してみた。1人ポルトガルからの留学生が居たが、とても英語が上手で日本人との差を感じた。お昼は無料のバスに乗って大学の中央へ

行った。大きなアメフト用のスタジアムや外国!という感じのする校舎を通りながら、大きな学食と大学のテネシー **SHOP** に行った。アメフトが大好きなので、グッズショップやスタジアムの大きさに感動した。今日は朝の会議でアメフトのチケットがとれるかもとトンプソンが言っていたので、かなりテンションが上がっていた。そのおかげか、最後までウトウトせずに過ごせた。リハビリの人達もお土産のお菓子をあげたら喜んでた。ホテルで夕食を食べた後、**Turkey Creek** 内のテネシー大学ショップに行き、帽子やお土産を買った。ショップは一店舗まるまる大学カラーのオレンジで、圧巻だった。

今日のご飯 朝:ベーコン、スクランブルエッグ、パン、ヨーグルト
昼:朝食と同じ
夕:ハム×2、チーズ×2、
パン、サラダ

7日目 金曜日 Community Practice

今日はコミュニティープラクティスの日。今まで誰も行ったことがなかったので、どんなことをするか分からずかなり緊張した。行ってみたら、皆音楽がかかると歌い、踊りだしたりして、かなり陽気な人達ばかりでとても楽しかった!午前中は入院患者や来院した患者の身体検査をして異常を調べ、その結果からどんな処置をするか学生が決め、**Dr.** がそれをチェックしていた。(全部で15件ぐらい)午後はお昼を学生皆で食べながら、ワクチネーションについて外部講師が講義をした。その後は前日に録画してあった、患者&飼い主と学生との診察、会話の様子を学生皆で観て、一人ずつについて、その人の改善点などを話し合っていた。とても眠くなってしまったが、大学ではやらないことだったのでかなり興味深かった。やっぱりアメリカ

だと会話することが重要なのだと改めて実感した。今日一日しかなかったけど、とても充実した時間を過ごせてよかった。ホテルに帰ると、金曜日は夕飯が無かったため、Walmart でピザを何枚か買ってピザパーティーを開いた。久留主先生も一緒にとても楽しかった。昨日眼科の Gulmakai に「絶対に食べてね！」と言われたアイスも買って食べたが、すごく美味しかった！ Gulmakai ありがとう！

今日のご飯 朝：パンケーキ、ソーセージ、スクランブルエッグ、マッシュポテト & ミート、ヨーグルト
昼：テイクアウト(ラザニア、ミートソース、サラダ、パン、甘いお茶)
夕：ピザ、ワイン、サラダ、アイス

8 日目 土曜日 Football Game!

今日はローテーションがないので午前中は寝て過ごし、午後は今日のゲームのためのテネシーオレンジグッズを全員で買いに、Turkey Creek の UT 専門店へ行った。店はとても混んでいて、大変だった。お昼はすぐ隣の中国料理屋へ。久しぶりの米や麺に皆感動したが、やはり量が多かった。16 時にはトンプソンが迎えに来てくれてテネシー大キャンパス内の Neyland Stadium へ。かなり大きくて、開幕戦でホームということもありオレンジ一色だった。今日は 9 万人以上入ったらしい。私はアメフトが大好きなので本場アメリカでみれて本当に嬉しかった。本当に！スコアは 30-0 と予想していたが 45-0 とテネシーが圧勝だった。各大学のグッズは豊富だし、スタジアムも大きいし、試合もテレビで放映されるし、カレッジフットボールの規模の大きさを実感した。夜は男子部屋で

お昼の残りやお肉を食べたり、Mr. 大浦と武田くんが誕生日だったので、ケーキでサプライズパーティーをして楽しんだ。

今日のご飯 朝：なし

昼：Thai Pei (中国料理屋)
チャーハン
夕：昼の残り、お肉、ケーキ、ビール

9 日目 9 月 1 日 日曜日 Booms Day

今日も休みなので、19:00 まで買い物を楽しんだ。集中的にお土産を買える日が今日しかなかったため、かなり長時間かけて買い物した。明日のためのラフティング用の靴も買った。夜は Booms Day というお祭りがあるため、トンプソンとご夫人に迎えに来てもらって、大学近くのダウンタウンへ。21:30 から花火だったのでその辺をブラブラしてから花火を見た。かなり大規模で感動した！ノンストップ花火はアメリカならではのんだろうなと思った。夜遅くまで私達の相手をしてくれるトンプソンに只々感謝の言葉しか浮かばない。

今日のご飯 朝：ポテト、ソーセージ、食パン、ヨーグルト
昼：ホットドック
夕：屋台(牛肉を挟んだサンドイッチ)

10 日目 月曜日 ラフティング

10 時にホテルを出て、車で 1 時間半かかる山へラフティング！着替える場所があったが水着を念のため着ていった。同意書を書いて説明を受けて、ライフジャケットとオールを持ってバスに乗った。20 分ほどバスに揺られてスタート地点へ。バスから川が見えていたけど誰か絶対に落ちるんだろうなと感じさせる川だった。加えて事前にトンプソン

から、先週の土日に1人ずつその川で溺れて亡くなった人が居ると聞いていたので、本当に誰か死ぬんじゃないのか…みたいな空気が流れた。ボートに4,5人ずつ乗っていいよスタート！やってみたら本当に楽しかった。途中川で泳いで良いと言われたので皆で泳いだ。暑かったのが気持ち良かった。あつという間に終わってしまっただけ残念だったけど、結局誰も川に落ちると言うハプニングは起こらなかった。それはそれで少し寂しかったけど、トンプソンも久留主先生で楽しかったから良かった！帰りの車ではトンプソンがおいしいクッキーと飲み物をくれた！本当に感謝の言葉しか出てこない。夕飯はホテル近くのイタリア料理屋さんで食べたけど、かなり美味しかった。

今日のご飯 朝：ベーコン、スクランブルエッグ、食パン、ヨーグルト
昼：マック（フィレオフィッシュ）
夕：Olive Garden（イタリア料理）

11日目 火曜日 Farm Animal

大動物週間が始まった。大動物のほうが好きなので楽しみにして行ったら、9時～だというので、図書館で一眠りしてから大動物病院へ。主に牛、豚、ヤギ、羊で、他にラマ、ラクダも診察しているとの事だった。今回はヤギが結石、牛が研究用で調子が悪く、豚が避妊手術のために入院していた。因みにヤギも豚もペットだった。Farm Animalの人達も皆親身に対応してくれて、助かった。往診では大学付属のFarmへ車で行った。研究用の牛から第一胃の内容物をとったり、白帯病の牛の削蹄、治療を行った。削蹄は大体前期に習ったのと同じだったが、保定がワイルド

だった。機械で体を挟んで、回転させて地面と水平にして保定していた。患畜が見終わったので少し早めに切り上げて無料バスに乗り大学中央のVolshopへ。テネシーグッズがたくさんあり、買い物を楽しんだ。ホテルへ帰ってバスケ！皆でフリースロー対決をして盛り上がった。

今日のご飯 朝：マフィン、食パン、パティ、スクランブルエッグ、ヨーグルト
昼：朝食と同じ
夕：タコス、チキン、ピラフ、サラダ

12日目 水曜日 Farm Animal

今日もFarm Animal。昨夜の急患で、新たに豚が来た。どうやらもう年だったためか、回復できずに死んでしまった。オーナーさんがずっと泣いていて、やっぱりペットの豚だから愛し方が全然違うんだなあと感じた。他にも入院していた豚の卵巣除去手術を見学した。途中からだったので詳しくは分からなかったが、中々興味深い手術だった。また、昨日からいたヤギの散歩や、ヤギについての勉強をしたが、あまりに患畜が来なかったので途中度々抜けて、Exoticでトラやリンクスを見たり、Equine Surgeryのリハビリ用のトレッドミルやプールを見学した。今日はほぼずっと豚が麻酔から醒めるのを待っていたため昨日と比べて暇だった。お別れのあいさつを皆にしたら、「また明日も病院の中で会えるねー！」と言われてほっこりした気分になった。ホテルではトンプソンから宿題が出たので、ちゃんと症例をまとめてから熟睡した。金曜にトンプソンに発表するのでそれまでにまとめようと思う。

今日のご飯 朝：パンケーキ、ソーセージ、マッシュポテト & ミー

ト、スクランブルエッグ、
ヨーグルト
昼：朝食と同じ
夕：チキンホットパイ、パン、
コーン、サラダ

13日目 木曜日 Equine Medicine

今日は馬の内科！8時に Large Animal の3人でそれぞれのところに行こうとしたら、もうすでに会議が始まっていて、自己紹介の場が持たなくてあせった。今日は6症例あって、それももちろんペット用の馬だった。馬に触れ合うことは慣れていないのでビクビクしながら近づいていたが、人に慣れている馬は逆に「触って！」という感じで近づいてきてくれたのでとても嬉しかった。牛よりも馬の患者の数が多く驚いた。今日も途中から暇になってしまったので、Farm Animal のところへラマを見に行った。ずっと部屋の中をウロウロして、「うー、うー」って言う姿がとても可愛かった。馬は目や神経、仙痛、蹄の潰瘍など、なかなか症例のバリエーションに富んでいた。ある一頭は馬用のICUに入っていたが、特に問題はないから明日には出られると言っていて良かった。ただICUには感染等の問題があって入れなかったのが残念だった。Dr.にも「今日は暇でごめんね」と言われたぐらい、本当に一日暇だった。

今日のご飯 朝：ベーコン、ポテト、スクランブルエッグ、食パン、ヨーグルト
昼：朝食と同じ
夕：チキンと団子のスープ、パン、ゆでトウモロコシ、サラダ

14日目 金曜日 Exotic&Avian

ずっと楽しみにしていた Exotic ! 最初の

予定では今日は Exotic じゃなかったけど、変更して貰った。主に鳥で、他に野生動物を保護したものの治療や(リス、すずめ、鷹、ブルーバード)、ペットのネズミ、オウム、カメ、チンチラの治療をしていた。どの治療、診察も保定の仕方や投薬量など、明確には決められていないみたいで(参考書は一応あった)、本当にセンスが求められるのだろうなと思った。とにかく珍しい動物ばかりで楽しかった。今日は15時集合だったので皆14時ぐらいに切り上げて、今までお世話になった人達を回って、写真を撮ってお別れの挨拶をした。特に、眼科と Farm の人達は本当に皆優しく写真に対応してくれた。「これからも Face book でつながろうね!」と眼科の Gulmakai に言われたのも嬉しかった。Farm では、Farm に行った3人の名前とメッセージをホワイトボードに書いて、写真を撮ってくれて本当に感動した。名残惜しいけど15時に全員とトンプソンで正式な写真撮影をして、少し早めのディナーへ。日本からのお土産を喜んでくれてよかった。本当にありがとうトンプソン!すぐに荷造りしてちょっとだけ寝た。

今日のご飯 朝：ソーセージ、マッシュポテト & ミート、スクランブルエッグ、パンケーキ、ヨーグルト
昼：朝食と同じ
夕：ステーキ屋(ステーキ & エビ、シナモンアップル、ポテト、レモネード)

15日目 土曜日 & 日曜日

ついに最終日。みんな朝早いので少し寝不足気味だった。今日でいままでお世話になったトンプソンともさようなら。また会えたらいいな。帰りの飛行機はシカゴ乗り換えで、

パデュー組と合流した。シカゴ空港は大きかった。飛行機の中はやっぱ寒かった。でも機内食はまあまあ美味しいし、映画も充実していたからすぐに時間が過ぎた。成田空港に出た瞬間もわっと来て、「ああ、日本に帰って来た」と実感した。ああ、アメリカ研修本当に楽しかった。

今日のご飯 昼：シカゴピザ

夕：機内食

昼：機内食

最後に

今回の研修で私は、自分の獣医学に対する知識の少なさや、アメリカ人獣医学生のレベルの高さ、コミュニケーション能力の高さを感じた。もっと進んでコミュニケーションをとっていかないといけないなあと感じた。また、普段臨床の現場にいないので、臨床ってこんな感じなのだと学べて勉強になった。

初めての海外でどうなるか不安だったが、終始楽しく有意義に過ごせて本当に良かったと思う。この機会を与えてくれた、北里大学、テネシー大学の方々、特に久留主先生とトンプソン先生、一緒に行ったメンバーに感謝したい。

Dear everyone in Tennessee University

Thank you very much for giving us an opportunity to learn a lot of things. I could spend very good time every day. And I was very happy because everyone was very kind to me. I love everyone!

Dear Dr. Thompson

Thank you for taking us to the football game, Booms Day, the airport, rafting and the university every day.

I enjoyed every day in America because

of you. If I can do it, I'll return to UT, and be a student of UT! Thank you for every thing!

Kiyoko Kato

狩野 敦子

○8月24日（土） 出発日

今日は待ちに待ったアメリカ出発の日！準備にドタバタしていて、空港に着いてからやっとアメリカに行く実感が湧いた気がします。荷物を預けて出国して、いざアメリカへ！12時間のフライトを経てワシントンダレス空港へ到着し、ここからノックスビル行きの飛行機を待つため6時間のフリータイム突入。お昼ご飯を食べたり、空港内を散策したり、空港で出会った高校生の留学生とトランプをしているうちにフライトの時間になり、ノックスビルへ到着！学長のトンプソン先生とすぐに合流でき、ホテルまで送ってもらいました。

ホテルに着いたあとは夕食&ホテル周辺の散策。和風レストランに行きお寿司を食べましたが、日本のものとは全く違い、お寿司と違って食べなければおいしかったです（笑）

そのあとは近くのWalMartというイオンみたいなスーパーでミネラルウォーターなどの日常に必要な買い物を少ししてからホテルに帰り、みんなで少しお酒を飲みながら喋ってから寝ました。

○8月25日（日） OFF

今日は朝からみんなでホテル周辺散策をしに出かけました。いろんなお店に入りつつ、昼食はアメリカらしいものを食べたい！ということでステーキハウスに行きました。そこ

にあったハンバーガーとサラダを注文して、ハンバーガーになにを入れるか聞かれたので、全部！と答えたらすごく量が多くなり、かぶりついて食べれるサイズではなくなってしまったのでナイフとフォークを使って食べました。そんな食べ方するのは初めてで、アメリカサイズのハンバーガーに圧倒されました。ギリギリ食べれましたが、ちゃんと量を考えて注文しようと思いました。

昼食を食べた後はパーティグッズのお店に寄りました。お店の中を物色していると、トイレへんからなぜか日本語が・・・爲實くんがトイレに閉じ込められてました！本気の「Help Me」を聞いたのは初めてでした（笑）

昼食後は各々買いたいものを買って、ホテルに戻りました。私はカラフルなランニングシューズを買って大満足！それにしても、普通のホームセンターで当たり前のようにライフルが売ってあったのを見たときは、やっぱりアメリカは銃社会なんだなと実感しました。

夕食は、日本のと比べたいということでマックへ食べに行きました。日本にはないメニューがあったり、飲み物が飲み放題だったり（アメリカのファストフードではどこでもそうですが）、アメリカ仕様になっているんだなと思いました。お腹があまり減っていないのもあって、やっぱり量は多く感じました。

ホテルに帰ってからは女子3人で協力し合って明日行く科の資料を読んだりして予習しました。明日から研修だと思うと緊張！

○8月26日（月）Rehabilitation

研修1日目！朝6時に起き、朝食、準備を済ませると朝7:15くらいにトンプソン先生が迎えに来てくれて、大学に送ってくれました。

テネシー大学に到着して、獣医学部へ！最

初はトンプソン先生の学部長室へ案内され、そこで今日行く科についての確認をしたあと、付属の動物病院へ行き、それぞれ一人ずつ今日行く科に振り分けられていった。病院は大学の一部にも関わらず、外から見るよりずっと広がった！また、迷路みたいで迷いそうだなと思いました。基本的に病院は8時開始だが、**Rehabilitation**は9時開始ということだったので、それまでは図書館で時間を潰した。9時ちょっと前にトンプソン先生が図書館まで迎えに来てくれて、**Rehabilitation**の教室まで案内してくれた。

Rehabilitationでは、新しい患者さんには神経学的検査を行ったあと、その子の状態に合わせてリハビリの内容を組んで、ピーナツ型のバランスボールやランニングマシンのようなものを使ったリハビリや、水中を歩く **Treadmill** という機械を使ったリハビリを行っていた。どれも見たことないことだったのでとても新鮮だった。

他にも、**highmicrowave** を使ったリハビリもあり、患畜のセントバーナードに少し麻酔をかけてエコー検査で使うようなジェルを塗ったあと治したいところである肘突起に当てるとバチバチとすごい音を立てていた。痛そうだな、と思ったが自分の腕にやっもらうと衝撃がくるだけで全然痛くなかった。ただ、骨にあてると痛いそうなので、あのセントバーナードは痛かったのだと思う。

英語については早くて聞き取れないことが多かった。明日も **Rehabilitation** なので、今日よりも質問できるように頑張ろう！

○8月27日（火）Rehabilitation

今日も朝はトンプソン先生に迎えにきてもらい、**Rehabilitation**の部屋に8:00に行ったら火事の警報がなった。いきなり大きな音が鳴ったのでびっくりした。みんな速やかに

移動して、消防車が来るのも早かった。

火事騒動が落ち着いたあと、入院当番を手伝った。Rehabilitation は基本的に患畜は当日に来て当日に帰るので、入院の患畜はあまりいなかった。新患もあまりいなかったが、再診の患畜のメニューのリハビリをしているときにマッサージの仕方、shockwave の使い方などを教えてもらった。昨日 1 日中見ていたおかげでお手伝いくらいはできるようになったので、昨日よりも学生との共同作業が増えて、話す機会が増えて、昨日よりは質問したり話すことができるようになって良かった。

また、昨日も今日もリハビリはほとんど学生がやっていて、先生は学生に経験させてくれる先生だと思った。

帰ったら夕飯を食べてホテルについているプールでみんなで入って遊んだ。テネシーは 21 時くらいになってやっと日が沈むので、時間を忘れて楽しんだ。

部屋に戻ったら明日行く Anesthesiology の予習をしました。麻酔の投与量の計算ができるかとても不安。

○ 8 月 28 日 (水) Anesthesiology

今日は初めてのローテーション。朝 Anesthesia の部屋に入ったら Jessica が温かく迎えてくれて、今日入るオペの説明を丁寧にしてくれた。今日は 4 件のオペが予定にあったが、そのうちの 3 件の麻酔とオペを見学させてもらった。

1 件目は PSS のオペで、シャント血管が見たくてオペ室で見学させてもらったが、Dr がアミロイドリングを装着したあとのシャント血管をオペ室で見学していた学生全員に見せて説明していて、学生にとっても勉強になるなと思った。

2 件目は後肢のマスを取ってドレーンを設

置するオペだったが、麻酔をかける際の気管挿管をするときに保定を手伝った。また、麻酔記録のつけ方を教えてもらったが、今まで付けてきた麻酔記録よりも項目が多く、知らない項目もあり、記録をつける間隔も短かったのでモニターから目が離せなかった。

3 件目は腹部膨満のオペだったが、大きめのゴールデンレトリバーだったうえに重症だったため、麻酔をかけるのにより気を使っていたように思えた。オペ中の麻酔管理も先ほど見た 2 件のオペよりも細かく麻酔濃度を変えたりしていたと思う。

麻酔医は初めて見たが、しっかりと確立されたものなんだなと思った。オペ中の麻酔管理がしっかりしていれば、外科医が安心して手術できる環境になれるのでここまで細分化されているのはより良い医療のためには必要だと感じました。

また、Dr がオペ中に歌ったり、踊ったりしたりすることや、器具出しがいないことや学生がいろいろやっているのには驚いた。でもオペ中の雰囲気は和やかでうらやましく感じた。

ホテルに帰ると女子 3 人はすぐ爆睡してしまいました。ちょっと時差ボケが治っていないような・・・

○ 8 月 29 日 (木) Anesthesiology

Anesthesiology 2 日目。

今日は 2 件のオペの麻酔に入った。麻酔記録の詳しい書き方を教えてもらって、練習用の紙をもらい、一緒になって書いていた。記録をしている間、昨日喋れなかった人と話せたとし、昨日聞けなかった質問も聞けて良かった。

麻酔科は麻酔記録だけでなく心電図を見たり、患畜の心拍数がさがったら独断で薬を投与したり、患畜の術中の体調管理を全て任さ

れているスペシャリストだと感じた。

ホテルに着いて、土曜日のアメフト観戦のためのグッズを買いに買い物へ行った。テネシーグッズはいたるお店においてあり、アディダスとの契約をしている正式なものから、デザインにこだわったグッズまで多く売っていたのでどれを買おうか決めきれなかった。

買い物のあとホテルに戻り、明日の **Ophthalmology** の予習をして寝た。

○ 8 月 30 日 (金) **Ophthalmology**

今日は大学に着くと迎えに来てくれたトンプソン先生も学生もオレンジ色の服やグッズをなにかしら持っていた。オレンジデーと言って、明日のアメフトの試合に備えてテネシー大のイメージカラーのオレンジをつけてきているみたいで、学校全体でアメフトを応援していてサポーターとしての情熱を感じた。

今日行った **Ophthalmology** では、アメリカの大学病院の診察を初めて見たが、日本の大学病院の診察方法とは全く違っていた。

Ophthalmology では、まず学生のみが診察室に入り、実際の患者とオーナーさんに会い、問診、威嚇瞬き反応・対光反射の確認、シルマー涙液検査、フルオロセイン染色、眼圧検査など一通りの検査をしたあと診察室を出て、**Dr** に病状の説明、どういう疾患が疑われるか自分の考えを述べたあと、**Dr** と一緒に診察室へ入り、そこで **Dr** が最終的な診断をオーナーさんに説明する、という流れで診察を行っていた。最終的な診断が下されたあとは学生がカルテを作り、処方する薬などの説明をしにオーナーさんのところへ行き、納得したら署名をもらい、そこで一件分の診察が終わりとなった。

まず、学生が 1 人で診察室に入ってオー

ナーさんと話すこと、学生がカルテを作ること、先生やオーナーさんの質問にスラスラ答えられていたことに驚いた。診察室ではオーナーさんと話しながらもスムーズに検査をこなし、短時間で **Dr** のところへ戻っていて、てきぱきと動いていた。そのおかげで 18 件入っていた予約も、午後 2 時くらいですべて終わり、昼食となった。

昼食を食べ終わると暇になったので眼科の部屋にいと、だんだん眼科の **Dr** や学生が集まってきて、ラウンドという会議が始まった。突然始まったので驚いたが、過去に担当した患者にどういう処置や処方をしたか、経過はどうか、などを学生が発表していた。学生のプレゼンテーション能力や知識の多さには本当に驚き、英語でどういうことを話しているのか全部が聞き取れないことが悔しかった。

夜は、**Walmart** でピザを買ってピザパーティ！日本の L サイズ以上の大きさのピザなのに、9 ドル程度で買えるため、とても経済的！こりゃあ体格良くなるのも納得（笑）結局 9 人で 3 枚のピザとサラダでお腹いっぱい！お酒も飲んで、喋って寝ました。明日はアメフトの試合観戦！

○ 8 月 31 日 (土) **American Foot Ball**

今日は **Off**！久しぶりにゆっくり寝たあと、お昼あたりから夜のアメフトの試合のための T シャツやグッズを買いに行きました。テネシーグッズの置いてあるお店に入るとひとが大勢いて、みんなオレンジの服やグッズを買おうとしてました。オレンジのテネシー T シャツを着てるひとがオレンジのテネシー T シャツを買っていて、アメフトがどれだけ人気かわかった気がします（笑）学校だけでなく、街中でオレンジ色が溢れてました。

夕方にトンプソン先生が迎えに来てくれ

て、試合会場であるテネシー大へ！大学に着くともうオレンジ色ばかりでまぶしかったです（笑）

アメフト会場は、大学が持っているものとは思えないくらい大きくて、本当に驚きました！アメフトの試合は1試合全部は初めて見ましたが、面白かったです！会場の一体感もライブみたいで、特にホームだったのでいい雰囲気でした！

試合からホテルへ帰って 9/1 誕生日のコーチと 9/8 誕生日のたけちゃんのお祝いをみんなでした！サプライズ大成功！砂糖たっぷりのあまーいケーキをプレゼントしました（笑）みんなでちょっと飲んで、朝方まで喋って寝ました。

○ 9 月 1 日（日）Booms Day

今日は Booms Day！朝からランニングに行って、朝食を食べた後、まこっちゃんとたけちゃんとバスケットをして、爽やかな朝を気取りました（笑）そのあと、夜までは予定がなかったのでおみやげを買いに行きました！

夜になってトンプソン先生が奥さんと迎えに来てくれて、会場まで一緒に行ってくれました。会場へ行く前に Down Town を案内してもらいましたが、お祭りムードで、人もたくさんいました。Booms Day には普段の五倍もの人が集まるそうです。

会場に着くと出店も出ていて、見渡す限りの人、人、人！人ごみをかきわけてなんとか花火を見るところまで到着し、ちょっとしたご飯を買ったあと、花火開始！音楽に乗せて大量の花火があがって圧巻でした！時間こそ短かったものの、どんどん上がる花火から目が離せませんでした！

帰りは渋滞でしたが送ってもらってホテル到着！もうアメリカに来てから一週間以上経つと思うと本当に毎日が早い。1日1日大切

にしていかないと、と感じました。明日はラフティング！

○ 9 月 2 日（月）Rafting

今日は Labor Day で学校は休み！ということで、トンプソン先生にラフティングに連れて行ってもらいました！2時間半の長いドライブを経て着いた先はテネシー州の Ocoee. Ocoee?River という川でやりました。

初めてラフティングをやった感想は、とにかく面白い！ボートが激しく揺れたり、途中でボートから降りて川を泳ぐのもとても楽しかったし、暑かったので気持ち良かったです。ガイドさんもノリが良かったので良かったです。そして、川を下っているときに見える広大な自然もとてもきれいでした。

ラフティングからホテルにもどったあとはみんなで近くのイタリアンレストランに食べに行きました。思った以上にしっかりしていたお店だったので焦りましたが、味はとてもおいしかったです。久留主先生にご馳走になりました。ありがとうございました！そのあとは Walmart におみやげとミネラルウォーターなどを買い足しに行きました。もう Walmart も慣れたものです（笑）

明日はずっと楽しみにしていた Exotic Animal。どんなことをしているのかを見れるのが楽しみ！

○ 9 月 3 日（火）Exotic Animal

ついに2週目の研修が始まりました。テネシー大学に行くのがあと4日だと思っとなんだかあっという間な気がします。

今日は Exotic Animal に行きました。患畜は主に鶏やオウムや鷹などの鳥類が多かったのですが、イグアナやトカゲも来ていました。野生動物としてはウサギやリスが来ました。野生動物だと、そのほとんどが外傷により

弱っているところを保護されているので、治療は主に外傷の洗浄や創傷部の保護を行っていました。しかし、車に轢かれたりしてあまりにも重症だと安楽死をしていました。

野生動物の対応には、①治療して自然に戻す、②治療して簡単なリハビリを行う（これのあとに自然に戻すのだと思う）、③治療しても死んでしまう、④安楽死の4つがあるそうです。野生動物は野生で生き抜く力が無いとすぐに捕食者によって食べられてしまうので、治療不可能と思われる子は安楽死を選択されてしまいます。自然に戻しても食べられてしまったり、衰弱して死んでしまったり、もしくは治療しても自然に戻せないよりは安楽死を選択する、ということなのだと思いますが、分かっているけどやはり見ていて辛かったです。

いろいろ考えさせられる一日でした。

○ 9月4日 Exotic Animal

エキゾ 2 日目。

今日は以前北里に講義をしに来てくれたラムジー先生と午前中に Knoxville Zoo まで往診に行き、Andean Condor の健康診断をしました。初めて見ましたが、羽を広げるととにかくでかい！迫力がありました！動物園の説明書きによると、両羽を広げると 12ft(3.6m) くらいだそうです。見た目は首まわりの白いところ以外は真っ黒だったので、大きいカラスみたいでした。

X 線写真を撮り、採血、体重測定を終えたら、動物園を去り、お昼ご飯を食べに連れて行ってくれました。ラムジー先生がアメリカっぽいものを食べさせてくれる、ということでケンタッキー的なところへ連れて行ってくれましたが、量が多く、食べられなかったものは持ち帰りました。

また、同じくらいの量のものを食べていたの

に、女の人も食べるのが早くて、驚きました。

昼食のあとに病院に戻ると、リンクスとトラが来ました。リンクスは大型の猫みたいで、小型のケージに入っていたので麻酔をかけるのはわりとすぐにできました。麻酔をかけられると、リンクスは別室へ連れて行かれて、残念ながら処置を見ることはできませんでした。

トラはトラックの中の檻に入れられていて、目が合うとこっちに向かって吠えてきました。そんなに近くでトラを見たのも、吠えられたのも初めてだったので、怖い、というよりはカッコいい！と思ってしまいました（笑）

Dr が麻酔銃をトラに向かって打ち、ちょっと放置しているとトラに麻酔がかかり、トラを処置室まで運びました。麻酔銃を見たのは初めてで、どんなに大がかりなものかと思っていたのですが、思っていたよりもコンパクトで使いやすそうに見えました。

処置室でトラを診察台に移動し、治療開始。歯が折れてしまったらしく、抜歯をしました。治療の間、ここぞとばかりに触りましたが、さすがネコ科の動物、毛並みはとてもふわふわで、触り心地が良かったです。また、ラムジー先生が気を利かせてくれて、トラの採血をさせてもらいました。頸静脈の血管は太くて、犬や猫の採血よりも牛の採血の方が似ていたように思います。

今日は貴重な体験ができ、忘れられない 1 日となりました。明日は最後のローテーション！

○ 9月5日（木）Oncology

最後のローテーション。朝部屋に着くと、12 件ほどの予定が書き込まれていて、電話がなっては患者を迎えに行く、という忙しい感じでしたが、乗り遅れたため、私はなにを

していいのか分からない状態でした。そのうちに患畜が部屋に連れられてきたので、その子を見てもみることにすると、どうも日本人に飼われている子のようにでした。日本語で育てられているらしく、「Sit」と言っても座らなかったため日本語で座らせてみて！と言われて「おすわり」というとちゃんと座ってくれ、まわりの人に驚かれました。よくしつけられた子でした（笑）

この子をエコーをするというのでついて行ってしてみると、どうやら前よりもお腹の中のマスが大きくなっているとのこと。癌が疑われるようでした。こんな元気に見えるのに、と思っているとすぐに抗がん剤を投与することが決定しました。DTIC(Decarbazine)という薬を4時間CRIで。こんなに長く投与するんだ、と思いましたが、4時間投与し終わると、自力で立てなくなるくらい元気が無くなっていて、こんなに短時間でここまで体調が悪くなるのを初めて見たので驚きました。抗がん剤の投与が体の負担になっているのを目の当たりにし、衝撃でした。

残念ながらこの子をオーナーさんに返す前に帰らなければならなかったのが最後まで見れませんでした。これから抗がん剤の効果が出るといいな・・・

○9月6日（金）Oncology

最終日。今日はいつもより早くあがってトンプソン先生とみんなでご飯に行く予定。昨日は最初失敗したので今日は乗り遅れないようにするために、見たいものを絞ってみました。私は、日本の放射線治療との違いを見かけたので、放射線治療予定の猫につきっきりでした。午前中に放射線を当てる、ということで実際に見てみると、やり方自体は日本とさほど違わなかったように思います。ただし、聞いてみると当てる頻度や量が違って

ました。どうしてそうするのか聞いてみたかったのですが、なんて聞けばいいのか分からず断念。最終日まで英語力に悩まされました。

放射線治療が終わり部屋に戻ると、これからカンファレンスがあるとのこと。お昼ご飯持ち込みで、みんな犬を連れて来ていたりして自由だった。でも、話していることはいたって真面目。最近の症例についての経過や、これからの治療方針を話し合っていた。2～3日に一回くらいこのカンファレンスはやっているようで、こまめに経過を知ったり、処置についての相談や議論ができるのは客観的な意見も聞けていいと思いました。

カンファレンスが終わるとお昼を過ぎていて、帰る時間まであと少し。ちょっと抜け出してお世話になった人にあいさつやお礼をしに行き、写真を撮りに行きました。そうしているうちに帰りの集合時間になり、2週間お世話になったテネシー大にお別れ。今までありがとうございました！

一旦ホテルに戻ってすぐにトンプソン先生とステーキハウスへ！いつ渡そうか迷っていた日本からのお土産をやっと渡せました。早めの夕食を取り、ホテルへ送ってもらって荷造りをして、次の日が朝5時半にロビー集合ということでまこちゃんと喋り続けて夜を明かしました。

○9月7日（土）&8日（日）帰国

朝5時半、ロビー集合。テネシーは朝日が昇るのが遅いので外は真っ暗だった。ちょっと肌寒い中、トンプソン先生が迎えに来てくれて空港へ。この風景もう見れないと思うとさびしくなった。ノックスビル空港到着。時間が結構ギリギリで最後バタバタとしてしまったが、トンプソン先生とお別れをした。本当にお世話になりました、と伝えつつも

だけど伝わっているといいな。

飛行機に乗り、シカゴ空港へ。シカゴからは成田空港へ。飛行機の中では爆睡でした。成田空港から新幹線で十和田へ。あー疲れた！

○研修を終えて

テネシー大学の Dr、学生のみなさま、2週間本当にお世話になりました！私は、日本とアメリカの動物医療の違いについて自分の目で見たかったのでこの研修に参加しました。結果、一部ではありますが日本とアメリカの違いを見ることができ、その上今までできなかったような体験や、今まで知らなかったことを知れてとても有意義なものとなりました。アメリカの良いところを知って、日本の良いところを知って、真似するところはどんどん真似していきたいと思いました。また、テネシー大学の学生の勉強に対する意欲、知識の量、プレゼンテーション能力の高さを近くで見れたのはとてもいい刺激になりました。私もテネシー大学の学生に負けないよう、これから努力していききたいと思います。

Dr of the University of Tennessee, everyone student, I was really taken care of two weeks! I took part in this training because I wanted to see with my own eyes the differences in animal health care in the United States and Japan. Result is a part, but I can see the difference between Japan and the United States, and it was with meaningful very pleased to know and experience, such as could not until now, that I did not know until now on it. I thought I would like to imitate more and more where you know the best of America, to know the best of Japan, to imitate. In

addition, it was seen in the vicinity amount appetite for student studying in the University of Tennessee, the knowledge, the height of the presentation capabilities it is now a very good stimulus. I think that I do not even lose a student of University of Tennessee, I would like to work from now on.

Atsuko Kano

武田 祐典

8月24日(土) 出発

テネシー大学への海外実習出発の日。前日に東京の姉の家に泊まって、そこから成田空港へ。余裕を持って家を出て集合時間ちょうどに空港に到着。そこから出国の手続きをしたが、まともに海外へ行ったことがないため手荷物検査も問題ないとわかっていても内心ドキドキ。午前11時発の飛行機でまずは Washington dc の Dulles 空港までの約12時間のフライトで、さらにそこで6時間足止めを食らってからテネシーの Knoxville まで約1時間のフライト。あまりに長くて気が遠くなりそう。

テネシーの Knoxville 空港に到着し、我々を空港で出迎えてくれたのは Tennessee 大学の学部長である James P Thompson(以下 Dr. トンプソン)。自己紹介をしてから車でホテルへと向かった。

ホテルに着くと、1人ずつ実習に関する冊子を Dr. トンプソンから受け取り、月曜からの送り迎えの時間を確認して別れた。とりあえず部屋に荷物を置いて外に夕飯を食べに行くことになった。部屋は聞いていたとおりすごく広く自炊も可能なキッチン付き。さまざまな道具が食器洗浄機の中にあることに気がつ

いたのはこの2日後。

荷物を置いてロビーに集まりみんなで周りを散策しながら夕飯を食べに出かけた。アメリカに来てそうそう米が食べたくなったので、店名から日本料理と予想した **KABUKI** という店に入ることに。入ってみると正にアメリカの **SUSHI** であった。ご飯とのりが逆に巻かれていたり、チーズが入っていたりスナック菓子の粉末状のものがふりかけてあったりチョコレートでデコレーションされていたり……。とにかく自由!!

KABUKI で軽くお腹を満たしてからみんなで **Wal Mart** へ。日本で言うイオンに近い。ここが本当にデカイ。何から何までビックサイズ。食材、飲み物、お菓子、日用雑貨 etc ……ありとあらゆるものがここで揃う。唯一にして最大の難点がアメリカの証明書がなければお酒を売ってもらえないこと。飲みたいお酒を選んだものの返却。**Wal Mart** でお酒を買うのはあきらめ、近くの酒屋へ行くことに。結局そこでいくつかお酒を購入してみんなで楽しんだ。

みなでお酒を飲みながら飛行機での話やアメリカにきてからの話で盛り上がり、とにかく明日はホテル周辺を散策することに。ホテルのプールやバスケットコートも気になるし、何よりこれからの実習が本当に期待をふくらませた。

8月25日(日) 休日

みんなよりものんびりと朝食を食べてから、ホテルの周辺散策へ。ちなみに朝食はパン、ソーセージ、ポテト、スクランブルエッグ、自作ワッフル、オレンジジュース、コーヒー。ホテルの朝食はローテーションになっており、このメニューに何度も出くわすことになる。周辺散策ではひたすら店を覗いて見ることに。アメリカのいわゆる 100 均である 1

\$ ショップに行ったり靴屋や雑貨屋を覗いたり。店にあるものはやっぱりアメリカンサイズ。大きいものばかりで驚いていた。

ここである事件が起こる。トイレによるためある雑貨屋に入ることにした我々はパーティーグッズを見て盛り上がっていたところ、聞き覚えのある声が聞こえてきた。耳をすませば聞こえてくるのは『……! 林田さ〜ん! **Help me** 〜!!』。何とすぐそばのトイレから助けを求める声が(笑)。これがアメリカ初の事件、『為実トイレ監禁事件』である。みんなで爆笑したのだが、もし自分だったら……同じように叫んだだろう(笑)。まさか知っていても使うことになるとは思ってもいなかったあの『**Help me!!**』をこんなに早く聞くことになるとは想像してなかった。アメリカ …… おそろべし。

昼は念願のステーキを食べることに! メニューから選んだのはもちろんステーキ! バーベキューソースですごく美味しかった。サイドメニューのフライドポテトも塩味がきいていて美味しかった。他の客から宗教の勧誘も受けたが、店員もやさしくとても良かった。

さらに散策しアウトドア系のショップに入ったら普通に銃が並んでいてビックリした! ショットガンやら拳銃やらがズラーっと並んでいるのを見て、銃社会に來たことを改めて感じた。

ホテルに戻ってからすぐにプールへ行ってひと泳ぎ。日差しが強いためすごく気持ちよかったし、備え付けのプールにはジャグジーもあり快適だった。毎日通ってもいいなとひとり思っていた。

夕飯は本場のマクドナルドに行ってみた。日本にはないメニューがあったのでそれを注文し、ドリンクも付けた。一番の驚きはドリンクのサイズもさることながら、ドリンクがお

かわり自由なこと。しかもすべて甘いドリンク。紅茶もかなり甘い。ドクターペッパーを2回ほどおかわりしたがそこでギブアップ。こんな食生活していたらすぐに太ると悟りました。

ホテルに戻ると明日の実習の予習をやることに。最初の2日間は **Anesthesiology** 麻酔科である。麻酔プロトコルの問題を解いたり説明文を読んだりして明日からの実習にそなえてから眠りについた。

8月26日(月) **Anesthesiology** 1日目

6時に起床して朝食。朝食はパン、ベーコン、スクランブルエッグ、コーヒー、オレンジジュース。朝食を昼食用に **BOX** に詰めて持っていくことに。

7時過ぎに **Dr. トンプソン** が迎えに来て大学へと向かった。30分程度で大学に到着し、今日の振り分けを確認した。始めはみんなで移動するが徐々に各科に振り分けられて人が減っていく。自分は2番目に振り分けられた。自己紹介をするもやっぱりあまり話せないし、かなり緊張する。**Anesth** の教授である **Dr. ラルフ** に挨拶してから実習に参加した。今日は学生たちも初めてのローテーションらしく、まずは道具の置き場所、麻酔機の扱い方や使い終わったあとの話を聞いた。その後、大動物小動物それぞれの場合での道具の準備や挿管までの流れを2班に分かれて行なった。これは日本と大差なくかなり理解できたが、会話がまったく聞き取れない。英語が得意でない...むしろ苦手な自分にはネイティブの英語は早すぎて、もはや謎。単語を拾うので精一杯だった。また食事に関してアメリカでは時間があるとき食べ物をつまむのが当たり前らしく、お昼休みの時間が決まっているわけではなかった。それを知らない自分はお昼を食べに行き帰ってきたら誰もいない

という状況に陥った。結局自分がいないことに気づいた学生のひとりが迎えに来てくれて事なきを得た。別の部屋で麻酔薬の分類使い方などに関する講義を受け、診察室に戻ってからは実際に患者でオペを行うための麻酔薬の量と速度の計算をした。教授の元へ行き答え合わせに加えてドクター陣からの補足、さらに各自の質問・議論が始まった。驚いたのは日本と違ってアメリカの学生は先生たちにどんどん質問することだ。わからないことはとにかく質問する。疑問を残さない。そういうスタンスが見て取れた。学習への意欲がすごい。

他にもまだ作業が残っていたのだが時間が来てしまったので、お土産のハイチュウを渡して先に上がらせてもらった。ハイチュウは予想以上にウケが良く、すぐになくなった。

みんなに合流し張り詰めていたものが緩んで、半日ぶりに日本語を話した。やっぱりなれてない英語のなかは疲れるらしい。でもそれ以上に貴重な体験をしていることへのワクワクが自分の中で溢れていた。

ホテルに着くと6時過ぎですぐに夕飯。今日は **PizzaPizzaPizza...and Beer!!** ホテルにはビールサーバーがあるから飲み放題！ビールを堪能したあとはひと休みしてからのプール。急ぎ向かうところにはジャグジーでくつろぐ久留主先生のお姿が。泳いだ後はジャグジーに入って先生と雑談を楽しんだ。

そのあと夜食を買いに **Wal Mart** へ。お菓子を食べながらいっぱい雑談をして、明日に備えて早めに就寝。

8月27日(火) **Anesthesiology** 2日目

朝御飯はパン、スクランブルエッグ、ハンバーグ、ヨーグルト、コーヒー、オレンジジュース。いつもどおりのんびり食べてから気持ちを切り替えていざ大学へ。

Anesth 2 日目の今日はまさかのサイレンから始まった。何だか工事の手違いでセンサーを切り忘れてサイレンが鳴ったらしい。みんなで避難したり消防車が来たりで朝から驚かされた。

今日は昨日と打って変わってオペの見学の連続だった。練習したとおり麻酔の準備、気管チューブの挿管を行なっていく。昨日の準備でわかったのだが、アメリカではバイトブロックを使わないらしい。学生に聞いてみたら、完全に寝かせてから挿管するから必要ないそうだ。それ以外にもオペ時の衛生管理などでは日本に比べるとかなり雑な面が見られ、もしかしたら日本が神経質なのか？と思うくらいだった。サージを借りて帽子とマスクをつけ、それに靴にカバーを被せてオペ室へ移動。オペ中の麻酔の維持やオペを見学した。ここでも驚かされたのが、実際にオペをやるのが学生であるということ。麻酔管理も学生が行い、Dr は本当に難しいところで補助や指導するというものだった。今日のオペは前十字靭帯断裂のオペで TPLO を行なったのだが、ちょうど授業を受けたので実際に TPLO を行なっているのを見ることができてよかった。またワイヤーによる骨折の整復も見ることができた。オペが切りのいい時間に終わりみんなで話していたら、日本好きなドクターや VT の人が日本語を話してくれてなんだかすごく嬉しかった。日本語について色々話して盛り上がった。楽しかったがホテルに戻る時間が来たので、2 日間お世話になった人たちにあいさつをして別れた。

ホテルに戻ると夕飯はスパイシーチキン、チキンナゲット、サラダ ... んでもってビール!! 毎日お酒を飲んでるなあと思いつつビールをおかわり。

食後は日課になったプールへ Go!! 今日はみんなで先輩方が残していった水鉄砲を使って

騒ぎ放題。さんざん遊んで全員爆睡 zzz。

8 月 28 日(水) Neurology 1 日目

朝御飯はパンケーキ、ベーグル、スクランブルエッグ、ソーセージ、ヨーグルト、バナナ、コーヒー。メニューが一周して初日と同じになった。

今日からまた新しい診療科、Neuro での 2 日間が始まる。Dr. トンプソンが部屋に案内してくれた時に、Dr. の先生や VT に対して自分があまり英語を話せないことを説明してくれたおかげで、Neuro にローテーションで来ている学生のマリアが 2 日間世話をしてくれることになった。ここには後肢麻痺を呈している犬が多くいて、診察・投薬時の保定や散歩の補助など患畜の世話をした。すでに Neuro に行ったダッチが暇だったといっていたのだが、今日は病院の診察日らしく 8 件予約が入っており、マリアと一緒に病院内を忙しく歩き回った。話には聞いていたのだが、やはり驚いたのは診察と治療のほとんどを学生がやっているということだ。マリアは慣れた感じで患畜を診察しながらオーナーさんに質問をし、診断するのに必要な情報を聞き出していた。質問もただ症状について聞くのではなく、オーナーさんをリラックスさせるように雑談を交えながら会話して診察をする。一通り話を聞いたら患畜を連れて部屋へと戻り、先ほどの情報を踏まえて本格的な診察に入る。授業でやった神経学的検査で、歩様検査、踏み直り反応や手押し車反応といった姿勢反応。打診槌を用いて膝蓋腱反射の確認、屈曲反射といった脊髄反射試験。眼瞼反射、威嚇瞬き反応、対光反射、綿球落下テストといった脳神経検査。これらを行い診断し、直属の Dr. に学生が自分の考えを伝えて指示を仰ぐ。ここでも驚いたのは、ほぼ 1 人の学生に対して 1 人の Dr. がついている形

が取られていたことだ。Dr. から了解を得たら、今度は Dr. を交えたオーナーさんへの説明に入る。実際に患畜を診察しているため、アメリカの学生は学習意識が非常に高く、作業している姿は学生というより獣医師（仮）という印象を受けた。

一段落ついたとき、入院していたホワイトタイガーが死んだため解剖が行われると聞いて見学させてもらえることになった。Neuro のみんなで見学に行くと既にたくさんの人がいて出直すことに。あとで解剖の人がわざわざ呼びに来てくれてついにホワイトタイガーの解剖を見学！感動したけど元気に走り回っている姿を見たかったな。

あっという間に帰る時間になりハイチュウをプレゼントして帰ることに。ここでもハイチュウが大ウケ！喜んでもらえるのはやっぱり嬉しい。

夕飯はパン、ミートボール、サラダ、それにビール ww。プールで泳いだ後は、またまた Wal Mart に行ってプリングルスの日本にない味とドクターペッパーを購入しお菓子パーティ。太るだろうなあ

8月29日(木) Neurology 2日目

Neuro の2日目。昨日と比べると患畜が少ないが2、3件こなしてから患畜の世話をし、投薬や散歩の手伝いをした。さらにレントゲンやMRIといった画像診断も見学できた。ここではレントゲンを撮る時も麻酔をかけて患畜を紐で撮影台に固定して行なっていた。人が保定する必要がないのは余計な被爆を抑えられていいと思った。動物が動くこともないので、撮影された画像はすごく綺麗だった。椎間板ヘルニアの犬のレントゲンをみると膀胱や腎臓に石ができていたのもわかった。それにかなり太っていた。MRIはカプセル状の巨大なものがあつた。MRIでさらに詳し

く調べ、その犬のオペが3時ごろから始まった。今回はヘミラミネクトミー（片側椎弓切除術）が行われた。このオペも実際に見たことがなかったのでとても勉強になった。執刀はマリアが行い、2人のDr.と麻酔科の人がオペにはいった。2人のDr.のうちDr. ミッシェルはマリアのサポートや指導していたのだが、Dr. トーマスは何かを真剣に作っているようなので覗いてみると、メス刃の袋などでインディアン村を作っていた。できた!! という大きな声でみんなが振り向き、それを見て大爆笑 ww

半側椎弓を切除したところで時間がきたため、名残惜しいが更なる村を作っていた Dr. トーマスに感謝を伝え、まともに別れの挨拶もできないまま帰還することに。とても楽しい2日間だった。

ホテルに帰るといつもどおり夕食後のプールで運動をしてから明日のRehabに備えて資料に目を通す。明日で病院実習の半分が終わると思うとあっという間だなあとしみじみ思いながら就寝。

8月30日(金) Rehabilitation

ずっと興味があつたRehabilitation！残念ながら1日しか予定が取れなかったけど、テネシー大学はリハビリに強いと聞いていたのでどんな設備があるのかワクワクしていた！！

実際にRehabに行ってみると、そこには初めて見る設備ばかりだった。まずはNeuroと同じように患畜の世話や散歩をしてからリハビリメニューをこなしていく。ウォータートレッドミルで歩かせたり、バランスボールやバランスボードの上に乗せて不規則に揺らしたりしてトレーニングした。他にも流れるプールにおもちゃを投げそれを取りに泳がせたり、足が沈むマットの上を歩かせたりパー

を何度もまたがせたりした。さらにマッサージにつかうショックウェーブが置いてあった。さらには動物用酸素カプセルも使われていた。

セバスチャンという跛行しているテリアのボディチェックをして骨の異常を確認し、跛行の回復具合を調べに他の研究室へと出向いた。そこには犬の四肢への負重を数値化するシートや、跛行の様子を記録するカメラが等間隔に並んでいる台があった。最初にシートの上に犬を乗せて負重を見て、次にカメラの前を歩かせたり走らせたりを上手く撮れるまで何度も繰り返した。これは跛行による体の上下の動きを記録し、前回と比較するためである。話によればかなり症状が緩和されてきているらしい。

Rehab の部屋に戻り、今度は別の犬の酸素カプセル治療を見学した。昔にハンカチ王子で話題になった酸素カプセルの犬猫バージョンで、効果は人と同じで治療を受けていたのは左前肢橈骨骨折の犬だった。

また車椅子を使っている犬が部屋中を歩き回っていたので話を伺ったら、そこにあるすべての種類の車椅子を並べて一つ一つ説明してくれた。同じように車椅子を使う犬でも負重している位置が異なるため車椅子の重心を犬に合わせて変えていた。また車椅子のタイヤは人の競技用の車椅子のように地面に対して斜めについており、小回りが効くようになっていた。サイズはもちろん小型犬・中型犬・大型犬のすべてのサイズ揃えてあった。日本では見たことないようなものばかりで本当に刺激になった。このような施設はこれから必要になるだろうと思った。

8月31日(土) 休日

今日でテネシーにきて一週間。あっという間だった。そして今日は何と本場のフットボー

ルを観戦することに！そんなわけで近くのテネシーショップにみんなで行って、テネシーグッズを買うことになった。ここには本当にたくさんのグッズがあり、お土産を買うのにもいいなと思った。自分は上下ともアディダスで揃え、部活でも使えるものを選んだ。それぞれテネシーカラーのオレンジ×ホワイトの服を買い揃え、ホームゲーム観戦に備えました。お昼はその隣にあるアジア系レストランに決め、それぞれチャーハンだったり麺だったり注文した。結構美味しくて、久々にアメリカな食事とは違ったテイストを味わいました。そしてフットボール観戦の前にホテルのフロントでバスケットボールを借り、バスケをして一汗流した。その後 Dr. トンプソンが迎えにきて大学まで行き、大学のスクールバスに乗り込み大学のスタジアムに向かった。スタジアムは想像よりも遥かに大きく、人が大勢いた。今回のゲームでは9万7千人がスタジアムにつめかけ、惜しくも10万には届かなかった。それでも10万近くの人々のほとんどがテネシーカラーのオレンジ&ホワイトに身を包んでいる様は凄まじかった。ホームゲームということも合間って、始まる前から観客はヒートアップし、ゲームが始まれば一つの大きなうねりとなってスタジアムを揺らした。ゲームは終始テネシー大学のペースで次々とタッチダウンを決めて盛り上がった！結果はテネシー大学の圧勝で試合後も熱気に包まれていた。

本場のアメフトが観戦できて楽しかった！

9月1日(日) 休日

今日は Booms Day!! ダウンタウンで夜に南部アメリカ最大の花火が打ち上げられるのを Dr. トンプソンと見に行くことになっていた。そのため午前中は男子で買い物に出かけることにした。そろそろお土産も買わなきゃ

と考えていたのだが、ここでまた事件が起こる。昨日いったテネシーショップへ足を運んでお土産を購入したのはいいが、その帰り道で突然の土砂降りにあった。慶祐は折りたたみ傘を持ってきたのだが、バケツの水をひっくり返したような激しい雨で結局みんなずぶ濡れに。買い物袋が紙だったから紐が切れて大変だった。これから外出するときは折りたたみ傘を携帯することにします。

夕方には雨も止んで無事花火は行われることに。トンプソン夫妻と共に車で花火大会の会場に向かい、ダウンタウンを案内してもらった。打ち上げの時間まで会場ので店をぶらつき集合場所へと戻ると、ついに花火が始まった。自分の真上に打ち上げられる沢山の花火！次から次へと打ち上げられていき、花火と花火の音と歓声に埋め尽くされた！！こんなに大規模な花火を見たことがなく、これが人生で一番大規模な花火大会になった。

ホテルに戻るとみんなが慶祐と僕の誕生日を祝ってくれた！しかもケーキも買ってきてくれて本当にびっくりした！！こんなテキトーな 25 歳でいいのかとも思うけど、まっ... いっか。祝ってもらえて本当に嬉しかった！ありがとう！！

9月2日(月) 休日

今日は朝から車でラフティングへと出かけた。先輩方にもかなり楽しかったと伺っていたのでワクワクしていた。

店に着くとラフティングを行う際の注意事項をビデオでみて、ヘルメットと救命胴衣、オールをもってバスに乗り込んで目的の川へと向かった。向かう途中で何度も川を下る人たちを見つけては盛り上がっていた。

川に到着すると 2 つのグループに分かれてガイドから漕ぎ方のレクチャーを受けた。そしていざ川を下り始めるともおー楽しい！

ボートが揺れて水がかかると冷たくて気持ちいい！！天気恵まれ日差しが強かったからちょうどいい感じ♪何度も何度も急な流れを乗り越えてみんなでギャーギャー騒いでいた！流れが緩やかなところでは川に飛び込んで泳いでとても気持ちよかった。

再び急な流れに差し掛かると、前でボートとボートが激突していた！他にもボートから落ちた人もいて、これはやばいか？と一瞬焦りつつも、楽しすぎて大声で叫びまくっていた！

最後のほうでガイドが「お前たちは最高のクルーだ！！」って言った時はすごく盛り上がった！！楽しい時間はあっという間にすぎて無事に終了。誰も怪我もせず追われた。出来ることならいつかまたやりたいと思った。

9月3日(火) Oncology 1日目

今日から病院実習後半戦！他のみんなは Large Animal の週だけど、自分だけ今週も Small Animal の科をまわる。

Onco の部屋に行くとホワイトボードに今日の予定が並んでおり、何件かはすでに終わっていた。症例をみると多いのは LSA(リンパ腫)で、他にも MCT(肥満細胞腫)、Melanoma(メラノーマ)、TCC(移行上皮癌)などがあった。

部屋では採血や注射をしたり、FNA、FNB、化学療法をやっていた。他の科でもやっていたように、動物を保定したり散歩させたりと世話をしながら見学した。しかしこの日は患者も少なく、学生も時間が空くとカルテの整理をしたりデータをまとめていたりしたので時間を持て余した。部屋の中をいろいろ見たり、Dr. トンプソンとの症例報告会用にカルテを読みあさって過ごした。

あとは腫瘍のマッピングシートを眺めていたら「自由に持って行っていいよ」と言われた

ので他にも何枚かもらうことができた。

Onco は今まで行った科に比べて空き時間があったので、許可を取った上でもっと病院内を散策すればよかったかもしれない。

ホテルに帰ると夕食後はバスケット→プールが新たなパターンとなった。日本にいるときより運動してる かも？

9月4日(水) Oncology 2日目

今日もあまり診察はなく、入院している患者の投薬や散歩といったことを手伝った。さらに LSA のミニチュアシュナウザーの腫瘍マッピングシートを見せてもらい、実際に触らせてもらった。さらに確認した腫瘍一つ一つに FNA を行なってスライドに塗抹し、顕微鏡で観察した。

午前中の作業が終わると、昼食を食べながらのカンファレンスが始まった。今入院している患者を担当している学生から説明があり、手術と化学療法のどちらを選ぶかといったことについて Dr. と一緒に話し合っていた。

時間が空いたら病院内を散策しようと思っていたが手伝いをしていたらそんな暇もなく、そのまま帰る時間に。お土産を渡しつつ Onco のメンバーに挨拶をして帰ってきた。

9月5日(木) Small Animal Medicine 1日目

今日からとうとう実習ラストの科、Small Animal Medicine(SA Med) での実習が始まる。まず最初に VT が道具の場所を丁寧に説明してくれた。SA Med は 2 グループに分かれており、Dr. ストークスのグループに加えてもらった。Dr. が患者を担当する学生の名前を書く欄に僕の名前を書いてくれた時は本当に嬉しかった！ Dr. ストークスはすごく親切で、話すときは聞き取れるようにゆっくりと丁寧に話し、こちらの質問にも根気良く説

明してくれた。

学生たちはみんな何かしらの作業をしていて、そうじゃない人は大抵論文を読んでいた。とにかく学習意欲がすごい。実習が始まってから何度も感じた。

今日は同じグループのボブのあとをついてまわらせてもらった。患者はルーという名前の 13 歳のミックスの猫で、開業獣医師からの紹介で来院し、主訴は便秘と腹部のマス、血小板減少症であった。診察室でオーナーさんと話をして部屋に戻ってからボブはすぐに考えられ得る鑑別診断・検査項目を書き上げていった。アメリカの学生をみていて本当に驚くのは、知識の量とそれに基づく判断の速さだ。自分の中にしっかりとした考えを持っているからこそできるのであり、それがまだできない自分はまだまだ知識も経験も足りないとつくづく思った。

その後放射線科に連絡を取り、まずは前の病院で撮影されたレントゲンを見てもらった。あまりきれいに撮れていないようなので、あらためて撮ることに。確かに胸部のレントゲンの横隔膜付近にマスがみえて、食道裂孔ヘルニアか巨大食道症かと考えていたら、何度か撮影するために動かしていたらマスが消えていた！謎ではあったがやっぱりヘルニアが整復されたと解釈した。それよりも膀胱にある小さな傷を調べるようになった。

ここで少しまとまった時間が取れたので大学のショップに行くことにした。ショップまでは大学内を走っているバスに乗って約 5 分弱。アメフトを観戦したスタジアムのバス停で降りてすぐのところにショップがあった。あまり時間がなかったのでマグカップやタンブラー、そして忘れていけないのがテネシーパーカー！記念にどうしても欲しかったので無事に買えてよかった！

部屋に戻るとちょうど帰る時間になったの

で、お世話になったボブに声をかけてから集合場所に向かった。

明日で病院実習が最後なので、お世話になった科を挨拶してまわり、さらにみんなと写真を撮ろう！！と決意しつつも、ちゃんと言えるか不安になった。でも Wal Mart で買ってきたハムを分厚く切って漫画肉にして焼いて食べたら美味しく、満足したのでとりあえず寝た。

9月6日(金) Small Animal Medicine 2 日目 最終日

今日は病院実習の最終日！まずは SA Med で頑張ってから、お世話になった人たちへ挨拶しに行く予定だ。しかも今までよりも早く終わって Dr. トンプソンとの食事会もあるのでかなりハードスケジュール。とにかく頑張ろう！！と意気込んだもののまさかの風邪をひくという事態。薬を飲んでなんとかかふんばろう。

今朝は診察予定がほとんどなく、昨日と同様に論文を読んでいる人やカルテのデータを整理している人ばかりだった。しかし Dr. ストークスのグループであるニックとボブは僕を気かけ、気さくに話しかけてくれた。ニックとはジブリの話で盛り上がり、ボブとは僕が所属している研究室について話した。ちなみにニックは「千と千尋の神隠し」が好きらしい。

その後 Dr. ストークスのグループでカンファレンスが行われ、そこでの学生と Dr. とのやりとりは勉強になった。学生の質問に対して Dr. が講義をしてくれたり、逆に Dr. が質問をしたりと非常に濃い授業だと思った。

カンファレンスは1時間弱経過したところで終わり、Dr. ストークスに連れられて大学の外へとランチを食べに！車で10分ほどのところにある CHANDLER'S DELI というレ

ストランに連れて行ってくれた。Dr. ストークスのご馳走してくれるそうなので、お言葉に甘えて好きなものを頼んだ。わからないメニューはニックが説明してくれたのでスムーズに決められた。注文したのはバーガー、オクラのフライ、あまーいポテト、ドクターペッパー。ちなみにボブはドクターペッパーが大好きだった。オクラのフライが結構美味しくてびっくりした。ここでもプチ・カンファレンスになり、ボブが論文片手に熱く語っていた。

Dr. ストークスのグループはみんなやさしく、アットホームな雰囲気ですごくよかった。病院に戻ると、他の科にも挨拶するために早めに上がらせてもらった。もちろん暖かく迎えてくれた SA Med のみんなにも感謝の言葉を伝えたり、写真も撮った！2日間本当にありがとう！

それから今まで回った Anesth、Neuro、Rehab、Onco 全ての部屋に行って別れの挨拶をして写真を撮ってきた！会えなかった人もいて残念だったけど、感謝の気持ちを伝えられてよかった。本当にお世話になりました！！

ホテルに戻ってからは、近くのステーキハウスで Dr. トンプソンとの食事会。感謝の気持ちを込めて僕らからのお土産とメッセージカードをプレゼント。下手な英語にも根気よく付き合ってくれたり聞き取れるようにゆっくり話してくれたり、Dr. トンプソンには何から何までお世話になりっぱなしでした。ありがとうございました！！

9月7日(土) 帰国

ノックスビル 7時45分発の便に乗るため、朝の4時30分に起床。まだ風邪気味だがなんとかかなりそう。徹夜したかったけど、体力的に無理だったので断念。さすがに昨日は

プールに入れなかったので、帰り際にプールに手を入れて日課を達成したことに。これでミッションコンプリート！ Dr. トンプソンの車に荷物を積んで空港へと向かう。

いよいよスーツケースを預けて搭乗口へ！というところでまさかの重量オーバー！しかもたったの1Kg！急いで荷物を移し替える羽目になった。綺麗に詰めることができてこんな落とし穴があるなんて！荷物は出来るだけ少なくしていきましょう。必要なものは現地調達できるので。

とうとう Dr. トンプソンとお別れ。感謝の言葉を再び伝え、Dr. トンプソンと別れた。

そこからはひたすら空の旅！シカゴにて残っていた現金を全て使い果たし、思い残すことは何もない！搭乗してからは行きと同じように映画を見たりしてゆっくり過ごした。

日本には9月8日（日）に到着した。成田空港で解散して、今回の実習は終了した。

久留主先生、テネシー組のみんな、お疲れさまでした！

<謝辞>

Dear Dr.Thompson,

I got motivation from many students in UT. I was surprised that they had a strong learning awareness. I made up my mind to work hard to become the veterinarian whom I aim for!

Thank you for your kindness! I'll never forget this experience.

Yours sincerely,

Yusuke Takeda

爲實 大地

8月24日

・出発

朝8時、集合時間より30分早く空港に到着。成田での待ち時間は2時間だったが、各自の両替、手続きを待ったりしていたらちょうどいい時間になりそれほど長い待ち時間だと感じなかった。

ワシントン空港は空調が強く、結構寒かったため僕はパーカーを買った。以後アメリカの各地でパーカーを買うことを決意する。

その後僕は寝ていたが、みんなは空港で出会ったアメリカ人の高校生たちとトランプで遊んでいた。その後も僕はアメリカンJKとの交流はなかった。悲しい。

テネシーの空港に着くと、今後実習中お世話になる Dr. トンプソン（以下トンプソン）が大学のでかいバンで僕らを迎えてくれた。気さくで話しやすく、配慮を忘れないジェントルマンだと出会ってすぐにわかるぐらい優しい人だった。

夜はみんな男子部屋に集まりプチ飲み会。これからの生活についてなど話し合う。僕と委員長はテネシー名産のジャックダニエル（バーボン）を飲みまくっていた。

翌日、僕は二日酔いになった。

8月25日

・ターキークリーク散歩

朝5時、酷い頭痛で起床。今日は日曜。遅く起きた武田くん（以下武田）と大浦くん（以下コーチ）を残し、同部屋で同じく早く起きていた委員長とターキークリーク（滞在地）を1時間散歩することに。2人で頑張ってターキークリーク端近くまで歩く。綺麗な銀行、映画館、飲食店、服飾店などを軽く見て回る。

10時半頃、ホテルに戻りみんなでショッ

ピングに出かける。雑貨、靴、1ドルショップなど手当たりしだい散策。昼食はステーキ。分厚い肉、でかすぎるポテト、偶然出くわしたアメリカ人からの宗教の勧誘。実にアメリカな昼食だった。

この昼食時、買っていた衣類用洗剤が漏れていたことに気づいた事により僕は事件に巻き込まれる。

・トイレ監禁「Help me！」事件

漏れていた洗剤を何とか直し、僕は洗剤まみれになった手を洗うため、近くにあったパーティーグッズショップに立ち寄った。ちょっと大きめのトイレで僕は手を洗い、みんなの元に戻ろうとした。トイレの扉は開かなかった。確認する。鍵は開いている。扉は開かなかった。焦ったね、マジで。

本気で背筋が冷えるのを感じながら僕は壁を叩いた。隣は女子トイレで同じく手を洗っているはずの林田さんと加藤さんがいるはずだ。応答なし。

みんなの声は聞こえていた。みんなが店の外で僕を待っていたら本気でおしまいである。何とかみんなが外に出る前に気づいてもらわないといけない。ようやく「林田さーん！」と僕の根性の叫びが聞こえたらしく、みんなが「えっ、今誰か呼んだ？」と気づき始める。と同時に扉の外から誰かが「Are you OK?」みたいな返事をくれた。僕は感動した。感動して叫んだ台詞が「No! Help me!」だった。

想像してほしい。異国の地でトイレに閉じ込められる恐怖。一度は言ってみたい台詞「Help me!」をマジで使わなくてはいけなときの心境。僕はマジで怖かった。

ちなみに扉は外から簡単に開いた。後に試したところ内側からも取っ手のボタンを押しながらだと開いた。アメリカのトイレには気

をつけよう。

・トイレだけでは終わらない

その後立ち寄ったスポーツショップにはずらりとショーケースに入れられた実銃が売られていた。実弾、実包は棚に置かれていた。さすが銃社会と感心した。

散策を終えホテルに戻った僕は夕食をどうするか決めるため久留主先生に電話する。だが内線のかけ方がわからない。それっぽい事は2種類書かれていたので、一方を試してみた。知らない外人が電話に出た。また焦ったね、マジで。

せっかくだから少し頑張ってみようとして英語で話してみるがまったく伝わらず。危うく救急事態と勘違いされかけるがなんとか否定、さすがに限界を感じたので謝ってから電話を切った。もう一方のかけ方を試したみたところ、久留主先生が電話に出てくれた。僕は感動した。

ちなみにその後ホテルのフロントから電話がかかってくる。何を言ってるのかわかなかったが、最終的に「Is everything OK?」「OK!」と応え事なきを得る。

その後みんなは翌日からの実習にそなえ予習を始めるなか、僕は寝落ちした。

8月26日

・実習初日

朝トンプソンに迎えに来てもらい大学へ。図書館、昼食コーナー、1年生などの紹介を受け、軽いオリエンテーション後1人ずつ診療科に送られる。

僕は2日間神経科からローテーションが始まった。英語がガンガン容赦なく飛んでくる。先輩たちから聞いていたが初日は本当に英語に対する耐性もなくきついということが朝イチでわかった。

神経科の診療は5年前期に受けた神経の授業の内容そのものだった。威嚇瞬き反応、コットンボール、プロプリオセプション、皮筋反射など神経学的検査を行った。

今日の予約は2件だった。だが1件目の患者が来ない。いつまで待っても来ないので訊いてみたところ、オーナーの車が故障したらしく結局来ないことに。

若干の暇をもてあましながら待っていたところ2件目の患者のオーナーが来た。退院だったらしく前述したような検査を行い、オーナーの元へ。驚いたことに僕もついていくことになり、診察室にてオーナーへの説明などを生で見ることができた。

午後、同じくローテーションに入った学生と神経学の講義を一緒に受ける。アメリカの学生は知識が豊富で先生の質問に対しずばずばと答えていく。僕にはとてもできそうにない。この辺、アメリカの学生はかなり頭がよく、ものすごく勉強しているんだろうなと痛感した。

8月27日

・実習2日目

この日は病院に来てすぐ警報がなり病院内がパニック！ になるかと思いきや、みんなのんびりと避難していく。僕も周りにならないながら患者と一緒に待避した。どうやら工事の際、警報を切っていなかったらしい。

今日は診察日ではないため、前日より朝から暇だったところ、眼科に行っていた加藤さんから手術があると聞く。せっかくアメリカに来たのだから手術を見てみたいと思い、神経科・眼科の両先生に交渉し手術を見せてもらうことになった。

スクラブを借り、帽子・シューズカバーをつけ手術室へ。眼科の手術のためか、手術室は特殊なごてごてした機械に囲まれていた。

手術中はミラーボールみたいなものを回し、イルミネーションを点け、音楽を流すアメリカンスタイル。日本のような緊張感はなく、むしろリラックスすることを心がけているようである。

手術は犬の白内障の手術だった。水晶体を切開、吸引し新たに人工的なレンズを挿入する。一度授業で見たことあるような手術で、実際にどのようにして進められていくのかを見学することができた。

午後、神経科でも手術があることを知り見せてもらうことになった。患者は犬で椎間板ヘルニアのヘミラミネクトミーを行うことになっていた。ミラーボールはなかったが、午前の眼科の手術と同じように音楽を鳴らしながらの手術。この手術は術者がレジデント、助手が学生で行われ、そばに先生がいるわけでもない。むしろいるのは僕と麻酔医ぐらいである。このように学生やレジデントなどまだ研修段階の人にガンガン実務を任せ、経験を積ませていく教育体系は純粋にすごいと感じた。

8月28日

・実習3日目

今日から皮膚科。皮膚科は前日までいた神経科と同じ診療室にあるので、やや顔見知り状態から始まった。

最初に行ったのは皮膚病の原因を探る検査。免疫性、感染性などのうちからどれが原因か探る。患者はゴールデンレトリバーで何行・何列にもわたって皮下注射を行った。先生の指示で最終列は各学生が行うことに。最後2・3カ所は僕が行うことになった。ローテーションの学生はみんな皮下注射がうまかったので、僕も大学の実習で鍛えたジャパニーズ皮下注を披露した。深すぎた。「Shallow! Shallow! (浅く! 浅く!)」と

叫ばれたがその時の僕は **Shallow** の意味がわからず（何となく浅くだろうとは思っていたが）パニックっていたところ先生に助けてもらった。

その後も皮膚科の診察は続いたが、患者の数が少なく、やったことはテープやクシでの検査など大学の実習でもおなじみのものだった。日本とは違うなと感じたところは染色、検鏡程度は皮膚科で行ったが詳しくは **cytorogy** へというように分業化がなされていたことである。

午後空いた時間に 1 時間半くらいのラウンドを行った。ラウンドとは各生徒の持つ患者の症例報告会のようなものであり、僕るときはついでにステロイド剤の使用について話し合った。事前にコーチから聞いていたが、ラウンドははっきり言って何を言ってるのかまったくわからない。専門的な内容を英語で深く語られると何もわからないということが身にしまった。

8 月 29 日

・実習 4 日目

今日の最初の患者はミニチュアシュナウザーだった。膿皮症を持っているらしく視診・触診に加えスクラッチ・スライドグラスを使つての生検を行い、染色室で **Diff-Quick** 染色を行った。顕微鏡を使つて調べた結果大量の **Staphyrococcus** が見つかった。またそのミニチュアシュナウザーが肛門を舐めるため肛門腺を絞ってやった。

次に中型ラブラドールの患者が来た。テープ検査、スクラッチ、スライドグラスでの検査、耳垢の検査、**eardram** の検査を行った。皮膚科では似たような作業が多く、作業自体は短い根気強い治療が必要となることが多いと先生は言っていた。

午後は予約もなく、ほとんどやることがな

かった。急患を待っていたがなかなか来ない。夕方頃ローテーションの学生も帰りだし、僕も先生から今日は終わりと言われ早めに実習が終了した。

せっかくなので余った時間は大学探索に当たった。他学部が集まる敷地の中央や大学内の施設も軽く覗いた。大学内はバスが通っているほど広く、比例するように建物も大きい。また施設内はキレイなところが多く、アメリカの総合大学のすごさを間近に見ることができた。

8 月 30 日

・実習 5 日目

この日はエキゾチックアニマル。日本ではあまりメジャーではないが、テネシー大では専門の診療科としてある。野生のピジョン、甲羅が割れた亀等の入院患者に餌を与えることから一日は始まった。他にはモルモットにチンチラ、ウサギなどの患者がいた。

ウサギの診療では体重測定、抜糸、目の観察などを行った。別のウサギでは専用の器具を使い過長歯を調べていた。見ることはなかったが長すぎる歯は削って矯正してやるそうである。

その後偶然にも北里大学に来たことがある **Dr. ラムジー**（以下ラムジー）に出会った。どうやら大動物系の診療室を使っているようで覗いてみたところ、ヒョウが患者として来院していた。

ヒョウは麻酔銃で鎮静をかけた後吸入麻酔に移行し、エコー検査を行った。このとき膀胱を見ているものだと思っていたが、実際には子宮を見ていたらしい。その後手術室へ運ばれた。疾患は子宮蓄膿症、手術は子宮摘出であった。麻酔をかけたヒョウはかなりでかいネコにしか見えず、さすがネコ科と思った。

8月31日

・アメフトアラサー

この日の予定は4時から大学でのアメフト観戦。当初の予定にはなかったのだがこちらの希望を伝えたところトンプソンがなんとかチケットを確保してくれた。

4時、トンプソンに迎えに来てもらい大学内のスタジアムへ。スタジアム内はオレンジ色！ 超満員！ 9万7千人がスタジアム内に収容されていた。(オレンジはテネシーのチームカラー)

みんな初めて生で見るアメフトに大興奮。加藤さん、武田がルールをわかっていたため何が起こったのかわからなかったらすぐ2人に聞けたのも大きかった。

派手な演奏団、豪快なタッチダウン、繊細で精密なパスなどは細かいルールなど知らなくても充分楽しめた。98%くらいがテネシーを応援しているから点が入るたびに異様な熱気に包まれていた。

ホテルに戻ってきたあとはサプライズパーティー。誕生日を迎えたコーチと一週間後に誕生日を迎える武田のためのパーティーである。おめでとう25歳。おめでとう四捨五入でアラサー。

9月1日

・花火と12ドルと5ドル

今日の予定はBooms Day。大規模な花火大会だ。集合は7時だったのでそれまでの時間、ショッピングに出かけた。

実はあと1週間近く滞在予定だが、日程的にゆっくり買い物できるのは今日が最後。わりとがつつり買いこんだ。昼食は気になっていたヌードルショップに入った。適度な量かつおいしい。おそらく実習中で一番まとまな食事だった。

最後に欲しかったヘッドホンを買ってホテル

に戻ろうとしたところ、突然の大雨が降ってきた。男子全員ずぶ濡れになりながらホテルについた。ホテルにつき人心地ついたあと、僕はコーチに借りていたお金を返した。このときまでお金を借りていたことを忘れていた。

僕の残金は12ドルになった。ここから1週間12ドル生活が始まった。

7時、トンプソンがダウントウンへ連れていってくれた。花火までそれなりに時間があるらしく、すこし辺りを回ってみる。ダウントウンは田舎の都会といった感じだったがそれなりにキレイな町並みだった。

昨日に負けないような超満員の中、時間になると大きな花火が打ち上がった。良い場所で見られたおかげで花火が上がるとドンドンと低温が降り注ぐ。20～30分くらい連続で豪快に上げられる花火は大迫力で気おされるくらい美しかった。

ちなみにこのとき買ったチーズ&ステーキというホットドッグもどきが7ドルした。

僕の残金は5ドルになった。ここから1週間5ドル生活が始まった。

9月2日

・ラフティング

今日は祝日でラフティングの予定。朝10時にトンプソンに迎えに来てもらいOcoeeへ向かった。片道2時間ぐらいの長旅だったがさほど疲れることなく到着。ついなら水着に着替えインストラクターから軽い説明を受けバスに乗り込んだ。このバスが意外と長く40～50分くらい山の中を進んでいく。しばらくするとボートを置いてる場所につき、いよいよラフティングが始まった。僕はトンプソン、コーチ、加藤さん、狩野さん、インストラクターと同じボートに乗り込んだ。

気温は高かったが水は冷たい。ひんやりと冷気を感じながらキレイな景観を眺めるのは気持ちよく、意気揚々とオールを漕ぐ。ときに急流を交えながら流れる川は最高にスリリングでもっと激しいのをくれと何度も感じてしまった。途中川の深いところでは、川に飛び込んでいいぞとインストラクターから言われみんな飛び込んでいた。波が回転するように巻いているところでは息を揃えて一気に漕ぎ、さらに回転を加速させるくると回った。行きのバスは長く感じたが、川を下ってみるとあっという間でもっと長い時間やりたかったと感じると同時、最高に面白かったとも感じられた。機会があったら是非もう一度チャレンジしてみたい。

ちなみにこの日一番楽しんでいたのは久留主先生の方である。

9月3日

・実習6日目

今日はフィジカルセラピー&リハビリテーション。ここはテネシー大学でも力を入れている診療科らしく様々な機材が揃っていた。UWTM（アンダーウォータートレッドミル、水中でのランニングマシンみたいなもの）、犬用のプール、酸素カプセルなどまず日本にはなさそうなものも置いていた。他にも室内トレッドミル、ハードル、バランスボールなどを利用して治療を行っていた。最後には Abby という黒ラブラドルの関節にショックウェーブを与える治療をやらせてもらった。

・Charlie

実はこの日僕はほとんど Charlie という犬についていた。Charlie は8歳のアイリッシュセッターで椎間板ヘルニアの手術を受けていたが足が動かなかったようである。呼吸音も

少々おかしかった。老犬でなおかつ椎間板ヘルニアだったせいか歩く気力もなさそうで、各神経系の検査にもあまり反応しない。上半身だけでマットからずり落ちたのを直したり、排尿を手伝ってあげたり、リハビリというよりも介護のような状態が続いていた。

9月4日

・実習7日目

今日は林田さんと一緒にリハビリ科。最初に見たのは Daisy というキャバリアである。タイプⅢの椎間板ヘルニアを患っていたが手術済み。しかし左後肢が弱くリハビリ科に来たようである。右後肢を手で持ち、前肢と左後肢だけの Stand up & Sit down の繰り返し、UWTM で3分歩き・2分休憩を3セット行った。

他には昨日からいた Browndog（名前）のリハビリを行った。16歳の老犬で自ら歩こうとはしない。排泄時には鳴き出し助けを求めるおじいちゃん犬である。なんとか立たせて歩かせるのだけで数十分かけようやく UWTM に運ばれる。溺れないように林田さんが支えてやり、僕は横から見て水中で歩かず浮いて楽したりしないよう監視していた。こちらもしリハビリというより介護状態であり、これからの時代、動物でも高齢化が進んだ場合介護が重要になるのではないかと感じた。

・put to sleep

この日朝から Charlie の姿はなかった。聞いたところによると ICU に移されたらしく、14時頃レーザー治療を行い僕らも ICU へ行ったが、そこで治療は行われなかった。理由を聞いたところ飼い主が put to sleep——安楽死を決めたそう。詳しいことはわからなかったが、肺に疾患を持っており呼吸が苦

しく、これから生きていても歩ける確率が50%、今までどおりの生活は望めない。アメリカでは苦しませないために比較的安楽死を薦められることがあると聞いていたが、その場面に出くわすとは思っていなかった。

非常に悲しい一日だった。

9月5日

・実習8日目

今日は一日だけの **Community Practice**。ここでは主に診察風景を録画し、応対などの向上を学ぶ診療科のようである。また一次診療のようなことも行っていたりと、多岐にわたって働いていた。今日は録画を使つての話し合いはなかった。

朝到着してすぐに栄養学のラウンドがあり、その後からバンバン診察や処置が始まった。人数が多いサービスだったが今日だけで13件の予約があり色々と見ることができた。

始めに見た **Dog Aggressive** という犬を怖がる習性を持つ犬は、ネコの病室に入れられていた。その後2日前に避妊した犬の歩行を観察したり、各種ワクチンをうったり、創傷を持つ犬のバンテージを交換した。検査などでは皮膚科でも行った **ear dram** の検査やスクラッチ、犬糸状虫症の検査などを行った。

午後にはインスリノーマを患っている15歳のポメラニアンを散歩させ、血糖値を測定した。インスリノーマの犬は初めて見たが悪臭、被毛粗剛、振戦、虚弱、起立困難など様々な症状を呈していた。次に左下顎のない黒ラブラドルを見た。下顎に関係しているのかどうかがわからないが、腹部に3つ大きなマスを持っていたので **FNA** を行った。終わり際に来たドーベルマンは不整脈を持っていて他の診療科から多くの人が心音を聞きに来ていた。

とにかく診察数が多く忙しかったが充実し

た実習を行えた一日だった。

9月6日

・実習最終日

今日も一日だけの **Farm animal**。唯一の大動物である。今日は最終日で写真撮影等があったので3時に終わらせなくてはならず、あまり時間がなかった。

最初に尿石を持った子ヤギを見た。膀胱に石があり、**pH** を管理して溶かそうとしていたがうまくいかなかったようで、今日中に外科的処置をすることが決まった。

その後は雄牛の往診に向かった。向かった先は車で10分程度の場所で大学の研究用大動物を買っているセンターのようなところだった。いままで雌牛しか見たことがなかったので、雄牛の大きさには驚かされた。さらに保定の機械がすごかった。シュートから追いやった牛を両サイドから押さえつけ、そのまま台が半回転し、宙にウシを寝かすような形になる優れものだ。すべての蹄に白帯病を持っていて、右後肢に **screw claw** という蹄先がねじれていく病気を持っていた。すべての蹄を削蹄。**screw claw** では下駄のような板を履かせ患部を浮かせた。

病院に戻ってきてからは入院していたラマのマス摘出手術があった。下顎部と膝のマスを摘出する。下顎は電メス、膝は普通のメスで切開を行い各マスを取りだした。どちらも膿瘍であり、どちらも検査に回されるものだと思う。

最後サプライズ気味のお別れをしてもらい本当に嬉しかった。最終日にすごく良い気分実習を終えられたのは本当に幸福だった。

実習後はトンプソンと写真撮影を行い、少し早めのディナーに向かった。お店はステーキショップで最後の最後でアメリカンな食事をまたとることができた。食事をとりながら

トンプソンともいろいろ話すことができ、本当に良い終わり方ができたと感じた。

9月7・8日

・ギリギリ崖の上に行くように

朝5時45分、トンプソンによる最後の朝のお出迎え。初日に来たノックスビルの空港に送ってもらう。お土産でパンパンになった僕のスーツケースは重く、一人だけ追加料金を払って荷物を送ってもらうことになった。搭乗30分前くらいにようやくすべての手続きが終わった。

出国ゲートを抜けると最後のお別れをトンプソンに告げ、シカゴ行きの飛行機に乗った。乗ってすぐ寝たため記憶はまったくない。気がついたらシカゴにいた。シカゴにいたからパーカーを買った。この実習中だけで三着目のパーカー購入である。ワシントンで買ったパーカーを久留主先生に着てもらい一緒に写真が撮れたのでよしとする。

日本までの飛行機は同じエコノミーでも行きよりは広く、時間のつぶし方もわかっていたので快適に過ごせた。

8日昼、日をまたいで日本に到着。荷物を受け取ってみんなと解散。意外とあっさり僕たちの実習は終わった。

帰るまでが実習と思いながら僕は高速バスに乗った。

・謝辞

Thank you everybody in UTCVM!! I had wonderful and great time in every services. All experience in UTCVM is very very valuable for me. A lot of experience stimulates me to be a good veterinarian.

All of Japanese students felt anxious, nervous and timid at first. But most

of people who I met are very kind for Japanese! It's so encouraged us to talk to anybody in English.

Especially Dr. Thompson, I greatly appreciate your kindness. Thank you for every morning, Thank you for every afternoon, Thank you so much for everything you did for us!

I never forget the experience in UTCVM.

I think the things which I saw, which I heard, which I felt— "This is TENNESSEE."

Best regards,

Daichi Tamezane.

林田 真琴

* 8/24 *

日本を出発。機内で映画を4本立て続けにみた。経由地点のワシントンで5時間待ちだったので空港を端から端まで探検し、スターバックスで店員さんと写真を撮った。すごくノリのいい店員さんでした♪待ち時間にトランプをやっていると女の子2人組に話しかけられ、一緒にババ抜きをすることになった。あとからもう一人参加し、教えながらトランプをした。アメリカに来て初のアメリカンとの絡みだったので緊張したがすごく楽しかった。テネシーに着くと Dr. Thompson が迎えに来てくれていた。ホテルはすごくきれいでプールと小さいバスケットコートがあった。初日にはあったが近くに 'KABUKI' という日本食店を見つけそこで夕食をとった。Sushi と書いてあったが巻き寿司で寿司には程遠かったがおいしかった。夜はオールマー

トで買い物をし部屋に帰った。

* 8/25 *

この日は朝から1日中散策。ホテルの近くにお店が多くあったので見て周った。昼ごはんを食べに飲食店に入ったら、知らないおばさんが宗教の勧誘にきた。近くに数組家族連れがいてその中の子供が手を振ってきてかわいかった。その後おもちゃ屋さんに入り、ぶらぶらしていると遠くから「林田さーん！」と聞こえた気がして注意深く聞いてみると「Help me!!」と聞こえ、トイレの近くにいたおばさんが扉をあけると中から為実くんが。よくよく聞いてみると入ったはいいが中からあけられずずっと助けを求めていたとのこと(笑)気付かなくてごめんなさい^^; 夕飯はマクドナルドへ行き、マックがドリンクバーなのに驚きつつご当地の味を楽しんだ。

* 8/26 * Oncology

研修初日。腫瘍学研究室で6症例を見学。主にリンパ腫で、通院による治療途中の患者がほとんどだった。治療は身体検査、血液検査、腫瘍の大きさの測定の後に投薬治療をおこなった。

この日は黒のラブラドル・レトリバーが鼻血を出しながら来た。身体検査で左鼻腔から出血と狭窄、腹部の膨満が見られた。超音波検査で腹部に大きな腫瘍が見られた。この腹部の腫瘍と鼻腔の腫瘍をバイオプシー検査した。この日は入院することになった。

午後は学生それぞれが担当した患者の検査結果やこれからの治療についての会議を行った。

研修が終わってからはみんなで情報交換。ブラックだった人もいたみたいだがみんなそれぞれに楽しんだようだ。

* 8/27 * Oncology

2日目。前日から入院していた黒ラブの検査を見学し、その後6症例ほど前日同様検査、治療を行った。13歳の雑種犬の放射線治療を見学、機械の説明をしてもらった。

この日は午後暇な時間を見つけて病院内や大学をいろいろ見てまわった。すごく広くて若干迷いつついろんなところが見れてよかった。2日目ということもありOncologyの人とも話した。日本に興味がある人もいて嬉しくなった。

* 8/28 * Small Animal Medicine

午前中はICU患者についての会議。午後は入院患者の検査。2症例見学した。1つ目の症例はウィペットで雌、6歳の成犬。全身に腫瘍が転移しており削瘦、可視粘膜の蒼白が見られた。血液検査で白血球の増加が顕著であり、輸液療法を行った。

2つ目の症例は、マルチーズで雌、11歳の老犬。右脚内側からお尻にかけて脱毛、紅斑が見られた。経鼻カテーテルを入れて投薬。午前中の会議は何を言っているのかほとんどわからなくて大変だったが、あちら側もこちらの感じをつかんだのかドクターや学生が気を使っていろいろ話しかけてくれた。診療室にも連れて行ってくれたのでいろいろと見学させてもらった。

夜はみんなでプールに入った。先輩方が残っていてくれた水鉄砲でバトル勃発。

* 8/29 * SA Medicine

2日目。この日は主に学生の診療を見学。診療室でオーナーさんから患者を預かるところから診察までを見させてもらった。まず1症例目はチワワ、雌、14歳、4.7kgでBCS4/5、尿石症治療で来院。白内障も併発。問診を行い、触診、聴診、眼検査を行った。

心音に少しの雑音ありで、X線撮影で尿石が見られた。主に食餌療法を行い、翌日手術により摘出することが決まった。2症例目は黒猫、雄、8歳、4.5kg。X線撮影で胸部に腫瘍が見られた。Cardiologyで心臓の検査も行ったが心臓には大きな変化は見られなかった。この患者も翌日手術による摘出を行うことになった。

この日は大学のスタジアムやショップを見に行った。大学内に街があるみたいでとても賑わっていた。

* 8/30 * Anesthesia

麻酔科で手術の見学をした。まず1症例目はダックスフント、雌、1歳、2.4kg、BCS3/5で門脈体循環シャントと尿石症を併発。胸部から腹部にかけて切開し、まずPSSを結紮して肝バイオペシーし、膀胱を切開し内容物を取り出し内部を生理食塩水で洗浄。2症例目は前日SA Medicineで見た胸部に腫瘍のある黒猫だった。まず麻酔下で腫瘍のバイオペシーを行った。その後、胸部を肋骨正中切開し、電気メスで腫瘍を摘出。肋骨と心臓の間に腫瘍があったため後大静脈の一部が腫瘍に癒着していたため摘出には大変時間がかかった。直径10cmほどの腫瘍が摘出された。3症例目は33kgの大型の雑種犬で、骨肉腫のパンチ生検を麻酔下で行った。右肘に直径5cmほどの骨肉腫が見られ、その中央部を一部生検した。夜はホテルの夕食がなかったため、部屋でピザパーティー。先生も一緒に飲み会をした。1週間終わってなんだか気が抜けた。

* 8/31 *

昼からテネシーショップへ。この日大学でアメフトの試合が行われると聞いて、見に行くことになったのでテネシーカラーのオレンジ

のTシャツとグッズを買って応援をすることにした。スタジアムに行くとホームということもありオレンジ色。試合中は応援歌を歌ったりして一緒に盛り上がった。結果はテネシー大の圧勝。すごく楽しかった。

帰って大浦くん&武田くんのサプライズバースデーパーティーをした。すごく甘そうなホールケーキにイチゴとバナナを乗せてバースデーケーキを作った。

* 9/1 *

朝から女子3人で買い物へ。お土産を大量に購入。この日はBooms dayで夜はお祭りに出かけた。大学近くのダウンタウンで出店もいろいろとあって賑わっていた。出店でホットドッグを買ったが大きくて1つ食べるとおなかいっぱいになった。花火はド派手ですごくきれいだった。20分ほどだったがとても楽しめた。

* 9/2 *

この日は朝からラフティングへ行った。前の週に2人ほど亡くなっていると聞いて少しビビリ気味だった。私は久留主先生、大橋くん、武田くんと同じボートに乗った。今までに見たことないくらい久留主先生が楽しんでいた。実際にすごく楽しかった。激流や渦に突っ込んでいたり、他のボートとぶつかったりして興奮した。来年テネシーに行く人たちにもぜひ体験してもらいたい。

* 9/3 * Community Practice

この日はCPで診療を見学した。主に身体検査や血液検査など一般的な検査を行った。私が見学したのは、3症例。1症例目は子猫で年齢は推定1ヵ月、雄、FeLV/FIVの検査を行った。2症例目は子犬のダックスで雌、4ヵ月齢、4.4kg。机に置いてあったマクドナル

ドのパン、ポテト、BBQソースを食べて膵炎と大腸炎を発症。治療は主に食餌療法で、脱水も起こしていたので輸液も行った。3症例目は茶色の猫、雄、4歳で食欲不振、高熱、貧血、腹水、脱水で心雑音グレード3、ギャロップ音が確認された。心エコーにより心室の肥厚が見られ、腫瘍は確認されなかった。腎臓が肥大しており、結腸の下降が見られた。治療はICUでの集中治療となった。

* 9/4 * Rehabilitation

リハビリは再診が多く、私は主に水中ウォーキングとバランスボールを使った治療を見学した。まず見たのはダックスフント、雄、8歳、3.2kg。T12～T13の椎間板ヘルニアでほぼ回復しており、水量は膝下で20分歩かせた。次にキャバリア・キング・チャールズ・スパニエル、雌、5歳。椎間板ヘルニアにより後肢の麻痺。バランスボールによる起立の補助とSit-to-Standをそれぞれ行い、水中ウォーキングを水量は太腿あたりで3分×3セットを行った。次に雄の老犬の水中ウォーキングの補助を手伝った。一緒に水に入り、犬に補助のロープを付け上から支えた。実際にやると抱えすぎてもいけないし、抱えなさすぎても犬に負担がかかるのでちょうどよく抱える感覚をつかむのに苦労した。

* 9/5 * Exotic Animal

この日は主に鳥類の診断をした。1症例目はボタンインコで鈍感、無気力で来院。身体検査、血液検査、糞便検査をしたが原因はわからなかった。ICUに入れていたがその日の内に亡くなった。次に緑色のコンゴウインコ、雌、15歳で左翼から左腹部、一部右腹部にかけて脱毛、痛みがあった。鳥の身体検査も手伝わせてもらった。治療はオピオイド鎮痛剤であるトラマドールと非ステロイド性消

炎・鎮痛剤のメロキシカムを経口投与し、オーナーさんに返した。その後、鶏の治療を見学。左脚を犬に噛まれ、股関節に大きな穴があった。治療は麻酔下で行われ、気管挿管して壊死部分を切り取り、内部を洗浄してはちみつを縫って濡らしたガーゼを詰めてウェットドレッシング療法を行った。午後は会議で、学生によるプレゼンテーションが行われた。

* 9/6 * Exotic Animal

研修最終日。まずチンチラ、雌、12歳で歯の治療を行った。聴診で心雑音が聴取された。口腔内を綿棒できれいにし、奥歯を歯鑷で削り、整えた。次に野生の仔リスが保護されてきた。リスは尻尾の大きさで年齢を特定すると教えてもらった。主にチェックのみで終わった。その後、右脚を引きずった仔ウサギが来た。採血をして、少し脱水が見られたので輸液した。これで研修のローテーションはすべて終了した。

この日は最終日ということもあり、少し早く切り上げてこの2週間お世話になった人たちに挨拶をして写真を撮ってきた。中にはメールのアドレスを教えてくれる人もいて、今もたまに連絡を取り合っている。いろんな出会いがあってすごく嬉しかった。とても有意義な2週間だった。

Thank you for interesting and exciting days. I really had nice 2 weeks. I came to Japan, and I decide to become a good veterinarian as doctors in University of Tennessee. I saw different culture between Japan and America. So I'll learn both of those good places. If it's possible, I want to go to UT again!

14年ぶりに米国研修の同行の役を果たすことになり、前回とは違う場所ということでテネシー大を選んだ。卒業論文の仕上げの時期に2週間強の時間を取られることは痛い、持ち回りに近い性格の職務上引き受けた。引き受けた以上は学生諸君の研修が意義のあるものになるようサポートし、同時に自身も少しでも得るものがあるよう努めた。

最初に記したいことは、Thompson 学部長への、言葉で言い表すことのできないほどの感謝の念である。昨年までの担当であったBrace教授が退任されたと角田先生から聞き、どうなるのかと出発の数日前まで不安であったが、後任(Kirk教授)が決定されたものの任期には入っていないということで、今回は学部長直々にお世話いただくということであった。実際、到着時の空港出迎えに始まり、平日朝夕のホテル・大学間の送り迎え(片道約20分)、週末3日間のレクリエーション(アメフト観戦、市の花火大会、ラフティング)、空港への送りと搭乗手続きの補助まで、全てにお世話いただいた。国際交流のシステムが組織的になっていないといえはそれまでだが、学部長権限で他の人に任せることは無いのかと思ったりもし、本当に申し訳ないぐらいであった。

続いて、教育について記したい。日本にいれば、セミナー形式のものでない限り、他人の授業を受講することはまず無い。それは授業内容に始まり、スタイル、成績評価なども含め、各教員の信念、哲学による自由に任されており、まあお互いに尊重しあい干渉もないという雰囲気があるからである。この研修同行に際し、臨床に関与していない自分と

しては教育について学べるところがないかと思ひ、なるべく多くの教員による講義を受けた。1年次の生理、免疫、発生学、2年次の薬理、毒性学、そして3年次の循環、呼吸器、繁殖の計8種類の講義を聴講した。講義中、学生は随時、積極的に質問していた。この質疑応答は何よりも優先され、講義の進行が遅れるから休み時間にとというような感覚はない。90名近い講義室の中で自発的に手を上げ、しかも知らないこと、疑問に思っていることを堂々と聞くのは、学会ではごく当たり前だが、普通の講義ではまずないな、と思った。また日本でいうところの実習はあまり無く、これはある意味、教員は楽だなと思ったりもした。クラスは、8割が女性、9割以上が白人という尋常でない雰囲気があり、当初違和感を持った。大学内、ノックスビルの住民も人種構成は同じ様なもので、アメリカの一面を見た思いだった。

続いて、研究について記したい。出発前にWebで学部のFacultyを調べ、近いテーマの研究者がいなかチェックし、脂質関連物質を毒性発現と関係づけて研究しているPTさんをあたっていたが、訪問初日に、既に大学を去っていることを聞かされた。当初は、空き時間があれば投稿論文のリバイスや科研費申請書の作成等を集中してやろうと考えていたがどうしてもよくなり、研修の学生諸君には申し訳ないが、半分夏休み気分になり替えた。メインキャンパスの方に行って、生命科学部門のセミナー情報を調べ、3つを聴講した(1) Neurons. It's complicated. 2) Ethylene signal transduction in plants and cyanobacteria. 3) Preventing the life sciences from becoming dead sciences.)。いずれも普段全く聴講の出来ない題で、時差から来る睡魔と闘いながら、必死に聞いた。

観衆はインド系、中国韓国系のアジア系の割合が増え、今まで自分の慣れ親しんだ自然科学系の世界であった。

研修日程の最終日、獣医学部の建物内の廊下に研究成果の論文別刷が飾っており、全く偶然に心臓血管系の LPA について総説を書いている中国人名を見つけた。この著者にぜひ会ってみたいと思い、運良く通りかかった秘書の Kim さんをお願いし、当の Cui 教授の部屋まで案内してもらった。近くのオフィスにいる同じアジア系の男性教員にも紹介いただき、この中国人夫妻は東工大で 5, 6 年研究経験があることを知った。男性の Xu 教授はとても穏やかで思慮深い面持ちの方で、今時の日本にこのような学究人の雰囲気を感じ出している人はいないのではないかとと思うほどであった。女性の Cui 教授は JBC の editor もやっているということで、とてもアクティブな印象を受けた。お二人に生殖システムにおける LPA の機能について、一月前の相模原でのフォーラムや研究室の 6V 生のプロGRESSリポートで使用した ppt ファイルに、雑誌に投稿中のデータも交えて説明した。夫妻から「もっと早くに滞在が判っていたら、セミナーをお願いしたのに」と言われたことは、光栄でもあり残念でもあった。昼食には香港にある最高級の名店と同じ名前の店に連れていただき、とてもおいしい広東料理を堪能させてもらった。親日的で懐の深さを感じさせる中国人夫妻に最後の最後に巡り合えることができ、ハッピーであった。

最後に、その他、いくつかの雑感を記したい。

○総合大学の自由な雰囲気を実感しに毎日一回はメインキャンパスに通い、辺りを散策したり、歴史ある建物内を不審者と思われないう程度にうろついた。Undergraduate、law

school 他、いろいろな学部学科があつての university であるので、それは十和田キャンパスの単一性に慣れている人間にとっては改めて新鮮な気分になれた。数学科、天文学科など、特に浮世離れた学問に打ち込んでいる教員や学生たちには嫉妬を覚えるほどであった。

○アメリカの特徴を表すものに、**Bigger is better.** ということがある。飛行機から下を見た時、この国の住宅がゆったりと計画的に作られていることを再認識した。その広々とした距離感は、徒歩や自転車での移動は許容せず専ら自動車とその主要手段になり、このことは生活スタイルをも強く規定する。ファストフードの飲み物のカップのサイズがとにかく大きく、これが肥満につながっていることは疑いようもない事実である。肥満や代謝に関する医学研究・医療を進めるより、飲食の容器のダウンサイジングを行ない、減塩もさることながら減糖運動を国が進めることが実効性が高いように思った。また Fahrenheit, gallon, pound, mile, inch など利便性・合理性に劣る単位をいつもで使い続ける気なのか、という感想も改めて持った。

○この報告を作るにあたり、14 年前のものを読み返してみて、内容は殆んど変わらないことに気づいた。今回の体験の一つ一つをそれなりに新鮮に感じたということは、記憶は良くも悪くも薄れていくことを暗示している。前回の時は、臨月間近の妻を残し、英語にも米国社会にも不慣れで、とてもナーバスな状態での同行であったため、学生をサポートできたかは今思い出しても自信なく、申し訳ない気分になる。今回は余裕を持って学生諸氏にも接することができた。連絡係（リーダー）の林田さんを始め学生が本業の研修に熱心に取り組んでくれて、それ以外の場面でトラブルを起こすこともなく、彼らには感謝

したい。また研修の綿密なローテーションプログラムのお陰で、日米の相違点を認識しつつ、多くのことを学んでくれたと思う。20代前半の学生は、私の2倍も3倍も感受性が高いだろうし、その感動や失敗も含めた経験を今後の糧にしてもらいたいと最後に願って、終わりとする。

To Prof. James Thompson and other staff
at UTK

We could spend very valuable 2 weeks at Knoxville and could have eternal, beautiful memories. I myself could attend a total of 8 different classes and could learn how a variety of faculty members provided wonderful classes of their own specialism. The high quality of education at graduate schools would assure that this country would forever be a world leader.

I greatly appreciate Dr. J. Thompson for all his efforts on academic matters and non-academic ones. I was not actively involved in clinics and so in actual issues that students might have had during clinical training. Generally our students have enjoyed clinical experiences and communicating with staffs and US students. I myself enjoyed having little obligation and “free” spirit in the campus life. I do hope this international exchange program will last and our student will have a chance to see academic world of US.

Shiro KURUSU, PhD/DVM

This study abroad program in University of Tennessee College of Veterinary Medicine is the most precious experience in my life.

I found the big difference of student training system.

In Japan, in my university, If someone belong to the laboratory of clinical fields (Large animal and Small animal surgery , internal medicine , radiology), They can study everyday's cases .But someone does not in that laboratory ,They only study their specific fields by the end of student's life. So This summer time really influenced to me and my thoughts. I am really happy to gone UTCVM, met many Dr and nice VET students.

This experience will be useful for my future job and policy about veterinary medicine.

I would like to say My thanks to Dr James P. Thompson DVM, PhD and UTCVM's people. Thank you for everything. I would like to visit UT again if my English ability grown up.

Keisuke Oura

Acknowledgements

It had a very valuable experience that I was able to learn veterinary medicine this time in Tennessee University.

I had anxiety because this time is first abroad trip, but as a day passes, my uneasiness disappeared and was able to enjoy it very much.

I thank a doctor and a student of the Tennessee University very much.

Because doctors and students answered my question in plain English and explained it carefully, I was able to learn a lot.

And I want to understand English, I try to study English more.

Finally, thank you so much everybody.

Takashi Ohashi

Dear everyone in Tennessee University

Thank you very much for giving us an opportunity to learn a lot of things. I could spend very good time every day. And I was very happy because everyone was very kind to me. I love everyone!

Dear Dr. Thompson

Thank you for taking us to the football game, Booms Day, the airport, rafting and the university every day.

I enjoyed every day in America because of you. If I can do it, I'll return to UT, and be a student of UT! Thank you for everything!

Kiyoko Kato

Dr of the University of Tennessee, everyone student, I was really taken care of two weeks! I took part in this training because I wanted to see with my own eyes the differences in animal health care in the United States and Japan. Result is a part, but I can see the difference between Japan and the United States, and it was with meaningful very pleased to know and experience, such as could not until

now, that I did not know until now on it. I thought I would like to imitate more and more where you know the best of America, to know the best of Japan, to imitate. In addition, it was seen in the vicinity amount appetite for student studying in the University of Tennessee, the knowledge, the height of the presentation capabilities it is now a very good stimulus. I think that I do not even lose a student of University of Tennessee, I would like to work from now on.

Atsuko Kano

Dear Dr.Thompson,

I got motivation from many students in UT. I was surprised that they had a strong learning awareness. I made up my mind to work hard to become the veterinarian whom I aim for!

Thank you for your kindness! I'll never forget this experience.

Yours sincerely,
Yusuke Takeda

Thank you everybody in UTCVM!! I had wonderful and great time in every services. All experience in UTCVM is very very valuable for me. A lot of experience stimulates me to be a good veterinarian.

All of Japanese students felt anxious, nervous and timid at first. But most of people who I met are very kind for Japanese! It's so encouraged us to talk to

anybody in English.

Especially Dr. Thompson, I greatly appreciate your kindness. Thank you for every morning, Thank you for every afternoon, Thank you so much for everything you did for us!

I never forget the experience in UTCVM.

I think the things which I saw, which I heard, which I felt—— "This is TENNESSEE."

Best regards,
Daichi Tamezane.

Thank you for interesting and exciting days. I really had nice 2 weeks. I came to Japan, and I decide to become a good veterinarian as doctors in University of Tennessee. I saw different culture between Japan and America. So I'll learn both of those good places. If it's possible, I want to go to UT again!

Makoto Hayashida

Prof. James Thompson and other staff at UTK

We could spend very valuable 2 weeks at Knoxville and could have eternal, beautiful memories. I myself could attend a total of 8 different classes and could learn how a variety of faculty members provided wonderful classes of their own specialism. The high quality of education at graduate

schools would assure that this country would forever be a world leader.

I greatly appreciate Dr. J. Thompson for all his efforts on academic matters and non-academic ones. I was not actively involved in clinics and so in actual issues that students might have had during clinical training. Generally our students have enjoyed clinical experiences and communicating with staffs and US students. I myself enjoyed having little obligation and “free” spirit in the campus life. I do hope this international exchange program will last and our student will have a chance to see academic world of US.

Shiro KURUSU, PhD/DVM







Georgia University School of Veterinary Medicine 17 Aug. - 01 Sep. 2013



Dr.Osamu YAMATO (Kagoshima Univ.), Genta ITO (Kagoshima Univ.), Shumpei YOSHIHARA (Kagoshima Univ.),
Takashi HAGIWARA, Meiya OKANO, Yuki HAYABE, Dr.Koichi ORINO, Dr.Yasuho TAURA(Yamaguchi Univ.)
Dr.Sheila W.Allen, Dr. Paige K. CARMICHAEL, Moeko KOUYAMA(Kagoshima Univ.), Yuina ONO(Kagoshima Univ.),
Midori ANDO, Narumi KANZAKI, Haruka ITO
Hitomi TERAZAKI(Kagoshima Univ.), Tomoko ASHIKARI(Kagoshima Univ.), Akimi AIZAWA, Ahra LEE

参加者一覧

同行教員：折野 宏一 Dr. Kocihi ORINO

氏名	Name	所属研究室
相澤 晃美	Akimi AIZAWA	獣医公衆衛生学
安藤 緑	Midori ANDO	獣医生理学
伊藤 榛華	Haruka ITO	獣医寄生虫学
岡野 明弥	Meiya OKANO	獣医臨床繁殖学
神崎 成実	Narumi KANZAKI	獣医生化学
萩原 崇	Takashi HAGIWARA	小動物第一外科学
早部 裕紀	Yuki HAYABE	獣医薬理学
李 雅羅	Ahra LEE	小動物第一内科学

相澤 晃美

8/17

飛行機で成田 → サンフランシスコ → ジョージア州アトランタへ。サンフランシスコからの飛行機がすごく寒かったです。短パンで行くべきじゃありませんでした。飛行機内は映画の種類が豊富で飽きることは無かったです。ジョージアに到着後、大学の生徒さん二人がホテル（ジョージアセンター）まで車で送ってくれました。ホテル代を支払った後就寝。600ドル位支払ったと思います。

8/18

朝昼兼用のバイキング。とても美味しかったです。自由時間を使ってダウンタウンへ。夕飯は Dr.Malorie の家でホームパーティーでした。皆でゲームして楽しかったです。料理も最高でした。

8/19

午前中に学校を案内して貰いました。生徒さんしゃべるのめっちゃ速い（笑）聞き取れない時はちゃんと「もう一回ゆっくり話して！」って言うべき。

午後からは食料品店で買い物をし、その後大学の生徒さん三人とボーリングをしました。夕飯はダウンタウンのステーキハウスでフィレスステーキ 10oz（280g 位）を食べたのですが、最高でした。もっと大きいのを頼めば良かったな一。

8/20

クリニカルローテーション一日目：大動物内科

9:00 患畜の回診

生徒一人々々が患畜を請け負い、病歴から診断、治療方針を先生に報告していき、先生

とその日行くことを決めていくみたいです。回診後、馬のレントゲンを撮りました。午後は馬のエコー検査をしました。

馬が多かったです。目の疾患、蹄葉炎、リステリア症、類肉種、骨膜炎等の患畜アメリカでは山羊、アルパカ、馬はペットなんだそう。朝の回診が終わってしまうと、生徒はパソコンのある部屋に籠ってしまうので、正直暇でした。よく外科チームが手術をしていたのでそれを見て回ったり、大学内を散歩しました。積極的に質問していくと良いかも。生徒さんはだいたい年上だし優しいので、話しかければ皆丁寧に答えてくれます。

8/21

ローテーション二日目：大動物内科

朝 9時から回診。その後外科チームが行っている中足骨手術を見学しました。私たち以外の見学者やボランティアも多かったです。午後は内科の先生が飼っている山羊のエコー検査を見学。おそらく僧帽弁閉鎖不全だったはず。残念ながら安楽死でした。最後に隔離されている馬の治療風景を見学。感染症と栄養失調らしい。生徒と先生が一緒に行っていました。解らないことばかりだったのですが、山口大から来た田浦先生に説明して頂いたおかげで少し理解出来たと思います。田浦先生ありがとうございました（^^）

8/22

ローテーション三日目：軟部組織

この日はオペが 9 件あり、朝からとても忙しかったです。朝 9 時の時点で 3 件目のオペが始まっていました。メラノーマ、サルコーマ、その他腫瘍の摘出、胆嚢摘出、断脚等の手術を行っていました。先生と生徒、アニマルテクニシャンは本当に忙しくかつ慌ただしかったので、邪魔にならないように必死でし

た（笑）。でも忙しくても質問にはちゃんと答えてくれたので色々と勉強になりました。基本手術はレジデントやドクターが行い、生徒はアシスタントだったのですが、去勢や閉復、肛門腺腫の摘出（多分）等のリスクの少ない手術は生徒が行っていました（勿論先生が時々サポートしてたけど）。日本では絶対にあり得ないことなので、本当に驚きました。主任の先生があまりにも手術室から出てこないで、結局挨拶できませんでした。非常に残念。

軟部組織は基本ほっとかれますが、多くの手術を見れるので刺激的です。手術中に音楽かけたり、雑誌読んだり、とても和やかで結構適当でした（笑）日本とアメリカの違いを発見するのも楽しかったです。

8/26

ローテーション四日目：放射線科

放射線科は大動物棟と小動物棟の間にあり、X線と画像診断を行っていました。放射線治療は腫瘍科の仕事みたいです。ひたすらX線→画像診断の繰り返し。とても優しく丁寧に教えてくれる先生がいて感動しました。基本やることあんまり無いので暇なのですが、生徒と話せて楽しかったです。レントゲンをひたすら撮る先生とひたすら診断している先生とに別れており、画像診断では電子カルテに診断内容を詳しく書いていくので、単語さえ解れば内容を理解できます。また、生徒と一緒に診断するので丁寧に説明してくれます。獣医英語と電子辞書を持っていくと便利。生徒達はレントゲンを撮ったり、画像診断を独自に行ったりと、割と自由に行動していました。私も自由な時間が多かったので他の科を見に行ったりしました。

8/27

ローテーション五日目：放射線科

内容は26日と大体一緒です。この日はトカゲや鷺のX線を撮っていました。

8/28

ローテーション六日目：眼科

今日は診察だけでした。最初は生徒一人が飼い主の話を聴き、瞳孔反射、対光反射、眼瞼反射、威嚇瞬き反応、眼圧チェックを実施していたことに驚きました。その後先生が飼い主と診断と治療方針について話し合っていました。患畜は白内障、緑内障、腫瘍等の様々な理由で来院。生徒は空き時間に自分達の目や入院患者で検査の練習をしていました。午後からは馬の眼検査および治療を実施。角膜潰瘍でした。馬の目の周囲にある留置に抗生物質や薬剤を投入していました。

8/29

ローテーション七日目：眼科

朝9時から一時間半位生徒と先生がグラコーマの分類・症状・薬剤の使用について議論していました（セミナーに近いかも）。カップケーキを食べながらも真剣に議論していました。その後オペ室に入って白内障の手術を見学（Phacoemulsification surgery→水晶体を青く染色し、大きくカットしてバキュームで吸い出す。その後新しいレンズを入れて縫合）。

午後は生徒達が検査の練習をしていました。その後緑内障患者の眼球摘出手術を見学。

ローテーションは一週間だけでしたが、とても刺激的で楽しかったです。生徒さんと仲良くなるにはやっぱりこちらから積極的に話しかけるべきです。皆良い人ばかりなので大丈夫ですよ（^^） 行きたかったエキゾチック

に行けなかったのは非常に残念でした。エキゾチックと皮膚科は皆からの評判が良かったです。

ローテーションを含めて全てのスケジュールを大学側が組んでくれたので（いっぱい遊べるよ！）、二週間があつという間に終わってしまいました。すっっごく楽しかったです。あとお土産を絶対たくさん買うのでスーツケースは大きめの方が良いと思います。でも持っていく荷物は極力少ない方が良いと思います。帰る時、ほとんどの人がスーツケース重量オーバーしてました（笑）お金に関してですが、ホームパーティーが多いのでその分他の大学より掛からないと思います。ただお土産や服を買う機会が多いので欲望のままに買っているととんでもないことになると思います／(^o^)＼カードの上限を引き上げておきましょうね！

Dear Georgia University stuffs

I'm Akimi Aizawa. I'm student of Kitasato University. I am really grateful to your kindness for inviting us. It was great experience for me. I didn't know details about veterinary university in other country until I visited Georgia University. But I could know that you have advanced veterinary medicine this time. I was surprised that you have a huge facility and there were many technician, residents, and Doctors and especially women who were working and studying at veterinary school. And you have a wonderful educational system that students can treat and see a patient with Doctors. There is not the system like this in Japan. This opportunity

made me understood that veterinary education in Japan can more be improved. And then, it was so exciting that I came in contact with persons and culture in U.S and visited some amusement facilities. If there had been not stuffs and students who took care of us, we could not have had a lot of fun. I really thank you for everyone that helps us during our stay in Athens. Someday I hope to see you again.

Akimi AIZAWA

安藤 緑

ジョージア州立ジョージア大学獣医学部での8/17から8/30の2週間に渡る研修に参加した。私は、皮膚科、野生動物診療、眼科、大動物診療を見学したので、この順番で述べていく。

・皮膚科

Dr.Henselを中心に学生4人とテクニシャン1人で診察を行っていた。患者に痒みによる脱毛や発赤が見られたら、細胞診やテープ試験などを行い原因をつきとめて治療を行っていた。1日目は、ノミが原因で脱毛や色素沈着がみられたシュナウザーや木や石などの環境抗原が原因で痒みの症状がみられたボクサーなどの症例をみた。後者の原因を調べるためにスキンテストを行った。スキンテストでは、まず鎮静をかけ、心拍を測定し、左腹部の毛をそり、A 無処置 B ヒスタミン 0.05 mg/dl 皮下注射 C ヒスタミン 0.5 mg/dl 皮下注射を行い、AB間とBC間の腫脹度を基準として、59種類の環境抗原を皮下注射し15分後と30分後の腫脹度を判定した。治療と

しては加水分解食の給餌を行った。診察後には、勉強会がありシャンプーとリンスの働きの違いについて Dr と学生が口論していた。シャンプーにはクレンジングの働きがあり、リンスには保護作用があることを学んだ。2 日目は、右前肢の肉球の皮膚がはがれて赤くなっているスピッツが来院した。診察をすすめると、バクテリアがみられなかった。そのため、ストレスなどの行動学的な診察と治療が求められると診断された。前肢を搔いてしまうゴールデンがきたが、バクテリアなどがみられなかったため、正常だと診断された。ラブラトルとプードルを交雑させた犬が来院した。遺伝的に耳の異常が多くみられる犬種だと教わった。定期的に耳の洗浄を行っているため、予後良好だと診断された。診察後には、寄生虫の生活環についての勉強会があった。

・野生動物診療

Dr.Mayer を中心に野生動物、飼育されているエキゾチックアニマル、動物園で飼育されている動物の診療を行っていた。私が見学に行った際、母親を亡くしたリスが 1 匹保護されていて、学生が餌を給餌していた。また、左眼が閉じているカメの診察を行っていた。学生がカメの雌雄判別について書籍で調べていた。野生動物診療において、学生はあまり知識をもっておらず、Dr が主に治療をしているのを見ていた。大学近くの Memorial Park という小さな動物園に行き、アリゲーターの診療をみた。アリゲーターの顎の皮膚がはがれて出血していた。細胞診により、真菌が原因だと診断されたため、飼育環境を改善するという治療法がとられた。アリゲーターの診察後、Memorial Park 内の他の動物を飼育員とともに見て回った。飼育員は Dr に飼育施設の問題について話し、Dr は飼

育施設の改善点などのアドバイスをしていた。大学に戻った後、コイを飼育しているオーナーから電話がかかってきた。飼育しているコイが一度に数匹死んでしまったため、感染症の疑いがあり大学で細胞診をした結果、感染症によるものと診断された。その報告を受け、オーナーは大学側に、他のまだ生存しているコイに治療ではなく安楽殺を求めた。Dr と学生はオーナーの家まで行き、治療できる旨を説明し、オーナーが承諾してくれたため、クロラムフェニコールによる治療を行った。スケジュールの関係で一日しか見学できなかったが、内容の濃いものであった。

・眼科

Dr.Myrna という女性を中心に、他 3 人 Dr がいて、診察を行っていた。診察の方針として、学生が基礎的な検査をした後に、Dr が診察、治療を行っていた。PLR、STT,IOP,VISION の試験を行い、診断を進めていった。午前は犬猫の診療を行い、午後は馬の診療を行っていた。角膜上皮に異常があるもの、緑内障、ドライアイなどの患畜が来院した。初めて、眼科の診療をみたので戸惑ったが、学生に説明してもらい理解できた。手術のある日は、手術前に勉強会が行われた。テーマは、角膜異常によるさまざまな疾患であった。Dr が学生に見た目の印象や病名を聞いていた。学生は、全員が発言していた。手術の内容としては、パグの両眼の腫瘍の摘出、緑内障のペキニーズの片眼の摘出であった。手術室は、音楽が流れていて、学生の 1 人は助手に入り、他の学生たちは画面で映し出された手術の映像をみていた。日本では、手術中に音楽が流れることはないので、驚いた。

・大動物診療

Dr.Hart という女性を中心に、他に 3 人 Dr がいて、大動物の診療にあたっていた。馬の膿瘍切除、クル病、リンパ腫、白帯病、蹄底潰瘍の症例をみた。北里の授業で学んだ症例を実際にみることができ、とても勉強になった。学生が各々で担当した患畜の世話と定期検査を行っていた。アメリカでは馬をペットとして扱うので、高額な眼の治療もおこなわれていた。日本では、あまりみられない光景なのでとても驚いた。空き時間には、抗生物質の勉強会が行われた。教授が薬剤の例を挙げ、学生はその薬の効用を述べていた。

総括

この研修を通して感じたことを述べる。アメリカは、日本と比べて、大学の施設すべてが大きく、広かった。二週間の大学見学で、アメリカと日本の獣医学教育の違いを感じさせられた。アメリカは、すべて専門医療制であった。また、各場所で教授 1 人、Dr 3 人、学生 5 人といった少数体制がとられていて、教授が Dr だけでなく学生にも基礎的な検査を任せ、オーナーへの問診もさせる。その際、教授は学生に問診と検査により、考えうる診断を述べさせ、その診断の正誤性について論議する。また、ゼミでは学生を強制的に発言させる。これらが、日本とは違うアメリカの獣医教育の良い点であると私は感じた。一方で、アメリカの手術室では音楽が流れていたり、治療が日本と比べて大雑把だと感じることもあった。以上より、アメリカと日本の獣医学教育を比べると、良い面、悪い面の両方があると感じた。

最後に、ジョージアで出会った方々はおおらかで優しい方ばかりだった。言語が違いわからないことばかりで困っている私たちをいつも優しく助けてくれた。二週間という短い期

間ではあったが、ジョージア大学での研修を心から楽しむことができたのは、引率の折野先生、連絡担当の柿崎先生、ジョージア大学でお世話になった方々、鹿児島大学の大和先生、山口大学の田浦先生、一緒にジョージア大学に行った北里、鹿児島大学のみんなのおかげでした。本当に、ありがとうございました。

To everyone I met in University of Georgia (UGA).

I really appreciate your kindness.

My stay in UGA was a good experience.

I was given clinical rotations.

It was different from Japan's system.

I was very impressed.

I realized that I should study harder.

I felt kindness from everyone I met in UGA.

I shall never forget staying in UGA.

I hope I could see you again someday.

Sincerely yours,

Midori ANDO

伊藤 榛華

太字はジョージア大学の方が組んでくださった予定です。たくさんの Activity や Home Party がありました。

◆ August 17 (Sat.) ◆

成田に 13:30 集合だったので、朝の新幹線で十和田を出た。客室乗務員に性別、年齢、人種多種多様な人がいて、機内からすでにアメリカを感じた。アメリカ人の多くは iPhone を使っており、私も iPhone を持つ

ているので世界は繋がっているのだと親近感を感じた。この旅での私の目標は、「①夢（やりたいこと）を見つけること」、「②アメリカに友達を作ること」、「③ストレスを貯めないよう自分をコントロールすること」にした。

Pick-up from Atlanta International Airport

Atlanta からジョージア大学のある Athens まで車で 2 時間半くらいだった。

◆ August 18 (Sun.) ◆

Welcome Brunch

鹿児島大メンバー・大和先生と山口大のタウリンこと田浦先生と初顔合わせ。ジョージア大学の方は Lakecia さんと女性と子ども一人で、堅苦しい雰囲気はなかったが一応ポロシャツとチノパンで出席した。ノートや名札、タンブラーなどのジョージアグッズを頂いた。その後ダウンタウンを散策したが、日曜だからか閉まっているお店が多かった。ジョージアグッズやロゴが街中に溢れていて、ジョージア大学はみんなに愛されているのだと感じた。

Game Night (Dr.Malorie Frank's House)

Wii やアメリカのおもちゃで遊んだ。Wii でのボーリング対決（北里 VS 鹿児島）で盛り上がった。スペアリブやチーズブレッドなど、早速アメリカらしいものを食べた。

Malorie さんは 2011 年の卒業生で、以前北里に来たことがあるらしく、色々な写真を見せて頂いた。北里とジョージア大学は、学生を送る代わりに、教員一人まで北里に来たいと言えば経費は北里大学が持ち、招待するという協定を結んでいるそうだ。2 週間で太らないようにできるだけ毎日筋トレをしようと自分に誓い、今日からスタートした。

◆ August 19 (Mon.) ◆

今週は雨続きで、気温が 22/19℃だった。

こんなに涼しいのは珍しいらしい。時差ぼけで眠れなかったので、ローテーションが、火曜日からで助かった。

Tour of UGA CVM

以前はあったキャンパスツアーが無くなり、Clinical Rotations でまわる獣医学部の病院内だけ見学した。学生が昼休みを利用して案内してくれた。

Trip to Publix

とても大きなスーパーで朝食のパンやスムージーを買った。

Showtime Bowling

私は人見知りだけど、ボーリングで他大のメンバーや先生とも少し仲良くなれたと思う。田浦先生に「小指があればうまく投げれるのに」と何度も言われたが、怖くて理由が聞けなかった。タウリンのギャグがなければ物足りない旅になっていた、といっても過言ではないくらい強烈な先生だった。夜はせっかくアメリカに来たのだからとステーキハウスへ行った。折野先生が歩くのが早くてダウンタウンからすぐ帰ってくることができた。その後、鹿児島大と一緒にホテルで、「明日からローテーション頑張ろう会」をした。

◆ August 20 (Tue.) ◆

Clinical Rotations "Zoo/Exotics" with Yuina

朝 Lakecia さんに Exotic 連れて行ってもらったら、カフェで症例ミーティングをしていた。先生と生徒でフェレットの膀胱結石の手術の仕方のディスカッションをしていた。Exotic にはジョージアの学生以外にも、ブラジルから 4 ヶ月留学に来た Heitor. という優しい学生がいてすごくお世話になった。フェレットの膀胱結石の手術、寄生虫感染の飛べない野生の鷹の赤ちゃん、呼吸器症状のラットなどを見た。カルテも学生が書いていて、先生はアドバイスやサポートのみしてい

る感じで、学べる環境がすごく整っていることを羨ましく感じた。しかし、アメリカの獣医学部は年間学費が約 400 万円で私たちの 2 倍ということを考えると大変だ。



Dinner (Dr. Corrie Brown's House)

Dr. Corrie は玄関にうんちの置物を置いたり、ディナーの隠し味を問題にしたりユーモア溢れる方だった。ホームパーティーで途中まで日本人ばかりと話していて、せっかくアメリカに来たのにもったいないと思い、ホームパーティーに来ていた学生とお話した。人見知りなので初対面で何を話したらいいかわからず、会話が續かないのをどうにかしたい。ホテルの他の部屋には清掃員から "Thank you" という手紙と余分なタオルと飴が置いてあったが私たちの部屋にはなかったので、今日から清掃員の方に置手紙をすることにした。

◆ August 21 (Wed.) ◆

Clinical Rotations "Zoo/Exotics" with Yuina

学生が昨日プレゼントした動物クリップを白衣や聴診器につけてくれていて嬉しかった。Dr. Mayer は肩の上に白熊をつけてくれて、とても charming だった。フェレットの狂犬病ワクチンの接種、昨夜死んでしまった鷹の剖検、保定や手術の勉強会があった。フェレットに一般的に行う予防は狂犬病ワクチンの他にジステンパーのワクチン接種、副腎

の病気が多いため hormone implant で予防するそうだ。昨日のラットは安楽死されていた。動物の食事管理がかなりしっかりしていて Excel で栄養の計算をしていた。



Terrapin (Beer Brewery)

Terrapin は Athens の地元のビールで、グラスを買うと 8 杯まで飲めた。その後、締めラーメンを食べようとダウントウンのタイヌードルのお店に行った。

◆ August 22 (Thu.) ◆

Clinical Rotations "Dermatology" with Narumi



皮膚科の Dr. Hensel は面白い人で、アレルギー食用のカンガルーミールにスパゲッティを入れたら、カンガルーボロネーゼだという冗談を言っていた。ブライアンは黒人だが、しっかりした対格だが、仕草がとても可愛らしく

セーラームーンが好きらしい。Dr.Hensel はブライアンのことを "He is our angel" と言っていた。皮膚科は標本を作って顕鏡するというルーチン作業を繰り返していた。



Dinner (Dr.Hondalus's House)

Dr.Hondalus は Infection Diseases の先生で、私がマラリアの研究をしていると言ったらマラリアの研究をしている同僚と連絡をとってくれることになった。大動物の学生の日本語が少し話せる Lydiaさんと夫で日本語がペラペラの Johnさんが来ていた。Dr.Hondalus の娘さんがとても可愛らしく、折り紙を持って来てくれてみんなで遊んだ。Dr.Hondalus said she wants to come Towada to see Kitasato University. So I told her, "You are very welcome always to visit Japan and our university". ホテルに帰ってから一週間お疲れさま飲み会をした。

◆ August 23 (Fri.) ◆

World of Coke (Atlanta)

さすがエンターテイメントの国だなと思うくらい見せ方や楽しませ方が素晴らしかった。最後に世界のコーラが試飲でき、一気に世界一周した気分になった。

Lunch at CNN Center (Atlanta)

CNN というテレビ局の中のフードコートで昼ごはんを食べた。ハンバーガーやサンドイッチをそれぞれ注文して食べた。挟んであ

る具の量が日本と違い、薄いハムが 2~3cm 重ねられていてすごいボリュームだった。おかげで帰ってきてからも、サンドイッチに挟む肉の量が増えた。

Dinner (Dr.Hensel's House)

皮膚科でお世話になった Dr.Hensel の家でのホームパーティー。奥さんは日本人で、大学も獣医大学もアメリカで卒業したそう。アメリカでは国内に残る人が獣医学部に進学することが望まれており、外国人をとっているところは少ないし、とっていても数人だそう。ホームパーティーの後は OTS(OTS) という獣医学生の寮のビーチパーティーに参加した。庭に砂が敷き詰められていて、ビニールをはった上に水が入れられ、大きなプールが作られていた。テキーラを飲んだり、ブラックライトの下で蛍光塗料まみれで踊ったり、プールにダイブしたりした。みんなで踊った「Cupid Shuffle」は一生忘れない。

◆ August 24 (Sat.) ◆

Shopping at "Commerce Shopping Center"

アウトレットに連れて行ってもらい、マキシワンプと香水を買った。

Karaoke Night

寿司やてんぷらを食べながらカラオケをした。日本と変わらずおいしかったし、カリフォルニアロールや UGA ロールなどはアボカドベースの変わった巻き物だったがおいしかった。AKB や HY など最近の日本の曲も入っていた。

◆ August 25 (Sun.) ◆

朝は、ホテルの朝食プレートを初めて食べ、長いものすりおろしを加熱したような食べ物だった。午前中はフリーだったので、たまには一人でのんびりしようと Book Store に徒

歩で行き、アメリカのバースデーカードは可愛くて安いものが多いので何枚か買った。レジの人が気さくに喋りかけてくるのもアメリカらしいなと感じた。ランチは Oglethorpe という学食で食べ、visiter 料金 \$ 11.25 でビュッフェ形式だった。バーガー、トルティーヤ、ピザ、メキシカン、サラダはトッピングが多く、チョコフォンデュ、アイス、ケーキなどメニューが豊富で、目の前で調理してくれるものも多く高めのホテルのバイキングのようで、こんな学食が私たちの大学にもあったらいいのになと思った。そのあとは大学内の美術館に行った。

Dinner and Swimming (Dr. Gogal's House)

ラフ・コリーのようなふわふわした大型犬が3匹もいて、今まで犬は目がぎょっとしていて怖いからあまり好きにはなれなかったがこの犬はぬいぐるみみたいで可愛いと思った。どの家にも共通して言えることは、家と庭が広いことだった。ホームパーティーでいくら騒いでも、音楽を大音量で流しても隣の家までの距離があるので苦情はこない。さらにこの家にはプールもあって夢のようだ。帰ってから私もホームパーティーをしてみたいと思った。バレーコートもあり、バレーをした。あきみちゃんとタウリンの実況が絶妙だった。ホームパーティーには Dr.Gogal の共同研究者の方も来ていたらしく先生方はビーチパラソルの下でお話をしていた。翌日タウリンに「一番はしゃいだのは君と僕」という名言をいただいた。

◆ August 26 (Mon.) ◆

Clinical Rotations "Large Animal Medicine" with Takashi

大動物は Medicine と Surgery に分かれており、他の科より学生がたくさんいた。朝はそれぞれの動物を見ながら、健康状態やこれ

からやることの話し合いからスタートした。一番初めに気づくことは日本と違って臭くないことだ。掃除をする人が雇われていて常にきれいな環境で動物は生活していた。他の科でも感じたが VT さんが処置できる範囲が大きく学生の指導も結構していた。アルパカやラマもペットで飼う人がいるのに驚いた。神経症状を示す動物の症例勉強会があって、色々な原因を考え除外診断していき、またその周辺知識も教えてくれていて、今まで一つの動物の診断を血液検査や主な臨床症状でしか考えたことがなかったので、ここまで丁寧に診断の仕方を教えてくれたらとても勉強になると思った。Dr. Hart も Dr. Fultz も女性で、大動物は先生も学生も女性が多かった。今日はサルモネラで血管炎のある馬のバンテージの巻き直しを見た。普通の馬舎の他に Isolation room も3室あり、感染がある馬はそこに入れられていた。他に馬の削蹄も見つた。削蹄師の人が蹄鉄を加工する窯を積んだ車で来て、馬の脚に合わせて蹄鉄を1から作る様子や Pseudomonas 感染で坑道ができた馬の削蹄を見た。



Wal-Mart

お土産や朝食のためのハム、ポテトサラダ、チーズなどを買った。レジで店員さんがかかっている袋に商品を詰めてくれるのだが、詰めた後は自分で取らなくてはならず、いくつか商品を忘れてきてしまった。夕食はホテ

ルの近くのメキシカン料理のお店に行った。メニューの内容がよくわからないときは店員さんのおすすめを聞いて頼んだ方がいいことを学んだ。

◆ August 27 (Tue.) ◆

Clinical Rotations "Large Animal Medicine" with Takashi

豚の食欲不振と脱水にリンゴジュースをあげていて可愛いなと思った。仔馬の Hygroma と、馬の Bone chips の手術と馬の内視鏡検査を見た。タウリンが日本の手術動画をパソコンで見せてくださったので比較して見る事ができた。小動物も大動物も心音は機械ではなく、拡声器のようなものを血管にジェルを塗った上にセットし直接音を聞いていて確実性があると思った。日本の大学病院より科が細分化されていることもあると思うが、病院で働いている人の人数が多く、麻酔師さんのような人もいて安心して手術ができる環境がある。



Dinner (UGA Resident Dinner Hall-Snelling Dining Hall)

今日は Georgia Center の裏の学食で Dinner を食べた。ここも Buffet 形式で、平日は 24 時間 Open だ。メインからデザート、飲み物も以前行った他の学食と同様かなり充実していて羨ましい。

Skate Night

UGA の秘書の Parker さんに厚かましいながらも冗談で「友達の夢はアメリカ人にナンパされることだから叶えてあげたいんだ!」と言ったら、「僕は既婚者だからできないけど、今日来る学生に頼んでみるよ。」と言って頼んでくれて、すごく優しくてノリの良い人だった。Georgia は田舎だからかもしれないがどの人も朗らかで優しかった。彼がすごくアプローチしてくれたのに、友達はスケートが褒められただけだと勘違いしていたので残念だった。去年の報告書にも、アメリカ人は女性が転ぶとすぐに助けにいった紳士的だを書いてあったが、私も何十回と転んだのに毎回色々な男性が助けてくれて、日本人も自然にこういう振る舞いができれば格好いいだろうなと思った。

◆ August 28 (Wed.) ◆

朝、マラリアが感染した赤血球の接着因子について研究している Dr. David Peterson のラボを見学に行った。研究の内容を聞き、研究室も見せていただいた。2006 年に新しくできた建物で、最近アメリカでは、アイディアや器具をシェアするためにいくつかの研究室が一部屋で作業する形態をとっている。今まで、北里の先生以外でマラリアを研究している研究者と話す機会がなかったので、他の視点や、マラリアの研究者全体の認識を知ることができてとても勉強になった。

Clinical Rotations "Community Practice Clinic" with Yuina

手術室と歯の治療室が別にあった。歯の治療のためだけに麻酔をかけるらしく、人のようにレントゲンをとって、一本一本歯の様子をチェックシートにチェックしていた。猫のワクチンは混合ワクチンを使っておらず、



3本の脚にそれぞれ猫鼻気管支炎・狂犬病・FLVと違うワクチンをうっていたことに驚いた。



VMA Bar-B-Q (Lunch)

毎年恒例の獣医学部全体でのBBQ。2時前に行ったせいか、ほとんど食べ物がなくなっていた。ハンバーガーやホットドックを作って食べた。

Free Night

折野先生お勧めのチキン屋さんに行った。さまざまな味から選べて、味が濃くて皮がパリパリで今まで食べたチキンの中で一番おいしかった。

◆ August 29 (Thu.) ◆

Clinical Rotations "Community Practice Clinic" with Yuina

去勢手術の見学をした。先週避妊手術をやっていた学生と同じ学生が行っていた。ドレープや手を洗うスポンジなど様々なものを使い捨てでもったいないが手術は快適に行えると思った。他に抜歯や、犬の電気・超音波セラピーとマッサージ、バランスボールやハードルを使ったりハビリを見学した。

今日は早めにローテーションを切り上げ胎盤のマラリアの免疫応答の研究をしているDr. Julie Mooreのラボを見学に行った。ケニアにボランティアに行ったときにマラリアで死んでいく子どもを見て、今の研究をやるに至ったという話や、院生時代から今までやっている研究、今の研究などを聞かせていただいた。NODマウスにヒトの血液を流してヒトマラリアを感染させる実験や、胎盤は蚊が吸血できないのに唯一蚊に移行するステージであるガメートサイトが多い話などが聞けてとても興味深かった。



Farewell Dinner (Hosted by Dr. K.P.Carmichael)

今日で終わりだと思うと本当に寂しかった。マラリアを研究しているラボに見学に行けるようにはからってくださったDr. Hondalusも来ていたのでお礼を言った。ジョージア大学の方から初日に記念撮影した

写真が入った写真楯をいただいて、ついに2週間が終わりなのだなと実感した。

◆ August 30 (Fri.) ◆

Georgia Aquarium

なんといってもイルカショーが圧巻で、イルカショーなのに室内で後ろにスクリーンあり、ミュージカルあり、ウォーターショーありで、普段感動して泣くことはめったにない私でも感動して泣いてしまった。これくらい人に感動を与えられる仕事が将来できたらいいなと思う。

Check-In Quality Hotel Conference Center

空港近くのホテルまで送っていただき、お世話になった Lakecia さん、Jonathan さん、Parker さん、に寄せ書きを渡した。ホテルの周りには何もなかったので近くのマクドナルドや、ホテルのプールで時間を過ごした。

◆ August 31 (Sat.) ◆

朝、空港まで鹿児島大学のメンバーと一緒に、空港でお別れした。飛行機の燃料タンクが故障して途中で給油が必要になり、予定にはなかったがシカゴで途中給油した。

◆ September 1 (Sun.) ◆

飛行機が遅延し、到着が遅れたため当日十和田に帰る予定が、成田で1泊してから次の日十和田に帰還した。

～来年ジョージアに行く人達へ～

◇獣医学部と Clinical Rotations ◇

ホテルから徒歩5-10分くらい。毎朝8:45集合なので、のんびり起きて8:25に出ていた。Rotationsは9:00-16:00。

ジョージアの学生も先生も私たちより長い時間学校にいますので、朝 Lakecia さん、Jonathan さん、Parker さんの3人が送っ

てくれて病院業務やラウンドの中に放り込まれる感じ。今回は鹿児島大学の参加人数がいつもより多く、ローテーションはどの科も私は日本人学生2人で行った。鹿児島大学は希望制で研修に参加できるらしく5年生と6年生がいた。今年、山口大学は先生だけの参加だったが、来年は学生もくるかもしれない。日によって忙しさ、見られる動物や治療に波があるが、腫瘍、軟部組織、整形、一次診療は毎日忙しそうだった。ジョージアは治安がいいし人もいいところ。忙しそう、怖そうと初めは感じるけれど、質問すればほとんどの人が丁寧に教えてくれるし、私は写真をとっていいか聞いて断られたことはなかった。

現地の学生は、3週間単位で自分の行きたい科をまわる。生徒が実際に患者を受け持って、先生と相談しながら治療や予防医療を経験する。難しい手術や作業は先生がやるが、簡単な手術は生徒がやる。日本のように卒業論文は義務ではなく、研究はやりたい人だけがやる。実習での服装は、小動物はスクラブ、大動物はチノパンにポロシャツ（ちなみに先生は白、学生は緑のポロシャツを着ています）、履物はスニーカーで、ホテルから着て出かけていた。病院内は寒いので、羽織るものもあるとよい。皮膚科と一次診療・他の小動物の科・大動物は繋がっており、暇な時間に他の科も見に行くことは可能なので、一通り見たい人は3つの建物から1つずつ希望を出すのがいいと思う。

◇ Downtown ◇

レストラン、お土産、Bar やカフェなどがある。スーパーはないが、コンビニのような薬局がある。日曜日は空いていないお店や早く閉まるお店が多い。平日は、数分に一本出ているスクールバスで行ける。夜中にはバスはないが、休日は平日とは違うルートでバスが

出ている。ジョージアセンターから徒歩でも 20 分～30 分くらい。22 時まではホテルの無料シャトルバスで送ってくれる（チップは必要）。迎えも電話したら来てくれるが、海外で使える携帯電話を持って行った人がいなかったなので帰りはいつも歩いて帰っていた。

◇Rotation 時の昼ごはん◇

スーパーで買った物を持って行ったり、獣医学部棟の中のカフェで買ったりした。BLT はトマトがパンについてべちゃべちゃらしく、日替わりのカップ売りのメニューや電子レンジで作るカップ焼きそばを食べている人が多かった。

◇おすすめの Restaurant ◇

- ①『WILD WING Cafe』はダウンタウンにあるチキン屋さん。2 ピースで 1 ドルと安く、しかもすごく美味しかった。先生が以前滞在中に 2 回も行ったと聞き、今回行ってみた。
- ②『学食』は学内に何箇所もあり、近いところはホテルの裏で平日は 24 時間営業。獣医学部棟の奥にもある。

入り口で入場料を払ってバイキング形式。

- ③『Five Guys』はダウンタウンのハンバーガー屋さん。私は行かなかったが行った人はみんな美味しいと言っていた。トッピングを遠慮せずにちゃんと色々しないと、肉と玉ねぎとパンという状況に陥るらしい。

◇Book Store ◇

ジョージアグッズがたくさん売っている。ジョージアセンターから徒歩 15 分くらい。Book Store の隣の巨大なスタジアムも見もの。

◇学生同士の連絡◇

ジョージアセンターホテルでは Wi-Fi が使

えるので、LINE を使って連絡をとっていた。

◇Georgia Center Hotel ◇

2～3 人部屋で、2 つしかベッドがないので 3 人部屋の人は添い寝した。チップは 1 ベッドにつき 1 ドル置いていた。洗濯機と乾燥機もあり、それぞれ 25 セント 5 枚でできた。ホテルのそばのガソリンスタンドのコンビニで大抵の物が買える。近くの『Five Points Bottle Shop』という酒屋さんや、『King of Pops』というフローズンヨーグルトのお店もよく行った。ホテルに切手が売っていて、ホテルから郵便が日本に出せる。切手は小まめに値上がりしているらしいので貼る切手に注意。英語の先生の Betty にみんなで手紙を出した。

◇時差や天候◇

時差は－13 時間、天候は日本の夏と似ているが、湿気がなく風があり爽やか。とはいっても暑いので日焼け止めはあった方がよい。今年、1 週目は珍しく雨で寒かった。

◇英語◇

選抜時に専門用語のテストがある（出題範囲は毎年一緒）。4 年後期のテスト後から、学校に英語の先生を呼んで、週 1 くらいで英会話の授業があった（希望制）。大学別で行い、一回先生を呼ぶと 6,000 円だったため、一人 1,000 円だった。私たちは、誰か行けない日があってもその人も払うことにしていた。土曜日に三沢基地内のレストランに連れて行ってもらい実践の場もあった。谷口先生の獣医専門英語の本や医学辞書が入った電子辞書、アプリを持っていくと便利。でも何より、その年行く学生同士での情報交換が重要。

◇役立つもの◇

5年の前期試験後にしおりを貰うがあまり丁寧には書いていない。蚊が多く、虫除けスプレー（霧吹き状のものならスーツケースに入れられる）と痒み止めは必須だった。機内は寒いのでパーカーなど羽織るものが必要。また、毛布をなくなる前に貰うとよい。鹿児島大学の人是最終日の **Farewell Party** で浴衣や甚平を着ていた。テネシーに行った先輩はみんなでお揃いのテネシー大学の T シャツを着て行ったらしいので、何か着るものを統一するのもいいと思う。機内に iPhone の充電器をさせる場所があったり、空港にコンセントがたくさんあったりしたので、充電したい人は手荷物に充電器をいれると良い。

◇いらなかったもの◇

本は重いだけだった。先輩に飛行機にテレビがないと聞き持って行ったが、今年はテレビがある飛行機で映画を見て時間が潰れた。アメリカのトイレットペーパーは硬いという先輩の言葉に騙されて持って行ったが、普通の硬さだった。サングラスを持って行ったが異例らしいが雨が強く全く使わなかった。

◇スケジュール◇

ローテーションの日程は、前期試験前にもらえたが、旅の日程は当日成田で先生から受け取った。昨年度と内容は同じものが多かった。

◇お土産◇

みんなで予算を決めて、その科に行く最初の人がお土産を買って渡した。日本にしかないものは英語で説明を書いた。科によって先生、VT さん、学生の人数がまちまちなので、分けられるお菓子や、文具がいいと思う。ダイソーの動物クリップを持って行ったら白

衣や聴診器につけてくれて嬉しかった。また、毎朝ローテーションに連れて行ってくれる、Lakecia さん、Jonathan さん、Parker さんなど秘書の方や、学部長・副学部長にも **Farewell Party** で渡す物を用意すると思う。私たちは用意していなくて折野先生が渡してくれた。（何より旅行行程を当日渡されたし、行程自体を見ても誰が何人くるかなどは分からなかった。ローテーションの変更も成田で渡されて、行く科が増えたためみんなのお土産から出し合ってもう一つ新しく作った）来年は行く前に先生や生徒達で話し合ってお土産をきちんと用意した方がいいと思う。毎日違う学生が **Activity** や **Home Party** に送迎してくれる。今回は鹿児島大学の人数が多く、バン 2 台だったため、一日 2 ～ 4 人の学生にお世話になった。毎日違う学生が来るので、途中でお土産が足りなくなった。駄菓子などの小さな詰め合わせやキーホルダーなど小さいものを少しずつあげるのがいいと思う。テネシー大学の人 ドミトリーなので日本食を作って先生を招いてディナーなどできるが、ジョージアはホテルに滞在するので、電子レンジと冷蔵庫くらいしかない。インスタント食品は作れると思うが、毎日ホームパーティーもあるし今年は特に何もしなかった。お土産とは関係ないが、自己紹介や話題作りのためにペットや家族、趣味の写真をスマートフォンに入れて行くと話題が広がると思う。

◇お金◇

見ての通り、毎日のように夜は **Home Party** があるので、(ホテル代 6 ～ 8 万円 (何人部屋かによる) をクレジットカードで払う場合) 食費とちょっとしたお土産だけなら 5 万円あれば足りると思う。アウトレットやお土産などたくさん買い物をしたい場合

はそれに応じて持っていけば OK。私たちは一応 10 万円くらい持っていく人が多かったが、余った。飛行機代は 3 大学でならして 20 万円弱、他に狂犬病の予防接種 (12,600 円) が 3 回、保険は入るグレードにもよるが 13,000 円くらい、最終日のホテル代が 7,250 円かかった。外貨両替は十和田の青森銀行でもできるが、手数料が高い。ちなみに狂犬病ワクチン接種は昼休みに十和田の東病院で行った。

◇ ESTA ◇

日程にもよるが、テスト後に申請すれば大丈夫です。個人で申請した。

■先輩との飲み会■

去年ジョージアに行った先輩方とテネシー大学と一緒に行く前に飲み会をしました。色々な情報が聞けて良かった。

■ラボ見学■

私は今、研究室でマラリアの研究をしているので、Georgia 大学のマラリアを研究しているラボを 2 つ見学してきた。行く前から連絡担当の柿崎先生に何度か事務の方にメールを送って頂いたが返信がなく、Georgia についてから Lakecia さんに交渉したが、Lakecia さんにも返信がなく、Home Party でお会いした Dr.Hondalus は Infection Diseases の方なので、彼女からメールを送ってもらったら返信がきた。その後のやり取りは個人でしてアポをとった。ローテーションに入っていなくても希望すれば行きたい科やラボを見にいけると聞いていたが、私の場合アポを取るのが大変で行けたのが最終日だった。

最後に、折野先生と北里大学メンバー、鹿

児島大学の大和先生と鹿児島大学メンバー、山口大学の田浦先生、国際交流委員や連絡担当の柿崎先生、そして 2 週間同室だったあきみちゃんとなるみちゃん、今後の進路を考えるためになる素晴らしい経験と、素敵な夏の思い出を本当に本当にありがとうございました。

I'm very grateful to UGA teachers and students. They were so kind and all of them had nice smiles. Their warm smiles cheer me up a lot. In Clinical Rotations, they taught me carefully whatever I asked them. Thank you also for giving us many activities other than Clinical Rotations. I experienced not only Veterinary Medicine but also American culture. Especially Ms. Lakecia, Ms. Jonathan and Mr. Parker, thank you for always taking care of us. I had wonderful days. We really enjoyed many activities which you planned, and we learned a lot in Clinical Rotations. Moreover, thank you for having a chance to meet people who are involved in research malaria. I'll never forget this study trip!!

Please come to Japan and our university. We'll welcome all of you.

Haruka ITO

岡野 明弥

8 月 17 日～31 日の 2 週間にわたり海外研修を行いました。この海外研修に参加する私の目的は特にこれが学びたいといった理由がなくただ漠然と向こうの獣医学部生と交流し

たかっただけだったが研修中に様々な興味と疑問ができ結果として学生との交流だけではなく海外の動物や獣医療、福祉に関する概念を感じることができました。そこで、この報告書に自分が感じた事を書くことにします。

1日目：13:30 に成田空港第一ターミナルに集合し、15:55 発の飛行機を待った。この時、最終確認で最低限忘れてはいけないものであるパスポート、クレジットカード、海外保険、ESTA の登録を確認し、航空券を受け取り荷物を預け出発時刻まで待った。この時点で既に荷物の制限重量近い人がいたのでスーツケース以外の折りたためるバックを持っていくと便利だと思った。出発を待つ間や飛行機内では暇になることがなかったので特に娯楽用の物は必要ではなかった。機内ではクーラーがきつく非常に寒かったり、寝るときに首が安定しないため寝づらく首を痛めるためパーカーや首枕、アイマスクは持って行くと便利。

2日目：サンフランシスコ空港を経由シアトランタ空港に 21:41 に到着した。向こうの入国審査官に渡航目的を聞かれたとき「education」と答えると留学目的だと勘違いされ留学期間などを聞かれてしまうので「orientation」と答えるのが適当でした。また降りた場所から荷物を受け取る場所まで非常に遠く電車での移動があったので道に迷った様な気分になったが看板を信じて歩いたらなんとか着けた。その後向こうの大学の生徒と合流し、ジョージア大学に送ってもらった。この時時間はすでに 10 時を過ぎておりホテルのフロントで 24 時間営業の店を聞いても歩いていける距離ではなくその日は何もせずに終わった。

3日目：朝、歓迎のブランチがあり、自由時間の後 Dr.Malorie Frank の家でパーティーがあった。この日はほぼ 1 日中自由時間だったのでダウンタウンへの行く方法や周囲の施設の情報を確認するのに十分な時間が取れた。

4日目：この日に初めて学内の案内を受けた。授業を受ける教室は北里大学の視聴覚室のような部屋で各机にはコンセントが付いておりパソコンを持っている学生が多く見られたのでそこを配慮していたと思われる。研究室は大まかにいうと「小動物」、「大動物」、「皮膚科・CPC (community practice clinic)」で校舎が分かれており、実習時にはここを行き来することになる。小動物のエリアに入るには生徒が持つ ID カードが必要で大動物のエリアとはつながっていた。また小動物エリアには飼い主が患畜を連れてくる診察室への扉があり、そこから各研究室への廊下には生徒やドクターがデータを作成したり、ネットで情報を検索したりするパソコンが何十台も並んでいた。基本的に患畜のデータはカルテにも記載し、パソコンにも毎回データを打ち込むシステムとなっていた。この点が日本の大学との違いだと感じた。

5・6日目：クリニカルローテーション 1 回目がここから始まった。私がまず配属された場所は皮膚科だった。ここの 1 日の主な活動は、まず朝は九時に集合しその日くる患畜の情報を学生全員が共有し誰がどの患畜を担当するかはドクターが指名する。患畜が来ると診察室でまず学生が対応し、飼い主の稟告を聞きながらカルテに書き込み視診・触診・聴診を同時に行いその後研究室で詳しい検査を行い診断する。この時ドクターが学生に対して検査の結果について疑問を挙げそれについて

て学生が考え答える。このように学生の自主性が必要な学習方法は日本の獣医学教育に足りないものだと感じた。最後に飼い主が引き取りに来た時の結果の報告には学生だけでなくドクターも同席し、ドクターからの説明が行われる。1日の終わりには勉強会が毎回行われ、私がいた時にはシャンプーとコンディショナーの違いや何故2種類必要なのか、適用方法やノミの生活環と対処法などの講義があった。ここのDr.Henselはよく話す人で回りも楽しそうな雰囲気になり、非常に居やすくまた話しかけやすい環境だったのでとても楽しめた研究室だったと感じた。

7日目：2回目のローテーションでは大動物内科に配属された。大動物には日本のように外科と内科があるが海外実習で配属されるのは内科だけだった。しかしどちらも同じエリアで活動しているため外科の様子も見て回ることができるが疑問があっても聞きづらい雰囲気であった。患者は主に馬でたまにヤギ、牛、アルパカが持ち込まれる。朝は各学生の担当である入院畜の状況の説明を学生が全員の前で話し、それをふまえたうえで当日行う処置と予想される経過を自分なりの解釈でドクターに説明する流れとなっている。ここでもやはり学生が主体となって考え行動をしていた。今回は馬の経鼻的な内視鏡検査とCT検査に立ち会った。ここでもまた勉強会があり、輸液について話され専門的な英語が話の中で多く使われ理解するのがとても難しかった。

8・9・10日目：金土日はクリニカルローテーションはなくショッピング、コカ・コーラ博物館、ホームパーティー、プールなど毎日が忙しかった。同じく実習できた鹿児島大学の学生がカメラを水没させ壊れてしまったので

海外保険の必要性が感じられた。

11・12日目：3回目のローテーションでエキゾチック科に配属された。私が最も興味があった科であり非常に楽しみだった。患者には思った通り日本では珍しいハクトウワシやコイ、オカメインコ、ウサギ、フトアゴヒゲトカゲなどが持ち込まれ、ハクトウワシの内視鏡、コイの安楽死と解剖、オカメインコの羽切、ウサギの歯削り、トカゲのレントゲンなどを行った。エキゾチック動物は事故で傷ついた野生動物もいれば動物園の動物、ペットなど様々だった。最もユニークだったのはトカゲのレントゲンで鎮静も保定もせずに行っていたのがとても面白かった。またワシやトカゲのレントゲン写真も見ることができこんなことは日本ではなかなかない経験だと私は思う。治療はいつも本やネットで調べてから行われ、柔軟な対応が必要とされていた感じがかった。研究室の雰囲気については、患者がいる間は学生とドクターが集まり楽しそうにやっているが患者がいないときはそれぞれが部屋に籠ってしまうので暇になってしまうことがあった。

13・14日目：最後のローテーションでEmergency and Critical Careに配属された。私のイメージでは救急患者が運び込まれ忙しくしている場所がないかもしれないと考えたがDr.Koenigは明るくよく話しかけてくる方で朝のミーティングでも扱う症例についての丁寧な説明や日本ではこういった対処法をするのか、この症例は日本でも多いのか等の質問をしてくれて会話の中に入りやすくしてくれた。ここの研究室に持ち込まれる患者は救急というよりは致命的な疾患の症例しか持ち込まれなかった。今回見れたものは黄疸が濃く現れていて起立不能な犬が数頭と後

肢が麻痺して歩けなくなった犬の検査と過度の肥満によって呼吸困難となってしまった犬の処置や脾臓がねじれて肥大してしまった犬など基本的に処置をしないと死んでしまうような症例であり、どれも検査内容は5年前期の授業で習うことだったので話していることがよく理解できた。研究室では常に音楽がかけられておりドクターも処置中に踊りだすようなとても自由なところだった、これも日本とは大きく異なった点だと考えられる、この点では他の研究室でもオペ中にテレビをつけているところ等もあった。

15日目：ローテーションもすべて終わりあとは帰るだけとなりアセンズとアトランタで自由な時間を過ごした。アセンズでは水族館にいったがここで用意された時間はあまりなく、ゆっくり過ごすことはできなかった。アトランタでは時間はたくさんあったが周りには何もなく結局ホテルに付いていたプールで遊び1日が終わった。

16日目：あとは日本への帰国だけとなり同じ期間実習にきていた鹿児島大学の学生と写真撮影した後に空港でさいごの買い物をした。この時思い返してみると出発前は正直不安な気持ちしかなかったが誰もが言うように終わってみればとても楽しく、また学べることが多かった実習だった。今回の実習は私にとって何かを身に付けに行くものではなくこれから獣医学を学んでいく上でのモチベーションをあげるためのものであったと感じた。

By experience of veterinary medicine training for two weeks, I was surprised to see the technique of American veterinary

medicine is high quality. It was awesome that veterinary students can treat large and small animal patient by themselves with help of doctor. There is not that kind of system in Japan. So I think that American veterinary education policy make a good study environment. I appreciate kindness and thanks for teaching these skills.

On the other hand, we could spend good summer vacation that was kindly provided schedules you planned. Finally, I would like to say thanks to Dr. Hensel, Drs. Hart and Fultz, Dr. Mayer, and Dr. Koenig. This training brought a good influence to me.

Meiya OKANO
KITASATO University

神崎 成実

(8月17日 出発日)

成田空港に集合して記念撮影。サンフランシスコまでのフライトは、お酒や映画を楽しんだり快適に過ごせた。続くアトランタまでのフライトでは機内が寒すぎて大変だった。毛布をくれと言っても、もうありませんと言われる始末。日本のサービスがいかに充実しているかを思い知った。私の隣では萩原君がTシャツに短パン姿で凍えていた。来年行く皆さんは何か羽織るものを機内に持ち込んだ方がいいと思う。

夜10時前に無事にアトランタに到着し、迎えの人と落ち合い、ホテルまで連れて行ってもらった。今日一日、私と萩原君は移動中食べるか寝るかしかしていない事に気付いた

が、この二週間は知識と脂肪を蓄える事を誓い合い、この日から私は萩原君の事を師匠と呼ぶ。

明日から二週間、色々な事を学び、色々な人と出会い、最高の二週間にしていきたいと思う。

(8月18日 Game Night)

ロビーに集合してブランチを楽しんだ。ジョージアグッズを色々貰った。たらふく食べた後、お部屋で食べるようにベーグルと大量のクリームチーズを持ち帰ろうとしたら笑われた。

鹿児島大の人達と軽く自己紹介をして、その後みんなでダウンタウンへ。お酒を買いたかったが、買えそうなお店はなく、スーパーマーケットは5マイル先と言われたので断念。近くのジョージアグッズが売っているお店で、外では絶対に着ないようなショッキングピンクのTシャツをゲット。

夕方から Dr.Malorie のお宅で Game Night ! 3匹の可愛い犬と遊んだり Wii をしたりして楽しんだ。そこで食べたチーズパンが美味しすぎて涙が出そうになった。私は Corona と自家製サングリアをいっぱい飲んで良い気分だった。

帰ってきてから近くのカソリンスタンド内にあるコンビニみたいな所で食料や水を購入した。本場の Monster も買ったので飲むのが楽しみだ。明日の朝食にクリームチーズをたっぷり塗ったベーグルを食べるのを楽しみに今日は大人しく就寝。

(8月19日 病院内ツアー&ボウリング)

今日は11時から学内で軽くランチをした。ここにきてアメリカのランチにポテトチップスは付き物なのだと知る。無理に食べずに持ち帰る方がいいのかもしれない(私は完食)。

その後1時間ほど病院内を生徒が説明しながらまわるツアーがあった。案内してくれた生徒の話す英語がとても速くて会話の半分も聞き取れなかった気がする。明日からがとても不安である。見学後にブルドッグと一緒に記念撮影をした。

その後“publix”という大型スーパーマーケットで念願のビールや食料を買って、少しあき時間があつたので、ダウンタウンへ遊びに行った。

夕方からは昨晚購入した Monster を注入してボウリング。4チームに分かれて2ゲームした。タウリンのストライク後のポーズがとても印象的だった。久々のボウリングを楽しんだ後は再びダウンタウンへ夜ご飯を食べに行った。ドライバーのオススメしてくれたステーキハウスに行ったら、ウェイターが金髪の長身のイケメンだった。師匠はここでもめちゃくちゃ食べまくっていて、さすがだなと感じた。

歩いてホテルに戻りお風呂に入った後、明日からローテーション頑張ろうという事で、お部屋でお酒を飲んで色々話した。鹿児島大の人達もみんな良い人達で、この三日間だけでもすごく楽しく充実していた。そして Monster を飲んだせいか、全く眠くなくて困っている。あきみちゃんはもうすでにいびきをかきながら隣で寝ている。明日からローテーション頑張ろう。

(8月20日 ローテーション1日目&ホームパーティー)

今日は large animal だった。とりあえず自分の英語力の無さに落胆して初日から心が折れかけた。学生は一人一人受け持ちの患畜がいて、先生と生徒合わせて10名程度での回診から始まる。そこで自分の受け持ちの患畜の病状・診断・治療について説明し、先生

や周りの生徒と話し合っていく。回診が終わるとそれぞれ paper work や診療、治療へうつる。印象的だったのは寄生虫感染のアルパカである。眼瞼反射・威嚇瞬き反射はなく、寄生虫も脳まで到達しているようで、助かる可能性は低いとの事だった。オーナーさんも泣いてしまっていて、どうしたらいいか分からなかった。その他には目の周囲が皮膚癌の馬を見た。腹部に腫瘍もあり、エコー検査や直腸検査を行った。こっちでは馬や牛などの大動物をペットとして飼っている人がとても多い事に驚いた。

少し早めに終わり、折野先生にバス停を教えてもらいながら、ジョージアグッズが沢山売っている“Book store”に行った。色々お買い物を楽しんでホテルに戻った。

夕方から Dr.Corrie のお宅のホームパーティーへ。すごく愉快的な先生でとても楽しい時間を過ごすことが出来た。ホテルに戻ってから Monster を買いにコンビニへ。違う味を4本とお水を購入。折野先生も買っていたので、カラオケナイトの前に一緒に飲む約束をした。部屋に戻ってお風呂に入って洗濯をし、一人ビールを飲んで日記を書きながら寝落ちしてローテーション一日目終了。

(8月21日 ローテーション2日目 & Terrapin)

昨日と同じく large animal。昨日買ったお水がこの上なく不味くて朝からテンションが下がった。今日は昨日よりも忙しくなく、回診が終わってから日本への留学経験がある Lydiaさんと日本語でお話したりした。午後に馬のオペがあり、間近で見学させてもらった。腓骨末節骨折の骨片を取り除くオペだった。予想以上に大量に出血していたので少し驚いた。大動物のオペ室は外から中にロープが2本繋がっていて、それを患畜の

鼻としっぽに結びつける。麻酔から醒めて立ち上がる兆候を見せたら外からロープを引っ張り完全に立ち上がらせる。怪我の防止らしく、こんな工夫もあるのだと感心した。また、Dr.Hart の飼っているヤギの聴診をさせてもらった。とても大きな雑音がして、エコー検査で重度の右心拡大が見られた。まだ生後6ヶ月なのにもう助からないと言っていた。すごくお利口なヤギで、診察中もじっとしてとても可愛かった。

夜はテラピンにビールを飲みに行った。ビールが大好きな私はこの日をとても楽しみにしていた。5種類程のビールを味わってほろ酔い良い気分のまま、みんなでタイヌードルを食べに行った。予想外に美味しかった。自分が思っているよりも疲れていたのか、この日はお風呂から上がってタオルを頭に巻いた状態であぐらをかいたまま寝た(らしい)。

(8月22日 ローテーション3日目 & ホームパーティー)

今日は Dermatology だった。皆さんとても優しく、VT の Bryan はセーラームーンが好きなどとても可愛らしい男性だった。午前中はバクテリア・マラセチアに感染し広範囲に紅斑のあるヨークシャテリア、目周囲が赤く爛れた犬、の2症例がきた。基本的にくしテスト、テープテスト、スクレイピングテストなどを行い、染色後に顕微鏡で観察する、といった流れだった。顕微鏡を覗かせてもらったが、特に何もいなかった。ひとしきり検査が終わると、オーナーさんと病状・これからの治療法などについて別室で話し合う。別室でのお話を聞かせてもらったが、自分の英語力ではあまり聞き取れず悔しかった。午前中はその2症例以外になかったので、隣の Community practice での避妊手術を見学させてもらった。先生が指示して学生が実際に

麻酔管理やオペをやっていた。午後は3症例を見た。1ヶ月前から痒みのひどかった犬は、アレルギー対応のウェットフードに変えてからだいぶ良くなったとオーナーさんが言っていた。背中に広範囲の紅斑があるラブラドルは押捺法とテープ法で検査をしたが、何も見つからなかった。足に痒癬と脱毛のある大型犬も同じく原因不明であった。

夕方から Dr.Hondalus のお家のホームパーティーにお邪魔した。豪華なお食事を頂いて、子供達と折り紙をしたりバドミントンをしたりして遊んだ。子供達が本当に素直でいい子が可愛かった。ホテルに戻ってから鹿児島大の女の子の部屋で飲み、そのまま寝てしまった。

(8月23日 コカ・コーラパーク & CNN センター & ホームパーティー & Beach party)

コカ・コーラパークではお土産売場のレジのお兄さんが日本人とのハーフで、日本語がペラペラでビックリした。コーラの試飲が楽しかったが、炭酸の摂取のし過ぎでお腹が苦しそうな人が何人か居た。湿布薬みたいな味の飲み物もあって、不味かったのでオススメはしない。CNN センターではお昼ご飯を食べてお土産を買った。タウリンは格好良い帽子を購入していた。

夜は Dr.Hensel のお家のホームパーティーに行った。すごく素敵なお家で、暗くなってくると至る所で蛍が見えてとても綺麗だった。子供達が元気過ぎて遊び相手をしていた何人かはぐったりしていた。Dr.Hensel の奥様が関西出身の日本人の方で、色々と深いお話を聞かせて頂いた。そこに来ていた学生に Beach party に誘われて急遽行くことになった。みんなでダンスフロアで踊って、テキーラを飲んで、服のままプールに飛び込んで、

ものすごく盛り上がった。・・・のはいいものの、飲み過ぎて撃沈してホテルに戻った。はるちゃんあきみちゃんありがとう……。 (反省)

(8月24日 アウトレット & カラオケナイト)

この日は朝からアウトレットへ行った。広いアウトレットにも関わらず与えられた時間はたったの1時間。とりあえず好きなお店に入って服を何着か購入。そして昨日の Beach party でなくしたビーサンの代わりにするものも購入。満足してホテルに戻り、お昼ご飯はみんなでピザを食べに行った。生地やトッピングも自分で選べるようだった。

その後 Monster を注入してカラオケへ。2時間程度楽しんだ。ここでは一昨日のバドミントンで負けた罰ゲームとして、私と師匠2人でタイタニックの名場面をやらされてこの上なく恥ずかしかった。タウリンが浜崎あゆみの “seasons” を「sea sons、海の子達」と言っていた。今日の名言である。ホテルに戻ってから何人かで飲み直して寝た。

(8月25日 ガーデン & プール)

二日酔いのためホテルでの朝食を諦めてギリギリまで寝ていた。支度をしてハチドリを見にガーデンに行った。無事に日本では見ることの出来ないハチドリを見ることが出来て感動した。ハチドリはとても小さく、本当にハチのように飛ぶんだなあと思った。

お昼過ぎから Dr.Gogal のお家へ行った。大きなプールがあり、みんなでバレーをしたり水かけ合戦をしたりして遊んだ。いい天気の中、美味しいご飯とワインも頂き、疲れたけどめっちゃくちゃ楽しかった。師匠はタウリンから色々な技を教えてもらっていた。今日一日でだいぶ日に焼けた気がする。ホテルに

戻り、音楽をかけながら北里メンバーで飲んでから寝た。

(8月26日 ローテーション4日目 & walmart)

ローテーション2週目の今日はSoft tissue だった。オペはなく8件の診察のみだった。マスを取った猫の術後経過を診たり、尿石症のポメラニアン、左肋骨に大きなマスがありバイオペシーをする予定の猫、首に異常があり触診すると咳をする犬、門脈体循環シャントのマルチーズ、左肩甲骨に大きなマスのある猫、口腔内腫瘍のあるグレートデン等の診察をした。ポメラニアン、マルチーズ、肩甲骨にマスのある猫、グレートデンは明日オペをする予定との事だった。簡単な保定をお手伝いさせて頂いたり、カルテを見せてもらって疑問点を聞いたりした。お昼過ぎには全ての診察が終わったので、頭の腫瘍摘出のオペを見学してからホテルに戻った。

夕方からは“walmart”に行ったが、ここでも与えられた時間はたったの1時間のみ。こっちに來てから買い物がめっちゃくちゃ早くなった気がするのはいのせいだろ。目的のお土産・シャンプー・朝食は買えたのでひとまず安心。

夜ご飯はホテルから歩いて近くの雰囲気の良いレストランへ行った。ボリュームたっぷりのサンドイッチを頼んだがこれがもの凄く美味しかった。いくつかのメニューにパクチーが入っており、やはり自分はパクチーが苦手だと感じた。ホテルに戻ってあきみちゃんとはるちゃんと3人でプチ女子会をした。音楽をガンガンにかけながらワインを飲んであきみちゃんと踊っていたら、筋トレ中のはるちゃんに怒られた。ごめんなさいそしてお休みなさい。

(8月27日 ローテーション5日目 & スケートナイト)

昨日と同じくSoft tissue だった。今日は昨日診察した何匹かのオペがあった。口腔内腫瘍のグレートデンは腫瘍を切除し、取りきれなかった部分をCT スキャンすると言っていた。尿石症のポメラニアンは尿道カテーテルを入れて尿道から膀胱へ石を押し出し、膀胱切開して石を除去した後閉創していた。門脈体循環シャントのマルチーズのオペは胸腔を開けてからリングを通して、パンチバイオペシーをしてから閉創していた。マルチーズの中でもかなりの小型だったのでオペが大変そうだった。肩甲骨にマスのある猫は、触診させてもらったが、少し触っただけで分かる程マスがかなり大きかった。オペが始まってから30分足らずで摘出し、閉創までに1時間ちょっとしかかかっていなかった。摘出したマスはやはり大きかった。

夕方に学食で少し早めの夜ご飯を食べた。ピザが何種類もあってどれも美味しそうだったが、他の物も食べたかったので1枚にした。食べ終わってからスケートナイトへ。はるちゃんと“あきみちゃん、アメリカンボーイにナンパされる大作戦”を決行した。ドライバーの学生に協力してもらって色々作戦を練ったにも関わらず、あきみちゃんは自分のスケート時術を褒められたと勘違い。はるちゃんと私の苦労は水の泡となったが、確かにあきみちゃんはスケートがとても上手だった。私はお尻を強打して心が折れかけた。折野先生が安定して上手だったのでビックリした。去年の先輩も言っていたが、アメリカ人男性は転ぶとすぐに助けてくれて、本当に優しいなあと感動した。帰りの車ではタウリンが「朝が来ない夜はない」と、またしても名言を残していた。

帰ってきた時間が早かったので、北里女子

メンツでダウントウンに飲みに行った。ホテルで飲み直して、お腹が空いたので深夜1時にサンドイッチを食べてから寝た。

(8月28日 ローテーション6日目)

最後のローテーションは **Ophthalmology** だった。診察室は全部で3つあった。午前中は白内障のコッカースパニエル、緑内障で全盲の犬、白内障から緑内障になってしまった犬、などの診察をした。対光反射、眼瞼反射、**STT** 検査、**TONO-PEN** を使用した角膜の検査、などを一通り行い、診断後にオーナーさんとお話をする、といった流れだった。その中で何匹か保定のお手伝いをさせてもらった。全盲の犬は明日オペで両目を摘出するらしく、号泣するオーナーさんを見るととても辛かった。午後は角膜潰瘍の馬、ピンクアイの馬の診察のために大動物診療の方へ向かった。角膜潰瘍の馬は潰瘍が大きくなるように血清などを混和した留置針をしていた。その他に血液検査やスライドグラスでの検査を行った。今日のランチはハンバーガーやホットドッグを無料で食べれるとの事で、お腹いっぱい食べて幸せだった。ここでもお馴染みのポテトチップスがついてきた。

ホテルに戻り今夜は **Free Night** だったので、夜ご飯は折野先生のオススメのフライドチキン屋さんへ行った。色々な味があってどれもリーズナブルでとっても美味しかった。チキンを頬張るあきみちゃんを折野先生が幸せそうに眺めていたのが印象的だった。お腹いっぱいになって大満足。

(8月29日 ローテーション7日目 & Farewell Dinner)

ローテーション最終日は昨日と同じく **Ophthalmology**。この日は朝からミーティングルームで勉強会をした。内容としては、

こんな症例の時はどうしたら良いのか、緑内障について(発生機序や症状)、だった。獣医英語と電子辞書を片手に必死に聞き取ろうと頑張ってはみたものの、睡魔との戦いでもあった。その後はオペを2件見た。1件目は白内障のオペだった。目のオペを間近で見るのは初めてだったのでとても興味深かった。もう1件は昨日診察した全盲の犬だった。両目全摘のオペは個人的に結構衝撃的だった。オペの後に3件の診察があり、ローテーション最終日は終了。

Farewell Dinner のために鹿児島大は浴衣を着ていたのも、来年ジョージアに行く人は何か用意しても良いかと思う。北里は何も用意していなかったのも、はるちゃんとあきみちゃんと髪を編み込んで精一杯のおめかしをして **Dr.K.P.Carmichael** のお家に向かった。ジャングルを彷彿させるようなお庭があったり、**DJ** ブースがあったり、旦那さんの描いた絵が飾ってあったりと、お洒落でとても素敵なお家だった。リオのカーニバルで被るような帽子があり、みんなでまわして被った。折野先生、大和先生、タウリンの奇跡のスリーショットをカメラに収める事が出来たので満足。最後に集合写真が入った写真立てをプレゼントとして貰った。2週間前の事なのに何だかすごく昔の事のように感じた。

7日間のローテーションお疲れ様という事で、部屋でみんな集まって飲んだ。折野先生も来て下さって、みんなでトランプをしたりして盛り上がった。私はゲームで負けまくって大量のラム酒を飲む羽目に・・・言うまでもなく酔っ払いました。ごめんなさい。

(8月30日 Georgia Aquarium)

2日酔いで目覚めて慌てて荷造りをして **Aquarium** へ。この時点でスーツケースに大きな紙袋2つ。帰りが恐ろしい。 **Aquarium**

はジンベエザメも居て、すごく綺麗で幻想的だった。あきみちゃんがピラニアの水槽前でピラニアの顔真似をしていてそっくりだった。イルカショーは水がかかる前の席に座った。日本とは違う、ミュージカルの様なイルカショーだった。タウリンが隣で「あの人かわいそう、カワウソ～」とギャグを披露して下さった。

Aquarium を後にして空港近くのホテルに移動。少し仮眠してから近くのマックに歩いて行った。セットを頼んだが、ポテトの味が少し薄かった。その後はカロリーを消費するためにホテルに付いているプールで遊んで、ホテル内で夜ご飯を食べた。夜はみんなで最後の飲み会をした。この2週間を振り返る話をしたり、写真のデータを共有したりして、「ああもうお別れなんだな」と急に寂しくなった。

(8月31日～9月1日 帰国日)

最後の荷造りを終えて空港へ向かった。空港で記念撮影をして、免税店でお買い物をした。鹿児島大とはゲートが近かったので、ギリギリにお別れをする事が出来た。最後の記念撮影をしていると寂しくて泣いてしまった。一度泣き出すと止められない性格のせいでもさかの一人号泣状態。きっと空港に居た周りの人達は何が起こったのかと思った事だろう。折野先生が飛行機内で食べるように購入していたサンドイッチを、泣いていて可哀相だからと言ってくれた。その優しさにまた泣きそうになった。飛行機内ではほぼ寝ていたので思っていたよりも早く日本に到着した。ただいま日本。

この2週間、本当に濃くて大変充実した毎日を過ごす事が出来た。関わった全ての人達に感謝したい。アメリカで学んだ事を無駄にしないように日本でも自分のやるべき事に向

かって頑張りたいと強く思った。

Thank you for the stay in Georgia

I could spend valuable time in Georgia this summer.

I was very nervous until before going, but people I met there were kindness to me everyone.

The two weeks I spent in Georgia, and helped me make good experiences that can not have in Japan.

I want to study harder to make good use of my experiences without wasting precious time than I used to be.

Someday I want to visit this place and meet a lot of people who took care of us.

With love and appreciation from the bottom of my heart to everyone who had involved in...

Narumi KANZAKI

萩原 崇

8月17日(1日目)

今回の研修が初めての海外旅行になる自分は、成田空港に向かう電車の中でワクワクしているというより、不安の方が強かった。しかし、空港で今回の研修のメンバーと会い、搭乗手続きを済ませ飛行機に乗り込むころにはアメリカへの期待感の方が大きくなっていった。

今回利用した DELTA 航空の国際線の飛行機には、前の座席にモニターが付いていて、

たくさんの映画などを見る事ができた。さらに飛行機の中では、ビールやワインが飲めるので10時間という長いフライトであったが、そこまで長く感じなかった。

乗り換えをおこなうサンフランシスコに到着すると自分の身長が縮んだかのような感覚に陥った。みなさん大きく、民族の違いを実感した。

自分の中での不安の一つ、入国審査を受ける時が来た。海外が初めてで英語が苦手な自分はかなり緊張していた。しかも最初に審査を受けた人はかなりの質問攻めにあっていたので、さらに緊張した。しかし、自分が審査を受けるときには、同じグループの一員とみなされていたので簡単に終了した。英語が苦手な人は、誰かが行ったあとから行くの良いのかもしれない。

サンフランシスコ空港でアメリカでの初めての食事にサンドウィッチを食べ、ジョージア大があるアトランタまでの国内線の飛行機に乗りこんだ。アトランタまでは4時間程度で到着するので、前のフライトに比べたらあっという間だなと思っていたが、これはおおきな間違いであった。日本時間ではまだまだ寝ている時間だったので、座席に座ると自分たちはすぐさま寝てしまった。1時間程して、異常なまでの寒さで目が覚めた。国内線の冷房はアメリカ人仕様になっており超強力で、しかも冷房の切り方が分からなかった。さらにブランケットを借りようとしたが、すでに借りられるブランケットはなくなっていた。半袖半ズボンの格好をしていた自分には地獄のような時間であった。帰りの飛行機では、防寒対策を完璧にしようと心に誓った。

アトランタに着いたのは、午後10時だった。迎えに来てくれていたジョージア大の方にはすぐに会えた。空港から大学のホテルまで車で2時間もかかった。自分は運転席のす

ぐ後ろに座ったので、何か喋り掛けなければ思っていたが、結局2分ほどしか喋れなかった。

日本にいるうちにもっと英語になれておけばよかったと思った。

8月18日(2日目)

今日は、大学にてお昼ご飯を食べ、夕方からDr. Frankさん宅でホームパーティーを開いてもらった。一緒にクリニカルローテーションをまわる鹿児島大の人たちとは、今日が初顔合わせだった。少し緊張したが、ホームパーティーでお酒を飲みながら、テレビゲームをしたり、アメリカの家庭での遊びを一緒にするうちに少し打ち解ける事ができた。

Dr. Frankさんは北里大学に研修に来たことがあり、北里大学の先生方と撮った写真や、旅行で訪れた屋久島の写真などを見してもらった。とても日本が好きらしく、家の中にはけん玉や、トトロの人形など日本の物がたくさんあった。自分の拙い英語力でもいろいろ話すことができた。また、日本とは違うなあと考えたことは、大きな庭に柵を作って犬を自由に遊ばせていたことで、犬は本来こうやって飼うべきなんだろうと思わされた。食事の量には驚かされた。片側の肋骨がすべてくっ付いたスペアリブを6ブロックと、他にも大量の食事を用意してくれていて、全然食べることができなかった。どの料理もとてもおいしく、これだけでもアメリカに来たかいがあった。

8月19日(3日目)

今日も大学でランチをとってから、クリニカルローテーションで回るところを案内してもらった。大まかには一次診療施設、二次診療施設、大動物施設に分かれていた。驚いた

ことに、大動物の施設が全く臭くない事だった。天井がとても高く、いたるところにファンがあって、換気が行き届いていた。

大学内の案内が終わると、大きなスーパーマーケットに連れて行ってもらった。明日から朝ご飯は自分たちで用意しなければいけないので、パンやサラダ、などを買った。お酒も少し買ったが、ビールがジュース並みに安いことに驚いた。買い物時間が30分しかもらえなかったのによく見る事は出来なかったが、アメリカを感じる事は充分できた。

夕方からは、ボーリングに連れて行ってもらった。毎回車で迎えに来てくれる学生が変わるので、いろいろな人とコミュニケーションをとる機会を与えて頂いてとてもありがたかった。

8月20日（4日目）

今日からついにクリニカルローテーションが始まる。当然のことだが、とても緊張しており、朝早く起きてしまった。

自分は今日、明日と軟部外科にお世話になる。ジョージア大の方に軟部外科の部屋へ案内され、その学生に引き渡された。その学生はキムというとても親切な方だった。軟部外科の今日の予定は、バイオペシーなども合わせてオペが8件あり、1日中オペが行われていた。北里大学では考えられない数を平気でこなしていた。日本での手術多くが、麻酔導入から覚醒まで外科医がみるが、アメリカでは麻酔管理専門の獣医師が麻酔導入、術中の麻酔管理、術後の覚醒まで責任を持つてみるので、外科医は手術にだけ集中できる。オペ数も増やせるし、手術に集中できるので効率の良いシステムだなと思った。

今日、自分が見たオペの内容は、①右前肢遠位橈尺骨の腫瘍による断脚。②腰部椎間板ヘルニア治療のための除圧術。③体表マスの

バイオペシーである。

①は初めて見たが、犬が40kgと大きいので、かなり時間がかかっていて、出血も多かった。術中に腕神経へ局所麻酔薬を投与していた。さらにモルヒネもi.v.していた。

②、③は北里で行っていることとほぼ変わらなかった。③は学生がやっていた。自分と違いやれるだけの知識と努力があるのだろうが、羨ましかった。採ったものは、北里と同じく病理科に回していた。

そのほかにも色々なオペをしていたが、今日見れたのはこれだけだった。

5時ごろに大学からホテルに戻ってきて、すぐにDr. Brown 宅でのパーティーに向かった。この日は、たくさん話すことができた。ブラジル人留学生の方に名前が気に入ってもらえたのか、ずっと「タカーシー、タカーシー、飲んでるか？」と気にかけてもらった。とても楽しい夕食になった。

8月21日（5日目）

今日の軟部外科は診察日で、スコットという学生について回るようになった。自分の患者について丁寧に説明してくれた。この患者は若いブルドックで、飼い主は避妊手術を望んでいるが、心疾患をもともと持っており、心臓科の先生と共に麻酔に耐えられるのか十分に検査していた。

診察の流れは、まず担当の学生が飼い主と1対1で話し、その後一旦先生と相談して、診断や治療の道筋を立てていく。とにかくしつこいぐらいに視診、触診をしていたのが印象的だった。特にリンパ節は注意してみていると言っていた。

そのほかにも、肛門周囲腫疑いの患者などが診察に来ていた。

今日の夜は、地ビールのTerrapin ビールの醸造所でたくさんのビールを試飲した。

8月22日（6日目）

今日は眼科に配属された。ほとんど知らない分野なので楽しみではあった。今日はオペ日で、予定は①白内障、②腫瘍による両側眼球摘出、③眼瞼内反症、であった。

まず白内障のオペを見た。金井先生の授業の動画で見たものとほぼ変わらなかったと思った。術者の先生が途中で音楽を流せと言って、オペはリラックスムードで進行していた。

眼摘は、初めて見た。案外時間がかかっていた。両側を摘出してしまうのは、アニマルウェルフェア的にどうなのだろうという疑問が湧いたが、自分の英語力ではきちんと伝えられそうになかったので、質問できなかった。恐れずに聞けば良かったと思った。

眼瞼内反症のオペは眼摘と同時並行してたので見る事が出来なかったが、手術としては眼瞼周りを少し切って内反を抑えるように縫合するらしい。

今日で今週のローテーションが終了した。週末は思いっきり遊んでやろうと思った。この日の夕食もホームパーティーに呼んでいただいた。送り迎えをしてくれる車の中で自分は助手席に座ることが多く、今日も助手席に座ると、運転してくれていたジェニーがとても楽しい人で、ずっとしゃべっていることができた。ジェニーは、「ハラヘッタ、サカナ」という日本語をずっと覚えようとしていた。

8月23日（7日目）

今日はワールドオブコークというコカコーラミュージアムに行った。アトランタ空港の近くにあり車で2時間ほどかかった。コーラの歴史などをみて回ってから、最大の目玉である世界中のコカコーラの試飲した。全部で100種類ほどの製品があった。その中でも、アメリカ人の子供がよろこんで大量に飲んで

いる種類のコーラがあった。これがうまいやつか、と思い自分も飲んでみると、めちゃくちゃまずかった。文化の違いを実感した。

ここで少しおみやげを買った後に、すぐ近くにあるCNNセンターへ行ってランチした。日本でいうジャンクフードの類の店がほとんどを占めていた。ここでバーガーを食べ、ホテルに戻った。

今日は、Dr.Hensel 宅でホームパーティーがあった。自宅の庭ではちみつや、ハーブを栽培しており、それで使った料理をいくつか出してもらった。暗くなると庭でたき火を囲んで自家製ウインナーとビールを飲みながらアメリカに浸った。

8月24日（8日目）

今日はアウトレットモールに連れて行ってもらった。アバクロのアウトレットショップがあり、かなり安くてテンションが上がったが、T-シャツ1枚に留めた。

夕方からは、カラオケに連れていってもらった。アメリカの人はあまりカラオケはポピュラーではないらしく、連れて行ってくれた人たちは、歌うことに乗り気ではなかった。しかし、英語の曲を歌うと盛り上がってくれた。

8月25日（9日目）

今日はホームパーティで仲良くなったジョンさんに、ハチドリを見に植物園のようなところに連れて行ってもらった。生で野生のハチドリを見る事が出来て感動した。

午後からは、Dr. Gogal 宅に招待された。プール付きの大きな家だった。みんなでプールで遊んだり、バーレーボールをして楽しんだ。

8月26日、27日（10・11日目）

今日からまたローテーションが始まった。今日明日は大動物内科に配属された。入院している動物は、日本では牛が多いが、ここでは半分以上がペットとして飼っている馬だった。臨床症状に疝痛を持つものが多かった。

大動物内科では、朝一で学生が自分の担当している入院患者の容態を先生に報告する。それが終わってから必要な処置をしていく。

この2日間で見た症例は、①術後の馬で疝痛を起こしているおり、エコー検査したところ腹水が溜まっていた。前日は体温が高かったのでNSAIDSを投与したところ平熱に戻ったらしい。処置として腹水を溜めないために腹部にバンテージを巻いていた。

②馬の *Streptococcus equi* による感染症で、咽頭に問題が起こっていて、鼻から内視鏡を入れて検査していた。治療は抗生物質を投与していた。③子馬のサルモネラ感染症で、四肢の皮膚に膿を伴う糜爛がある。一週間に1度バンテージ交換して、抗生物質入りクリームの塗布と全身投与をしている。一カ月近くそれを続けているらしく、改善してきたようだった。④大動物外科のオペで馬の手根関節の **Tip fracture** を起こしている。ケタミン、キシラジン、グアイフェネシンの混合薬で導入して、全身麻酔。顔面動脈から血圧を随時測定していた。オペ中は手で持てるX線で確認していた。

8月28日、29日（12・13日目）

今日から皮膚科に配属された。とても気さくな人たちだった。

見た症例は、①皮膚と耳の痒みをもつ犬、全身の身体検査と採取した耳垢と肢間のアセテートテープにより採材ものを **Diff quic** 染色で鏡検したところ、耳からは酵母菌が、子癰からは皮膚糸状菌が見つかった。治療は、

飼い主にマラセブシャンプーで洗ってもらう。②猫の外耳道内のマスの内視鏡による除去。2年前にも同様の処置を行っている。デキサメタゾンと抗生物質による治療を行っている。③アレルギーテストでスキンテストを行った。片側の体幹部の毛を剃り、そこに64穴ほどの穴の開いたシートをあてて、その穴の部位の皮膚にアレルゲンを皮内注射していく。アレルゲン投与から、15分後と30分後の皮膚の腫れの大きさから判定する。陽性コントロールには高濃度のヒスタミンを使用し、陰性コントロールにはこの犬の血清を使用した。結局明らかなアレルゲン物質は特定できなかった。

今日でクリニカルローテーションが終了した。毎日、緊張と不安の連続だったけれど、どの方も質問をしたら丁寧に答えてくれたし、こちらを気にかけて話しかけてくれる方もいた。とてもいい経験になった。

8月30日（14日目）

今日は、2週間ほど宿泊した大学のホテルをチェックアウトして、アトランタにあるジョージア水族館に行った。大きなジンベイザメのいる水槽や、アマゾンの生物のいるゾーン、イルカショーを見て楽しんだ。イルカショーはミュージカル形式で突っ込みどころが満載であった。

この日はアトランタ空港近くのホテルに泊まった。プール付きのホテルだった。みんなで過ごす最後の夜だったので、明け方までお酒を飲んで、楽しい時間を過ごした。

8月31日（15日目）

ついにアメリカとも、仲良くなった鹿児島大のみんなともお別れで、悲しい一日だった。しかし、帰りの飛行機の中では、スウェッ

トとパーカーという完璧な防寒対策のおかげで、快適なフライトだった。

この研修を終えて、たくさんの人たちと出会うことができ、アメリカに行って良かったなと心から思えた。

Thank you for everyone who I met in Georgia University, especially Dr. Malorie, Dr. Brown, Dr. Hensel, Dr. Hondalus, and Dr. Carmichael. They invited us for home parties, and welcomed us very kindly and gently. So we spent a wonderful time. I had a lot of great experience thank to Drs and students in UGA. I will never forget this stay.

I would like to visit UGA again.

Takashi HAGIWARA

早部 裕紀

8月17日(土)

成田空港に集合して無事に出発。サンフランシスコで乗り継ぎだったが、入国審査が眠い状態で早口の英語で話されとても大変だった。おそらく二週間の中で最大の難関だったと思う。アトランタ行の飛行機では時差ボケのためかほとんど目覚めることなく寝ていた。到着してから迎える学生と出会えるか不安だったが、難なくすぐに出会えた。そしてホテルまでの一時間半もほとんど寝てしまい、迎えに来てくれた学生とも全く話せず申し訳なかった。ホテルに着くと0時を過ぎていたのですぐに就寝した。

8月18日(日)

昼前に Welcome Brunch があり、その前には初めて鹿児島大学の人たちと顔を合わせ自己紹介した。とてもカラフルなベーグルや sweet tea というガムシロップみたいな紅茶などアメリカを感じられる食事だった。夜は Game Night で Wii をやったり、アメリカっぽいチキンを食べたりした。

8月19日(月)

Lunch を取った後、病院の見学をした。アメリカではポテトチップスをフライドポテト感覚で食べるということを知った。見学の後に副学長などと一緒に集合写真をとった。その後は、Pubrix というスーパーへ行って、朝ごはんやお酒を買った。夕方にボーリングに行き、夜は北里でダウンタウンのステーキハウスへ行った。

8月20日(火)

Small Animal Orthopedic Surgery

案内されていくと部屋に誰もいなかったため、Soft Tissue を見ていたがすぐに呼ばれたので戻るとすでに勉強会のようなものが始まっていて挨拶のタイミングを失った。先生が X 線画像を見せながら生徒たちに質問するという形式で行っており、学生たちは自信を持った様子で答えていて早々にして日本とアメリカの学生の違いに驚かされた。一通り質問した後は手術後の X 線を見せあっていた学生を Fantastic! と褒めていた。症例は腸骨・寛骨の骨折だった。勉強会が終わるとどうにか挨拶ができた。印象的だったのは一匹の患畜にかかる時間が非常に長いということだ。まず担当になっている生徒が TPR などの基本的な診察をした後歩様を見たり神経学的検査をしたりしていたが、何度も検査したら今度は別の生徒が同じ検査をして、最後

に先生が来て生徒が主訴等を説明し検査をするといった感じだった。膝関節に関する症例が多く、前十字靱帯断裂のイヌが来たときに **Drower Sign** と脛骨の引き出し徴候をやらせてくれた。忙しそうではあったが質問をすると丁寧に説明してくれ、オーナーに渡す **History** や検査結果、診断名、治療方針などが書かれたものまで印刷してくれた。夜は **Dr. Corrie Brown** の家でパーティーがあった。

8月21日(水)

Small Animal Orthopedic Surgery

この日はオペ日で膝蓋骨内方脱臼の手術を見学した。滑車溝形成術と脛骨粗面の転移を行っていた。主に先生が手術を行うが、所々担当の生徒が教わりながら手術を行っていた。他の生徒たちは自由に見やすい位置に移動しながら質問をしていた。手術中は音楽をかけながら雑談をしたり、**VT** さんはタブレットで本を読んでいたたり、麻酔担当の麻酔科の学生は携帯をいじっていたり、電話にも普通にしたりしていて、文化の違いを感じた。オペは一件だけだったので午後は入院患者の処置と前日と同じ形式での勉強会があった。夜は **Terrapin** という地ビール工場へ行っていろんな種類のビールを飲めたが、ちょっと飲みすぎて気持ち悪くなった。そのあとダウンタウンのヌードルのお店に行ったがあまりおいしくなかった。

8月22日(木)

Oncology

朝はまずミーティングがあり、ホワイトボードに書かれた一日の全予定について一件一件担当の生徒に説明をさせていた。ただでさえ分からない専門用語を略語にして説明しているので理解するのは大変だった。来た患者

を片っ端から **FNA** してスライドを作って観察していた。肝臓と右側腹腔の **mass** のバイオプシーの時はエコー室へで行った。この時アメリカに行って初めてミニチュアダックスを見たのだが、日本のものと比べるととても胴が短かった。また、退院する患者には **Congratulation** と書かれた卒業証書みたいなものを渡していて、あなたとあなたのペットは素晴らしかったみたいなことが書いてあった。オーナーに説明する場にも立ち会わせてもらったが、その説明はとても細かく丁寧に治療方針を相談しながら決めていた。オーナーと先生に限らず、先生と生徒、生徒と生徒でも非常に会話が多いということではアメリカにいる間ずっと感じられた。他には抗癌剤治療も行っていたが、留置から投与まですべて **VT** さんがやっていた。夜は **Dr. Hondalus** の家でパーティーがあり、庭にバトミントンのコートがありみんなでバトミントンをした。

8月23日(金)

Atlanta の **World of Coke** というコーラのミュージアムみたいなところへ行った。コーラの歴史や、アトランタオリンピックの時の聖火の展示などがあり、最後には世界中のコカコーラ社の飲み物が飲み放題だったがあまりおいしいと感じられるものはなく、スタンダードなコーラが一番おいしかった。その後はオリンピック公園を歩いて **CNN** へ行ったが、お昼ごはんを食べただけでかえってきた。夜は **Dr. Hensel** の家でパーティーだった。奥さんは日本人で奈良の出身と聞いていたがアメリカ生活が長いせいか不自然な日本語だった。しかもたまたまこの日に裁判所から結婚の許可がおりたということでお邪魔してしまい申し訳なかった。終わったあと学生たちに誘われて **UGA** の学生がやっ

る新入生歓迎パーティーのようなものに参加させてもらったが、とにかく楽しかった。

8月24日(土)

昼ぐらいいにアウトレットへ行き買い物をした。一時間半くらいしか時間がなかったので全部見て回ることはできなかった。夜はカラオケのあるお寿司屋さんへ行った。お寿司は不味くはなかったがおいしくもなかった。

8月25日(日)

午前中にハチドリを見に Garden へ行った。日本の森林公園のような感じで様々な植物や蝶がいて、目的のハチドリも見ることができた。3時から Dr. Gogal の家でパーティーだった。家にはプールやバレーコートがありとても楽しむことができた

8月26日(月)

Community Practice Clinic

この日から CPC という一般診療を行う科へ行った。前の週に行った科に比べると忙しくはなく、同時に 2,3 匹の診療をしていたが時間がとてもゆっくりと過ぎて行った。やってくるイヌは大型犬が多かったが、小型犬に比べるととてもおとなしくいうことをきいていた。ワクチン接種が多かったが、打つ場所が前肢だったり後肢だったりで日本とは違っていた。ワクチンを打った後は担当の生徒が一時間くらいだっこして様子を見ていた。他には、二か月前に事故にあったイヌのリハビリを見学した。温熱療法、マッサージをした後に、バランスボールやハードルを使って行っていた。Rotation の後は Wal-Mart へいった。

8月27日(火)

Community Practice Clinic

この日は朝行くとすでにネコのスケーリングをしていた。ヒトの歯医者にあるのと同じような機器がそろっていて、手持ちのおもちゃの銃のような X 線装置もあった。続けてイヌの抜歯をしていて抜けにくい臼歯は割ったり、犬歯は歯茎を切開したり人間と同じような方法がとられていた。このイヌは計 3 本抜歯して、覚醒後は痛みのためか鳴き続けていた。午後にはパッドを切ったイヌや術後の抜糸があった。夕食はビュッフェ形式の学食へ行った。料理の数は多く、同じような学食が大学内に複数あり、年間パスポートまであることに驚いた。そのあとは、Skate をしに行ったが、初めてだったので難しかった。

8月28日(水)

Dermatology

最後の科はみんなに好評の皮膚科だった上に初めて 2 人だったのでとても気が楽だった。基本的な診察をした後、皮膚病変の観察、採材を行いスライドの観察というながれだった。耳道内にポリープができた症例では内視鏡を使って VT の Bryan がとっていた。術後はデキサメサゾンで炎症を抑えて再発を予防するといっていた。本格的な手術はとても高いらしく、二年前にも一度とっているとのことだった。他には食物アレルギー検査を見ることができた。検査は 59 項目あり、ポジコンにヒスタミン、ネガコンに生食を使っていた。項目は地域ごとに違っていてゴキブリの抗原まであった。この日のお昼は大学主催の BBQ があり、手作りのハンバーガーを Derma の人たちと食べた。夜はダウンタウンに折野先生お勧めのチキンを食べに行った。

8月29日(木)

Dermatology

ClinicalRotationの最終日。初めは両耳に酵母、マラセチア感染のあったブルドックのrecheckがだった。ジョージア大学のマスコットがブルドックなので毎日何匹かブルドックが来ていたがDr.Henselはこんなに皮膚トラブルの多いイヌを飼う人の気持ちが分らないと冗談混じりに言っていた。午前は診察が3件あっただけの上に、Dr.Henselがハネムーンと学会のために午後からいなくなるということで午前だけで終わった。夜はDr.K.P.Charmichaelが家でFarewell Dinnerを開いてくれた。二週間の間にお世話になった人たちも参加して、最後には初日に撮った集合写真をもらえてとても嬉しかった。

8月30日(金)

UGAに別れを告げ、AtlantaのGeorgia Aquariumへ行った。水族館は日本の方が上だと思ったが、イルカショーはイルカより人間が前に出たミュージカルみたいで衝撃的だった。水族館を出たら、空港近くのホテルへ向かいそこで二週間ずっとお世話になった3人に別れを告げた。夕食をダウンタウンに食べに行こうとしたが、少し遠いのと治安が悪いとのことで断念したことは残念だった。

8月31日(土)

ホテルを出て、空港に到着すると搭乗予定の飛行機の行き先がシアトルになっていて焦ったが、聞いてみたら燃料タンクのトラブルのためシアトルで燃料を給油するとのことだった。ここで2週間を共にした鹿児島大学の6人とはお別れになった。行きの飛行機とは違いみんなの席が別々で不安だったが、席に着いたときに隣の人に後ろにいる友人と席

を替わってくれないかと言われ了承するとまさかの隣が神崎さんだった。

9月1日(日)

トラブルの関係で2時間くらい遅くなったが無事に日本に到着した。

Thank you for all of your kindness I experienced. I could have really exciting days in this externship at UGA.

People who I met in UGA were so kind, and this hospitality made my stay meaningful. When I asked some questions in my poor English, everyone tried to make myself understood more kindly and in more detail. I could find the difference between veterinary medicine education system in USA and Japan. Students of UGA were very eager to learn, had confidence in their thought, and respected Drs.

Finally, I appreciate everyone who supported us at UGA. All experiences I had at UGA will be nourishment for my future and I will never forget this stay. See you again.

Yuki HAYABE

李 雅羅

【8.17.Sat】

行きの飛行機はとにかく冷房が効きすぎて寒かった…。座席に一人一つモニターがついていて、DSがなくても映画も見れて暇つぶしには困らなかったが、寒い！寒すぎる！！もらえるブランケットもぺらぺらの薄っぺら

い布でなんの助けにもならなかった（泣）来年、海外研修行こうと思ってる人へ。絶対上着を持っていきましょう!!!

Atlanta に着くと、Georgia の学生の人を迎えに来てくれていてここで初本場での英会話。案外簡単な会話くらいはできて、ちょっと一安心。ホテルに到着すると、広い綺麗な、なんなら Welcome Fruits が置いてあって感激した！そして、みんな飛行機での疲れもたまっていたせいか、すぐに就寝。

【8.18.Sun】

今日は朝から Brunch。日本のビーグルとの違いにびっくり！日本の 2 倍は確実にありましたよ。北里の女子、必死にクリームチーズをとりまくる。とある人が、ホテルにお持ち帰りするために、飲み物のために用意してあったコップにクリームチーズを入れまくっていたのは、ここだけの話（笑）Brunch 後は、Georgia 大の方から人形、タンブラー、ホイッスルなどたくさんのお土産を戴き感謝感激。鹿児島大の人とも自己紹介して、すぐに仲良くなった。ちょこっとの空き時間でダウンタウン巡り♪目的のお酒は日曜日だったせいか、どこも売ってなくて断念…。Dinner は、Dr. Malorie のお家に招待してもらって Game Night & Welcome Party。Corona ビール（ライム入り）、Lager ビール、sangria などいろんなお酒を用意していただき、クッキー、タコスチップ、アボカドディップ、さらにスペアリブまで出していただいて気持ちもお腹也大満足だった。数年前に十和田に来たことがあるらしく、1 外や青森の写真をしながら、北里大の話や赤ちゃんの話、3 匹のワンちゃんの話などいろんな会話を英語で話すことができて物凄く楽しかった!! カゴ大（鹿児島大）の人とも Wii で GAME したりと、よりいっそう仲良くなって本当に有意義

な時間を過ごせた。ホテルに帰ってきて、みんなで近くのガソリンスタンドのコンビニを物色。

【8.19.Mon】

今日は朝から目覚めのベーグル！からの Lunch は大学でチキンラップをもらった。ここで気づいたのが、アメリカは Lunch に必ずと言っていいほどポテトチップスを一緒に食べるらしい。もちろん自分はお持ち帰りしましたが...(笑) Lunch 後は、Campus ツアー。一番驚いたのは、大動物の施設の規模。犬用の入院室があるように、馬用、牛用、やぎ用、アルパカ用まで用意されていた。ちなみに北里大と違うと思ったのは、馬のオペをする時、術者と助手以外は術室の外でカメラの映像を見て見学するという点であった。これは、馬が暴れて危ないからだそうだ。そして、とにかく校舎が広い！絶対一人じゃ迷うくらいの規模である。ツアー後は、大きい Shop Mart に行って朝ごはんの調達。まっさきにサラダを購入した（笑）Bowling までの空き時間でまたまたダウンタウンへ!! お土産を購入した。Bowling は 4team で対抗戦。我が Team は Zack を混ぜての参戦！みんな健闘して、2 位に入賞したぜ！Bowling 後、お腹空いたってことで Diner はまたまたダウンタウンに繰り出し、Steak House へ！美味しすぎて、10oz のステーキをたいてしまった（笑）ホテルに帰ってきてからは、カゴ大と飲み会♪

【8.20.Tue】

今日はローテーション 1 日目！とうとうこの時がやってきた！Oncology の部屋に案内され、症例 30 件もの検査を見学。Oncology はキツイと先輩方から聞いていたが、思ったよりも質問もできて、いろんな場所にも案内

してもらい貴重な経験ができた。Lunch は学校のカフェテリアで食べたが、そこでべっちとたかし君に会って、物凄く疲れた顔をしていたのを覚えている。Oncology では、朝に軽いミーティングをしてから、それぞれ分担された症例を4人の学生で各自対応していた。基本的には学生が診察し判断、処置をして、わからない所を先生がサポートするといった形式。先生も学生一人に対して、ちゃんと付いてくれていてとても羨ましい環境だった。症例としては、meningioma、LSA、Oral mass、MCT などが多かったが、いつも一番多い症例は meningioma らしい。また、X-ray や CT、SIEMENS を使うところも見学させてもらった。この日の印象的だった症例は、oral mass で来院した13歳の猫(♂)だった。この子はずっと舌を出しっぱなしで、ご飯をあまり食べないらしい。原因は、歯から来る腫瘍だそうで、舌の下に水腫のような塊があった。左眼も閉じず、舌の下の腫瘍が鼻から移って、眼にも転移したのでは？と診断していた。学生の一人が聴診器を貸してくれ、Heart Murmur を聞き取ることができた。一通りの検査・診断をしてから、飼い主さんに報告するため、先生と学生とで待合室に向かった。飼い主さんには、これからの方向性として手術で下あごを切断して腫瘍を取る方法を説明したが、ショックだったせいか泣き出してしまった。Quality Life も考えたうえで、後日決断することにした。Oncology を見学するうえで、驚いたことはもう一点ある。なんと診察しながら、学生も先生までもお菓子をボロボロ食べてるのだ！ポテチ！クッキー！コーラ！チョコレート！すごい...(笑)これがアメリカというものなのか…。診察の最後はミーティングで、今日一日のまとめを学生が自分の担当した症例を発表し、今後どうするべきなのかなどをみ

んなで討論していた。これを毎日繰り返していたら、自然に知識が身に付くんだろうな〜とちょっと羨ましかった。Dinner は、Dr. Corrie のお家に招待されて Home Party♡チキンのアプリコットソテー、ポテトサラダ、手作りパン、ブラウニー、スイカ、お酒は Beer とブラジルなんとかってというライムのカクテルを頂いた。このカクテル、すごい度数が強いらしいのだけど、飲みやすすぎてみんなグビグビいったな〜(笑) UGA の学生さんともめっちゃ仲良くなって、ハングルで名前教えてあげたり、きゅーぱみゅぱみゅの曲で DANCE したり、本当に楽しい一日だった。

【8.21.Wed】

今日は2日目の Oncology。昨日の今日だったので、少しずつ慣れてきてすごく質問しやすかった。この日の印象的だった症例は、LSA で来院した10歳の猫(♂)だった。ちなみに猫では LSA が一番多い症例らしい。この子は、耳が聞こえてなくて、きっと腫瘍からくるものと判断されていた。腫瘍は腎臓の近くに 2finger ほどの大きさで、触診することができた。基本的に腫瘍の触診は、顎→前足の脇のあたり→お腹→最後肋骨→股関節→四肢のつま先の順に観察していくらしい。

ローテーション後は、カゴ大と一緒に TERRAPIN っていう Beer Brewery に行って、5種類の Beer の飲み比べ♪8回までおかわり OK だから、みんなでビアガーデン状態で食べて飲んだの幸せのひと時♡ Beer 苦手な自分でも飲めるやつがあって美味しかった〜。それからホテルに戻って、みんなほろ酔いだったのもあり、締めラーメンが食べたい！って一声から始まり急きょダウントウンへ繰り出し、Noodle 探しの旅へ♪運よくま

だ開いていた TAI SPOON っていうタイ料理屋にみんなで入ることに。日本のラーメンとは違ったけど、久しぶりの麺... 美味しすぎたあ〜。グリーンカレーも食べたかったなあ。

【8.22.Thu】

物凄く目覚めの悪い朝。気合を入れ、向かうは Cardiology!!

Oncology と違って、一日の症例数は平均 2、3 件。この日は VSD、pacemaker、TR の三件来院してきて、主に検査・診断を行った。Surgery は基本的に Soft Tissue に回すらしい。日本と違うなと思ったのは、アメリカでの ECG は足のパッドではなく、わきに挟むクリップのようなもので測っていた点だ。Cardiology も Oncology と一緒に、検査・診断は学生が一人一匹を担当し、教授がサポートして説明を付け足す形式だった。エコー検査をして、X-ray と比較しながら、どこが異常かをずっと話し合っていた。

Dinner は、Dr. Hondalus のお家に招待され Home Party。ハンバーガーに、スモークチキン、パスタにサラダ、チョコレートフォンデュまで!! 小っちゃい女の子がめっちゃ可愛かった〜♡ なぜかすごく懐かれて、一緒に折り紙つくったり、人形で遊んだり、飼っていたうさぎと追いかけてこしたり。その後、庭に出てみんなでバトミントン大会! 白熱した戦いだった(笑)

あと、Home Party に来ていた学生さんや教授の方に英語の発音を褒められ、もの凄く嬉しかったのを覚えている。Yeaaaaahhh!!!! 夜はホテルに戻って、カゴ大と飲み〜♪ 毎日飲んでるのは気のせい... かな?(笑)

【8.23.Fri】

全世界共通! CokeCola! World of Coke!!! 本場のコカコーラ博物館に行ってきました。

もう終始ニヤニヤが止まらない(笑) ディズニーランドみたいで、なにからなにまでウキウキしちゃうものばっか。4D アトラクションや、自分でコーラの味を作れる機械、コカコーラのアイコンを自分の顔にできる機械、そしてなんといっても全世界のコカコーラを試飲し放題だったのは凄かった。炭酸嫌いだったけど、この日だけは頑張ったよ(笑) スペインかドイツはスイカのコカコーラだったし、マダガスカルは確かバナナとココナッツが混ざったような味がしてたなあ〜。Lunch は近くの CNN Center でサンドイッチを頂きました。ポテトも追加したんだけど... うん、サイズおかしいよね。そして、なんだかんだペロリと食べてしまったよね。アメリカ、恐ろしい。Dinner は、Dr. Hensel のお家に招待され Home Party。なんとこの日は、Dr. Hensel と奥さん(関西弁の綺麗な日本人)との結婚された日だったそうで... Congratulations!!! この日もまたまた子供たちに懷かれ、追いかけてこ&プロレス開始(笑) その後、Georgia 大の学生とめっちゃ仲良くなって急きょ Dance Night Party に招待されちゃいました♪一言でいうと...「カオス!!!!」(笑) 踊りまくるわ、テキーラ飲みまくるわ、まだ踊るわ... 最後はみんなで外の池にドッボーーン!!! ここには書ききれないくらい楽しい夜でした(笑)

【8.24.Sat】

昨日の今日ってこともあり、朝アウトレット行くまでのバスの中はみんな爆睡。アウトレットってこんなに安いんだ〜ってびっくりした... けども、お金がなくて何も買えず。帰りにホテルの近くの多国籍レストランに寄ったけど、並びすぎて断念。近くの Your Pie っていうピザ屋で Lunch。みんなでいろんな味を頼んで Share♡いつもは一切

れしか食べない自分でも、普通に1枚いけちゃいましたよ(笑)知らない間に徐々に胃が拡張してるんだなあ…。夜はカラオケのある日本食レストランに。みんなで久しぶりのお寿司、カリフォルニアロールを食べながら歌いまくった♪タイタニック歌った時は、アメリカの人もわかってくれてポーズとかしてふざけてたらめっちゃ笑っていた。帰り際に、「君すごい歌うまいから、死ぬまで歌うことやめないでね」って褒められ、洋楽を本場の人に褒められることってこんなにも嬉しいんだなって思い、一人で舞い上がっていた(笑)

【8.25.Sun】

15:00 まで予定がなかったので、緑ちゃんが提案してくれたハチドリ Hummingbird を見に Garden に行くことに。案内、車出しまでしてくださった John さんに心から感謝です。最初は全然見つけられなかったけど、最後の最後の2羽仲良く飛びまわってるハチドリを見れてよかったあ〜。ほんとに Hovering するんだなあって感動した。午後は Dr. Gogal のお家に招待され、お庭の Pool で遊ばせてもらえることに！子供たちと水鉄砲であそぶわ、追いかけてっこするわ、久しぶりの Pool は楽しかった〜。後半、大の大人達が男同士で日米戦争みたいに「Water War だぁー!!!」とか言っってはしゃいでいた(笑) Pool 以外にもビーチバレーとか、アメフトやったり、BGM に合わせて踊りだしたり…(笑) ちょうどお腹が空いたところに、Dinner もいただいちゃいました。久しぶりのパスタでみんな感激！つついとおかわり3回もしちゃった♡ 夜は北里だけで飲み〜♪明日からまたローテーション頑張る！

【8.26.Mon】

2 週目のローテーションの初めは Dermatology。伊藤先生の知り合いの先生である Dr. Hensel の科でもあるので入り込みやすかった。学生達もすごくフレンドリーで検査の空き時間にはディズニーの話、趣味の話、学校の裏話などをして楽しかった。

症例の方は、この日は4件来ていて比較的 평균らしい。主に診察・検査を学生が行うのだが、北里大学と違う点はアレルギー検査を直接自分達で行ってしまうところだ。69種類の Allergens を使って行うそう。あとは、テープ検査・スクラッチ検査・被毛検査・スタンプ検査など一般的な検査を行った。自分が一内で皮膚科におりてることを知っててか、検査や染色をやらせてもらえた。一番驚いたのは、Georgia 大ではアレルギー対策としてまずエサを kangaroo の肉に変えること、おやつとして Rabbit のジャーキーを与えることを推奨していた。日本にはまずないだろうなと思った。

ローテーション後は Wall Mart に行って、朝ごはんの調達。アメリカのケーキ…着色料やばい。そして、パン売り場でも一つ一つの量がおかしい。ヨーグルトもなぜか生クリームが入っているという始末。スーパーだけでも、Culture shock を受けてしまった。夜ご飯は、ホテルの近くの多国籍レストランに！！久しぶりのお米で美味しかったあ〜っていても、タイ米ですが…。ここは学生一番の人気のお店らしい。ほんとに美味しかった！

【8.27.Tue】

昨日に引き続き、2日目の Dermatology。この日も変わらず4件であった。午前中の診察が11時くらいに終わってしまったので、みんなで外に Lunch を食べに行くことに。

歩いている途中では、わからなかったが着いてみたらなんと ... 昨日食べに行った多国籍レストランだったのだ！今度は Rice プレートじゃなくて、Barger を頼んだ。やっぱり美味しかった。ローテーション後、UGA Dinner Hall でバイキングの夕食を食べた後、Skate-A-Round にスケートを乗りに！！案外すんなり乗れてしまって、乗れずに外人の人に手を差し伸べてもらっている友達を見てちょっぴり羨ましかったのは、ここだけの話である（笑）夜は女子4人で、ダウントウンに繰り出し Bar 巡りの旅へ♪カシスオレンジがないことにショックを受け、初めてモスコミュール、レゲエパンチを頼んでみた。やっぱりライム系は苦手だった ...。

【8.28.Wed】

最後のローテーションは、Zoo/Exotic を見学させてもらった。まずはカフェテリアで朝のミーティングをしてから診察に入った。この日の症例は、公園で拾われた子リス、健康診断しに来たラット、口に腫瘍のできたカラスが来た。リスには3時間ごとに自家製 milk（牛乳＋生クリーム＋粉ミルク＋水）を与えていた。ケージには、保温マットとバスタオルをひいて、カーテンのようにタオルをかけてあげていた。ラットの体温を測るのに、ヒトの耳から測定できる体温計を使っていたのには驚いた。カラスの採血は、注射針を曲げてから首から行っていた。また、口の上のできた腫瘍から FNA を行い、それから麻酔をかけ、電気メスで腫瘍の除去をおこなった。また、内視鏡を使って肝臓と脾臓からの生検（1mm 程度）もしていた。

Lunch は、Georgia 大の年間行事でもあるらしい BBQ にお邪魔させてもらった。お肉を焼いたりする BBQ ではなく、列に並んで係りの人が焼いてくれたハンバーグや野菜な

どをパンに挟んで、ホットドックかハンバーガーを選んで食べられる形式だった。やっぱりこの時も、アメリカの人はポテトチップスを食べていた。チップスはお菓子だ！スナックだ！主食じゃないんだあ -----!!!!

Dinner までの空き時間にずっと行きたかった Georgia 大の売店 Book Store に！いろんな Georgia グッツがありすぎて、迷っちゃう迷っちゃう ...。財布の中のドル札をちらちら見ながら、横目で Georgia パーカーを見ながら 30 分。誘惑に負けてしまいました。買ってしまいましたよ。うん、後悔はしていない。冬に多用してやるんだ！！

さてさて、この日の夜はといいますと初めての Free Night だったので、折野先生おすすめの Chicken 屋さんに行くことに♪ものすごく美味しかった！そして店員さんが優しくすぎた♡みんないつも以上にチップあげてたなあ～（笑）Chicken は4つの味をハーフで頼んでみんなで share したけど、一人 1darse でも全然イケたんじゃないかと思うくらい美味しかった♡次また Georgia に遊びに行く機会あったら絶対もう一回来たいと思った。折野先生ありがとうございました！！

【8.29.Thu】

ローテーションラストの日！！今日の Exotic では、寄生虫感染したウサギと、舌の下に腫瘍のできたカメの症例を見ることができた。ウサギに見られた寄生虫は、cuterebra（ウサギヒフバエの幼虫）であった。これに寄生されると、リングワームのような脱毛が見られるらしい。カメの方は、麻酔もかけずに剪刀で舌の腫瘍を切り取り、ガーゼを噛ませていた。その後、腫瘍のせいでご飯を食べることができないので、麻酔をかけ、首に食道チューブを設置していた。採血の時もそうだったが、カメは皮膚が厚いため、と

てもやりにくそうだった。

最 後 の Home Party は、Dr. K.P. Carmichael のお家に招待していただいた。今まで Home Party でお世話になった人達がほとんど集まり、みんなの英会話も来てすぐの時より慣れたのもありとても楽しい Party だった。カゴ大の人達は、そろって浴衣を着てきて可愛かったなあ〜♡ みんなから写真撮影を頼まれて、羨ましかった。(ちゃっかり自分も一緒に撮ってもらったけど ♪) Party の最後には、なんとサプライズのプレゼントが！！立派な写真立てに、ローテーション初日のみんなの集合写真が入っていました。今までたくさん迷惑もかけて、お世話もしてもらったのにプレゼントまで...(泣) 一生大切にします!!!

【8.30.Fri】

2 週間お世話になった UGA Hotel にお別れをし、いざ Atlanta へ！ World of Coke 行った時に、横目に見えた Georgia Aquarium に行きました。中は 7 つの world に分かれていて、大人も子供も楽しめるような作りになっていて凄く可愛かった。特に凄かったのは、なんってたって Dolphin Show!!! 日本と違って室内だし、ミュージカル仕立てだし、もう終始感動しっぱなし!!! 感動しすぎてずっと泣いてたなあ〜(笑) みんなに笑われたけど...。ちょっと値段はするけど、見て損はしない！絶対みるべき！！イルカとトレーナーとの絆に感動すること間違いなし！宣伝みたいになっちゃった(笑)

水族館から帰ってきて、Atlanta 空港の近くの Hotel に。受付からもわかる UGA Hotel との待遇の違い...。UGA は本当に親切だったんだなと実感。部屋も UGA の方が綺麗だったし、居心地よかったな〜なんて。夜ごはんは Hotel で食べようってことになったの

で、それまでの時間 Hotel のプールで遊ぶことに。みんなでガチの競泳大会が始まった(笑) ちなみに、自分は男女混合で犬かき部門で優勝いたしました!!! Hahaha!!! Dinner 後は、カゴ大との最後の飲み会。ゲーム飲みで BACARDI を空けちゃったり、大量に残っていたカップラーメンを必死に消費したり...(笑) なんかいりい面白かった最後の夜でした ♪

【8.31.Sat】

とうとうアメリカともお別れの日！そして、カゴ大ともお別れ...(泣) Georgia 海外研修がこんなに楽しかったのは、カゴ大のみんなと一緒にだったからだよ。みんな本当にありがとう！空港の免税店で各自お土産を買ってから、14 時間の空の旅へ。相変わらず寒かったです...。風邪ひきますよ、ほんと。そして、日本に無事到着！自由奔放な私達にずっと引率してくださった折野先生、本当にありがとうございました!!!

みんなで集合写真撮った後、「お米食べたあーい！！」ってことで、何人かで私の実家の焼き肉屋で夜ご飯を堪能しましたとさっ♡

Dear everyone I met in Georgia University
Thank you for everything. To be honest, I was worried about my English before I visit Georgia University. But, thanks to everyone who took care of me in Georgia University, I could spend precious time for two weeks. I appreciate everyone's support and great help. I will never forget everyone's kindness for all my life. If I have another chance, I would like to visit Georgia again. Thank you again!! I love

Georgia!!!!

Ahra LEE

ジョージア大学夏期研修報告 獣医生化学研究室 折野 宏一

8月17日（土）

ジョージア研修のために8人の学生が定刻前に所定の場所に集まった。私にとっては2度目のジョージア大学研修への同行であった（1度目は2002年）。9人分のチケットをまとめて自動搭乗手続きをしようとしたが、上手く行かなかった。最終的に受付デスクで分かれて搭乗手続きを行った。飛行機は定刻より、20分間遅れたが、順調にサンフランシスコ空港に着陸した。席は乗り継ぎを含めて一行が離れないように席が予約されていた。しかしながら、席が最後尾と最後尾から一列前であったため、出るのが遅れ入国審査には思いのほか時間がかかった。学生は一人ひとり入国審査を受けることになり、宿泊先がジョージア大学のジョージアセンターであったため、審査時には（「訪問」（visit）と観光（sightseeing））と答えるようにしていたが、目的の他に滞在先について聞かれた者もいた。最初の一名には時間がかかったが、後続の学生は比較的時間がかからなかった。しかし、トランジットの場合は飛行機の遅れ、入国審査に待つ時間、審査時間、受託手荷物のピックアップ、税関審査、再受託カウンターでの預け入れを考えると少なくとも2時間は必要ではなかろうか。

サンフランシスコからアトランタの乗り継ぎにおいては機内の冷房が効きすぎて毛布が人数分なかったため、寒い思いをした学生も

いた。空港には学生が迎えに来ていた。何とかスーツケースを積み込み、アセンズに向かった。アトランタからアセンズまで2時間以上かかり、ホテル（ジョージアセンター）に着き、時間を確認すると次の日になっていた。先に国際空港に着いた鹿児島大メンバーは到着していたようだ。アトランタ空港は国際空港と国内路線空港が離れているが、事前に到着時間と空港を伝えていたので前回のように行き違いはなかった。フロントでは宿泊全費用をカードかキャッシュで各自支払った。部屋に入るとベッドの上にフルーツが入ったバスケットが置いてあった。夕食を取れなかったので嬉しい贈り物であった。

8月18日（日）

朝、ホテルロビーで鹿児島大（大和修教授と学生6名）と山口大の田浦保穂教授に会った。北里大メンバーも集まり、簡単な自己紹介をしているとジョージア大学獣医学部国際交流連絡担当のLakeciaさんが迎えに来てくれた。獣医学部に歩いて行き、ブランチが用意されていた。テレビの天気予報で“Happy rain”と言っていたが、ジョージアは珍しく涼しく雨も多いとのことであった。ブランチはビュッフェ形式で国際交流担当者のAmyも子ども連れで来ていた。特別にセレモニーはなかったが、研修プログラム（署名入り）とノートが机の上に置いてあった。ジョージア大学フットボールマスコット犬（UGA）の飾り物を置いた机の上にジョージア大グッズ（タンブラー）に動物の置物、ポケットライト、笛付きキーホルダーを入れたものがあった。教員の分まであり学生と同じように頂いた。ブランチ後はジョージアセンターに戻った。午後2時30分に2台のバンが迎えに来て、Dr Malonieの家でGame Nightを楽しんだ。ご主人のマイクと

娘ジョージアも一緒に私たちを迎えに来てくれた。スナックと飲み物を楽しんだのち、ご主人が料理したスペアリブなど美味しく頂いた。最後にストラップが箱についたものを各自頂いた。中にはクッキーやマフィンが入っていた。心温まるもてなしに感激した。

8月19日（月）

新資料では予定されていたジョージア大学見学ツアーは中止になっており、午前10時30分にホテルのロビーに集合した。Lakeciaさんが迎えに来られ、小雨の中大学に向かった。小ルームにはランチ（ハンバーガー、サンドイッチ、スナック）が用意してあった。その後、二グループに分かれ、学生により獣医学部の施設見学をして頂いた。見学後、学部長（Prof Shella Allen）、副学部長（Prof Paige Carmicheal、Department of Pathology、Officer of Academic Affairs(International Program)）と共に記念撮影を行った（この時はフォーマルな格好の方が良いかもしれない。鹿児島大と山口大の教員はネクタイをして写真を撮っておられた）。その後はPublix（Super Market）で買い物をしてホテルに戻った。途中には獣医学部の施設が建築中で病院や教育に利用することなのであった。研究棟は残るとのことであった。大学からそれ程遠くはないが、規模は大きく建築に2年程かかりそうであった。残る施設のことを考えると今後の動向が気になる場所であった。午後5時30分に4人の学生が迎えに来て、ボーリング場に向かった。ボーリング場では4つのグループに分かれ、それに1人ずつ学生が加わり、ボーリングを楽しんだ。ボーリングは2ゲームを連続して行われた。その後、ホテルに戻り、我々はホテルのシャトルバス（9:00AM～10:00PM）でダウンタウンに行き、

Porterhouse でアメリカンステーキを楽しんだ。帰りは徒歩でホテルに向かった。ホテルに着いたのは11時を回っていたが、構内は明るく、学生も外に居りとても安全な様子であった。

8月20日（火）

臨床ローテーションの日が始まる。学生全員がプログラム通りに臨床実習を開始した。私はLakeciaさんと来年で提携が終了することを伝えた。彼女はさらなる5年間の協定を理解してメールでMemorandum of Understanding（MOU）を送って欲しいことを話された。また、招聘教員としてDr Mary Hondulas（Department of Infectious Diseases）を考えていることを話された。臨床実習を終了した神崎さんと相澤さんと大学のフリーバスでジョージアグッズが揃えてあるBook Storeに行ってきた。バスは停留所毎に停まり、目印はフットボールが行われる大きなスタジアムである。夕方はProf Corrie Brown教授（Department of Pathology）によるHome Party に呼ばれた。お決まりのギャクはここでは内緒にしておく。庭で手作りの夕食を頂いた。側に池があり、蚊が発生しており、何人かの学生は刺された（虫除けスプレーの効果に疑問）。

8月21日（水）

今朝も全員出発したのを確認して獣医学部に向かった。大和先生と田浦先生は大動物の症例報告に参加していた。神崎さんと相澤さんも参加していた。一人の学生が一症例を担当しているようで、患畜の前で報告し、その後討論をしていた。重い症例の患畜は感染病棟のような部屋に入れられており、中を見学することが出来た。その後は骨折した馬の

手術をモニターまたは直接見ながら、見学した。その後、偶然に廊下で会った Allen 学部長におみやげを渡した。昼食は神崎さん、相澤さん、安藤さん、岡野君、萩原君と一緒に取った。昼食後、Carmichael の Office に行き、前回お世話になった台湾人の Dr Olive Li (Department of Physiology and Pharmacology) と会えるように Lakecia さんに頼み、約束を取って頂いた。午後は田浦先生と外の大動物施設を見学した。Animal Health Center という建物が近くにあったが、入ることは出来なかった。見学後、感染病棟の馬の治療を見た。感染病棟は新棟に移転しないことを聞いた。その後は Terrapin という地ビールを飲みに行った。学生はパスポートを提示して中に入り、手にゴム印を押された。料金を払うと好きなカップを取れと言われた。後でわかったことだが、コップは持ち帰れることが出来る。リストに 1 から 8 までの番号が書かれたものをつけ、1 杯飲むたびに一つずつ番号が消された。全部の数字を使い切ることは出来なかった。ホテルに到着後、鹿児島大の学生とも一緒にダウンタウンにバスで夕食を取りに出かけた。台湾料理のところでヌードル (Noodle with Salada) を頼んだが、中々美味しかった。

8 月 22 日 (木)

大動物診療で田浦先生、岡野君と一緒に症例報告を聞いた後、Community Practice Clinic (CPC) に行った。神崎さんと伊藤さんが居た。Dr Hensel に施設を見学させていただいた。新しい施設で皮膚科、歯科、行動学、ワクチネーションをしており、病院に必要なものは一通り揃っていた。一部の薬は暗証番号が必要だが、自動販売機のようなもので手に入れるように管理されていた。CPC は移転しないことを聞いた。午後 11 時 40 分に

Carmaicheal の Office で Dr Oliver に会った。イタリアンレストランに行き、昼食をごちそうになった。中古の家を最近買ったことを聞いた。途中で見た家には大きい庭があり、将来はポニーを飼うとのことであった。お母さんが心臓病のため、台湾に帰国していたため、修築が遅れているらしい。昼食後は喫茶店でコーヒーを飲んだ。夕食は次期招聘教員である Dr Hondulas の家で夕食を頂いた。Carmaicheal の秘書 (Dejie deBin) の旦那さん (Jerry deBin) と話した。彼は現在、3 つの職業を持ってらしく、話しを理解するのが大変であった。一つは蛇の行動を研究していることらしく、毒蛇は高いところを好むことについて話してくれた。馬用にパインの床敷きを販売しており、こちらに来る前のアラバマ州にもパインの山を持っているとのことであった。とにかくスケールの大きい人であった。後一つはウマの牧場主であるらしい。学生は外でバトミントンをして遊んでいた。鹿児島にいた日本語の上手な夫婦も来ていた。帰りは遅れて来た Lakecia さんの車に乗ったが、遅れて来たのはビジネススクールのような学校で教師もしているとのことであった。

8 月 23 日 (金)

Lakecia さんと Parker 氏が迎えに来てくれた。World of Coca Cola と CNN Center に行くため、アトランタへ向かった。World of Coca Cola では世界のコーラを楽しむことが出来た。CNN Center で昼食を取ったが、セキュリティの厳しさに目を見張った。夕食は Dr Hansel の家に招待され、夕食を楽しんだ。法律の手続き上、今日が結婚式ということであり、奥さんは日本人であった。アトランタで Dr Hansel と同じ皮膚病の専門医として動物病院に勤めている。裁判所の日

程が今日の Home Party と重なってしまい、申し訳ない気持ちであった。蜜蜂を飼っており、本格的な養蜂で蜂蜜を取っていたことには驚かされた。

8月24日（土）

午前10時30分にロビーに集合し、Commerce Shopping Center に連れて行って頂いた。Outlet 等の店が駐車場と取り囲むように立ち並び、90分間程度店を回った。その後ホテルに戻り、大学近くのビザを北里大の学生と一緒に食べた。夕方は日本食店（SHOINITINI）で日本食を食べながら、カラオケを楽しんだ。ホテルに着いたのは午後8時を回っていた。

8月25日（日）

The State Botanical Garden of Georgia at The University of Georgia にハチドリを見に行った。色々な植物を見学し、最終的には2羽のハチドリを見ることが出来た（安藤さんがアレンジ）。その後、ホテルに戻り、プールパーティを行う Dr Robert Gopal (Veterinary Biosciences and Diagnostic and Diagnostic Imaging) の家に向かった。学生はプールで水鉄砲やボール遊びをした。外ではバレーボールを楽しんだ。家には Dr Gopal の関係者が来ていた。Dr Kaori Sakamoto (Department of Pathology) も旦那さん（寄生虫学講座）と息子さんを連れてきていた。Dr Sakamoto は日本を長く離れていたため、英語で話した。他にも Prof Steve Holladay (Head, Veterinary Biosciences and Diagnostic and Diagnostic Imaging) と同じラボの中国人の Dr Tai Guo にも会った。

8月26日（月）

学生を各診療に行くのを見届けてから、昨日会った Dr Guo に偶然に会い、ラボを見せてもらった。その後、Dr Gopal の部屋を教えてもらった。部屋を探しているところ、Dr Holladay に会った。昨日会った奥さんもこの学部で勤めていることを聞いた。Dr Gopal に会い、ラボを見せて頂いた。明日は実験があるので見に来いというので午前9時に行くことを伝えた。Guo 先生は線虫のヒートショックタンパク質の研究をされており、Dr Holladay および Dr Gopal はダイオキシンや鉛などの中毒について精力的に研究をしていた。

ランチ後、大和先生と鹿児島大の国際交流について話しを聞いた。今回の訪問は教育内容を知ることにも目的であり、Prof. Carmichael と話しをするなど情報を得ることでもあった。10月にはスイスを訪問する計画もあるらしい。Book Store に行き、買い物をしたが、カード支払いは写真のついた身分証明書がいるらしく、なんとか大学から頂いたネームプレートで使用を認めてもらった。夕方は Walmart に連れて行って頂き、買い物をした。ジョージア学生が良く利用するらしく、夏休み後戻ってきたことを歓迎する垂れ幕 (Welcome Back Students) が掛かってあった。ジョージア大学のグッズも売っていた。夕食は大学の近くで値段も安くボリュームもあり、人気のあるレストラン（メキシコ料理店）を学生が聞いてきて、そこで食べた。評判通りの店であった。

8月27日（火）

学生を見送り、Dr Gopal の部屋に向かった。彼と博士課程の学生1人および病理研究室から来た学生の1人と Wild Life Building に向い、Dr Michael Yabsley と共にカメの

採血に行った。大学から、南に歩くとコンクリートにある池でカメを捕まえ、採血を行った。ラボに戻り、昼食後で聞いた話したが、病理の学生は海亀のパピローマウィルスによる腫瘍化を研究するとのことでカメの血液を使って練習するとのことであった。Dr Gogal が今後指導することになっているようであった。昼食後、血液の塗抹、リンパ球の調製まで見学した。その後はリンパ球の培養や遺伝子を調べるとのことであった。

夕食はホテルから歩いて Snelling Dinner で Lakecia さんと Parker さんと一緒に食事を取った。ビュッフェ形式でかなりの量を取り食べ過ぎた。オムレツに入れる具をオーダーし、そこで作ってもらうことが出来た。その後はローラースケートを楽しんだ。ローラースケートは初めての経験で気を抜くとバランスを崩し、ころぶこともあった。初めての学生もいたが、結構楽しんでいた様子であった。

8月28日（水）

臨床ローテーションに行く学生を見届け、午前10時からの学部内外の実験動物施設を見るまで大和先生と学生食堂でコーヒーを飲みながら、待った。学部外の実験動物施設は道路を挟んで獣医学部前にあった (Biomedical and Health Science Institute)。Dr Leanne Alworth (University Research Animal Resources) に案内をして頂いた。セキュリティが厳しく、見学する3人の教員は先週にフォームに記入し、署名する必要があった。施設に入る前にスクラブを重ね着し、靴にはカバーをかけた。中はいくつもマウスを飼育する施設があり、清浄な空気がゲージに送られ、排気されるようになっていた。ゼブラフィッシュを飼育するところもあり、マウスと同様に別の部屋にア

イソレーション施設があり、実験用ゼブラフィッシュと同様に浄化された水が水槽に入り、外に出るようになっていた。マウスの実験室に入る時にはさらに前掛けのようなスクラブを重ね着し、さらにカバーをかけた靴の上にさらにカバーをかけた。処置室にある安全キャビネットはクラスIIであった。ケージの洗浄室、滅菌室はシステム化されておいた。獣医学部の実験施設に移動し、Dr Stephen Harvey (University Research Animal Resources) に案内して頂いた。規模は小さいが同じような部屋があり、マウス、ラット、鳥も飼育していた。また、離れには犬や猫の実験施設や大動物実験施設が別々にあった。大動物実験施設は建築中の新棟と獣医学部の中間にもまだあるらしく、ここよりも規模が大きいとのことであった。また、鶏の実験施設もあるとのことであった。前回は実験施設を見ることがなかったが、改めて施設の充実さ並びにその規模に驚かされた。セキュリティが厳しいが、同行教員には一見の価値があると思うので同行された教員は是非見て欲しい。

昼食は学部の卒業生のドネーションによるバーベキューに参加させて頂いた。学生たちも今ローテーションでお世話になっている方々と昼食を頂いているようであった。並んで待っているとテントの側で学部長の挨拶や卒業生の挨拶が行われていた。ハンバーガーを私は食べたが、非常に美味しく頂き、アメリカの料理を食べた気がした。夕食は前回来たことがある料理店を Dr Oliver にメールで場所を教えて頂き、学生達と一緒に出かけた。大学のバスで Book Store に行き、その後バスに再び乗り、North Gate (Arch) で降りた。通りが分からなかったが、伊藤さんの携帯情報を頼りに無事に着くことが出来た。しかし、以前の「Wild Wing Cafe」はもう経営して

いないことであったが、同じ料理をおいているというので入ってみることにした。確かにチキンの手羽や腿肉の料理があり、いろんな味付けがあったが、チキン（ピース）は前回と同じで学生にも好評であった。

8月29日（木）

ローテーションの最後の日の朝、大和先生の提案で記念撮影を行った。こちらに来て分かったのだが、Lakeciaさんの他に7人いる秘書が居り、手元にある全てのお土産を渡し、分けて頂く様に伝えた。今日は私も何も予定が入っておらず、学生の実習を見ていた。ウシを横倒しに出来る大きなローターを使った蹄の手術を初めて見る事が出来た。エキゾチックには亀が来ておりCT撮影をしたそうだ。眼科は3頭の手術が入っており、忙しそうであった。

夕食はDr Carmichaelの家に招待された。Hondalas先生も来ており、招聘について話し合うことが出来た。最後に学生達はこちらに来たときに撮った写真を額縁に入れて渡された。

8月30日（金）

Lakeciaさんともう一人の秘書の方(Joaana)が迎えに来て頂いた。今日はジョージア水族館に行き、その後は空港近くのホテル(Quolity Hotel Conferenc Center)に連れて頂く予定になっていた。荷物を積むのに時間がかかったが、ジョージア水族館では入館料とイルカのショーの別料金を支払って頂いた。最後の最後まで親切にして頂き、感謝でした。昼食を水族館ですませた後、午後2時に集まり、ホテルに向った(Quality Hotel Conference)。鹿児島大も同じホテルであったが、こちらはホテルの部屋の予約が違っており、交渉のすえ予約通りにして頂い

た。夕食はホテルのレストランで学生たちと一緒に取った。学生はホテルのプールに入ったとのことであった。いよいよ明日は日本に向けて出発する。

8月31日（土）

午前9時45分に集合し、10時のホテルのシャトルバスで鹿児島大のメンバーと一緒に空港に向かった。国際空港にはモノレールバスに乗ろうとしたが、場所が分からず、シャトルバスを利用した。シャトルは2グループに分かれて行った。空港内で鹿児島大と記念写真を撮り、別々の空港会社で搭乗手続きを行った。一回目は6人分チケットが印刷されてきたが、何回かのトライで全員分のチケットを入手出来た。機内の預ける荷物が23kgを超える者が結構おり、私も超過しておりお菓子1個分リュックに入れた。シャトルバスでホテルの移動、シャトルバスでのドメスティックから国際空港までの移動時間、搭乗手続き、荷物重量調整時間を入れると思ったより時間がかかった。出発時間(午前1時45分、搭乗手続き午後1時)を考えるともう少し早い方が良かった。セキュリティチェックは乗り継ぎと同じであり、靴を脱いだり、ポケットのものを全て出すなど時間がかかった。しかし、座席指定が取れておらず、搭乗ゲートで席を予約しなければならなかった。一度解散し、午後12時40分に集まることにした。Duty Freeでは座席の予約が必要らしく、座席指定を終えた後、午後1時に集合を確認した。座席指定を搭乗手続きに取れなかったのは良く分からないが、満席のせい、席はバラバラになってしまった。搭乗手続き時に詳細な理由を聞いておくべきだと思った。燃料タンクの不備のため、シアトルで給油を行った。2時間かかり、予定(午後4時45分)より、遅れて午

後 7 時頃に着いた。入国・手荷物手続きを行い、全員が出てくるまで 8 時頃になっていた。最後記念写真を撮り、解散した。皆さんご苦労様でした。

追記

この研修は私にとっても有意義なものであった。特に実験動物施設を見学することは今後同行される教員にお勧めする。ジョージア大学夏期研修は 2 度目で初めて見ることが出来、一見の価値があった。現在、Prof Paige Carmichael が国際交流をご担当されており、このポストを 4～5 年は継続することなので研修内容は今後も同じであることが予想される。前回に比べ、Southern Hospitality がスケールアップしている。また、新棟が建築されており、学生数の増加と教育の質の向上を目的としている（学生に割り当てられる Square footage は変わらないが、人数を 2 倍にする）。Allen 学部長の采配で行われているようであるが、今後の動向が気になる。今回は教員を合わせると 17 人の大人数であったが、滞在費用はかなり負担されたことであろう。Lakecia さんを含め、秘書の方が 7 人居られ、その親切には大変感謝している。同行した学生は鹿児島大の先生が褒めるほどしっかりしており、素晴らしいメンバーと一緒に研修出来たことを感謝すると共に今回の研修を将来へと繋げて欲しいと切に願う。

Greeting from Mentor

First of all, I would like to say “Thank you” to all of faculty members and student who were involved in this clinical rotation program of University of Georgia (UGA).

Actually, this is second time to visit UGA for me. When I came here and entered my hotel room, I found a basket with fruits. That reminds me of “Southern hospitality”. I am very thankful to these arrangements by Prof Carmichael and her stuffs, Lakecia, she was always very kind to us, Amy, Parker, Dajie, and other three secretaries. Now I can feel more hospitality than the previous visit. Kitsasto University has a relationship with University of Tennessee, Purdue UGA. I think my faculty does not need any mentor in case of the stay of UGA. If students have a direct flight from Japan to Atlanta, I can just say “Good bye” at Narita airport before leaving Japan. Anyway, I also had a lot of fun with students, home parties by Dr Malonie, Professor Corrie Brown, Dr Hondulas, Dr Hensel, Dr Gogal, and Prof Carmicheal, these parties were so wonderful, and entertainments, bowling, karaoki, skate, and the visit of world of Cola and so on. I realized it is also important for a mentor to enjoy with students.

Actually, Athens is very beautiful and peaceful city, and students had a good opportunity to learn a lot of things, differences in educational and clinic systems in Japan and USA universities, good facilities, how to diagnose, how to communicate with doctors and owners. I think USA people are patient to education. In Japan, some owners can't wait for diagnosis for a long time. The owners in USA understand and comprehend that education needs long time to come off what is more effective in the future.

Maybe students will be more excited about this program and more encouraged by it. Kitasato and Kagoshima University students attended this program, and although they had never met before this program, now they know each very well. They go back to Japan, and will get credits as in other students, but they spent more wonderful time, more valuable time, and priceless time as compared with them. They also felt hospitality from you, and will never forget this stay. Prof. Yasuho Taura is from Yamaguchi University, and he also attended this program. Near future, the students from Yamaguchi University will join this program. I hope a new relationship between Kagoshima, Yamaguchi, and Kitasato Universities and UGA will start and continue. My writing ends up describing “Thank you” again. I really appreciate your help and support from the bottom of my heart. Thank you very much.

Koichi Orino, DVM, PhD
Laboratory of Veterinary Biochemistry

Greeting from students and a mentor who
joined 2013 Clinical Rotations at UGA

Dear Georgia University stuffs

I'm Akimi Aizawa. I'm student of Kitasato University. I am really grateful to your kindness for inviting us. It was great experience for me. I didn't know details about veterinary university in other country until I visited Georgia University. But I could know that you have advanced veterinary medicine this time. I was surprised that you have a huge facility and there were many technician, residents, and Doctors and especially women who were working and studying at veterinary school. And you have a wonderful educational system that students can treat and see a patient with Doctors. There is not the system like this in Japan. This opportunity made me understood that veterinary education in Japan can more be improved. And then, it was so exciting that I came in contact with persons and culture in U.S and visited some amusement facilities. If there had been not stuffs and students who took care of us, we could not have had a lot of fun. I really thank you for everyone that helps us during our stay in Athens. Someday I hope to see you again.

Akimi AIZAWA

To everyone I met in University of Georgia (UGA).

I really appreciate your kindness.
My stay in UGA was a good experience.
I was given clinical rotations.
It was different from Japan's system.

I was very impressed.

I realized that I should study harder.

I felt kindness from everyone I met in UGA.

I shall never forget staying in UGA.

I hope I could see you again someday.

Sincerely yours,

Midori ANDO

I'm very grateful to UGA teachers and students. They were so kind and all of them had nice smiles. Their warm smiles cheer me up a lot. In Clinical Rotations, they taught me carefully whatever I asked them. Thank you also for giving us many activities other than Clinical Rotations. I experienced not only Veterinary Medicine but also American culture. Especially Ms. Lakecia, Ms. Jonathan and Mr. Parker, thank you for always taking care of us. I had wonderful days. We really enjoyed many activities which you planed, and we learned a lot in Clinical Rotations. Moreover, thank you for having a chance to meet people who are involved in research malaria. I'll never forget this study trip!!

Please come to Japan and our university.
We'll welcome all of you.

Haruka ITO

By experience of veterinary medicine training for two weeks, I was surprised to see the technique of American veterinary medicine is high quality. It was awesome

that veterinary students can treat large and small animal patient by themselves with help of doctor. There is not that kind of system in Japan. So I think that American veterinary education policy make a good study environment. I appreciate kindness and thanks for teaching these skills.

On the other hand, we could spend good summer vacation that was kindly provided schedules you planned. Finally, I would like to say thanks to Dr. Hensel, Drs. Hart and Fultz, Dr. Mayer, and Dr. Koenig. This training brought a good influence to me.

Meiya OKANO
KITASATO University

Thank you for the stay in Georgia
I could spend valuable time in Georgia this summer.

I was very nervous until before going, but people I met there were kindness to me everyone.

The two weeks I spent in Georgia, and helped me make good experiences that can not have in Japan.

I want to study harder to make good use of my experiences without wasting precious time than I used to be.

Someday I want to visit this place and meet a lot of people who took care of us.

With love and appreciation from the bottom of my heart to everyone who had involved in...

Narumi KANZAKI

Thank you for everyone who I met in Georgia University, especially Dr. Malorie, Dr. Brown, Dr. Hensel, Dr. Hondalus, and Dr. Carmichael. They invited us for home parties, and welcomed us very kindly and gently. So we spent a wonderful time. I had a lot of great experience thank to Drs and students in UGA. I will never forget this stay.

I would like to visit UGA again.

Takashi HAGIWARA

Thank you for all of your kindness I experienced. I could have really exciting days in this externship at UGA.

People who I met in UGA were so kind, and this hospitality made my stay meaningful. When I asked some questions in my poor English, everyone tried to make myself understood more kindly and in more detail. I could find the difference between veterinary medicine education system in USA and Japan. Students of UGA were very eager to learn, had confidence in their thought, and respected Drs.

Finally, I appreciate everyone who supported us at UGA. All experiences I had at UGA will be nourishment for my future and I will never forget this stay. See you again.

Yuki HAYABE

Dear everyone I met in Georgia University
Thank you for everything. To be honest,
I was worried about my English before I
visit Georgia University. But, thanks to
everyone who took care of me in Georgia
University, I could spend precious time
for two weeks. I appreciate everyone's
support and great help. I will never forget
everyone's kindness for all my life. If I
have another chance, I would like to visit
Georgia again. Thank you again!! I love
Georgia!!!!

Ahra LEE

Greeting from Mentor

First of all, I would like to say "Thank
you" to all of faculty members and student
who were involved in this clinical rotation
program of University of Georgia (UGA).
Actually, this is second time to visit UGA
for me. When I came here and entered my
hotel room, I found a basket with fruits.
That reminds me of "Southern hospitality".
I am very thankful to these arrangements
by Prof Carmichael and her stuffs, Lakecia,
she was always very kind to us, Amy,
Parker, Dajie, and other three secretaries.
Now I can feel more hospitality than the
previous visit. Kitsasto University has a
relationship with University of Tennessee,
Purdue UGA. I think my faculty does not
need any mentor in case of the stay of
UGA. If students have a direct flight from
Japan to Atlanta, I can just say "Good
bye" at Narita airport before leaving

Japan. Anyway, I also had a lot of fun with
students, home parties by Dr Malonie,
Professor Corrie Brown, Dr Hondulas, Dr
Hensel, Dr Gogal, and Prof Carmicheal,
these parties were so wonderful, and
entertainments, bowling, karaoki, skate,
and the visit of world of Cola and so on. I
realized it is also important for a mentor to
enjoy with students.

Actually, Athens is very beautiful and
peaceful city, and students had a good
opportunity to learn a lot of things,
differences in educational and clinic
systems in Japan and USA universities,
good facilities, how to diagnose, how to
communicate with doctors and owners. I
think USA people are patient to education.
In Japan, some owners can't wait for
diagnosis for a long time. The owners
in USA understand and comprehend
that education needs long time to come
off what is more effective in the future.
Maybe students will be more exited about
this program and more encouraged by
it. Kitasato and Kagoshima University
students attended this program, and
although they had never met before this
program, now they know each very well.
They go back to Japan, and will get credits
as in other students, but they spent more
wonderful time, more valuable time, and
priceless time as compared with them.
They also felt hospitality from you, and
will never forget this stay. Prof. Yasuho
Taura is from Yamaguchi University,
and he also attended this program. Near
future, the students from Yamaguchi
University will join this program. I hope

a new relationship between Kagoshima, Yamaguchi, and Kitasato Universities and UGA will start and continue. My writing ends up describing “Thank you” again. I really appreciate your help and support from the bottom of my heart. Thank you very much.

Koichi Orino, DVM, PhD
Laboratory of Veterinary Biochemistry

Itinerary 2013

Kitasato and Kagoshima University Visitors

August 17 – August 30, 2013

Saturday, August 17, 2013

Pick-up from Atlanta International Airport

Kagoshima University arrives @ 8:15PM KE33 International Flight

Kitasato University arrives @ 9:41PM DL 1680 Domestic Flight

Sunday, August 18, 2013

10:30AM Welcome Brunch at UGA CVM
(Please meet in hotel lobby at 10:00AM)

3:00PM Game Night
Dr. Malorie Frank, Class of 2011, House
(Meet in hotel lobby at 2:30PM)

Monday, August 19, 2013

10:00AM Report to College of Veterinary Medicine
Office of Academic Affairs Room 236
(Meet in hotel lobby at 9:45AM)

10:00AM UGA Campus Tour (*Pick up at CVM*)

11:00PM Lunch CVM (Room 236)

12:00PM Tour of UGA CVM with CVM Student Ambassador

1:00PM Picture with Dr. Shelia Allen, Dean College of Veterinary Medicine and Dr. Carmichael,
Associate Dean for Academic Affairs

1:15PM Trip to Publix (A Grocery Store)

2:00PM Back to Room Georgia Center Hotel

6:00PM Showtime Bowling
(Meet in hotel lobby at 5:30PM)

Tuesday, August 20, 2013

9:00AM Clinical Rotations
(Clinics are scheduled from 9:00AM – 4:00PM)

5:30PM Dinner Dr. Corrie Brown
(Meet in hotel lobby at 5:00PM)

Wednesday, August 21, 2013

9:00AM Clinical Rotations
(Clinics are scheduled from 9:00AM – 4:00PM)

6:00PM Terrapin (Beer Brewery) \$ (10 for each person)
(Meet in hotel lobby at 5:30PM)

Thursday, August 22, 2013

9:00AM Clinical Rotations
(Clinics are scheduled from 9:00AM – 4:00PM)

6:00PM Dinner with Dr. Hondalus
(Meet in hotel lobby at 5:30PM)

Friday, August 23, 2013

9:00AM World of Coke \$

1:00PM Lunch CNN Center \$

7:00PM Dinner with Dr. Hensel
(Meet in hotel lobby at 6:30PM)

Saturday, August 24, 2013

11:00AM Shopping Commerce Shopping Center
(Please meet in hotel lobby at 10:30AM)

6:00PM Karaoke Night
(Please meet in hotel lobby at 5:30PM)

Sunday, August 25, 2013

3:00PM Dinner and Swimming Dr. Gogal
(Meet in hotel lobby at 2:30PM)
Please wear swimsuits

Monday, August 26, 2013

9:00AM Clinical Rotations
(Clinics are scheduled from 9:00AM – 4:00PM)

5:30PM Wal-Mart
(Meet in hotel lobby at 5:00PM)

Tuesday, August 27, 2013

9:00AM Clinical Rotations
(Clinics are scheduled from 9:00AM – 4:00PM)

5:00PM Dinner UGA Resident Dinner Hall – Snelling Dining Hall
(Meet hotel lobby at 4:30PM)

6:00PM Skate Night at Skate-A-Round Athens

Wednesday, August 28, 2013

9:00AM Clinical Rotations
(Clinics are scheduled from 9:00AM – 4:00PM)

12:00PM GVMA Bar-B-Q
(Please go to Bar-B-Q with your assigned clinical rotation group)

Free Night

Thursday, August 29, 2013

9:00AM Clinical Rotations
(Clinics are scheduled from 9:00AM – 4:00PM)

6:00PM Farewell Dinner Hosted by Dr. K.P. Carmichael
(Meet in Hotel Lobby at 5:30PM)

Friday, August 30, 2013

8:30AM Georgia Aquarium
Lunch \$
(Meet in Hotel Lobby at 8:30AM)

3:00PM Depart from Georgia Aquarium

\$ = You are responsible for your meal or activity

Clinical Rotations 2013

NAME	Tuesday, Aug. 20	Wednesday, Aug. 21	Thursday, Aug. 22	Monday, Aug. 26	Tuesday, Aug. 27	Wednesday, Aug. 28	Thursday, August 29
Haruka Ito	Zoo/Exotics		Dermatology	Large Animal Medicine		Community Practice Clinic	
Akimi Aizawa	Large Animal Medicine		Small Animal Soft Tissue	Clinical Radiology		Ophthalmology	
Midori Ando	Dermatology		Zoo/Exotics	Ophthalmology		Large Animal Medicine	
Ahra Lee	Oncology		Cardiology	Dermatology		Zoo/Exotics	
Narumi Kanzaki	Large Animal Medicine		Dermatology	Small Animal Soft Tissue		Ophthalmology	
Yuki Hayabe	Small Animal Orthopedic Surgery		Oncology	Community Practice Clinic		Dermatology	
Meiya Okano	Dermatology		Large Animal Medicine	Zoo/Exotics		Emergency and Critical Care	
Shumpei Yoshihara	Community Practice Clinic		Large Animal Medicine	Small Animal Soft Tissue		Small Animal Orthopedic Surgery	
Takashi Hogiware	Small Animal Soft Tissue		Ophthalmology	Large Animal Medicine		Dermatology	
Genta Ito	Community Practice Clinic		Small Animal Internal Medicine	Zoo/Exotics		Clinical Radiology	
Tomoko Ashikari	Ophthalmology		Community Practice Clinic	Small Animal Orthopedic Surgery		Cardiology	
Moeko Kohyama	Small Animal Internal Medicine		Community Practice Clinic	Emergency and Critical Care		Zoo/Exotics	
Yuina Ono	Zoo/Exotics		Small Animal Orthopedic Surgery	Oncology		Community Practice Clinic	
Hitomi Terazaki	Emergency and Critical Care		Zoo/Exotics	Small Animal Internal Medicine		Large Animal Medicine	

Clinical Pathology: Drs. Huang and H. Brown
Large Animal Medicine: Drs. Hart and Fultz
Oncology: Dr. Northrup
Dermatology: Dr. Hensel
Small Animal Soft Tissue Surgery: Dr. Cornell
Small Animal Orthopedic Surgery: Dr. Clarke
Zoo/Exotic Medicine: Dr. Mayer
Emergency and Critical Care: Dr. Koenig
Community Practice Clinic: Dr. Poon
Small Animal Internal Medicine: Dr. Creezy
Ophthalmology: Dr. Myrna
Cardiology: Dr. Rapoport
Clinical Radiology: Dr. Jimenez

Restrant



Terappin



HomeParty



Gerogia Bulldogs



Welcome Party



We come back to Japan!



Terrapin



Dinner



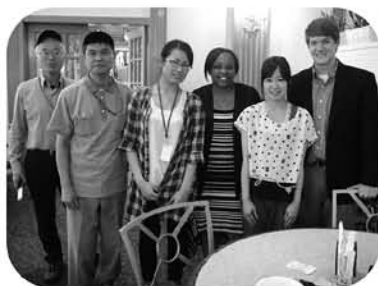








プールパーティー



学食



スケートナイト



夜会



Downtown



UGA



UGA Hotel



Farewell Party





北里大学 獣医学部 獣医学科 米国三大学夏期研修 2013

インディアナ州立 パデュー大学 獣医学部

Purdue University, School of Veterinary Medicine

West Lafayette, Indiana, <http://www.vet.purdue.edu>

出国：8/24（土） 成田 10:45 発 NH 0012

帰国：9/8（日） 成田 13:45 着 NH 0011（UA9678）

テネシー州立 テネシー大学 獣医学部

The University of Tennessee, College of Veterinary Medicine

Knoxville, Tennessee, <http://www.vet.utk.edu>

出国：8/24（土） 成田 11:05 発 NH 0002

帰国：9/8（日） 成田 13:45 着 NH 0011

ジョージア州立 ジョージア大学 獣医学部

The University of Georgia, College of Veterinary Medicine

Athens, Georgia, <http://www.vet.uga.edu>

出国：8/17（土） 成田 15:55 発 DL 0208

帰国：9/1（日） 成田 16:25 着 DL 0295

籍番号：_____ 氏名_____

Passport No. _____

Schedule 1 Purdue University

<http://www.vet.purdue.edu>



研修先の担当の先生 : Dr. J. Catharine Scott-Moncrieff

Purdue University School of Veterinary Medicine,

West Lafayette, IN 47907-1240, USA

Tel : +1-765-494-1107 Fax : +1-765-496-1108

研修期間の宿泊先 : Purdue Village

151 Arnold Drive Apartments 1-5, West Lafayette, IN 47906, USA

Tel : +1- 765-494-2090 Fax : +1- 765-496-6828

出国 : 8/24 (土) 成田 10:45 発 NH 0012 帰国 : 9/8 (日) 成田 13:45 着 NH 0011 (UA 9678)



参加者名簿 (9名)

学生番号	氏 名	Name	所属研究室
V09006	新井 彩佳	Ayaka ARAI	小動物第一外科学
V09032	岡本 茉里	Mari OKAMOTO	小動物第二内科学
V09088	南林 慶子	Keiko NAMBAYASHI	小動物第二内科学
V09112	松岡 希枝	Kie MATSUOKA	獣医伝染病学
V09119	溝呂木 喬之	Takayuki MIZOROGI	獣医微生物学
V09126	森岡 翠里	Suiri MORIOKA	獣医薬理学
V09127	森田 篤	Atsushi MORITA	実験動物学
V09128	安田 純平	Jumpei YASUDA	獣医薬理学
V09131	矢野川 祥子	Shoko YANOGAWA	獣医病理学

同行教員 : 岡田 宗善 Muneyoshi OKADA

Flight information

Date	Flight	Flight No
8/24 (土)	成田 10:45 → シカゴ 08:20	NH 0012
	シカゴ 11:20 → インディアナポリス 13:17	UA 6125(EV)
9/7 (土)	インディアナポリス 07:00 → シカゴ 07:03	UA 3511(S5)
	シカゴ 10:50 → 成田 13:45 <9/9 (日) 着>	NH 0011 (UA 9678)

出国時の集合日時と場所 : 8/24 (土) 7:30

成田空港第1ターミナル/南ウイング 4F 全日空チェックインカウンターA 付近

http://www.narita-airport.jp/jp/guide/t_info/c_list_t1_south.html

(Tel : 0570-029-333 <http://www.ana.co.jp/>)

受託手荷物 ANA : 2 個まで。重量 : 23kg (50 ポンド) /個を超えないこと。それぞれの手荷物の 3 辺(縦・横・高さ)の和が 203 cm を超えないこと。

Schedule 2 The University of Tennessee

<http://www.vet.utk.edu>



研修先の担当の先生：選考中

University of Tennessee College of Veterinary Medicine,

PO Box 1071, Knoxville, TN 37901-1071, USA

Tel : +1-865-974-7263 Fax : +1-865-974-4773

研修期間の宿泊先：Homewood Suites at Turkey Creek

Address: 10935 Turkey Drive, Knoxville, TN 37922

Telephone: 1-865-777-0375

出国：8/24（土）成田 11:05 発 NH 0002 帰国：9/8（日）成田 13:45 着 NH 0011

参加者名簿（7名）

学生番号	氏 名	Name	所属研究室
V09020	大浦 慶祐	Keisuke OURA	獣医放射線学
V09025	大橋 嵩志	Takashi OHASHI	獣医放射線学
V09035	加藤 貴誉湖	Kiyoko KATO	獣医衛生学
V09038	狩野 敦子	Atsuko KANO	獣医放射線学
V09078	武田 祐典	Yusuke TAKEDA	大動物臨床学
V09080	爲實 大地	Daichi TAMEZANE	実験動物学
V09097	林田 真琴	Makoto HAYASHIDA	毒性学

同行教員： 久留主 志朗 Shiro KURUSU

Flight information

Date	Flight	Flight No
8/24（土）	成田 11:05 → ワシントン・ダレス 10:40	NH 0002
	ワシントン・ダレス 17:03 → ノックスビル 18:34	UA 4279(AX)
9/7（土）	ノックスビル 07:45 → シカゴ 08:27	UA 5987(EV)
	シカゴ 10:50 → 成田 13:45 <9/8（日）着>	NH 0011

出国時の集合日時と場所：8/24（土）8:30

成田空港第1旅客ターミナルビル／南ウィング 4F 全日空 チェックインカウンターA 付近

http://www.narita-airport.jp/jp/guide/t_info/c_list_t1_south.html

(Tel: 0570-029-333 <http://www.ana.co.jp/>)

受託手荷物 ANA：2個まで。重量：23kg（50ポンド）/個を超えないこと。それぞれの手荷物の3辺（縦・横・高さ）の和が203cmを超えないこと。

Schedule 3 The University of Georgia

<http://www.vet.uga.edu>



THE UNIVERSITY OF GEORGIA

College of Veterinary Medicine

研修先の担当の先生：Dr. Paige Carmichael (Associate Dean for Academic Affairs)

The University of Georgia College of Veterinary Medicine, Athens, GA 30602, USA

Tel : +1-706-542-5728 Fax : +1-706-542-3014 E-mail: kpc@vet.uga.edu

研修期間の宿泊先：The University of Georgia Center for Continuing Education (Georgia Center)

1197 South Lumpkin Street, Athens, GA 30602-3603

Tel : +1-706-542-2654 Fax: +1-706-542-2635

<http://www.georgiacenter.uga.edu/uga-hotel/contact>

最終日 8/30 (金) -8/31(土) : Quality Hotel Conference Center

1561 Phonix Blvd., College Park

GA 30346 USA

Hotel Front Desk: 1-770-996-4321 | Hotel Fax: 1-770-991-5795

http://www.qualityinn.com/hotel-college_park-georgia-GA677

出国：8/17 (土) 成田 15:55 発 DL 0208 帰国：9/1 (日) 成田 16:25 着 DL 0295

参加者名簿 (8名)

学生番号	氏 名	Name	所属研究室
V09001	相澤 晃美	Akimi AIZAWA	獣医公衆衛生学
V09008	安藤 緑	Midori ANDO	獣医生理学
V09011	伊藤 榛華	Haruka ITO	獣医寄生虫学
V09030	岡野 明弥	Meiya OKANO	獣医臨床繁殖学
V09039	神崎 成実	Narumi KANZAKI	獣医生化学
V09095	萩原 崇	Takashi HAGIWARA	小動物第一外科学
V09098	早部 裕紀	Yuki HAYABE	獣医薬理学
V09140	李 雅羅	Ahra LEE	小動物第一内科学

同行教員： 折野 宏一 Koichi ORINO

Flight information

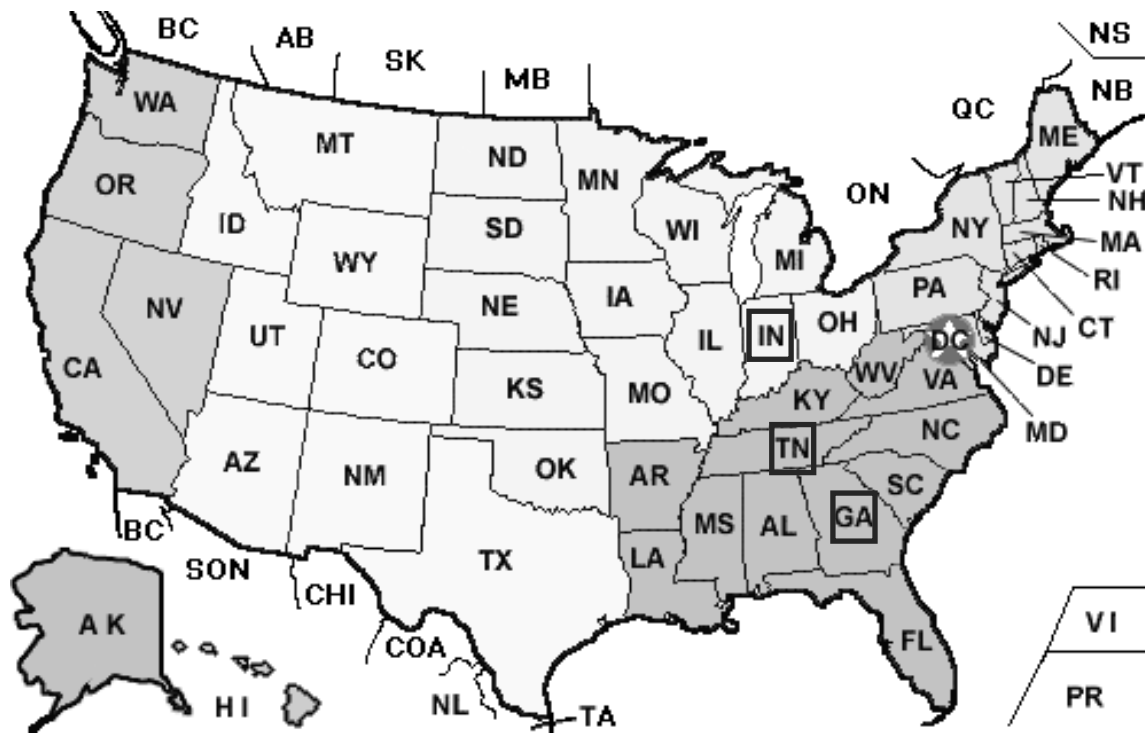
Date	Flight	Flight No
8/17(土)	成田 15:55 → サンフランシスコ 09:55	DL 0208
	サンフランシスコ 14:05 → アトランタ 21:41	DL 1680
8/31(土)	アトランタ 13:45 → 成田 16:25<9/1(日)着>	DL 0295

出国時の集合日時と場所：8/17 (土) 13:30

成田空港第1ターミナル/北ウイング 4F デルタ航空チェックインカウンターA 付近

http://www.narita-airport.jp/jp/guide/t_info/c_list_t1_north.html

(Tel : 0570-07-7733 / 0476-90-6000 <http://www.delta.com/>)



注意事項

1) 成田空港まで

成田空港ホームページ <http://www.narita-airport.jp/jp/>

JR、京成電鉄およびリムジンバスが成田空港に乗り入れています。

何れも本数が限られていますので、余裕をもって乗車しましょう。

目安の所要時間

JR：総武線と成田線の快速で東京駅から 80 分

成田エクスプレス（座席指定が必要）も各地（東京、横浜等）からあります。

京成電鉄：京成上野駅からスカイライナー（座席指定が必要）で約 60 分。

特急約 75 分、料金 1000 円は最も経済的。その他の快速や急行などでは、乗り換えがあり、時間がかかりかかります。

* 第 1 ターミナル利用 → 成田空港駅（終点）下車 第 2 ターミナル利用 → 空港第 2 ビル駅下車
--

リムジンバス：各地（東京、大宮等）からありますが、道路事情で所要時間が大きく左右されますので利用は控えた方がよいでしょう。

2) 飛行機へのチェックイン

成田空港の各航空会社のカウンターで行います。

旅行代理店から渡された搭乗券（boarding pass）とパスポートを航空会社のカウンターに提示して、チェックインします。このとき、大きなスーツケースを預けます。これはアメリカ入国まで戻ってきません。貴重品や成田空港内、機内で必要なものは別に 1 個の手荷物にして持っていきましょう。

これから海外旅行を繰り返す可能性のある人は、マイレージサービスなどの手続きをするのも良いでしょう。

3) 荷物チェックリスト

手荷物（機内持ち込み）

パスポート（紛失・盗難に備えてコピーと写真 2 枚も準備しておくとう安心です）

航空券

現金／トラベラーズチェック

海外旅行傷害保険証および関連資料（米国での医療費は大変高額です）

ノートパソコン、デジカメなど（あるいはカメラとフィルム）

筆記用具

スリッパ（機内と宿舎内で便利）

クレジットカード（パスワードがあれば覚えておく）

その他（安眠枕、耳栓、アイマスク、ガム、ウェットティッシュ、コンタクトなど）
一泊分の衣服（スーツケースと一緒に到着しなかった場合に重宝）

スーツケースなど

常備薬（解熱薬、虫さされ、防虫スプレー、胃腸薬等）

洗面用具（ボディーソープ、シャンプー・リンス、ひげ剃り、ブラシ、洗顔石鹸、
歯磨きセット、タオル、ハンカチ、ティッシュペーパー、爪切り）

洗濯用具（洗剤、洗濯バサミ、洗濯ロープなど）

デイパックなど（ちょっと出かける際に便利）

衣類（圧縮袋を使うと便利）

ビニール袋（いろいろ便利）

ガムテープ（スーツケース修理など、いざというときに重宝）

目覚まし時計（遅刻しないように）

*眼鏡を使用している人は、予備の眼鏡を持って行くのが望ましい

注意！！

- アメリカへ行く際、スーツケースに鍵をかけると、中身のチェックのために鍵を壊されます。無用なトラブルを避けるには、鍵をかけないか、あるいは TSA ロックと呼ばれる鍵の付いたスーツケースやバンドを使用した方がよいでしょう。
- テロ関連で機内持ち込みが制限されているもの（飲料水や化粧品、コンタクトレンズ洗浄液など）は、手荷物ではなくスーツケースに入れましょう。詳しくはホームページ等で確認ください。http://travel.univcoop.or.jp/shuppatsu/tokou_06.html
- 無料で預けられる荷物のサイズを航空会社ホームページで確認しましょう。
- 盗難や破損を防ぐため、カメラ・ビデオ・ノートパソコンは預けてしまうスーツケースに入れないで、機内に手荷物で持ち込みましょう。
- 渡航前に歯の治療を済ませておきましょう。米国での歯科治療費は保険でカバーできません。

4) 報告書

学外実習のレポート以外に、研修の報告書を作成してもらいます。原稿用紙 5 枚程度の体験記をまとめ、コンピューターで作成した文章のデータをフロッピーや CD で提出してもらいます。実習中に日々の研修活動やレクリエーションについて、こまめに記録をしておきましょう。お世話になった現地の先生方へも報告書を送るので、英語でまとめの文章を必ず書いてください。（報告書提出締切 9 月 27（金）、同行教員まで）

5) 海外旅行保険

アメリカでは病気や怪我の治療には、保険がないため大変高額な医療費を要求されます。そこで、皆さんには予め海外旅行用の損害保険に加入してもらいました。保険証書といっしょに、推奨の医療機関や日本語の通じる医者などのリストが渡されたはずですので、この資料を各自が忘れずに携帯してください。

6) 国内連絡先

北里大学獣医学部

青森県十和田市東 23 番町 35-1 獣医臨床繁殖学研究室

0176-23-4371 (内線 454)

担当者：坂口 実 教授、 e-mail : saka99@vmass.kitasato-u.ac.jp

Kitasato University,

School of Veterinary Medicine,

Higashi 23-35-1, Towada, Aomori 034-8628, JAPAN

Tel : +81-176-23-4371 Fax : +81-176-23-8703

Prof. Minoru SAKAGUCHI, e-mail : saka99@vmass.kitasato-u.ac.jp

7) その他

パスポートと出国・入国手続き

- 出国カードは早めにお書きください。出国審査官の前では混雑のため書けません。
 - 機内で渡されるアメリカ入国審査用の用紙にはすぐに記入してください。
- その際にはパスポートの置忘れに注意！貴重品はいつも同じ場所にしましょう。
- アメリカ入国の際、審査官が乗って来た航空機の便名、訪問理由、訪問先、滞在期間などを聞きます。予め英語で答えられるようにしておきましょう。
 - アメリカ入国審査官が出国時に必要なカードをパスポートにホッチキスで止めてくれます。これがないと帰国できなくなるので、紛失注意。
 - テロ対策で指紋を取られることがあります。その際、少しでも犯罪者のものと似ていると、取り調べが行われます。何を調べられても良いように、荷物や持ち物はきちんと整理しておきましょう。
 - アメリカから植物や果物は持ち込めません。また、牛肉製品（ジャーキーなど）は成田空港で没収される可能性が高いので注意してください。

関連情報 <http://www.narita-airport.jp/jp/travel/kinsi/index.html>

お金など

- クレジットカードは自分の信用証明にも役立ちます。JCB と American Express より VISA と MasterCard の方が対応する店舗が多く、使いやすいかもしれません。ただし、いずれにしても、最近では使用する際に 4 桁のパスワードを求められる場合が多いので、各自確認しておきましょう。
- 最初に入る国の現金 100 ドル程度を小銭 1-5 ドル札と 20 ドル札に分けて持っておけば何かと小用の買い物に便利です（土日は銀行が休みだったり、朝早く、また夜遅くに飛行機が着いて両替できないことがあります）。100 ドル札（特に未使用札）の使用は嫌がられることもあります。
- 免税店は最後に搭乗する空港でだけ利用できます。チェックイン後、搭乗までが買い物時間。

- チップについては、レストランでは 15%、タクシーでは 10%、ホテルではピローチップを毎朝 1 ドルぐらい、重いバッグを持ってもらっても 1 ドルで十分です。
- 帰国後、ドル札は日本円に換金できますが、コインは換金できません。帰国直前までに（空港等で）コインを最優先で使い切るようにすればムダがありません。
- 大学内でも不用意に財布を置かないように！カバンと一緒に置き忘れると盗難に遭う可能性は高いので、注意しましょう。

その他

- アメリカはサマータイム中のため、実際の時差より 1 時間早いことに注意しましょう。
- 室内は禁煙が原則です。ホテルの部屋でも禁煙の所も多いので、喫煙可能な場所を確かめましょう。
- 飛行機内や建物内は冷房がきつめな場合が多いので、軽めの上着を用意しておいた方がよい。
- 飛行機のリコンファーム（予約再確認）は不要です。
- 電気製品は電圧の違いで使えないことがあります。
- 水着を持って行っておくと、キャンパスにあるプールに入れるかも。
- 電話：海外から日本へ通話するには、オペレーターを通すよりもクレジットカードがあれば安くて簡単です。かけ方は概ね次のとおり：受話器を取り、カードを通して、0081（日本の国番号）を押し、その後にかけたい相手先の電話番号から最初の 0 をつけたものを押します。また、いざという時のために、出国前に自分の携帯電話をアメリカでも使用できる物に交換できるサービスを利用するのも良いでしょう。もちろん料金は割高です。

以下にパデュー大学小動物病院のドレスコードについてのガイドラインを引用しますので、良く読んで準備をして下さい。

Purdue University Small Animal Hospital Dress Code Guidelines

I . Purpose

To establish dress code standards which promote professionalism and that ensure the health and safety of the small animal hospital staff and patients.

II. Attire:

A. All attire should be clean and neat.

B. Protective lab coats/uniforms shall be clean and worn at all times when working with animals. A clean coat/uniform should be donned if the original becomes soiled.

C. Hospital nametags/identification badges shall be worn in plain sight at all times by faculty and staff members who are on the hospital premises. There shall be no defacement of the nametags (i.e. stickers, tape, pens etc.)

D. Footwear must be worn at all times in the hospital and must be clean, conservative, protective and appropriate for the work environment. Thongs, opened-toed sandals, athletic shoes and stiletto-type heels are discouraged but acceptability is ultimately left to the discretion of the supervising clinician or section head. (See Section V)

E. Men must wear clean and neat slacks, dress shirts and socks. Ties are encouraged on receiving days. The supervising clinician shall decide whether wearing a tie is required or not. Jeans and shorts are not acceptable.

F. Women must wear clean and neat slacks, blouses, skirts or dresses. No jeans, shorts, low cut blouses or excessively short skirt lengths are permitted. Garments made of transparent material are not acceptable.

G. All pants and or dresses should be of reasonable length and should not drag on the floor.

H. Midriffs shall not show whether due to low riding pants or short shirts/blouses.

I. NO head covers (i.e. hats or scarves) shall be worn indoors when receiving patients. (See section V)

III. Personal appearance:

A. Hair (including beards and mustaches) shall be kept neat (trimmed and groomed), clean, and combed with no extreme styles, colors, or hair ornaments attached.

B. Fingernails shall be clean, manicured and of appropriate length. (For example surgery rotations require short nails that will not penetrate surgical gloves.)

C. All make-up shall be worn in moderation.

D. Moderately styled jewelry may be worn. Extraneous jewelry such as long dangling earrings can be dangerous and is discouraged.

E. Refrain from wearing excessively strong scented perfumes, colognes and aftershaves. Many clients and staff are sensitive to them.

F. Tattoos should be covered during receiving times. No tattoos that convey extremist views should be visible at this workplace. Such displays diminish work unit cohesion, create an atmosphere of intimidation and hostility and interfere with productivity and morale.

IV . Non-adherence:

A. The supervising clinician or section supervisor ultimately determines if the dress is satisfactory. If dress is determined to be unacceptable, students or staff shall be asked to meet the set guidelines before being allowed to participate in clinic activities.

B. Absence due to non-conformance MUST BE made up.

C. Further disciplinary actions may be taken if patterns of non-compliance to these standards are observed.

V . Exceptions:

A. Exceptions to these standards may be allowed if cultural, religious or medical reasons can be established.

B. Exceptions to the guidelines may be made when activities requiring a different type of dress are necessary.

SVM Administrative Document #47

Date Approved by EXCOM: 5/1/08

Policy on Clinic and Laboratory Attire in Public Areas

The following policy was drafted by the Infectious Disease Committee and the Executive Committee of the Dean and approved by the Executive Committee. The goal is to prevent possible contamination of public areas in the SVM.

1. Hand washing is required before leaving a clinic or laboratory area.
2. Boots/shoes and outerwear soiled with animal excrement, bedding, or other similar material must not be worn outside of the clinic or laboratory area. Such items must be removed prior to leaving the clinic or laboratory area.
3. Only clean outerwear should be worn outside of clinic or laboratory areas.

No materials that are used with animals such as gloves, masks, surgery hats, surgery booties, etc. are allowed in dining or public areas. These items should be left in the clinic or laboratory areas.



平成25年度
北里大学 獣医学部 獣医学科